CBETA電子佛典集成

CBETA Chinese Electronic Tripitaka Collection

eBook

B06n0003

南傳長部經典

江鍊百譯

財團法人 佛教電子佛典基金會

目次

- 編輯說明
- 章節目次
  - 長部經典一
    - 目次
    - 凡例
    - 梵網經第一
      - 1　第一誦品
        - 二
        - 三
        - 三
        - 四
        - 五
        - 六
        - 七
        - 八
        - 九
        - 一〇
        - 一一
        - 一二
        - 一三
        - 一四
        - 一五
        - 一六
        - 一七
        - 一八
        - 一九
        - 二〇
        - 二一
        - 二二
        - 二三
        - 二四
        - 二五
        - 二六
        - 二七

- 二八
- 二九
- 三〇
- 三一
- 三二
- 三三
- 三四
- 三五
- 三六
- 三七

- 2 第二誦品
  - 一
  - 二
  - 三
  - 四
  - 五
  - 六
  - 七
  - 八
  - 九
  - 一〇
  - 一一
  - 一二
  - 一三
  - 一四
  - 一五
  - 一六
  - 一七
  - 一八
  - 一九
  - 二〇
  - 二一
  - 二二
  - 二三
  - 二四
  - 二五
  - 二六
  - 二七

- 二八
- 二九
- 三〇
- 三一
- 三二
- 三三
- 三四
- 三五
- 三六
- 三七
- 三八
- 三九
- 四〇

- 3 第三誦品
  - 一
  - 二
  - 三
  - 四
  - 五
  - 六
  - 七
  - 八
  - 九
  - 一〇
  - 一一
  - 一二
  - 一三
  - 一四
  - 一五
  - 一六
  - 一七
  - 一八
  - 一九
  - 二〇
  - 二一
  - 二二
  - 二三
  - 二四

- 二五
- 二六
- 二七
- 二八
- 二九
- 三〇
- 三二
- 三三
- 三四
- 三五
- 三六
- 三七
- 三八
- 三九
- 四〇
- 四一
- 四二
- 四三
- 四四
- 四五
- 四六
- 四七
- 四八
- 四九
- 五〇
- 五一
- 五二
- 五三
- 五四
- 五五
- 五六
- 五七
- 五八
- 五九
- 六〇
- 六一
- 六二
- 六三

- 六四
- 六五
- 六六
- 六七
- 六八
- 六九
- 七〇
- 七一
- 七二
- 七三
- 七四

- 沙門果經第二
  - 二
  - 三
  - 三
  - 四
  - 五
  - 六
  - 七
  - 八
  - 九
  - 一〇
  - 一一
  - 一二
  - 一三
  - 一四
  - 一五
  - 一六
  - 一七
  - 一八
  - 一九
  - 二〇
  - 二一
  - 二二
  - 二三
  - 二四
  - 二五
  - 二六

- 二七
- 二八
- 二九
- 三〇
- 三一
- 三二
- 三三
- 三四
- 三五
- 三六
- 三七
- 三八
- 三九
- 四〇
- 四一
- 四二
- 四三
- 四四
- 四五
- 四六
- 四七
- 四八
- 四九
- 五〇
- 五一
- 五二
- 五三
- 五四
- 五五
- 五六
- 五七
- 五八
- 五九
- 六〇
- 六一
- 六二
- 六三
- 六四

- 六五
- 六六
- 六七
- 六八
- 六九
- 七〇
- 七一
- 七二
- 七三
- 七四
- 七五
- 七六
- 七七
- 七八
- 七九
- 八〇
- 八一
- 八二
- 八三
- 八四
- 八五
- 八六
- 八七
- 八八
- 八九
- 九〇
- 九一
- 九二
- 九三
- 九四
- 九五
- 九六
- 九七
- 九八
- 九九
- 一〇〇
- 一〇一
- 一〇二

- 阿摩晝經第三
  - 1 第一誦品
    - 一
    - 二
    - 三
    - 四
    - 五
    - 六
    - 七
    - 八
    - 九
    - 一〇
    - 一一
    - 一二
    - 一三
    - 一四
    - 一五
    - 一六
    - 一七
    - 一八
    - 一九
    - 二〇
    - 二一
    - 二二
    - 二三
    - 二四
    - 二五
    - 二六
    - 二七
    - 二八
  - 2 第二誦品
    - 一
    - 二
    - 三
    - 四
    - 五
    - 六
    - 七

- 八
- 九
- 一〇
- 一一
- 一二
- 一三
- 一四
- 一五
- 一六
- 一七
- 一八
- 一九
- 二〇
- 二一
- 二二

- 種德經第四
  - 一
  - 二
  - 三
  - 四
  - 五
  - 六
  - 七
  - 八
  - 九
  - 一〇
  - 一一
  - 一二
  - 一三
  - 一四
  - 一五
  - 一六
  - 一七
  - 一八
  - 一九
  - 二〇
  - 二一
  - 二二

- 二三
- 二四
- 二五
- 二六
- 二七

- 究羅檀頭經第五
  - 二
  - 三
  - 三
  - 四
  - 五
  - 六
  - 七
  - 八
  - 九
  - 一〇
  - 一一
  - 一二
  - 一三
  - 一四
  - 一五
  - 一六
  - 一七
  - 一八
  - 一九
  - 二〇
  - 二一
  - 二二
  - 二三
  - 二四
  - 二五
  - 二六
  - 二七
  - 二八
  - 二九
  - 三〇
- 摩訶梨經第六
  - 二

- 二
- 三
- 四
- 五
- 六
- 七
- 八
- 九
- 一〇
- 一一
- 一二
- 一三
- 一四
- 一五
- 一六
- 一七
- 一八
- 一九

- 闍利經第七
  - 一
  - 二至五
- 迦葉師子吼經第八
  - 一
  - 二
  - 三
  - 四
  - 五
  - 六
  - 七
  - 八
  - 九
  - 一〇
  - 一一
  - 一二
  - 一三
  - 一四
  - 一五
  - 一六

- 一七
- 一八
- 一九
- 二〇
- 二一
- 二二
- 二三
- 二四

- 布吒婆樓經第九
  - 二
  - 三
  - 三
  - 四
  - 五
  - 六
  - 七
  - 八
  - 九
  - 一〇
  - 一一
  - 一二
  - 一三
  - 一四
  - 一五
  - 一六
  - 一七
  - 一八
  - 一九
  - 二〇
  - 二一
  - 二二
  - 二三
  - 二四
  - 二五
  - 二六
  - 二七
  - 二八
  - 二九

- 三〇
- 三一
- 三二
- 三三
- 三四
- 三五
- 三六
- 三七
- 三八
- 三九
- 四〇
- 四一
- 四二
- 四三
- 四四
- 四五
- 四六
- 四七
- 四八
- 四九
- 五〇
- 五一
- 五二
- 五三
- 五四
- 五五
- 五六

- 須婆經第十
  - 1 第一誦品
    - 二
    - 三
    - 三
    - 四
    - 五
    - 六
    - 七至二九
    - 三〇
  - 2 第二誦品

    - 一至一二
    - 一三
    - 一四至一五
    - 一六至一八
    - 一九
    - 二〇至二一
    - 二二
    - 二三至二四
    - 二五至三五
    - 三六
    - 三七
- 堅固經第十一
    - 一
    - 二
    - 三
    - 四
    - 五
    - 六
    - 七
    - 八
    - 九至四三
    - 四四
    - 四五
    - 四六至四九
    - 五〇至五一
    - 五二
    - 五三至六六
    - 六七
    - 六八
    - 六九
    - 七〇
    - 七一
    - 七二
    - 七三
    - 七四
    - 七五
    - 七六
    - 七七

- 七八
- 七九
- 八〇
- 八一
- 八二
- 八三
- 八四
- 八五

- 露遮經第十二
  - 二
  - 三
  - 三
  - 四
  - 五
  - 六
  - 七
  - 八
  - 九
  - 一〇
  - 一一
  - 一二
  - 一三
  - 一四
  - 一五
  - 一六
  - 一七
  - 一八
  - 一九至五三
  - 五四
  - 五五
  - 五六至六一
  - 六二
  - 六三至七五
  - 七六至七七
  - 七八
- 三明經第十三
  - 二
  - 三

- 三
- 四
- 五
- 六
- 七
- 八
- 九
- 一〇
- 一一
- 一二
- 一三
- 一四
- 一五
- 一六
- 一七
- 一八
- 一九
- 二〇
- 二一
- 二二
- 二三
- 二四
- 二五
- 二六
- 二七
- 二八
- 二九
- 三〇
- 三一
- 三二
- 三三
- 三四
- 三五
- 三六
- 三七
- 三八
- 三九
- 四〇

- 四一
- 四二
- 四三至七五
- 七六
- 七七
- 七八
- 七九
- 八〇
- 八一
- 八二

- 大本經第十四
  - 1 第一誦品
    - 一
    - 二
    - 三
    - 四
    - 五
    - 六
    - 七
    - 八
    - 九
    - 一〇
    - 一一
    - 一二
    - 一三
    - 一四
    - 一五
    - 一六
    - 一七
    - 一七
    - 一八
    - 一九
    - 二〇
    - 二一
    - 二二
    - 二三
    - 二四
    - 二五

- 二六
- 二七
- 二八
- 二九
- 三〇
- 三一
- 三二
- 三三
- 三四
- 三五
- 三六
- 三七
- 三八

- 2 第二誦品
  - 一
  - 二
  - 三
  - 四
  - 五
  - 六
  - 七
  - 八
  - 九
  - 一〇
  - 一一
  - 一二
  - 一三
  - 一四
  - 一五
  - 一六
  - 一七
  - 一八
  - 一九
  - 二〇
  - 二一
  - 二二
- 3 第三誦品
  - 一

        - 二
        - 三
        - 四
        - 五
        - 六
        - 七
        - 八
        - 九
        - 一〇
        - 一一
        - 一二
        - 一三
        - 一四
        - 一五
        - 一六
        - 一七
        - 一八
        - 一九
        - 二〇
        - 二一
        - 二二
        - 二三
        - 二四
        - 二五
        - 二六
        - 二七
        - 二八
        - 二九
        - 三〇
        - 三一
        - 三二
        - 三三
    - 長部經典二
        - 目次
        - 大緣經第十五
            - 一
            - 二
            - 三

- 四
- 五
- 六
- 七
- 八
- 九
- 一〇
- 一一
- 一二
- 一三
- 一四
- 一五
- 一六
- 一七
- 一八
- 一九
- 二〇
- 二一
- 二二
- 二三
- 二四
- 二五
- 二六
- 二七
- 二八
- 二九
- 三〇
- 三一
- 三二
- 三三
- 三四
- 三五
- 三六

- 大槃涅槃經第十六
  - 1 第一誦品
    - 一
    - 二
    - 三

- 四
- 五
- 六
- 七
- 八
- 九
- 一〇
- 一一
- 一二
- 一三
- 一四
- 一五
- 一六
- 一七
- 一八
- 一九
- 二〇
- 二一
- 二二
- 二三
- 二四
- 二五
- 二六
- 二七
- 二八
- 二九
- 三〇
- 三一
- 三二
- 三三
- 三四
- 2 第二誦品
  - 一
  - 二
  - 三
  - 四
  - 五
  - 六

- 七
- 八
- 九
- 一〇
- 一一
- 一二
- 一三
- 一四
- 一五
- 一六
- 一七
- 一八
- 一九
- 二〇
- 二一
- 二二
- 二三
- 二四
- 二五
- 二六

- 3 第三誦品
  - 一
  - 二
  - 三
  - 四
  - 五
  - 六
  - 七
  - 八
  - 九
  - 一〇
  - 一一
  - 一二
  - 一三
  - 一四
  - 一五
  - 一六
  - 一七

- 一八
- 一九
- 二〇
- 二一
- 二二
- 二三
- 二四
- 二五
- 二六
- 二七
- 二八
- 二九
- 三〇
- 三一
- 三二
- 三三
- 三四
- 三五
- 三六
- 三七
- 三八
- 三九
- 四〇
- 四一
- 四二
- 四三
- 四四
- 四五
- 四六
- 四七
- 四八
- 四九
- 五〇
- 五一

- 4 第四誦品
  - 一
  - 二
  - 三

- 四
- 五
- 七
- 八
- 九
- 一〇
- 一一
- 一三
- 一三
- 一四
- 一五
- 一六
- 一七
- 一八
- 一九
- 二〇
- 二一
- 二二
- 二三
- 二四
- 二五
- 二六
- 二七
- 二八
- 二九
- 三〇
- 三一
- 三二
- 三三
- 三四
- 三五
- 三六
- 三七
- 三八
- 三九
- 四〇
- 四一
- 四二

- 四三
- 5 第五誦品
  - 一
  - 二
  - 三
  - 四
  - 五
  - 六
  - 七
  - 八
  - 九
  - 一〇
  - 一一
  - 一二
  - 一三
  - 一四
  - 一五
  - 一六
  - 一七
  - 一八
  - 一九
  - 二〇
  - 二一
  - 二二
  - 二三
  - 二四
  - 二五
  - 二六
  - 二七
  - 二八
  - 二九
  - 三〇
- 6 第六誦品
  - 一
  - 二
  - 三
  - 四
  - 五

- 六
- 七
- 八
- 九
- 一〇
- 一一
- 一二
- 一三
- 一四
- 一五
- 一六
- 一七
- 一八
- 一九
- 二〇
- 二一
- 二二
- 二三
- 二四
- 二五
- 二六
- 二七
- 二八

- 大善見王經第十七
  - 1 第一誦品
    - 一
    - 二
    - 三
    - 四
    - 五
    - 六
    - 七
    - 八
    - 九
    - 一〇
    - 一一
    - 一二
    - 一三

- 一四
- 一五
- 一六
- 一七
- 一八
- 一九
- 二〇
- 二一
- 二二
- 二三
- 二四
- 二五
- 二六
- 二七
- 二八
- 二九
- 三〇
- 三一
- 三二
- 三三

- 2 第二誦品
  - 一
  - 二
  - 三
  - 四
  - 五
  - 六
  - 七
  - 八
  - 九
  - 一〇
  - 一一
  - 一二
  - 一三
  - 一四
  - 一五
  - 一六
  - 一七

- 闍尼沙經第十八
  - 二
  - 三
  - 三
  - 四
  - 五
  - 六
  - 七
  - 八
  - 九
  - 一〇
  - 一一
  - 一二
  - 一三
  - 一四
  - 一五
  - 一六
  - 一七
  - 一八
  - 一九
  - 二〇
  - 二一
  - 二二
  - 二三
  - 二四
  - 二五
  - 二六
  - 二七
  - 二八
  - 二九
- 大典尊經第十九
  - 1 第一誦品
    - 一
    - 二
    - 三
    - 四
    - 五
    - 六

- 七
- 八
- 九
- 一〇
- 一一
- 一二
- 一三
- 一四
- 一五
- 一六
- 一七
- 一八
- 一九
- 二〇
- 二一
- 二二
- 二三
- 二四
- 二五
- 二六
- 二七
- 二八
- 二九
- 三〇
- 三一
- 三二
- 三三
- 三四
- 三五
- 三六

- 2 第二誦品
  - 三七
  - 三八
  - 三九
  - 四〇
  - 四一
  - 四二
  - 四三

- 四四
- 四五
- 四六
- 四七
- 四八
- 四九
- 五〇
- 五一
- 五二
- 五三
- 五四
- 五五
- 五六
- 五七
- 五八
- 五九
- 六〇
- 六一
- 六二
- 大會經第二十
  - 一
  - 二
  - 三
  - 四
  - 五
  - 六
  - 七
  - 八
  - 九
  - 一〇
  - 一一
  - 一二
  - 一三
  - 一四
  - 一五
  - 一六
  - 一七
  - 一八

- 一九
- 二〇
- 二一
- 二二
- 帝釋所問經第二十一
  - 1 第一誦品
    - 一
    - 二
    - 三
    - 四
    - 五
    - 六
    - 七
    - 八
    - 九
    - 一〇
    - 一一
    - 一二
    - 一三
  - 2 第二誦品
    - 一
    - 二
    - 三
    - 四
    - 五
    - 六
    - 七
    - 八
    - 九
    - 一〇
- 大念處經第二十二
  - 一
  - 二
  - 三
  - 四
  - 五
  - 六
  - 七

- 八
- 九
- 一〇
- 一一
- 一二
- 一三
- 一四
- 一五
- 一六
- 一七
- 一八
- 一九
- 二〇
- 二一
- 二二

- 弊宿經第二十三
  - 二
  - 三
  - 三
  - 四
  - 五
  - 六
  - 七
  - 八
  - 九
  - 一〇
  - 一一
  - 一二
  - 一三
  - 一四
  - 一五
  - 一六
  - 一七
  - 一八
  - 一九
  - 二〇
  - 二一
  - 二二

    - 二三
    - 二四
    - 二五
    - 二六
    - 二七
    - 二八
    - 二九
    - 三〇
    - 三一
    - 三二
    - 三三
    - 三四
- 卷目次
    - 1
- 贊助資訊

編輯說明

- 本電子書以「CBETA 電子佛典集成 Version 2025.R3」為資料來源。
- 漢字呈現以 Unicode 3.0 為基礎，不在此範圍的字則採用組字式表達。
- 梵文悉曇字及蘭札字均採用羅馬轉寫字，如無轉寫字則提供字型圖檔。
- CBETA 對底本所做的修訂用字以紅色字元表示（黑白色系版本則無顏色差別）。
- 若有發現任何問題，歡迎來函 service@cbeta.org 回報。
- 版權所有，歡迎自由流通，但禁止營利使用。

長部經典一

江鍊百據日譯本重譯

沙門芝峯校證

目次

梵網經第一　　宇井伯壽原譯　　一

舊譯　長阿含卷第十四梵動經（大正藏一）及梵網六十二見經（大正藏二一）。本經內容依二部構成．首說凡夫讚嘆如來．類言瑣細卑近之戒．其下分述小中大三戒。小戒所述．為與五戒或十戒相當之戒．中戒大戒．復將此諸戒．詳為敘述。此部說法．見引於長部經典第一之多數經典中．為修道大綱之一部分．與後所分之三學、五分法身、以及五根五力中之戒相當．並為此等綱目所從出之根本。次說如來自證自知並現證而說甚深難見諸法．於此處述及六十二見。據經典言．此六十二種見．屬過去者十八．屬未來者四十四。就見之種類言．分為我及世間之常住論、有常無常論、無因論、世間之有邊無邊論、詭辯論、死後之有想論、無想論、非有想非無想論、斷滅論、現在涅槃論等．其中心問題．不出我及世間二者。而此諸說．或於深進思想．缺乏根底．或僅就餘說折衷補遺．要皆為佛在世時．異學窮研細究之處。蓋此部經典．極屬重要．可視為當時思想界之縮圖．且佛教立場．於焉闡明．而其所居地位．亦得由是察知。故在相應部經典之某經中．述本經處．則揭舉經名．在中部經典之某經中．竟有顯依本經者．或有預想本經者．其在阿含經典中地位之重要．殊堪注意。

沙門果經第二　　羽溪了諦原譯　　二六

舊譯　長阿含卷第十七沙門果經（大正藏一）．增一阿含卷第三十九之第七經（大正藏一二五）．寂志果經（大正藏二二）。舊譯諸經．或將本經重要教義．約略敘說．或混同為說．本經則記述詳細．且其內容．極為鮮明。經之前半．介紹六師外道之說．後半詳述沙門現世果報．即佛教中心之戒、定、慧三學。六師外道．即在佛陀時代反婆羅門主義所起之思想運動中為最有力之代表．本經包舉一切．並揭其學說與主張．殆世所罕見之重大特點。且復將此諸說與佛教中心思想列舉而出．故於考察佛陀時代之一般思想上．本經特為重典。後

半部中・如梵網經分述大中小戒・列舉具足此等戒之比丘內心狀態・如制御諸根・正念正智・少欲知足・離脫五蓋是。次就得歡喜心以入禪定・指而明之・更復由四禪、六通、四諦之證得・以至阿羅漢果・加以詳述。此後半部所述・在長部經典第一所載之大部分中・反覆重見・故諸經中・於此等處・大抵從略・實以經本配列關係・故於餘處加以省略・非因本經此種部分・較為遠古・或較為根本之作・凡讀長部經典者・務希注意。復次・為便利計・在諸經省略處・一一附註參照本經某項云云。

阿摩晝經第三　長井真琴原譯　四七

舊譯　長阿含卷第十三阿摩晝經（大正藏一）。舊譯中關於三學部分・本經從略。蓋此部分・已詳前之沙門果經。本經內容・於四姓中・論婆羅門及剎帝利之優劣・佛對青年婆羅門阿摩晝・述說釋迦族為沃伽伽王所出之尊貴武族・婆羅門則為王下婢所出之卑族・示以世間尊重剎帝利之事實・挫折阿摩晝之自負・令其歸佛。婆羅門稱為四姓之首・而對之作強有力之說法者・即本經是。

種德經第四　久野芳隆原譯　五八

舊譯　長阿含卷第十五種德經（大正藏一）。本經內容・述婆羅門之歸佛・描寫彼等當時之心理・殊饒興味。蓋種德婆羅門・慕佛名・詣佛所・而餘諸婆羅門・則加阻止・雙方之間・乃起佛與婆羅門之比較論・及種德抵佛所・列舉婆羅門五殊勝法・而一一為佛說倒・遂認戒、定、慧・為最上乘・有此三學之說法・終乃歸佛。種德訪佛之前・及其歸佛之後・猶慮為眾所輕・自墜聲譽・損其收入。於此等處・可以窺知婆羅門間・佛力所及・亦強而有威也。

究羅檀頭經第五　長井真琴原譯　六五

舊譯　長阿含卷第十五究羅檀頭經（大正藏一）。本經內容・述婆羅門究羅檀頭・欲設大祀・不諳儀禮・乃詣佛所・蒙示祭祀儀式・進而示說其根本精神・終得歸依佛法。讀本經可知佛陀時代婆羅門之施設祭祀・多囿於形式・抹煞根本精神。佛非僅反對婆羅門儀禮・而其態度・轉足以化儀禮於精神・使之躍然有生氣・此亦本經所顯示之別一法門也。

摩訶梨經第六　赤沼智善原譯　七六

舊譯無。本經內容・述修習梵行之目的・在斷諸結・與證無漏之心解脫及慧解脫・其實現法門・為八聖道。次說若命身一異之論・則於修行禪定之比丘・全不適應。

闍利經第七　木村泰賢原譯　八〇

舊譯無。本經除首尾數句與摩訶梨經相異外・全文與摩訶梨經一五至一九同。故此部分・概從略。

迦葉師子吼經第八　　金倉圓照原譯　　八〇

舊譯　長阿含卷第十六倮形梵志經（大正藏一）。本經初列舉諸苦行。謂修此之人・雖有稱為沙門婆羅門者・然得戒具足、心具足、慧具足之人・始可稱為真正之沙門婆羅門・而佛於此點・則較任何餘者為優越。復謂異學之人・欲出家受戒・當先令留住四月期間。蓋本經所述・以諸苦行・決非證道之方便・而其詳舉苦行種類之處・當注意也。

布吒婆樓經第九　　木村泰賢原譯　　九〇

舊譯　長阿含卷第十七布吒婆樓經（大正藏一）。本經內容分二部・第一部以想為中心・論其生滅一多・想與智、想與我等問題。第二部示我得即我之正解・更於兩部前後・舉示佛所說法・有決定記、不決定記。按經中說・想為有因有緣・依習修有生滅・由此生滅・論及想滅智定。其次・進論我與想之關係・以此二者・為異學所難了解而諷人當入佛道。復於當時成問題之世間有常無常、有限無限、命身一異、如來死後事等・指為與解脫無關而為不決定記。斥外道所說我之常樂・示我得及滅所成功德・闡明一切悉皆有因有緣。

須婆經第十　　荻原雲來原譯　　一〇三

舊譯無。本經內容述阿難答須婆問・明示戒、定、慧三學・為佛所稱讚所勸導使人入住之法。須婆承其開示・歸依三寶。

堅固經第十一　　坂本幸男原譯　　一〇八

舊譯　長阿含卷第十六堅固經（大正藏一）。本經內容所述・為佛教之神通觀、神觀、及世界觀。佛教以解脫為最高理想・所謂神通・不過教化眾生之一方便・故與其理想・無何直接關係。神觀則以諸神輪迴生死・同時讚護我佛及其教說・而擯斥世界有邊無邊諸問題・申述因識之滅・一切隨滅。此等處・殆可謂為後世唯識說之濫觴也。又本經中言・成為後世阿毘達磨佛教之論題者・數見不鮮。例如四大滅於何處（婆沙論第一二九）。大梵天之避馬勝問・而自矜讚・則為有覆無記之表業存於梵世之徵（俱舍論第十一）。大梵天自稱梵天、大梵天、乃至一切之父・而梵眾天皆信之・則為見取及戒禁取二惡見所由起（婆沙論第九八）等是。

露遮經第十二　　花山信勝原譯　　一一二

舊譯　長阿含卷第十七露遮經（大正藏一）。本經內容所述・為露遮婆羅門生惡見・以沙門婆羅門雖證知善法・而不應為他人說・佛謂如是之見・是為邪見・當墮地獄・或畜生道。世有

三師・不自覺而不覺他・不自覺而覺他・自覺而不覺他・如此等師・皆可受責難・唯自覺覺他之師・不可責難・佛正是此師・並示三學四諦之說法。
三明經第十三　山田龍城原譯　一一八
舊譯　長阿含卷第十六三明經（大正藏一）。三明者・詳言之・係指利俱、沙摩、耶柔盧三種吠陀・今解作廣義・通指吠陀・故三明經・可謂為記述奉此吠陀之婆羅門者也。佛應二青年婆羅門之請・以極自然言・為之說法・使之滿足・令其領悟佛陀之教如何優勝於婆羅門教。經中舉稱婆羅門諸古仙外・而與優婆尼沙陀有關之某某諸派之名・亦有舉述・於察知佛陀時代婆羅門諸派之一斑・本經殊為重要。提提利耶及瞻陀迦等之名見於佛典者・除本經外・餘經之中・殆鮮言之・而本經之主要人物・如婆悉咤、跋羅陀皤闍・亦為古文獻中所見之利俱吠陀傳承者・由是可知・本經殆為研究古代婆羅門教者所深感興味之一種典籍。
大本經第十四　平等通昭原譯　一二八
舊譯　長阿含卷第一大本經（大正藏一）。本經與舊譯二者相較・本經偈文不及其多・而散文所述較詳。內容為過去七佛之傳記・以記毗婆尸佛者・實居大部分。先就七佛・列舉其族、姓、壽量、成道處、主要弟子、僧會、父母、都城等。次為毗婆尸佛傳・自入胎起・至誦出最初婆羅提木叉止。最後記述瞿曇佛至淨居天・諸天於毗婆尸佛、瞿曇佛所・修行生天之事。而毗婆尸傳內所述諸佛常法・則為諸佛必經之類型的過程。此種傳記・不僅為王子出家故事・尤有二點特堪注意・一為申述出家後之進程・二為述說佛成道時之「十因緣・」所謂十二因緣中之無明與行・則未言及是也。

凡例

- 本經據日本大藏出版株式會社發行之日譯本重譯。其原本為巴利聖典出版協會（Pāli Text Society）本・兼參照錫蘭本與暹邏本云。
- 日譯本於經文行端・標有數字・示巴利原本之頁數・俾便互相對照。今一一仍之・概用大寫數字標出。
- 文中字之右角上所記之七號小寫數字・為註釋之號碼・註釋隨附每經之後。

- 文中〔〕內之語或句・乃日譯者為助讀者瞭解起見而加襯者・今仍之。
- 文中（）內之名詞・乃日譯者就原語所引用之舊有義譯。
- 文中節略語句・方式不一・一依前後之語氣・用「乃至」、「如是乃至」、「云云」、「如是云云」、「亦然」、「亦復如是」、「如是如是」等。於中加〔〕者・為日譯本所節略・無〔〕者・為原底本所節略。
- 日譯本於目次下・每經各附有提要・今仍之。

中華民國三十三年九月漢譯校證者沙門芝峯謹識

長部經典一

梵網經第一

第一誦品

一

如是我聞。一時世尊與大比丘眾五百人俱・行王舍城至那爛陀大道・一遊行者須卑與其弟子梵施童子亦行此道。途次須卑以種種語言・謗佛法僧・而其弟子梵施童子・則以種種方便・讚佛法僧。師徒二人・互持異論・隨世尊及比丘僧之後而行。

二

爾時世尊與比丘僧・在阿婆羅提迦園內國王休憩堂・止宿一宵。遊行者須卑與其弟子梵施童子・亦在堂一宿。須卑於此復以種種語言・謗佛法僧・梵施童子・則以種種方便・讚佛法僧。師徒二人・互持異論・如是而住。

三

時夜方曉・眾多比丘・起而集坐於講堂中・作如是議・『諸友・希有也。諸友・未曾有也。阿羅漢、等正覺者、世尊・親知親見・其能洞察眾生志意之所趣耶。何以故・彼須卑・以種種語言・謗佛法僧・而其弟子梵施童子・則以種種方便・讚佛法僧・師徒二人・互持異論・隨世尊及比丘僧之後而行故。』

四

爾時世尊知比丘間有如是議・至彼講堂・就座而坐・告比丘等曰・『諸比丘・今者諸子・因何語議・集坐此處。所議何事・議半而止。』比丘等白世尊言・『吾師・適夜方曉・我等晨起・集坐講堂・作如是議・「諸友・希有也・乃至隨世尊及比丘僧之後而行故。」弟子等議至半・適世尊來。』

五

『諸比丘・餘人謗我、謗法、僧者・諸子不得痛心・不得憂恨・不得懷忿怒。諸比丘・餘人謗我、謗法、僧者・諸子忿怒・若不歡喜・此於諸子・當成障礙。諸比丘・餘人謗我、謗法、僧者・諸子忿怒・若不歡喜・如是諸子・其能判定餘人為善說為謬說不。』『不也吾師。』『諸比丘・餘人謗我、謗法、僧者・諸子不可不辨別其以非實為非實・「以如是故・非屬事實・以是如故・不得真相・我等之間・無如是事・亦不存有如是事。」

六

諸比丘・餘人讚我、讚法、僧者・諸子不得歡喜・不得欣悅・不得懷愉佚。諸比丘・餘人讚我、讚法、僧者・諸子若歡喜、欣悅、愉佚・此於諸子・當成障礙。諸比丘・餘人讚我、讚法、僧者・諸子不可不審定其以事實為事實・「以如是故・斯屬事實・以如是故・斯得真相・我等之間有如是事・亦存有如是事。」

七

諸比丘・凡夫讚歎・如來之言・惟以瑣細・惟以卑近・惟以戒行。諸比丘・云何凡夫讚歎・如來之言・惟以瑣細・惟以卑近・惟以戒行。』小戒

八

『謂「沙門瞿曇・捨殺離殺・不用刀杖・懷慚愧心・充滿慈愛・利益一切生類有情・而住哀愍・」諸比丘・凡夫以此讚嘆如來。「沙門瞿曇・捨不與取・離不與取・取其所與・求其所與・毫無盜心・自住清淨・」諸比丘・凡夫以此讚嘆如來。「沙門瞿曇・捨非梵

行・淨修梵行・行遠離行・捨於婬欲・離於粗鄙・」諸比丘・凡夫以此讚嘆如來。

九

「沙門瞿曇・捨妄語・離妄語・言真實・從真實・正直誠心・不欺世人・」諸比丘・凡夫以此讚嘆如來。「沙門瞿曇・捨兩舌・離兩舌・不以此言告彼・離間此眾・不以彼言告此・離間彼眾。其為人也・有乖離者・能令和睦・已親密者・增其親密・有所言說・愛樂和合・足致和合・」諸比丘・凡夫以此讚嘆如來。「沙門瞿曇・其為人也・捨離惡口・凡所言說・無過無損・悅耳怡心・真誠優雅・為眾所樂・」諸比丘・凡夫以此讚嘆如來。「沙門瞿曇・其為人也・捨離綺語・所言所說・適時、真實、有義、合法・不離律儀・確切分明・而有段落・語合乎義・令人服膺・」諸比丘・凡夫以此讚嘆如來。

一〇

「沙門瞿曇・不採種子・不伐樹木・〔日中〕一食・夜間不食・非時不食・不觀戲劇歌舞・不著華鬘・不塗香料・不事裝飾・不〔坐〕高床、大牀・不受蓄金銀。沙門瞿曇・不受生穀・不受生肉・不受婦人少女・不受僕婢奴隸不受牝牡山羊・不受鷄豚・不受象、牛、及牝、牡馬・不受耕田荒地・不為使者・不為中介・不事商賈・不以秤升及尺欺誑世人・賄賂、譎詐、虛偽邪行・捨離不為・傷害、殺戮、捕縛、劫奪、竊盜、強盜・捨離不為・」諸比丘・凡夫以此讚嘆如來。中戒

一一

「復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他施信・而自存活・然於凡諸種子・若根所生・若榦所生・若節所生・若枝所生・其第五類・若種所生・此諸種子・及諸樹木・專心一意・從事採伐・沙門瞿曇・無如此事・」諸比丘・凡夫以此讚嘆如來。

一二

「復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・而自存活・然猶儲積食物・儲積飲料・儲積衣服・儲積乘具・儲積臥床・儲積香

料・儲積美味等等・專心一意・於斯儲積・以為享樂・沙門瞿曇・一無此事・」諸比丘・凡夫以此讚嘆如來。

一三

「復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・而自存活・然於諸種娛樂・若戲劇、歌謠、舞樂、翫覽物、戲曲手鈴、鳴鉢、銅鑼、戲法、伎藝・鬪象、馬、水牛、牡羊、山羊、牡羊諸獸・鬪鷄鶉、棍棒、鬪拳、角力・操兵、列兵、配兵、閱兵等等・專心一意・從事觀覽・沙門瞿曇・一無此事・」諸比丘・凡夫以此讚嘆如來。

一四

「復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・而自存活・然於諸種博弈・若八道碁、十道碁、無盤碁、蹴石、拔取、擲骰、擊棒、相手、投球、葉笛、鋤戲、倒立、風車戲、升高戲、車戲、弓戲、猜字、猜意、傷占等等・專心一意・耽斯放逸・沙門瞿曇・一無此事・」諸比丘・凡夫以此讚嘆如來。

一五

「復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・而自存活・然於高廣大牀・大過常規・牀脚雕獸・覆長羊毛・具文彩・蒙白氈・繡花實棉・彩繪為覆・邊垂兩側・或垂一方・鑲寶石・覆絹綢・備大毯・敷象覆・覆馬帔・罩車衣・縫羚羊皮・覆良鹿皮・頂具天蓋・上下設赤枕等等・專心一意・使用斯牀・沙門瞿曇・任何大牀・概不使用・」諸比丘・凡夫以此讚嘆如來。

一六

「復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・而自存活・然於諸種裝飾・若塗身、按摩、沐浴、揉身、鏡子、染目料、華鬘、塗香、顏料、香油、手甲、髮飾、手杖、藥袋、剪刀、傘蓋、彩履、冠子、寶珠、拂子、白衣、長袖衣等等・專心一意・耽斯放逸・沙門瞿曇・一無此事・」諸比丘・凡夫以此讚嘆如來。

一七

「復次．或有沙門婆羅門．為世所敬．食他信施．而自存活．然於諸種談有談無．無益徒勞之言．若談國王、談盜賊、談大臣、談軍兵、談恐怖、談戰爭、談食物、談飲料、談衣服、談臥牀、談華鬘、談香料、談親戚、談乘具、談村落、談城鄉、談都會、談國土、談婦女、〔談男子、〕談英雄、談風聞、談閒事、談死者、談漫談、談世界、談海洋等等．專心一意．作斯言談．沙門瞿曇．一無此事．」諸比丘．凡夫以此讚嘆如來。

一八

「復次．或有沙門婆羅門．為世所敬．食他信施．而自存活．然於諸種互訟相諍之言．「此法與律．汝無所知．唯我知之．汝何人者．豈能知之．」「汝趣邪徑．我趣正道．」「我言相應．汝言則否．」「汝之所言．應著前者．而著於後．應著後者．而著於前．」「汝欠熟慮．立見傾覆．」「汝言雖立．仍墮負處．」「欲脫汝說．其事遊行．設若能之．汝其自解」等等．專心一意．為此諍訟．沙門瞿曇．一無此事．」諸比丘．凡夫以此讚嘆如來。

一九

「復次．或有沙門婆羅門．為世所敬．食他信施．而自存活．然奉國王、大臣、剎帝利、婆羅門、長者、童子．「趨此詣彼．搬來運去．」諸種命令．專心一意．為使役者．或中介事．沙門瞿曇．一無此事．」諸比丘．凡夫以此讚嘆如來。

二〇

「復次．或有沙門婆羅門．為世所敬．食他信施．而自存活．然事諂言諛辭．占相禁厭．既已利得．更貪利得．沙門瞿曇．一無此事．」諸比丘．凡夫以此讚嘆如來。大戒

二一

「復次．或有沙門婆羅門．為世所敬．食他信施．然於諸種無益徒勞之明．若相手、占卜、占兆、詳夢、占體相、占鼠嚙、火護摩、杓護摩、殼護摩、粉護摩、米護摩、熟酥護摩、油護摩、口護摩、血護摩、支節明、宅地明、剎利明、濕婆明、鬼神明、地明、蛇明、毒藥明、蝎明、鼠明、鳥明、鴉明、命數豫言、防弓矢呪、解

獸聲法等・以此等明・邪命自活・沙門瞿曇・一無此事・」諸比丘・凡夫以此讚嘆如來。

二二

「復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・然於諸種無益徒勞之明・若相珠、相杖、相服、相劍、相矢、相弓、相兵器、相女、相男、相童子、相童女、相男僕、相女婢、相象、相馬、相水牛、相牡牛、相牛、相山羊、相羊、相鷄、相鶉、相蜥蜴、相耳環、相獸等・以此等明・邪命自活・沙門瞿曇・一無此事・」諸比丘・凡夫以此讚嘆如來。

二三

「復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・然於諸種無益徒勞之明・若占「王當進兵・當不進兵・」「內國王當臨・外國王當退・」「外國王當臨・內國王當退・」「內國王當勝・外國王當負・」「外國王當勝・內國王當負・」「此當勝・此當負」等等・以此等明・邪命自活・沙門瞿曇・一無此事・」諸比丘・凡夫以此讚嘆如來。

二四

「復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・然於諸種無益徒勞之明・若占月當蝕、日當蝕、星當蝕、日月當進正道、日月當進非道、眾星當進正道、眾星當進非道、流星當隕、當天火、當地震、天鼓當鳴、日月星辰當昇沉明暗・具如是果・月當蝕・乃至具如是果・日月星辰當昇沉明暗等等・以此等明・邪命自活・沙門瞿曇・一無此事・」諸比丘・凡夫以此讚嘆如來。

二五

「復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・然於諸種無益徒勞之明・若當多雨、當無雨、當豐收、當歉收、當見和平、當有恐怖、當生疫病、當獲健康〔等等占卜・〕以及印契、計算、數法、賦詩、順世論等事・以此等明・邪命自活・沙門瞿曇・一無此事・」諸比丘・凡夫以此讚嘆如來。

二六

「復次．或有沙門婆羅門．為世所敬．食他信施．然於諸種無益徒勞之明．若娶、嫁、和睦、分裂、收債、放款、致幸運、致否運、墮胎、使人瘂、使人默、令舉手、令重聽、問鏡、問童女、神憑、拜日、供養大〔梵天、〕口中吐火、屈請吉祥天等等．以此等明．邪命自活．沙門瞿曇．一無此事．」諸比丘．凡夫以此讚嘆如來。

二七

「復次．或有沙門婆羅門．為世所敬．食他信施．然於諸種無益徒勞之明．若許願、還願、居地誦咒、使元氣旺盛、使精神消耗、相宅、淨地、嗽口、沐浴、供牲、吐瀉、下痢、上泄、下泄、治頭痛、油搽耳、治眼鼻、搽眼藥、油搽目、割治目、施手術、醫嬰兒、給樹根施藥料、除藥料等等．以此等明．邪命自活．沙門瞿曇．一無此事．」諸比丘．凡夫以此讚嘆如來。諸比丘．此皆凡夫讚嘆如來之言．惟依瑣細、卑近、戒行者。』

二八

『諸比丘．〔此外〕復有餘諸法．是如來自知自證而說．甚深難見難知．寂靜美妙．遠超尋思之境．至精至微．惟賢者之所能解。諸人讚如來．惟以此法．如實讚嘆．是得正語讚嘆。諸比丘．何等〔法〕是餘諸法．如來自知自證而說．乃至惟賢者之所能解。

二九

諸比丘．或有沙門婆羅門．思惟過去．起過去見。彼等就過去觀依十八見．起種種浮說。為世所敬彼等沙門婆羅門．以何緣何．思惟過去．起過去見．而於過去．依十八見．起種種浮說。

三〇

諸比丘．或有沙門婆羅門．起常住論。彼等依四種見．說我及世界常住。為世所敬沙門婆羅門．以何緣何．起常住論．依四種見．說我及世界常住。

三一

諸比丘．今有沙門或婆羅門．以慇懃、精勤、修定、不放逸、正憶念．心入三昧．憶過去中．種種生存．若一生、二生、三生、四生、五生、十生、二十生、三十生、四十生、五十生、百生、千生、百千生、多百生、多千生、多百千生等等．以如是心．逮得三昧。憶念「於彼生中．我有如是名．有如是姓．屬如是姓．食如是食．受如是苦樂．有如是壽量。彼時我由是處死．生於他生。於其生處．有如是名．有如是姓．屬如是姓．食如是食．受如是苦樂．有如是壽量。時我由彼處死．生於此生．」如斯兼情並境．憶過去中．種種生存。彼便作是言．「我及世界常住．無所產生．如山頂常住．如石柱屹立不動。而諸有情．流轉輪迴．死去生出．〔其我及世界〕猶復常住。所以者何．我以慇懃、精勤、修定、不放逸、正憶念．心住三昧．憶過去中．種種生存．若一生乃至多百千生等等．以如是心．逮得三昧．於彼生中．有如是名．乃至來生於此生．如斯兼情並境．憶過去中．種種生存故．以此得知云何我及世界常住．無所產生．如山頂常住．如石柱屹立不動．而諸有情．流轉輪迴．死去生出．〔其我及世界〕猶復常住。」諸比丘．此是第一依處．或有沙門婆羅門．以此緣此．起常住論．說我及世界常住。

三二

復有第二為世所敬沙門婆羅門．以何緣何．起常住論．說我及世界常住。諸比丘．今有沙門或婆羅門．以慇懃、精勤、修定、不放逸、正憶念．心入三昧．憶過去中．種種生存．若一成壞、二成壞、三成壞、四成壞、五成壞、十成壞等等．以如是心．逮得三昧。憶念「於彼生中．我有如是名．乃至以此得知云何我及世界常住．如是如是而諸有情．乃至〔其我及世間〕猶復常住。」諸比丘．此是第二依處．或有沙門婆羅門．以此緣此．起常住論．說我及世界常住。

三三

復有第三為世所敬沙門婆羅門．以何緣何．起常住論．說我及世界常住。諸比丘．今有沙門或婆羅門．以慇懃、精勤、修定、不放逸、正憶念．心入三昧．憶過去中．種種生存．若十成壞．二十成壞．三十成壞．四十成壞等等．以如是心．逮得三昧。憶念「於彼生中．我有如是名．乃至以此得知云何．如是如是．〔其我及世

界〕猶復常住。」諸比丘・此是第三依處・或有沙門婆羅門・以此緣此・起常住論・說我及世界常住。

三四

復有第四為世所敬沙門婆羅門・以何緣何・起常住論・說我及世界常住。諸比丘・今有沙門或婆羅門・是推論家・是審察家。彼精於推論・隨順審察・以己辨知・作如是言・「我及世間常住・無所產生・如山頂常住・如石柱屹立不動・而諸有情・流轉輪迴・死去生出・〔其我及世界〕猶復常住。」諸比丘・此是第四依處・或有沙門婆羅門・以此緣此・起常住論・說我及世界常住。

三五

諸比丘・此是彼等沙門婆羅門・起常住論・依四種見・說我及世界常住。諸比丘・任何沙門或婆羅門・起常住論・說我及世界常住・悉依此四見・或隨其一・此外無有〔餘見。〕

三六

諸比丘・如來於此・知如是事・謂「如是執・如是取・此等見處・致生於如是趣・致有如是來生。」如來不但知此・所知更復過是・然於知不取・以不取故・是以內心・得知寂滅。諸比丘・是即如來如實了知受集、受滅、受味、受過患、受出離故・無有執取而得解脫。

三七

諸比丘・如是諸法・是如來自知自證而說・甚深難見難知・寂靜美妙・遠超尋思之境・至精至微・惟賢者之所能解。諸人讚如來・惟以此法・如實讚嘆・是得正語讚嘆。』

第二誦品

一

『諸比丘・或有沙門婆羅門・起亦常住亦無常論。彼等依四種見・說我及世界一分常住一分無常。為世所敬沙門婆羅門・以何緣何・

起亦常住亦無常論・依四種見・說我及世界一分常住一分無常。

二

諸比丘・經長時後・而此世界・時於彼時・有壞敗期。世界壞時・而諸有情・已多生入光音天。彼處為彼等意所成故・以喜為食・身光自照・神足飛空・如是純淨而住・其時頗長。

三

諸比丘・經長時後・而此世界・時於彼時・有生成期。世界成時・顯現空虛梵宮。時一有情・因壽命盡・或善根盡・從光音天身死・生彼空虛梵宮。彼處為彼意所成故・以喜為食・身光自照・神足飛空・如是純淨而住・其時頗長。

四

彼於彼處・唯一無侶・獨住長夜・故無所樂・起〔如是〕希求。「願餘有情・來生此間。」爾時・或有情等・因壽命盡・或善根盡・從光音天身死・生彼梵宮・與彼共住。彼處亦為彼等意所成故・以喜為食・身光自照・神足飛空・如是純淨而住・其時頗長。

五

諸比丘・在彼等間・先生有情・作如是念・「我是梵天・是大梵天・無所不能・無所不勝・洞見一切・支配一切・為世界自在主・為一切創造主・為一切化生主・為至尊至上能生者・為一切統制主・為已生未生者父。住此有情・皆我化生。所以者何・我曾作是念・「願餘有情・來生此間。」以我作是念・而此諸有情・來生此故。」復次・彼後生有情・亦作如是念・「此君實是梵天・是大梵天・無所不能・無所不勝・洞見一切・支配一切・為世界自在主・為一切創造主・為一切化生主・為至尊至上能生者・為一切統制主・為已生未生者父。緣此君梵天故・化生我等・所以者何・以見此君先生此處・後生我等故。」

六

諸比丘．在彼等間．先生有情．壽命更長．光輝更足．力量更強．而後生諸有情．壽命較短．光少力弱。諸比丘．此後者中．有一有情．從彼天身死．來生此〔地上。〕來生此者．離家出家。彼離家出家已．以慇懃、精勤、修定、不放逸、正憶念、心入三昧．憶上所述前生生存．除此而外．無復憶及．以如是心．逮得三昧。彼便作是言．「彼君實是梵天．是大梵天．無所不能．無所不勝．洞見一切．支配一切．為世界自在主．為一切創造主．為一切化生主．為至尊至上能生者．為一切統制主．為已生未生者父。此〔君梵天〕生我等者．實為常恒、堅固、常住、無轉變性．唯當如是常住而住。若我等性．為所化生．無常不堅．短壽應死．故來生此。」諸比丘．此是第一依處．或有沙門婆羅門．以此緣此．起亦常住亦無常論．說我及世界一分常住一分無常。

七

復有第二為世所敬沙門婆羅門．以何緣何．起亦常住亦無常論．說我及世界一分常住一分無常。諸比丘．謂有稱戲忘天者．彼等久耽喜樂．住於嬉笑．住於戲娛．以彼等久耽喜樂．嬉笑戲娛故．忘失憶念。彼等諸天．忘失憶念故．便從其天身死。

八

諸比丘．而彼等間．有一有情．從天身死．來生此〔地上。〕來生此者．離家出家。彼離家出家已．以慇懃、精勤、修定、不放逸、正憶念．心入三昧．憶上所述前生生存．除此而外．無復憶及．以如是心．逮得三昧。

九

彼便作是言．「彼餘可敬諸天．非戲忘天．實無久耽喜樂．住於嬉笑．住於戲娛事。彼等不久耽喜樂．嬉笑戲娛故．憶念不失．彼等諸天．憶念不失．便無死沒．實為常恒、堅固、常住、無轉變性．唯當如是常住而住．而我等戲忘天性．久耽喜樂．住於嬉笑．住於戲娛．以久耽喜樂．嬉笑戲娛故．我等憶念忘失．忘失憶念故．便從其天身死．無常不堅．短壽應死．故來生此。」諸比丘．此是第二依處．或有沙門婆羅門．以此緣此．起亦常住亦無常論．說我及世界一分常住一分無常。

一〇

復有第三為世所敬沙門婆羅門．以何緣何．起亦常住亦無常論．說我及世界一分常住一分無常。諸比丘．謂有稱意憤天者．彼等久相嫉視．彼等以久相嫉視故．其心互相憤恚。如是互相憤恚其心故．身心疲勞．彼等諸天．便從其天身死。

一一

諸比丘．而彼等間．有一有情．從其天身死．來生此〔地上。〕來生此者．離家出家。彼離家出家已．以慇懃、精勤、修定、不放逸、正憶念．心入三昧．憶上所述前生生存．除此而外．無復憶及．以如是心．逮得三昧。

一二

彼便作是言．「彼餘可敬諸天．非意憤天．實無久相嫉視事．彼等無久相嫉視故．其心無有互相憤恚。彼等以心不相憤恚．身心不疲勞。是故彼等無從其天身死．實為常恒、堅固、常住、無轉變性．唯當如是常住而住。而我等意憤天．久相嫉視．以久相嫉視故．我等之心．互相憤恚．心相憤恚故．身心疲勞．便從其天身死．無常不堅．短壽應死．故來生此。」諸比丘．此是第三依處．或有沙門婆羅門．以此緣此．起亦常住亦無常論．說我及世界一分常住一分無常。

一三

復有第四為世所敬沙門婆羅門．以何緣何．起亦常住亦無常論．說我及世界一分常住一分無常。諸比丘．今有沙門或婆羅門．是推論家．是審察家。彼精於推論．隨順審察．以己辨知．作是說言．「所謂若此眼、此耳、此鼻、此舌、此身之我．皆不常、不堅、無常、有轉變性．然若此心、此意、此識之我．皆常恒、堅固、常住、無轉變性．唯當如是常住而住。」諸比丘．此是第四依處．或有沙門婆羅門．以此緣此．起亦常住亦無常論．說我及世界一分常住一分無常。

一四

諸比丘．此是彼等沙門婆羅門．起亦常住亦無常論．依四種見．說我及世界一分常住一分無常。諸比丘．任何沙門或婆羅門．起亦常住亦無常論．說我及世界一分常住一分無常．悉依此四見．或隨其一．此外無有〔餘見。〕

一五

諸比丘．如來於此．知如是事．謂「如是執．如是取．此等見處．致生於如是趣．致有如是來生。」如來不但知此．所知更復過是．然於知不取．以不取故．是以內心知得寂滅。諸比丘．是即如來如實了知受集、受滅、受味、受過患、受出離故．無有執取而得解脫。諸比丘．如是諸法．是如來自知自證而說．甚深難見難知．寂靜美妙．遠超尋思之境．至精至微．惟賢者之所能解．諸人讚如來．惟以此法．如實讚嘆．是得正語讚嘆。』

一六

『諸比丘．或有沙門婆羅門．起有邊無邊論。彼等依四種見．說世間有邊無邊。為世所敬沙門婆羅門．以何緣何．起有邊無邊論．依四種見．說世界有邊無邊。

一七

諸比丘．今有沙門或婆羅門．以慇懃、精勤、修定、不放逸、正憶念．心入三昧．觀此世界．起有邊想．以如是心．逮得三昧。彼便作是言．「此世界周圍有邊。所以者何．我以慇懃、乃至正憶念故．心入三昧．觀此世界．起有邊想．以如是心．逮得三昧．是故我知．云何此世界周圍有邊。」諸比丘．此是第一依處．或有沙門婆羅門．以此緣此．起有邊無邊論．說世界有邊無邊。

一八

復有第二為世所敬沙門婆羅門．以何緣何．起有邊無邊論．說世界有邊無邊。諸比丘．今有沙門或婆羅門．以慇懃、精勤、修定、不放逸、正憶念．心入三昧．觀此世界．起無邊想．以如是心．逮得三昧。彼便作是言．「此世界完全無垠無邊．如有沙門婆羅門．說世界周圍有邊．此第彼等妄語．而此世界完全無垠無邊。所以者何．我以慇懃、乃至正憶念．心入三昧．觀此世界起無邊想．以如

是心・逮得三昧・是故我知云何此世界完全無垠無邊。」諸比丘・此是第二依處・或有沙門婆羅門・以此緣此・起有邊無邊論・說世界有邊無邊。

一九

復有第三為世所敬沙門婆羅門・以何緣何・起有邊無邊論・說世界有邊無邊。諸比丘・今有沙門或婆羅門・以慇懃乃至正憶念・心入三昧・觀此世界・起上下有邊橫側無邊想・以如是心・逮得三昧。彼便作是言・「此世界有邊亦復無邊。如有沙門婆羅門・說世界周圍有邊・此第彼等妄語・而此世界有邊亦復無邊。所以者何・我以慇懃、乃至正憶念・心入三昧・觀此世界・起上下有邊橫側無邊想・以如是心・逮得三昧・是故我知云何此世界有邊亦復無邊。」諸比丘・此是第三依處・或有沙門婆羅門・以此緣此・起有邊無邊論・說世界有邊無邊。

二〇

復有第四為世所敬沙門婆羅門・以何緣何・起有邊無邊論・說世界有邊無邊。諸比丘・今有沙門或婆羅門・是推論家・是審察家。彼精於推論・隨順審察・以己辨知・作是說言・「此世界非有邊非無邊。如有沙門婆羅門・說世間周圍有邊・此第彼等妄語。復有沙門婆羅門・說世界完全無垠無邊・此亦第彼等妄語。復有沙門婆羅門・說世界有邊亦復無邊・此亦第彼等妄語。實此世界既非有邊亦非無邊。」諸比丘・此是第四依處・或有沙門婆羅門・以此緣此・起有邊無邊論・說世界有邊無邊。

二一

諸比丘・此是彼等沙門婆羅門・起有邊無邊論・依四種見・說世界有邊無邊。諸比丘・任何沙門或婆羅門・起有邊無邊論・說世界有邊無邊・悉依此四見・或隨其一・此外無有〔餘見。〕

二二

諸比丘・如來於此・知如是事・謂「如是執・如是取・此等見處・致生於如是趣・致有如是來生。」如來不但知此・所知更復過是。然於知不取・以不取故・是以內心知得寂滅。諸比丘・是即如來如

實了知受集、受滅、受味、受過患、受出離．無有執取而得解脫。諸比丘．如是諸法．是如來自知自證而說．甚深難見難知．寂靜美妙．遠超尋思之境．至精至微．惟賢者之所能解．諸人讚如來．惟以此法．如實讚嘆．是得正語讚嘆。』

二三

『諸比丘．或有沙門婆羅門．起詭辯論。彼等答人所問．依於四種．支離滅裂．入於詭辯。為世所敬沙門婆羅門．以何緣何．起詭辯論．每答所問．於四見中．支離滅裂．入於詭辯。

二四

諸比丘．今有沙門婆羅門．如實不知此是善此是不善。彼念．「我誠如實不知此是善．亦如實不知此是不善。我以如實不知此是善此是不善．我若竟答此是善此是不善．我則於此．將起欲貪、瞋、恚。我起欲貪、瞋、恚．我起妄語。我起妄語．是成我礙。若成我礙．是成我障。」彼作是念故．畏為妄語．惡為妄語．不答此是善．亦不答此是不善．每答所問．支離滅裂．入於詭辯．謂「我亦不以為如是．我亦不以為唯然．我亦不以為是其他．我亦不以為不然．我亦不以為非不然。」諸比丘．此是第一依處．或有沙門婆羅門．以此緣此．起詭辯論．每答所問．支離滅裂．入於詭辯。

二五

復有第二為世所敬沙門婆羅門．以何緣何．起詭辯論．每答所問．支離滅裂．入於詭辯。諸比丘．今有沙門或婆羅門．如實不知此是善此是不善。彼念「我誠如實不知此是善．亦如實不知此是不善。我以如實不知此是善此是不善．我若竟答此是善此是不善．我則於此．將起欲貪、瞋、恚。我起欲貪、瞋、恚．我起取著。我起取著．是成我礙。若成我礙．是成我障。」彼作是念故．畏取著．惡取著．不答此是善．亦不答此是不善．每答所問．支離滅裂．入於詭辯．謂「我亦不以為如是．我亦不以為唯然．我亦不以為是其他．我亦不以為不然．我亦不以為非不然。」諸比丘．此是第二依處．或有沙門婆羅門．以此緣此．起詭辯論．每答所問．支離滅裂．入於詭辯。

二六

復有第三為世所敬沙門婆羅門．以何緣何．起詭辯論．每答所問．支離滅裂．入於詭辯．諸比丘．今有沙門或婆羅門．如實不知此是善此是不善。彼念．「我誠如實不知此是善．亦如實不知此是不善。我以如實不知此是善此是不善．我若竟答此是善此是不善．設有沙門婆羅門．博學精智．長於機辯．其精銳處．如〔弓矢家．〕貫穿秋毫．以己智慧．折人意見．就此等〔善不善〕事．詰我難我．指責誤謬。彼等如是詰難指責．我不能答。我不能答．是成我礙。若成我礙．是成我障。」彼作是念故．畏詰難．惡詰難．不答此是善．亦不答此是不善．每答所問．支離滅裂．入於詭辯．謂「我亦不以為如是．我亦不以為唯然．我亦不以為不然．我亦不以為非不然。」諸比丘．此是第三依處．或有沙門婆羅門．以此緣此．起詭辯論．每答所問．支離滅裂．入於詭辯。

二七

復有第四為世所敬沙門婆羅門．以何緣何．起詭辯論．每答所問．支離滅裂．入於詭辯。諸比丘．今有沙門或婆羅門．闇鈍愚冥。彼因闇鈍愚冥．每答所問．支離滅裂．入於詭辯。彼念．「汝若問我．有他世耶．我若以為有他世．當答汝有他世．然我亦不以為如是．我亦不以為唯然．我亦不以為是其他．我亦不以為不然．我亦不以為非不然。汝若問我．無他世耶．亦復如是如是。乃至他世亦有亦無耶．他世亦非有亦非無耶。有化生有情耶．無化生之有情耶．化生之有情亦有亦無耶．化生有情亦非有亦非無耶。有善惡業之異熟果耶．無善惡業之異熟果耶．善惡業之異熟果亦有亦無耶．善惡業之異熟果亦非有亦非無耶。真人死而存耶．真人死而不存耶．真人死後亦存在亦不存在耶．真人死後亦非存在亦非不存在耶。於如是等問．乃至我若以為真人死後亦非存在亦非不存在．則當如是答．謂真人死後亦非存在亦非不存在。然我亦不以為如是．我亦不以為唯然．我亦不以為是其他．我亦不以為不然．我亦不以為非不然。」諸比丘．此是第四依處．或有沙門婆羅門．以此緣此．起詭辯論．每答所問．支離滅裂．入於詭辯。

二八

諸比丘．此是沙門婆羅門．起詭辯論．每答所問．於四見中．支離滅裂．入於詭辯。諸比丘．任何沙門或婆羅門．起詭辯論．每答所問．支離滅裂．入於詭辯．悉依此四見．或隨其一．此外無有〔餘見。〕

二九

諸比丘・如來於此・知如是事。謂「如是執・如是取・此等見處・致生於如是趣・致有如是來生。」如來不但知此・所知更復過是。然於知不取・以不取故・內心知得寂滅。諸比丘・是即如來如實了知受集、受滅、受味、受過患、受出離・無有執取而得解脫。諸比丘・如是諸法・是如來自知自證而說・甚深難見難知・寂靜美妙・遠超尋思之境・至精至微・惟賢者之所能解・諸人讚如來・惟以此法・如實讚嘆・是得正語讚嘆。』

三〇

『諸比丘・或有沙門婆羅門・起無因論。彼等依二種見・說我及世界無因而生・為世所敬沙門婆羅門・以何緣何・起無因論・說我及世界・無因而生。

三一

諸比丘・謂有稱無想有情天者。彼等諸天・若想生起・便從其天身死。而彼等間・有一有情・從其天身死・來生此〔地上。〕來生此者・離家出家。彼離家出家已・以慇懃精勤、修定、不放逸、正憶念・心入三昧・憶其想之生起・此外無復憶及・以如是心・逮得三昧。彼等便作是言・「我及世界・無因而生。所以者何・以我過去本無・而今轉變為有情故。」諸比丘・此是第一依處・或沙門婆羅門・以此緣此・起無因論・說我及世界無因而生。

三二

復有第二為世所敬沙門婆羅門・以何緣何・起無因論・說我及世界無因而生。諸比丘・今有沙門或婆羅門・是推論家・是審察家。彼精於推論・隨順審察・以己辨知・作是說言・「我及世界・無因而生。」諸比丘・此是第二依處・或有沙門婆羅門・以此緣此・起無因論・說我及世界無因而生。

三三

諸比丘・此是彼等沙門婆羅門・起無因論・於二見中・說我及世界・無因而生。諸比丘・任何沙門婆羅門・起無因論・說我及世

界・無因而生・悉依此二見・或隨其一・此外無有〔餘見。〕

三四

諸比丘・如來於此・知如是事・謂「如是執・如是取・此等見處・致生於如是趣・致有如是來生。」如來不但知此・所知更復過是。然於知不取・以不取故・內心知得寂滅。諸比丘・是即如來如實了知受集、受滅、受味、受過患受出離・無有執取而得解脫。諸比丘・如是諸法・是如來自知自證而說・甚深難見難知・寂靜美妙・遠超尋思之境・至精至微・惟賢者之所能解・諸人讚如來・惟以此法・如實讚嘆・是得正語讚嘆。』

三五

『諸比丘・如是彼等沙門婆羅門・思惟過去・起過去見・就過去觀・依上十八見起種種浮說。諸比丘・任何沙門婆羅門・思惟過去・起過去見・就過去觀・起種種浮說・悉依此十八見・或隨其一・此外無有〔餘見。〕

三六

諸比丘・如來於此・知如是事。如是如是・乃至如實讚嘆・是得正語讚嘆。』

三七

『諸比丘・或有沙門婆羅門・思惟未來・起未來見。彼等就未來觀・依四十四見・起種種浮說。為世所敬沙門婆羅門・以何緣何・思惟未來起未來見・就未來觀・依四十四見・起種種浮說。

三八

諸比丘・或有沙門婆羅門・起死後有想論。彼等依十六見・說死後我有想。彼等沙門婆羅門・以何緣何・起死後有想論・依十六見說死後我有想。彼等觀我・謂「我無病・於死後有想有色・」「我無病・於死後有想無色・」「乃至亦有色亦無色・」「非有色非無色・」「我無病・於死後有想有邊・」「乃至無邊・」「乃至亦有邊亦無邊・」「乃至非有邊非無邊・」「我無病・於死後有想有一

想・」「乃至有若干想・」「乃至有少想・」「乃至有無量想・」「我無病・於死後有想一向有樂・」「乃至一向有苦・」「乃至有樂有苦・」「乃至不苦不樂。」

三九

諸比丘・此是沙門婆羅門・起死後有想論・依十六見・說死後我有想。諸比丘・任何沙門婆羅門・起死後有想論・說死後我之有想・悉依此十六見・或隨其一・此外無有〔餘見。〕

四〇

諸比丘・如來於此・知如是事・「如是執・如是取・此等見處・致生於如是趣・致有如是來生。」如來不但知此・所知更復過是。然於知不取・以不取故・內心知得寂滅。諸比丘・是即如來如實了知受集、受滅、受味、受過患、受出離・無有執取而得解脫。諸比丘・如是諸法・是如來自知自證而說・甚深難見難知・寂靜美妙・遠超尋思之境・至精至微・惟賢者之所能解・諸人讚如來・惟以此法・如實讚嘆・是得正語讚嘆。』

第三誦品

一

『諸比丘・或有沙門婆羅門・起死後無想論。彼等依八種見・說死後我無想。為世所敬沙門婆羅門・以何緣何・起死後無想論・依八種見・說死後我無想。

二

彼等觀我・謂「我無病・死後無想有色・」「乃至無色・」「乃至亦有色亦無色・」「乃至非有色非無色・」「乃至有邊・」「乃至無邊・」「乃至亦有邊亦無邊・」「乃至非有邊非無邊。」

三

諸比丘・此是彼等沙門婆羅門・起死後無想論・依八種見・說死後我無想。諸比丘・任何沙門或婆羅門・起死後無想論・說死後我無

想・悉依此八見・或隨其一・此外無有〔餘見。〕

四

諸比丘・如來於此・知如是事・「如是執・如是取・此等見處・致生於如是趣・致有如是來生。」如來不但知此・所知更復過是。然於知不取・以不取故・內心知得寂滅。諸比丘・是即如來如實了知受集、受滅、受味、受過患、受出離・無有執取而得解脫。諸比丘・如是諸法・是如來自知自證而說・甚深難見難知・寂靜美妙・遠超尋思之境・至精至微・惟賢者之所能解・諸人讚如來・惟以此法・如實讚嘆・是得正語讚嘆。』

五

『諸比丘・或有沙門婆羅門・起死後非有想非無想論。彼等依八種見・說死後我非有想非無想。為世所敬沙門婆羅門・以何緣何・起死後非有想非無想論・依八種見・說死後我非有想非無想。

六

彼等觀我・謂「我無病死後非有想非無想有色・」「乃至無色・」「乃至亦有色亦無色・」「乃至非有色非無色・」「乃至有邊・」「乃至無邊・」「乃至亦有邊亦無邊・」「乃至非有邊非無邊。」

七

諸比丘・此是彼等沙門婆羅門・起死後非有想非無想論・依八種見・說死後我非有想非無想。諸比丘・任何沙門婆羅門・起死後非有想非無想論・說死後我非有想非無想・悉依此八見・或隨其一・此外無有〔餘見。〕

八

諸比丘・如來於此・知如是事・「如是執・如是取・此等見處・致生於如是趣・致有如是來生。」如來不但知此・所知更復過是。然於知不取・以不取故・內心知得寂滅。諸比丘・是即如來如實了知受集、受滅、受味、受過患、受出離・無有執取而得解脫。諸比丘・如是諸法・是如來自知自證而說・甚深難見難知・寂靜美妙・

遠超尋思之境・至精至微・惟賢者之所能解・諸人讚如來・惟以此法・如實讚嘆・是得正語讚嘆。』

九

『諸比丘・或有沙門婆羅門・起斷滅論・彼等依七種見・於〔現有生存〕有情・而說斷滅消失死滅。為世所敬沙門婆羅門・以何緣何・起斷滅論・依七種見・於現在生存有情・而說斷滅消失死滅。

一〇

諸比丘・今有沙門或婆羅門・作如是論・作如是見・「此我為有色・四大所成・父母所生・而身壞時・斷滅消失・死後無存・於是此我・全歸斷滅。」如是而說現有生存有情・斷滅消失死滅。

一一

復有餘者於此・作是說言・「汝言之我・斯我實存。予決不謂・斯我不存。然而此我・非全斷滅。猶有他我・是天而有色・屬於欲界・養於段食。汝不知見・予知見之。此我身壞・斷滅消失・死後無存・於是此我・全歸斷滅。」如是於現有生存有情・而說斷滅消失死滅。

一二

復有餘者於此・作是說言・「汝言之我・斯我實存・予決不謂・斯我不存。然而此我・非全斷滅。猶有他我・是天而有色・且意所成・支肢具足・諸根無闕。汝不知見・予知見之。此我身壞・斷滅消失・死後無存・於是此我・全歸斷滅。」如是於現有生存有情・而說斷滅消失死滅。

一三

復有餘者於此・作是說言・「汝言之我・斯我實存。予決不謂・斯我不存。然而此我・非全斷滅。猶有他我・超出一切色想・滅有對想・不憶異想・故達空是無邊之空無邊處。汝不知見・予知見之。此我身壞・斷滅消失・死後無存・於是此我・全歸斷滅。」如是而說現有生存有情・斷滅消失死滅。

一四

復有餘者於此・作是說言・「汝言之我・斯我實存。予決不謂・斯我不存。然而此我・非全斷滅。猶有他我・超出一切空無邊處・達識是無邊之識無邊處。汝不知見・予知見之。此我身壞・斷滅消失・死後無存・於是此我・全歸斷滅。」如是而說現有生存有情・斷滅消失死滅。

一五

復有餘者於此・作是說言・「汝言之我・斯我實存。予決不謂・斯我不存。然而此我・非全斷滅・猶有他我・超出一切・識無邊處・達所有都無之無所有處。汝不知見・予知見之。此我身壞・斷滅消失・死後無存・於是此我・全歸斷滅。」如是而說現有生存有情・斷滅消失死滅。

一六

復有餘者於此・作是說言・「汝言之我・斯我實存。予決不謂・斯我不存。然而此我・非全斷滅。猶有他我・超出一切無所有處・逮達此是寂靜此是美妙之非想非非想處。汝不知見・予知見之。此我身壞・斷滅消失・死後無存・於是此我・全歸斷滅。」如是而說現有生存有情・斷滅消失死滅。

一七

諸比丘・此是彼等沙門婆羅門・起斷滅論・依七種見・於現有生存有情・而說斷滅消失死滅。諸比丘・任何沙門婆羅門・起斷滅論・說現有生存有情斷滅消失死滅・悉依此七見・或隨其一・此外無有〔餘見。〕

一八

諸比丘・如來於此・知如是事・「如是執・如是取・此等見處・致生於如是趣・致有如是來生。」如來不但知此・所知更復過是。然於知不取・以不取故・內心知得寂滅。諸比丘・是即如來如實知受集、受滅、受味、受過患、受出離・無有執取而得解脫。諸比丘・如是諸法・是如來自知自證而說・甚深難見難知・寂靜美妙・遠超

尋思之境・至精至微・唯賢者之所能解・諸人讚如來・唯以此法・如實讚嘆・是得正語讚嘆。』

一九

『諸比丘・或有沙門婆羅門・起〔最上〕現在涅槃論。彼等依五種見・於現有生存有情而說最上現在涅槃。為世所敬沙門婆羅門・以何緣何・起最上現在涅槃論・依五種見・於現有生存有情而說最上現在涅槃。

二〇

諸比丘・今有沙門或婆羅門・作如是論作如是見・「我〔於現在〕五欲自恣・是時即是此我達最上現在涅槃。」如是而於現有生存有情而說最上現在涅槃。

二一

餘者於此・作是說言・「汝言之我・斯我實存。予決不謂・斯我不存。然此我者・猶未達最上現在涅槃。所以者何。若五欲者・無常而苦・是轉變性・因轉變性而起變化・生憂、悲、苦惱、悶故。若此我離諸欲・離不善法・有尋有伺・離生喜樂・以入初禪・是為此我・達最上現在涅槃。」如是於現有生存有情而說最上現在涅槃。

二二

復有餘者於此・作是說言・「汝言之我・斯我實存。予決不謂・斯我不存。然此我者・猶未達最上現在涅槃。所以者何。以有尋有伺・此〔初禪〕之謂粗故。若此我滅其尋伺・內心靜安・心得一境相・無尋無伺・定生喜樂・入第二禪・是為此我・達最上現在涅槃。」如是於現有存在有情而說最上現在涅槃。

二三

復有餘者於此・作是說言・「汝言之我・斯我實存。予決不謂・斯我不存。然此我者・猶未達最上現在涅槃。所以者何。以有喜心躁・此〔第二禪〕之謂粗故・若此我除喜住捨・正念正智・自知身

樂・諸聖所說・捨、念、樂住・入第三禪・是為此我・達最上現在涅槃。」如是於現有存在有情而說最上現在涅槃。

二四

復有餘者於此・作是說言・「汝言之我・斯我實存。予決不謂・斯我不存。然此我者・猶未達最上現在涅槃。所以者何。以有作意心之樂・此〔第三禪〕之謂粗故。若此我捨離苦樂・滅前憂喜・不苦不樂・捨念清淨・入第四禪・是為此我・達最上現在涅槃。」如是而於現有存在有情而說最上現在涅槃。

二五

諸比丘・此是彼等沙門婆羅門・起最上現在涅槃論・依五種見說現有存在有情最上現在涅槃。諸比丘・任何沙門或婆羅門・起最上現在涅槃論・於現有存在有情而說最上現在涅槃・悉依此五種見・或隨其一・此外無有〔餘見。〕

二六

諸比丘・如來於此・知如是事・「如是執・如是取・此等見處・致生於如是趣・致有如是來生。」如來不但知此・所知更復過是。然於知不取・以不取故・內心知得寂滅。諸比丘・是即如來如實知受集、受滅、受味、受過患、受出離・無有執取而得解脫。諸比丘・此是諸法・如來自知自證而說・甚深難見難知・寂靜美妙・遠超尋思之境・至精至微・唯賢者之所能解・諸人讚如來・唯以此法・如實讚嘆・是得正語讚嘆。』

二七

『諸比丘・此是彼等沙門婆羅門・思惟未來・起未來見・就未來觀・依上四十四見・起種種浮說。諸比丘・任何沙門婆羅門・思惟過去・起未來見・就未來觀・起種種浮說・悉依此四十四見・或隨其一・此外無有〔餘見。〕

二八

諸比丘・如來於此・知如是事・「如是執・如是取・此等見處・致生於如是趣・致有如是來生。」如來不但知此・所知更復過是。然於知不取・以不取故・內心知得寂滅。諸比丘・是如來如實知受集、受滅、受味、受過患、受出離・無有執取而得解脫。諸比丘・此是諸法・是如來自知自證而說・甚深難見難知・寂靜美妙・遠超尋思之境・至精至微・唯賢者之所能解。諸人讚如來・唯以此法・如實讚嘆・是得正語讚嘆。』

二九

『諸比丘・此是彼等沙門婆羅門・思惟過去・思惟未來・思惟過去未來・起過去未來見・就過去未來觀・依上六十二見・起種種浮說。諸比丘・任何沙門婆羅門・思惟過去・思惟未來・思惟過去未來・起過去未來見・就過去未來觀。起種種浮說。悉依此六十二見。或隨其一。此外無有〔餘見。〕』

三〇

『諸比丘。如來於此。知如是事。「如是執。如是取。此等見處。致生於如是趣。致有如是來生。」如來不但知此。所知更復過是。然於知不取・以不取故。內心知得寂滅。諸比丘・是即如來如實知受集、受滅、受味、受過患、受出離。無有執取而得解脫。諸比丘。此是諸法。是如來自知自證而說。甚深難見難知。寂靜美妙。遠超尋思之境。至精至微。唯賢者之所能解。諸人讚如來。唯以此法。如實讚嘆。是得正語讚嘆。』

三二

『諸比丘。其中任何沙門婆羅門。起常住論。依四種見。說我及世界常住。此是彼等可敬沙門婆羅門。不知不見。而於所受。愛所纏縛。動搖不穩。唯偏見耳。

三三

諸比丘。其中任何沙門婆羅門。起亦常住亦無常論。依四種見中。說我及世界一分常住一分無常。〔亦復如是。〕唯偏見耳。

三四

諸比丘。其中任何沙門婆羅門。起有邊無邊論。依四種見。說世界有邊無邊。〔亦復如是。〕唯偏見耳。

三五

諸比丘。其中任何沙門婆羅門。起詭辯論。依四種見。每答所問。支離滅裂。入於詭辯。〔亦復如是。〕唯偏見耳。

三六

諸比丘。其中任何沙門婆羅門。起無因論。依二種見。說我及世界無因而生。〔亦復如是。〕唯偏見耳。

三七

諸比丘。其中任何沙門婆羅門。思惟過去。起過去見。依上十八種見。就過去觀。起種種浮說。〔亦復如是。〕唯偏見耳。

三八

諸比丘。其中任何沙門婆羅門。起死後有想論。依十六種見。說死後我有想。〔亦復如是。〕唯偏見耳。

三九

諸比丘。其中任何沙門婆羅門。起死後無想論。依八種見。說死後我無想。〔亦復如是。〕唯偏見耳。

四〇

諸比丘。其中任何沙門婆羅門。起死後非有想非無想論。依八種見。說死後我非有想非無想。〔亦復如是。〕唯偏見耳。

四一

諸比丘。其中任何沙門婆羅門。起斷滅論。依七種見。說現有存在有情斷滅消失死滅。〔亦復如是。〕唯偏見耳。

四二

諸比丘。其中任何沙門婆羅門。起最上現在涅槃論。依五種見。於現有存在有情而說最上現在涅槃。〔亦復如是。〕唯偏見耳。

四三

諸比丘。其中任何沙門婆羅門。思惟未來。起未來見。依上四十四種見。就未來觀。起種種浮說。〔亦復如是。〕唯偏見耳。

四四

諸比丘。其中任何沙門婆羅門。思惟過去。思惟未來。思惟過去未來。起過去未來見。依上六十二種見。就過去未來觀。起種種浮說。此是彼等可敬沙門婆羅門。不知不見。而於所受。愛所纏縛。動搖不穩。唯偏見耳。』

四五

『諸比丘。其中任何沙門婆羅門。起常住論。依四種見。說我及世常住。此亦以觸為緣故。

四六

其中乃至起亦常住亦無常論。〔如是云云。〕此亦以觸為緣故。

四七

其中乃至起有邊無邊論。〔如是云云。〕此亦以觸為緣故。

四八

其中乃至起詭辯論。〔如是云云。〕此亦以觸為緣故。

四九

其中乃至起無因論。〔如是云云。〕此亦以觸為緣故。

五〇

其中乃至思惟過去。起過去見。〔如是云云。〕此亦以觸為緣故。

五一

其中乃至起死後有想論。〔如是云云。〕此亦以觸為緣故。

五二

其中乃至起死後無想論。〔如是云云。〕此亦以觸為緣故。

五三

其中乃至起死後非有想非無想論・〔如是云云。〕此亦以觸為緣故。

五四

其中乃至起斷滅論。〔如是云云。〕此亦以觸為緣故。

五五

其中乃至起最上現在涅槃論。〔如是云云。〕此亦以觸為緣故。

五六

其中乃至思惟未來。起未來見。〔如是云云。〕此亦以觸為緣故。

五七

其中乃至思惟過去。思惟未來。思惟過去未來。起過去未來見。依上六十二種見。就過去未來觀。起種種浮說。此亦以觸為緣故。』

五八

『諸比丘。其中任何沙門婆羅門。起常住論。依四種見。說我及世界常住。此等離一切觸而起受者。無有是處。

五九

其中起亦常住亦無常住論。〔如是云云。〕無有是處。

六〇

其中起有邊無邊論。〔如是云云。〕無有是處。

六一

其中起詭辯論。〔如是云云。〕無有是處。

六二

其中起無因論。〔如是云云。〕無有是處。

六三

其中思惟過去。起過去見。〔如是云云。〕無有是處。

六四

其中起死後有想論。〔如是云云。〕無有是處。

六五

其中起死後無想論。〔如是云云。〕無有是處。

六六

其中起死後非有想非無想論。〔如是云云。〕無有是處。

六七

其中起斷滅論。〔如是云云。〕無有是處。

六八

其中起最上現在涅槃論。〔如是云云。〕無有是處。

六九

其中思惟未來。起未來見。〔如是云云。〕無有是處。

七〇

其中思惟過去。思惟未來。思惟過去未來。起過去未來見。依上六十二種見。就過去未來觀。起種種浮說。此等離一切觸而起受者。無有是處。』

七一

『諸比丘・其中任何沙門婆羅門・起常住論・依四種見・說我及世界常住。復次任何沙門婆羅門・起亦常住亦無常論・有邊無邊論・詭辯論・無因論・思惟過去・死後有想論・死後無想論・死後非有想非無想論・斷滅論。〔最上〕現在涅槃論・思惟過去・思惟未來・〔如是乃至〕思惟過去・思惟未來・思惟過去未來・起過去未來見。依此等六十二種見。就過去未來觀。起種種浮說。此亦數數以六觸處為觸。而起感受。此觸以受為緣起愛。緣愛起取。緣取起有。緣有起生。緣生起老、死、憂、悲、苦、惱、悶。諸比丘。故若比丘。如實了知六觸處集、滅、味、過患、出離者。則知較彼所有諸見最為殊勝。

七二

諸比丘。任何沙門婆羅門。思惟過去。或思惟未來。或思惟過去未來。起過去未來見。就過去未來觀。起種種浮說。皆悉依此六十二見。而被網羅。被捕其中而為跳躍。攝於其中。羅於其中而為跳躍。諸比丘・猶如老巧漁夫・或其弟子・以細目網・覆小池上・念知「池中諸大小魚悉被網羅・被捕其中而為跳躍・攝於其中・羅於其中而為跳躍・」諸比丘・任何沙門婆羅門・亦復如是・思惟過去・或思惟未來・或思惟過去未來・起過去未來見・就過去未來觀・起種種浮說・皆悉依此六十二見・而被網羅・被捕其中而為跳躍・攝於其中・羅於其中而為跳躍。

七三

諸比丘・如來之身・已斷生本而住。此身住時。人天見之。身壞命終。諸天世人。當不見之。諸比丘。猶如一束菴羅樹。伐其莖時。莖上茂生諸菴羅果。悉皆隨之〔由根而斷。〕諸比丘。如來之身。亦復如是。已斷生本而住。此身住時。人天見之。身壞命終。諸天世人。當不見之。』

七四

如是說時。長老阿難。白世尊言。『希有也吾師。未曾有也吾師。吾師當何名此法門。』世尊告曰。『阿難。今名此法門為義網。汝當奉持。名為法網。汝當奉持。名為梵網。汝當奉持。名為見網。汝當奉持。名無上戰勝。汝當奉持。』世尊如是說。諸比丘聞世尊所說。歡喜信受。說此授記經時。一千世界。悉震動云。

沙門果經第二

一

如是我聞。一時世尊。在王舍城小兒醫師耆婆菴婆園中。與大比丘眾千二百五十人俱。爾時摩揭陀國王韋提希子阿闍世。於第四月迦剌底迦月十五日。月滿之夜。布薩之日。諸大臣圍遶。坐華宮高樓。摩揭陀國王韋提希子阿闍世。於布薩日。感興發言。『明月之夜。何其可愛。明月之夜。何其美麗。明月之夜。何其可樂。明月之夜。何其清和。明月之夜。何其多福。今者我等。當近侍何等沙門婆羅門。能悅豫我心。』

二

有一大臣。乃白王言。『大王。茲有不蘭迦葉。為僧伽主。教眾元首。教眾導師。多有知識。名稱遠聞。一派開祖。眾所尊崇。出家歲久。經驗宏富。一長老也。王宜近侍彼。心或悅豫。』雖如是言。而摩揭陀國王韋提希子阿闍世。默然〔不應。〕

三

時復有大臣。亦白王言。『大王。茲有末伽梨瞿舍利。為僧伽主。教眾元首。教眾導師。多有知識。名稱遠聞。一派開祖。眾所・尊

崇。出家歲久。經驗宏富。一長老也。王宜近侍彼。心或悅豫。』雖如是言。而摩揭陀國王韋提希子阿闍世。默然〔不應。〕

四

時復有大臣。亦白王言。『大王。茲有阿耆多翅舍欽婆羅。〔如是云云。〕』阿闍世默然〔不應。〕

五

時復有大臣。亦白王言。『大王。茲有婆浮陀迦旃那。〔如是云云。乃至〕』默然〔不應。〕

六

時復有大臣。亦白王言。『大王。茲有散若夷毗羅梨沸。〔如是云云。乃至〕』默然〔不應。〕

七

時復有大臣。亦白王言。『大王。茲有尼乾子。〔如是云云。乃至〕』默然〔不應。〕

八

爾時小兒醫師耆婆。在王近處。默然而坐。阿闍世王。告耆婆曰。『忠良耆婆。今何沈默。』『大王。茲有世尊、應供、等正覺者。與大比丘眾千二百五十人俱。住我菴婆園中。世尊瞿曇。有如是美稱。「彼世尊者。實是應供、等正覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊也。」王宜近侍彼。心或悅豫。』『忠良耆婆。汝曷為我嚴裝乘象。』

九

小兒醫師。耆婆答曰。『大王唯然。』即嚴王龍象。及五百牝象訖。白王言。『乘象已備。願。候舉措。』
爾時。王〔自〕乘龍象。使五百婦人乘五百牝象。侍從執炬。現王威嚴。出王舍城。往詣耆婆菴婆園。

一〇

如是前進。到菴婆園不遠處。王〔忽〕心生恐怖。徧體戰慄。身毛森豎。王充滿驚怖。身毛豎立。告耆婆曰。『忠良耆婆。汝非謀我耶。忠良耆婆。汝非欺我耶。忠良耆婆。汝非引我置於敵手耶。曷有大比丘眾。千二百五十人。寂然無聲。噓響咳音。絕無一聞。有是理耶。』『大王。請勿畏怖。臣非謀君。非欺君王。非引君王置於敵手。王請前進。王請前進。在彼周廊。燃燈輝耀。』

一一

王乘龍象。進行象〔可通行之〕道。然後下乘。步近廊口。告耆婆曰。『忠良耆婆。今佛世尊。為在何所。』『大王。世尊在彼中央柱旁。向比丘眾。東面而坐。』

一二

王近世尊。於一隅坐。坐一隅已。見比丘眾。默然靜坐。如水清澄。以感興語。口自發言。『今比丘眾。具足寂靜。願我太子優陀夷跋陀。亦復如是。』〔爾時世尊告王曰。〕『大王。卿念愛者耶。』『唯然大德。我愛太子優陀夷跋陀。今比丘眾。具足寂靜。願我太子優陀夷跋陀。亦復如是。』

一三

王向世尊。恭敬頂禮。向比丘眾。合掌禮拜。於一隅坐。坐一隅已。白世尊言。『大德。我欲略有所問。若蒙許可。乃敢請問。』『大王。卿欲問者。便可問也。』

一四

『大德。〔世〕有種種技術職業〔之人。〕如調象師、調馬師、車術師、弓術師、旗手、元帥、戰士、武將、軍事偵探、如龍勇士、裝甲兵士、奴隸出身者、庖人、剃髮師、浴僕、餅師、織鬘師、漂白匠、織物師、籠匠、陶師、算數家、戒指刻印師。世之所知。餘諸種種技術職業者。彼等皆以技能。目覩現世享受報酬。使其自身。幸福安樂。父母妻子。及其知友。幸福安樂。又於沙門婆羅

門。尊勝布施。當生天界。獲天界之安穩福報。大德。沙門〔生活。〕亦得施設如是目覩現報耶。』

一五

『大王。卿念卿曾詣沙門婆羅門所。問如是義不。』『唯然大德。我念我曾詣沙門婆羅門所。問如是義。』『彼等如何應答。王若無礙者。說之可也。』『大德。在世尊前。或在如世尊者前。言如是事。絕無所礙。』『然則大王。說之可也。』

一六

『大德。我於一時。訪不蘭迦葉。相問訊已。於一隅坐。坐一隅已。我問彼言。『迦葉。〔世〕有種種技術職業〔之人。〕如調象師、調馬師、車術師、弓術師、旗手、元帥、戰士、武將、軍事偵探、如龍勇士、裝甲兵士、奴隸出身者、庖人、剃髮師、浴僕、餅師、織鬘師、漂白匠、織物師、籠匠、陶師、算數家、戒指刻印師。世之所知。餘諸種種技術職業者。彼等皆以技能。目覩現世。享受報酬。使其自身。幸福安樂。父母妻子。及其知友。幸福安樂。又於沙門婆羅門。尊勝布施。當生天界。獲天界之安穩福報。迦葉。沙門〔生活。〕亦得施設如是目覩現報耶。』

一七

大德。不蘭迦葉。乃報我言。「大王。不論自作〔何事。〕或教人作。截、使截、苦、使苦、惱、使惱、慄、使慄、殘害生命、取非所與、踰人家牆、劫盜掠奪、與人妻通、口為妄語。行如此事。非為惡也。若有人焉。以鋒利輪寶。臠割地上眾生。以為肉聚。以為肉塊。不因此事。而生罪惡。亦無罪報。有人於此。行恒河南。殺、或使殺、截、或使截、苦、或使苦。不因此事。而生罪惡。亦無罪報。有人於此。行恒河北。從事布施、或教布施、從事祭祀、或教祭祀。不因此事。而生功德。亦無福報。不因布施。不因調御。不因禁戒。不因實語。而生功德。亦無福報。」

一八

大德。我問沙門〔生活〕現得果報。不蘭迦葉。實乃如是。自說非業。猶如問菴羅樹果。答言麵包樹果。問麵包樹果。答言菴羅樹

果。不蘭迦葉。亦復如是。問沙門〔生活〕現得果報。自說非業。我起如是念。「如我者。得非令境內沙門婆羅門。起不快感。致如是耶。」故於彼言。亦不稱讚。亦不輕毀。時我內心。雖懷忿結。不出忿言。惟以平靜。〔聽〕受彼說。〔而且〕不加尊重。起座退出。

一九

大德。我於一時。訪末伽梨瞿舍利。相問訊已。於一隅坐。坐一隅已。我問彼言。「瞿舍利。〔世〕有種種技術職業〔之人。〕如是如是。乃至瞿舍利。沙門〔生活〕亦得施設如是目覩現報耶。」

二〇

大德。末伽梨瞿舍利。乃報我言。「大王。有情染著。無因無緣。無因無緣。有情染著。有情清淨。無因無緣。無因無緣。有情清淨。無有自作。亦無他作。亦無人作。亦復無力。亦無精進。無人體力。亦無氣力。一切有情。一切生物。一切有類。一切靈魂。無自在力。無力無精進。由於〔宿〕所決定。由於結合。由於自然性。互為變異。於六階級。受諸苦樂。實以百四十萬種生門為首。有六千及六百種生門。有五百種業、五種業、三種業、一業、半業。有六十二種道跡。有六十二種中劫。有六種階級。有八種人地。有四千九百種生業。有四千九百遊行者、四千九百龍土、二千根、三千地獄、三十六塵界、七想胎、七無想胎、七節胎、七天、七人、七鬼、七池、七林、七百林、七嶮、七百嶮、七夢、七百夢。有八百四十萬大劫．而於其間．為一切賢愚．流轉輪迴．苦當終〔滅。〕於此之間．不自說言．「我以此戒行．以此苦行．以此梵行．成熟未熟業．忍受已熟業．繼續不已．使之滅盡．」夫苦與樂．稱有定量．於輪迴中．無有終〔滅．〕亦無消長．亦無增減。如投線毬．〔所捲之線．〕終至散解．一切賢愚．亦復如是．流轉輪迴．完了之後．始為苦之終〔滅。〕」

二一

大德．我問沙門〔生活〕現得果報．末伽梨瞿舍利．如是自說輪迴淨化。猶如問菴羅樹果．答言麵包樹果．問麵包樹果．答言菴羅樹果．末伽梨瞿舍利．亦復如是．問沙門〔生活〕現得果報．答言輪迴淨化。我起如是念．「如我者．得非令境內沙門婆羅門起不快

感・致如是耶。」故於彼言・亦不稱讚・亦不輕毀。時我內心・雖懷忿結・不出忿言・惟以平靜・〔聽〕受彼說。〔而且〕不加尊重・起座退出。

二二

大德・我於一時・訪阿耆多翅舍欽婆羅。相問訊已・於一隅坐。坐一隅已・我問彼言・「阿耆多翅舍欽婆羅・〔世〕有種種技術職業〔之人。〕如是如是・乃至阿耆多翅舍欽婆羅・沙門〔生活〕亦得施設如是目覩現報耶。」

二三

大德・阿耆多翅舍欽婆羅・乃報我言・「大王・無布施・無供犧・無祭祀。無善惡業之異熟果・亦無今世・亦無他世・無母無父・亦無化生之有情。世間無有沙門婆羅門・正住正行・亦無今世他世・悉皆自知自證・為他宣說。人依四大種所成・若命終者・地還歸地身・水還歸水身・火還歸火身・風還歸風身・諸根歸入空虛。〔四〕人以第五牀舉・舉屍〔運〕往塚閒・至塚雖作〔讚嘆〕語・〔經火燒後〕其骨為鴿色・供物成灰土。布施之說・愚者言耳。若謂人〔死後〕仍存・無根妄說耳。不論賢愚・身壞命終・斷滅消失・一無所存。」

二四

大德・我問沙門〔生活〕現得果報・阿耆多翅舍欽婆羅・如是自說斷滅論。猶如問菴羅樹果・答言麵包樹果・〔如是如是・乃至〕不加尊重・起座退出。

二五

大德・我於一時・訪婆浮陀迦旃那。相問訊已・於一隅坐。坐一隅已・我問彼言・「婆浮陀迦旃那・〔世〕有種種技術職業〔之人。〕〔如是乃至〕婆浮陀迦旃那・沙門〔生活〕亦得施設如是目覩現報耶。」

二六

大德・婆浮陀迦旃那・乃報我言・「大王・此七身・不能作・不能使作・不能造・不能使造・亦一無產生・如山頂常住・如石柱屹立不動。彼等不動搖・不轉變・不互侵・不互致苦・不互致樂・不互致苦樂。云何七身。地身、水身、火身、風身、苦、樂、及第七之靈魂是。此七身・不能作・不能使作・不能造・不能使造・亦一無產生・如山頂常住・如石柱屹立不動。彼等不動搖・不轉變・不互侵・不互致苦・不互致樂・不互致苦樂。是故無能殺者・無使殺者・無能聞者・無使聞者・無能識者・無使識者。若以利劍・斷他人頭・皆不因此喪人生命。僅此七身・為劍貫通其間隙耳。」

二七

大德・我問沙門〔生活〕現得果報・婆浮陀迦旃那・以他見地・自說他事・猶如問菴羅樹果・答言麵包樹果・〔如是乃至〕不加尊重・起座退出。

二八

大德・我於一時・訪尼乾子。相問訊已・於一隅坐。坐一隅已・我問彼言。「尼乾子・〔世〕有種種技術職業〔之人。〕〔如是乃至〕尼乾子・沙門〔生活〕亦得施設如是目覩現報耶。」

二九

大德・尼乾子報我言・「大王・尼乾子由四禁戒而為制御。如何由四禁戒而為制御。尼乾子禁用一切水・制一切惡・離一切惡・達一切惡之制御。如是由四禁戒而為制御。是故稱尼乾子・是稱心已達於最高極致・心為抑制・心為安定。」

三〇

大德・我問沙門〔生活〕現得果報・尼乾子如是自說四禁戒。猶如問菴羅樹果・答言麵包樹果・〔如是乃至〕不加尊重・起座退出。

三一

大德・我於一時・訪散若夷毗羅梨沸。相問訊已・於一隅坐。坐一隅已・我問彼言・「散若夷毗羅梨沸・〔世〕有種種技術職業〔之

人。〕〔如是乃至〕散若夷毗羅梨沸・沙門〔生活〕亦得施設如是目覩現報耶。」

三二

大德・散若夷毗羅梨沸・乃報我言・「汝若問我・「有他世耶。」我若以為「有他世・」當答汝「有他世・」然我亦不以為如是・亦不以為唯然・亦不以為是其他・亦不以為不然・亦不以為非不然。汝若問我・「無他世耶。」亦復〔如是云云。乃至〕「他世有耶無耶。」「他世亦非有耶亦非無耶。」「有化生之有情耶。」「無化生之有情耶。」「化生之有情有耶無耶。」「化生之有情亦非有耶亦非無耶。」「有善惡業之異熟果耶。」「無善惡業之異熟果耶。」「善惡業之異熟果有耶無耶。」「善惡業之異熟果亦非有耶亦非無耶。」「如來死後存耶。」「如來死後不存耶。如來死後存耶不存耶。」「如來死後亦非存耶亦非不存耶。」我若以為「如來死後亦非存亦非不存・」當答汝「如來死後亦非存亦非不存・」然我亦不以為如是・亦不以為唯然・亦不以為是其他・亦不以為不然・亦不以為非不然。」

三三

大德・我問沙門〔生活・〕現得果報・散若夷毗羅梨沸如是言說矯亂。猶如問菴羅樹果・答言麵包樹果・〔如是乃至〕不加尊重・起座退出。

三四

大德・我於世尊・亦如是問・「大德・〔世〕有種種技術職業〔之人。〕如是乃至大德・沙門〔生活〕亦得施設如是目覩現報耶。」』『大王・我能〔施設。〕我今於此還以問卿・卿當隨意答。

三五

大王・於意云何。今有卿家一奴僕・〔為卿〕從事勤務・夙興夜寐・執服〔卿之〕雜役・和顏悅色・言說愛語・力承〔卿〕歡。彼念「功德果報與其成熟。實希有也・未曾有也。摩揭陀國王韋提希子阿闍世亦人也・我亦人也。然此王者・五欲自娛・具足其樂・嬉

戲如神・我則反是・為彼之奴・〔為彼〕從事勤務・夙興夜寐・執服〔彼之〕雜役・和顏悅色・言說愛語・力承〔彼〕歡。〔我欲如彼・〕我亦行彼〔如是〕功德。我當剃除鬚髮・著袈裟衣・離家出家。」彼於後時・剃除鬚髮・著袈裟衣・離家出家。如是出家・彼身語意・住於制御・粗衣糲食而自滿足・離世閑居自以為樂。時卿之臣・而以彼事奏卿言・「願王知之・彼〔原〕為王奴・〔為王〕從事勤務・夙興夜寐・執服雜役・和顏悅色・言說愛語・力承〔王〕歡。彼後剃除鬚髮・著袈裟衣・離家出家。如是出家・彼身語意・住於制御・粗衣糲食而自滿足・離世閑居自以為樂。」爾時・卿作是言耶・「令彼還歸我處・復為奴僕・〔為我〕從事勤務・夙興夜寐・執服雜役・和顏悅色・言說愛語・力承〔我〕歡。」』

三六

『不也大德・我等寧先起迎・敬彼請坐。當以上衣、施食、宿舍、醫藥用具・皆悉供彼・如法保護・覆庇優容。』『大王・卿意云何。此豈非沙門〔生活〕目覩現報耶。』『大德・此實沙門〔生活・〕目覩現報也。』『大王・此實沙門〔生活〕現世目覩之第一果報・是我之所施設者也。』

三七

『大德・如是沙門〔生活〕現世目覩之果報・〔猶於〕餘者亦得施設耶。』『大王・〔我〕能施設。我今於此・還以問卿・卿當隨意答。大王・於意云何。今有卿家一農夫・從事耕種・繳納租稅・為卿增財富。一日彼念「希有也未曾有也。摩揭陀國王韋提希子阿闍世・亦人也・我亦人也。然此王者・五欲自娛・具足其樂・嬉戲如神・我則反是・為彼農夫・從事耕種・繳納租稅・為彼增財富。〔我欲如彼・〕我亦行彼〔如是〕功德。我當剃除鬚髮・著袈裟衣・離家出家。」彼於後時・棄捐財業・捨去親族・剃除鬚髮・著袈裟衣・離家出家。如是出家・彼身語意・住於制御・粗衣糲食而自滿足・離世閑居自以為樂。時卿之臣・而以彼事奏卿言・「願王知之・彼〔原〕為王農夫・從事耕種・繳納租稅・為王增財富。彼於後時・剃除鬚髮・著袈裟衣・離家出家。如是出家・彼身語意・住於制御・粗衣糲食而自滿足・離世閑居自以為樂。」爾時・卿作是言耶・「令彼還歸我處・復為農夫・從事耕種・繳納租稅・為我增財富。」』

三八

『不也大德・我等寧先起迎・敬彼請坐。當以上衣、施食、宿舍、醫藥、用具・皆悉供彼・如法保護・覆庇優容。』『大王・卿意云何・此豈非沙門〔生活〕目覩現報耶。』『大德・此實沙門〔生活〕目覩現報也。』『大王・此實沙門〔生活〕現世目覩之第二果報・是我之所施設者也。』

三九

『大德・如是沙門〔生活〕現世目覩之果報・此兩者外・更有微妙殊勝者・亦得施設耶。』『大王・〔我〕能施設・諦聽諦聽・善思念之・當為卿說。』摩揭陀國王韋提希子阿闍世報世尊言・『唯然大德。』

四〇

世尊如是說言・『大王・今者如來・出現於世・〔如來〕是應供、等正覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊也。如來於此世界・天界、魔界、梵天界・於此大眾・諸天、世人、沙門、婆羅門・自身證悟・而為說示。如來宣說教法・初善、中善、終亦善・文義具足・示教梵行・完全清淨・無與倫比。

四一

若長者・若長者子・若生於餘〔次〕種姓者・聽受如來教法・彼等聽受已・信仰如來・得信仰故・如是熟思・「障礙哉塵道家居。自在哉出家生活。專修梵行・完全清淨・耀如螺鈿・若處居家・殊非易易。今我寧可剃除鬚髮・著袈裟衣・離家出家。」乃於後時・棄捐財業・捨去親族・剃除鬚髮・著袈裟衣・離家出家。

四二

如是出家者・以波羅提木叉制禁・而住持戒・精勤正行・雖於小罪亦見怖畏・受持學處而自修學。身業語業・清淨具足・營淨生活・具足戒行・諸根之門・悉為守護・具足正念正智・自知滿足。

四三

大王・云何比丘具足戒行。今有比丘・捨殺離殺・不用刀杖・懷慚愧心・充滿慈悲・利益一切生類有情・而住哀愍。此為比丘戒行一分。捨不與取・離不與取・取其所與・求其所與・毫無盜心・自住清淨。此又為比丘戒行一分・捨非梵行・淨修梵行・離於污濁・離於婬欲。此又為比丘戒行一分・

四四

沙門瞿曇捨妄語・離妄語・言真實・無不真實・誠實可信・不欺世人。此又為比丘戒行一分。捨兩舌・離兩舌・不以此言告彼・離間此眾・不以彼言告此・離間彼眾・有乖離者・能令和睦・已親密者・增其親密・愛樂和合・致生和合。此又為比丘戒行一分。捨惡口・離惡口・凡所言說・無過無損・悅耳怡心・真誠優雅・為眾所樂。此又為比丘戒行一分。捨綺語・離綺語・所言所說・適時、真實、合法、有義・不離律儀・確切分明・而有段落・語合乎義・令人服膺。此又為比丘戒行一分。

四五

不採種子・不伐樹木。〔日中〕一食・夜間不食・非時不食。不觀聽戲劇、歌舞・不著華鬘・不塗香料。不事裝飾。不〔坐〕高床、大牀。不受蓄金銀。不受生穀。不受生肉。不受婦人少女。不受僕婢奴隸。不受牝牡山羊。不受雞豚。不受象、牛、及牝、牡馬。不受耕田荒地。不為使者。不為中介。不事商賈。不以秤升及尺欺誑世人。賄賂、譎詐・虛偽邪行・捨離不為。傷害、殺戮、捕縛、刦奪、竊盜、強盜、捨離不為。此又為比丘戒行一分。

四六

復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・而自存活・然於諸種子・若根所生・若榦所生・若節所生・若枝所生・其第五類為種所生・此諸種子・及諸樹木・專心一意・加以採伐・今於是事・皆悉捨離。此又為比丘戒行一分。

四七

復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・而自存活・然猶儲積食物・儲積飲料・儲積衣服・儲積乘具・儲積臥床・儲積香料・儲積美味等等・專心一意於斯儲積以為享樂・今於是事・皆悉捨離。此又為比丘戒行一分。

四八

復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・而自存活・然於諸種娛樂・若戲劇、歌謠、舞樂、翫覽物、戲曲、手鈴、鳴鉢、銅鑼、戲法、伎藝・鬪象、馬、水牛、牡牛、山羊、牡羊諸獸・鬪雞鶉、棍棒、鬪拳、角力、操兵、列兵、閱兵等等・專心一意・從事觀覽・今於是事・皆悉捨離・此又為比丘戒行一分。

四九

復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・而自存活・然於諸種博弈・若八道碁、十道碁、無盤碁、石蹴、拔取、擲骰、擊棒、相手、投球、葉笛、鋤戲、倒立、風車戲、升高戲、車戲、弓戲、測字、猜意、傷占等等・專心一意・耽斯放逸・今於是事・皆悉捨離。此又為比丘戒行一分。

五〇

復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・而自存活・然於高廣大床・大過常規・床脚彫獸・覆長羊毛・具文彩・蒙白氈・繡花實棉・彩繪為覆・邊垂兩側・或垂一方・鑲寶石・覆絹綢・備大毯・敷象覆・覆馬帔・罩車衣・縫羚羊皮・覆良鹿皮・頂具天蓋・上下設赤枕等等・專心一意・使用斯牀・今於此等・皆悉捨離。此又為比丘戒行一分。

五一

復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・而自存活・然於諸種裝飾・若塗身、按摩、沐浴、揉身、鏡子、染目料、華鬘、塗香、顏料、香油、手甲、髮飾、手杖、藥袋、剪刀、傘蓋、彩履、冠子、寶珠、拂子、白衣、長袖衣等・專心一意・耽斯放逸・今於是事・皆悉捨離。此又為比丘戒行一分。

五二

復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・而自存活・然於諸種談有談無・無益徒勞之言・若談國王、談盜賊、談大臣、談軍兵、談恐怖、談戰爭、談食物、談飲料、談衣服、談臥牀、談華鬘、談香料、談親戚、談乘具、談村落、談城鄉、談都會、談國土、談婦女、〔談男子、〕談英雄、談風聞、談閒事、談死者、談雜事、談世界、談海洋等・專心一意・作斯言談・今於是事・皆悉捨離。此又為比丘戒行一分。

五三

復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・而自存活・然於諸種互訟相諍之言・「此法與律・汝無所知・唯我知之・汝何人者・豈能知之・」「汝趣邪徑・我趣正道・」「我言相應・汝言則否・」「汝之所言・應著前者而著於後・應著後者而著於前・」「汝欠熟慮・立見傾覆・」「汝言雖立・仍墮負處・」「欲脫汝說・其事遊行・設若能之・汝其自解」等等・專心一意・為此諍訟・今於是事・皆悉捨離。此又為比丘戒行一分。

五四

復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・而自存活・然奉國王、大臣、剎帝利、婆羅門、長者、童子・「趨此詣彼、搬來運去・」諸種命令・專心一意・為使役者・或中介事・今於是事・皆悉捨離。此又為比丘戒行一分。

五五

復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・而自存活・然事諂言諛辭・占相禁厭・既已利得・更求利得・今於是事・皆悉捨離。此又為比丘戒行一分。

五六

復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・然於諸種無益徒勞之明・若相手、占卜、占兆、詳夢、占體相、占鼠嚙、火護摩、杓護摩、殼護摩、粉護摩、米護摩、熟酥護摩、油護摩、口護摩、血

護摩、支節明、宅地明、剎利明、濕婆明、鬼神明、地明、蛇明、毒藥明、蝎明、鼠明、鳥明、鴉明、命數預言、防弓矢呪、解獸聲法等・以此等明・邪明自活・今於是事・皆悉捨離。此又為比丘戒行一分。

五七

復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・然於諸種無益徒勞之明・若相珠、相杖、相服、相劍、相矢、相弓、相兵器、相女、相男、相童子、相童女、相男僕、相女婢、相象、相馬、相水牛、相牡牛、相牛、相山羊、相羊、相雞、相鶉、相蜥蜴、相耳環、相龜、相獸等・以此等明・邪命自活・今於是事・皆悉捨離。此又為比丘戒行一分。

五八

復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・然於諸種無益徒勞之明・若占「王當進兵・當不進兵・」「內國王當臨・外國王當退・」「外國王當臨・內國王當退・」「內國王當勝・外國王當負・」「外國王當勝・內國王當負・」「此當勝・此當負」等等・如此等明・邪命自活・今於是事・皆悉捨離。此又為比丘戒行一分。

五九

復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・然於諸種無益徒勞之明・若占「月當蝕、日當蝕、星當蝕、日月當進正道、日月當進非道、眾星當進正道、眾星當進非道、流星當隕、當天火、當地震、天鼓當鳴、日月星辰當昇沈明暗・具如是果月當蝕・〔乃至〕具如是果日月星辰當昇沈明暗」等等・以此等明・邪命自活・今於是事・皆悉捨離。此又為比丘戒行一分。

六〇

復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・然於諸種無益徒勞之明・若「當多雨、當無雨、當豐收、當歉收、當見和平、當有恐怖、當生疫病、當獲健康」〔等等占卜・〕以及印契、計算、數

法、賦詩、順世論等事．以此等明．邪命自活．今於是事．皆悉捨離。此又為比丘戒行一分。

六一

復次．或有沙門婆羅門．為世所敬．食他信施．然於諸種無益徒勞之明．若娶、嫁、和睦、分裂、收債、放款、致幸運、致否運、墮胎、使人瘂、使人默、令舉手、令重聽、問鏡、問童女、神憑、拜日、供養大〔梵天、〕口中吐火、屈請吉祥天等．以此等明．邪命自活．今於是事．皆悉捨離。此又為比丘戒行一分。

六二

復次．或有沙門婆羅門．為世所敬．食他信施．然於諸種無益徒勞之明．若許願、還願、居地誦咒、使元氣旺盛、使精神消耗．相宅、淨地、漱口、沐浴、供牲、吐瀉、下痢、上泄、下泄、治頭痛、油搽耳、治眼鼻、搽眼藥、油搽目、割治目、施手術、醫嬰兒、給樹根施藥料、除藥料等．以此等明．邪命自活．今於是事．皆悉捨離。此又為比丘戒行一分。

六三

大王．比丘如是．戒行具足．因戒制御故．任在處處．皆無怖畏。猶如剎．帝利．灌頂即位．降伏其敵．任在處處．無所畏敵．此比丘者．亦復如是．戒行具足．因戒制御故．任在處處．無怖畏心。彼具足聖戒聚故．內心感受無垢純淨安樂。大王．比丘如是具足戒行。

六四

復次大王．云何比丘守護諸根之門。今有比丘．以眼〔根〕見色〔境〕時．不取〔總〕相．亦不取別相。彼若無所抑制．則其眼根．隨生貪愛、憂悲、過惡、與不淨法。彼御此眼根．以護眼根．令其眼根．歸於制御．以耳〔根〕聞聲〔境〕時．亦復如是如是。以鼻〔根〕嗅香〔境〕時．亦復如是如是。以舌〔根〕嘗味〔境〕時．亦復如是如是。以身〔根〕觸所觸〔境〕時．亦復如是如是。乃至以意〔根〕知法〔境〕時．不執〔總〕相．亦不執別相。彼若無所抑制．則其意根．隨生貪愛、憂悲、過惡、與不淨法。彼御此

意根・以護意根・令其意根歸於制御。此諸聖根・具足制御・內心感受無垢純淨安樂。大王・比丘如是守護諸根之門。

六五

復次大王・云何比丘具足正念正智。今有比丘・若進若退・悉以正智。直視周視・悉以正智。若屈伸手足・若執持衣鉢・若飲、食、嚼嘗・若大小便利・若行、住、坐、臥・若覺醒語默・於一切時・悉以正智。大王・比丘如是具足正念正智。

六六

復次大王・云何比丘自知滿足。今有比丘・以保身衣・以養體食・自知滿足・任往何處・持與俱行。如有翼鳥・任飛何處・羽翮隨身。此比丘者・亦復如是・以保身衣・以養體食・自為滿足・任往何處・持與俱行。大王・比丘如是自知滿足。

六七

具足如此聖戒聚、聖諸根制御、聖正念正智、聖滿足比丘・或在靜處・或在樹下・或在山谷・或在巖窟・或在塚間・或在林藪・或在露〔野〕地・或在藁堆・離世閑居。彼受施食還・食已・結跏趺坐・端身安住於深。正念。

六八

彼於世間・棄除貪欲・住無貪欲心・〔離〕去貪欲・令心淨化。棄除害心・棄除瞋恚・住不害心・普為利益慈愍一切生類有情・〔離〕去害心・〔離〕其瞋恚・令心淨化。棄除惛沈・棄除睡眠・住離惛睡・繫想分明・正念正智・〔離〕去惛睡・令心淨化。棄除掉舉・及以惡作・住心輕安・內心寂靜・〔離〕去掉舉・及以惡作・令心淨化。棄除疑惑・住離疑惑・而於淨法無有疑惑・〔離〕去疑惑・令心淨化。

六九

大王・譬如有人・舉債治生・生業繁榮・得還債本・猶有餘財・瞻養妻室。爾時彼念・「我本舉債治生・生業繁榮・償還債本・猶有

餘財・得養妻室。」彼乃歡喜・而心悅樂。

七〇

大王・又如有人・苦於疾病・沈疴重患・食物無味・體力消失。彼於後時・從病得差・食物有味・體力恢復。爾時彼念・「我本苦疾・沈疴重患・食物無味・體力消失。而今得差・食物有味・體力恢復。」彼乃歡喜・而心悅樂。

七一

大王・又如有人・閉入牢獄・彼於後時・解脫出獄・安樂健全・且其財物・亦無減損。爾時彼念・「我本入牢・今得出獄・安樂健全・且我財物・亦無減損。」彼乃歡喜・而心悅樂。

七二

大王・又如有人為奴・身屬他人・行不由己・彼於後時・由奴隸境・而得解脫・身屬己有・獨立自由・行如所欲。爾時彼念・「我本為奴・身屬他人・行不由己・今得解脫・身屬己有・獨立自由・行如所欲。」彼乃歡喜・而心悅樂。

七三

大王・又如有人・錢財富裕・行於曠野・無所得食・亦復〔怖畏〕危險。彼於後時・得出曠野・安穩無恙・抵達村落・無復畏怖。爾時彼念・「我本錢財富裕・行於曠野・無所得食・亦復〔怖畏〕危險・今得出曠野・安穩無恙・抵達村落・無復畏怖。」彼乃歡喜・而心悅樂。

七四

大王・比丘未捨此等五蓋・其觀己身・猶如負債、患病、身在獄中、處奴隸境、行於曠野。然而比丘・捨此五蓋・其觀己身・則如無債、無病、得出牢獄、自由、安穩。

七五

捨此五蓋・觀己身者・便生歡喜・歡喜者生喜・懷喜者身安穩・身安穩便覺樂・樂則心入三昧。彼離諸欲・離不善法・有尋有伺・離生喜樂・入住初禪。彼已離生喜樂・潤漬其身・周遍盈溢・且復充滿・全身到處・無不普洽・離生喜樂。

七六

大王・譬如熟巧浴僕・或其弟子・於盥浴器・而撒洗粉・以水漬調・洗粉受潤・因潤散碎・內外俱潤・以至周遍・無不普洽。比丘如是・離生喜樂・潤漬其身・周遍盈溢・亦復充滿・全身到處・無不普洽・離生喜樂。大王・此是沙門〔生活〕現得果報・較前更為微妙殊勝者。

七七

大王・復有比丘・滅除尋伺・內心靜安・心成專一・無尋無伺・定生喜樂・入第二禪。彼已定生喜樂・潤漬其身・周遍盈溢・且復充滿・全身到處・無不普洽・定生喜樂。

七八

大王・譬如有水湧出深泉・其水不從東來・不從西來・不從北來・不從南來・而神時時賜予驟雨。由此深泉・湧出涼水・以此涼水・潤漬深泉・周遍盈溢・且復充滿・全泉之水・無不普洽。比丘如是・定生喜樂・潤漬其身・周遍盈溢・且復充滿・全身到處・無不普洽・定生喜樂。大王・此是沙門〔生活〕現得果報・較前更為微妙殊勝者。

七九

大王・復有比丘・離喜住捨・正念正智・以身受樂・如諸聖說・「捨喜離喜・正念樂住・」入第三禪。彼身無喜・以樂潤漬・周遍盈溢・且復充滿・全身到處・無不普洽・無喜之樂。

八〇

大王・譬如青、紅、白蓮・一一蓮池・是蓮皆生水中・皆長水中・皆浸水中・為水所養・由頂至根・以水潤漬・周遍盈溢・且復充

滿・凡此諸蓮・惟水普洽。比丘如是・其身無喜・以樂潤漬・周遍盈溢・且復充滿・全身到處・無不普洽・無喜之樂。大王・此是沙門〔生活〕現得果報・較前更為微妙殊勝者。

八一

大王・復有比丘・捨樂離苦・先滅憂喜・不苦不樂・捨念清淨・入第四禪。彼以純淨心・充滿其身・全身到處・惟純淨心・周洽普遍。

八二

大王・譬如有人・由頂至踵・以白淨衣・被覆而坐・全身到處・惟白淨衣・周洽普遍。比丘如是・以純淨心・充滿其身・全身到處・惟純淨心・周洽普遍。大王・此是沙門〔生活〕現得果報・較前更為微妙殊勝者。

八三

如是心寂靜純淨・無有煩惱・離隨煩惱・柔然將動・而恒安住於不動相中・爾時比丘・以心傾注於智見。彼知是事・「我身由色成・四大種成・父母所生・粥飯長養・為無常、破壞、粉碎、斷絕、壞滅之法。又我之識・依存於此・與此關聯。」

八四

大王・譬如琉璃寶珠・美麗優秀・八面玲瓏・磨治瑩明・清澄無濁・具一切〔美〕相・以縗貫之・縗深青色・若深黃色・若赤紅色・若純白色・若淡黃色・有目之士・置掌而觀・當知「此琉璃珠・美麗優秀・八面玲瓏・磨治瑩明・清澄無穢・具一切〔美〕相・有縗貫之・縗深青色・若深黃色・若赤紅色・若純白色・若淡黃色。」大王・比丘如是・心寂靜純淨・無有煩惱・離隨煩惱・柔然將動・而恒安住於不動相時・以心傾注於智見。彼知是事・「我身由色成・四大種成・父母所生・粥飯長養・為無常、破壞、粉碎、斷絕、壞滅之法。又我之識・依存於此・與此關聯。」大王・此是沙門〔生活〕現得果報・較前更為微妙殊勝者。

八五

如是心寂靜純淨・無有煩惱・離隨煩惱・柔然將動・而恒安住於不動相中・爾時比丘・以心傾注於化作意所成身。而彼從彼色身・化作他身・為意所成・具足一切〔大〕肢、小肢、及與異根。

八六

大王・譬如有人・由們叉草・拔取其葦・彼作是念・「此是們叉草・此是葦也。草與葦異・然葦從草出。」大王・又如有人・由鞘拔刀・彼作是念・「此是刀也・此是鞘也。刀與鞘異・然刀從鞘出。」又如有人・由蛇皮拔蛇・彼作是念・「此是蛇也・此蛇皮也。蛇與蛇皮異・然蛇從蛇皮出。」大王・比丘如是・心寂靜純淨・無有煩惱・離隨煩惱・柔然將動・而恒安住於不動相時・以心傾注於化作意所成身。而彼從彼色身・化作他身・為意所成・具足一切〔大〕肢、小肢、及與異根。大王・此是沙門〔生活〕現得果報・較前更為微妙殊勝者。

八七

如是心寂靜純淨・無有煩惱・離隨煩惱・柔然將動・而恒安住於不動相中・爾時比丘・以心傾注於種種神通・而彼證得種種神通。〔即〕以一〔身〕為多〔身・〕多〔身〕為一〔身・〕〔或〕顯身・〔或〕隱身・通牆透壁・無所障礙・行於山上・如行空中・出沒地上・如在水中・涉水不沈・如履地上・趺坐空中而復經行・如鳥附翼・夫日與月・有大神力・有大威德・手能捫之・雖梵天界・身能到達。

八八

大王・譬如熟巧陶師・或其弟子・善調泥土・隨意所欲・任造何器・悉能完成。又如熟巧牙師・或其弟子・善治象牙・隨意所欲・任彫何具・悉能完成。又如熟巧金師・或其弟子・善煉真金・隨意所欲・任作何器・悉能完成。大王・比丘如是・心寂靜純淨・無有煩惱・離隨煩惱・柔然將動・而恒安住於不動相時・以心傾注於種種神通。而彼證得種種神通。〔即〕以一〔身〕為多〔身・〕多〔身〕為一〔身・〕〔或〕顯身・〔或〕隱身・通牆透壁・無所障礙・行於山上・如行空中・出沒地上・如在水中・涉水不沈・如履地上・趺坐空中・而復經行・如鳥附翼・夫日與月・有大神力・有

大威德・手能捫之・雖梵天界・身能到達。大王・此是沙門〔生活〕現得果報・較前更為微妙殊勝者。

八九

如是心寂靜純淨・無有煩惱・離隨煩惱・柔然將動・而恒安住於不動相中・爾時比丘・以心傾注於天耳界。而彼以清淨超人間天耳・聞人天兩界及近遠雙方音聲。

九〇

大王・譬如有人・行於道路・大小鼓聲・螺、鐶、鑼鼓・聲響悉聞・彼作是念・「是大鼓聲。是小鼓聲。是螺、鐶、鑼鼓聲。」大王・比丘如是・心寂靜純淨・無有煩惱・離隨煩惱・柔然將動・而恒安住於不動相時・以心傾注於天耳界。而彼以清淨超人間天耳・聞人天兩界及近遠雙方音聲。大王・此是沙門〔生活〕現得果報・較前更為微妙殊勝者。

九一

如是心寂靜純淨・無有煩惱・離隨煩惱・柔然將動・而恒安住於不動相中・爾時比丘・以心傾注於證〔他〕心智。彼以己心・徹於他心・證知是事。

若有貪欲心　證知有貪欲　若無貪欲心　證知無貪欲　若有瞋恚心　證知有瞋恚
若無瞋恚心　證知無瞋恚　若有愚癡心　證知有癡心　若無愚癡心　證知無癡心
凝然湛寂心　證知凝湛心　若為散亂心　證知散亂心　若為廣大心　證知廣大心
若不廣大心　證知不廣大　若為有上心　證知有上心　若為無上心　證知無上心
若是有定心　證知有定心　若是無定心　證知無定心　若是解脫心　證知解脫心
若不解脫心　證知不解脫

九二

大王・譬如男女・愛好修飾・若美少年・若妙齡女・明鏡清水・自照容顏・戴有耳環・未戴耳環・皆悉察知。比丘實亦如是・心寂靜純淨・無有煩惱・離隨煩惱・柔然將動・而恒安住於不動相中・以心傾注於證〔他〕心智。彼以己心・徹於他心・證知是事。

證知有貪欲　為有貪欲心　證知無貪欲　為無貪欲心　證知有瞋恚　為有瞋恚心

證知無瞋恚　為無瞋恚心　證知有癡心　為有愚癡心　證知無癡心　為無有癡心

證知凝湛心　為是凝湛心　證知散亂心　為是散亂心　證知廣大心　為是廣大心

證知不廣大　為不廣大心　證知有上心　為是有上心　證知無上心　為是無上心

證知有定心　為是有定心　證知無定心　為是無定心　證知解脫心　為是解脫心

證知不解脫　為不解脫心

九三

如是心寂靜純淨・無有煩惱・離隨煩惱・柔然將動・而恒安住於不動相中・爾時比丘・以心傾注於宿住隨念智。彼於宿世種種住處・如一生、二生、三生、四生、五生、十生、二十生、三十生、四十生、五十生、百生、千生、十萬生、幾壞劫、幾成劫、幾成壞劫・憶念所有形相方所。憶念是事・「我於彼處・有如是名・生於如是族・屬如是種姓・食如是食・受如是苦樂・有如是壽量。我由是處死・生於他處・我於其處・有如是名・生於如是族・屬如是種姓・食如是食・受如是苦樂・有如是壽量。而我由是處死・來生於此處。」

九四

大王・譬如有人・從己村落・至他村落・從他村落・詣餘村落・〔復〕從餘村落・還歸己村・爾時彼自憶念・「我從己村・至某村落・在於彼處・如是住坐・如是語默。從某村落・詣餘村落・在於彼處・如是住坐・如是語默。而從餘村落・還歸己村落。」大王・比丘實亦如是・心寂靜純淨・無有煩惱・離隨煩惱・柔然將動・而恒安住於不動相時・以心傾注於宿住隨念智。彼於宿世種種住處・如一生、二生、三生、四生、五生、十生、二十生、三十生、四十生、五十生、百生、千生、十萬生、幾壞劫、幾成劫、幾成壞劫、

憶念所有形相方所・憶念是事・「我於彼處・有如是名・生於如是族・屬如是種姓・食如是食・受如是苦樂・有如是壽量。我由是處死・生於他處・我於其處・有如是名・生於如是族・屬如是種姓・食如是食・受如是苦樂・有如是壽量。而我由是處死・來生於此處。」大王・此是沙門〔生活〕現得果報・較前更為微妙殊勝者。

九五

如是心寂靜純淨・無有煩惱・離隨煩惱・柔然將動・而恒安住於不動相中・爾時比丘・以心傾注於死生智。彼以超過人間天眼・見諸眾生・死死生生・隨所造業・貴賤好醜・幸與不幸・皆悉證知。即謂「諸賢・此諸眾生・於身語意・悉具惡業・謗賢聖・懷邪見・行邪見業。彼等身壞命終・墮於惡生、惡趣、地獄。諸賢・此諸眾生・於身語意・悉具善業・不謗賢聖・心懷正見・行正見業。彼等身壞命終・生於善趣天界。」如是以彼超過人間天眼・見諸眾生・死死生生・隨所造業・貴賤好醜・幸與不幸・皆悉證知。

九六

大王・譬如四交道頭・起有高樓・明目之士・在上而觀・見諸人等・出入家屋・人車往來・或坐街頭・彼便思惟・「此諸人等・出入家屋・人車往來・或坐街頭。」大王・比丘如是・心寂靜純淨・無有煩惱・離隨煩惱・柔然將動・而恒安住於不動相時・以心傾注於死生智。彼以超過人間清淨天眼・見諸眾生・死死生生・隨所造業・貴賤好醜・幸與不幸・皆悉證知。大王・此是沙門〔生活〕現得果報・較前更為微妙殊勝者。

九七

如是心寂靜純淨・無有煩惱・離隨煩惱・柔然將動・而恒安住於不動相中・爾時比丘・以心傾注於漏盡智。彼如實證知「此是苦・」「此是苦集・」「此是苦滅・」「此是趣苦滅道。」如實證知「此是漏・」「此是漏集・」「此是漏滅・」「此是趣漏滅道。」如是知如是見・故心自欲漏解脫・有漏解脫・無明漏解脫・生解脫智・「於解脫而解脫・」證知「生已盡・梵行已立・所作已辦・無復來此生。」

九八

大王譬如谷中水池・澄明淨潔・無有污濁・其中蠣殼・砂礫魚羣・或動或止・有目之士・立於池邊・皆悉見之・彼便思惟・「水池澄明・淨潔無濁・此中蠣殼・砂礫魚羣・或動或止。」大王・比丘如是・心寂靜純淨・無有煩惱・離隨煩惱・柔然將動・而恒安住於不動相時・以心傾注於漏盡智。彼如實證知「此是苦・」「此是苦集・」「此是苦滅・」「此是趣苦滅道。」如實證知「此是漏・」「此是漏集・」「此是漏滅・」「此是趣漏滅道。」如是知如是見・故心自欲漏解脫・有漏解脫・無明漏解脫・生解脫智・「於解脫而解脫・」證知「生已盡・梵行已立・所作已辦・無復來此生。」大王・此實沙門〔生活〕現得果報・較前更為微妙殊勝者。若有較如是沙門〔生活〕現得果報更殊勝者・絕無有也。』

九九

世尊如是說示時・摩揭陀國王韋提希子阿闍世・白世尊言・『殊勝哉大德・殊勝哉大德・譬如有人・使倒者得起・隱者得現・迷途者示之以道・冥室燃燈・有目得視・世尊如是・以無數方便・說法示教・亦復如是。大德我今歸依佛・歸依法・歸依僧。唯願世尊・攝受我・自今已後・盡壽歸依〔三寶・〕為優婆塞。我父法王・公正無偏・而我狂愚・癡冥不善・為罪制伏・欲取王權・乃弒父王。唯願世尊・哀垂納受・聽我認罪・必制將來。』

一〇〇

『王父公正無偏・卿愚冥不善・為罪制伏・乃弒父王。但自認罪・如法懺悔・我當納受・卿之懺悔。設若有人・自認其罪・如法懺悔・以制將來・是蓋聖律繁榮所由。』

一〇一

世尊如是言時・阿闍世白世尊言『大德・我今欲去。我事甚忙・諸端待理。』『王欲去者・自可隨意。』於是摩揭陀國王韋提希子阿闍世・如是聞世尊教・歡喜隨喜・即從座起・問訊世尊・圍遶作禮而去。

一〇二

阿闍世王・退去不久・世尊告諸比丘言・『諸比丘・此王衷心感激・認罪悔過。若王不弒父者・即當於此座上・遠塵離垢・得法眼淨。』世尊如是說已。諸比丘聞世尊說・歡喜隨喜。

阿摩晝經第三

第一誦品

一

如是我問。一時佛遊拘薩羅國・與大比丘眾五百人俱・往伊車能伽羅娑羅門村・止宿伊車能伽羅林中。時有沸伽羅娑羅婆羅門・住郁伽羅城。此城人畜繁盛・草木池水・五穀俱豐・由拘薩羅國王波斯匿授封此城・以為淨施。

二

沸伽羅娑羅婆羅門・聞如是言・『彼釋迦種・出家釋子・沙門瞿曇・遊拘薩羅國・與大比丘眾五百人俱・至伊車能伽羅村・止伊車能伽羅林中。可敬瞿曇・具足普聞如是美稱・「此世尊者・是應供、等正覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊也。」彼於此世界・及天界、魔界、梵天界・於此大眾・諸天、世人、沙門、婆羅門・自身證悟・而為說示。彼說教法・初善中善・亦復終善・文義具足。闡明梵行・純潔清淨・完全無缺。善哉如是真人應往親覲。』

三

爾時沸伽羅娑羅婆羅門・有青年弟子・名阿摩晝・誦經持呪・於三吠陀、吠陀名義集、楷晝〔知明〕、語源論、及第五古傳說・皆悉通曉・知語法論・通順世論・解大人相・師所傳授・三明聖語・無不通利・其人於師前・足稱『我所知・者汝知之・汝所知者我知之。』

四

時沸伽羅娑羅婆羅門・告阿摩晝青年婆羅門曰・『阿摩晝・彼釋迦種・出家釋子・沙門瞿曇・遊拘薩羅國・與大比丘眾五百人俱・至

伊車能伽羅村・止伊車能伽羅林中。可敬瞿曇・具足普聞如是美稱・「此世尊者・是應供、等正覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊也。乃至善哉如是真人・應往親覲。」阿摩晝・汝今當往沙門瞿曇所。往就瞿曇・驗知其人・是否如是・美稱流聞・復可驗知・若斯人者・是否虛實。我等由是・得知瞿曇。』

五

『我當以何・驗知瞿曇。』『阿摩晝・吾神典相傳・有三十二大人相。具足此諸大人相者・必趣二途・無有他也。若其在家・當為轉輪聖王・有正義・具信念・服四海・安邦土・具七寶身。七寶如是・一輪寶、二象寶、三馬寶、四摩尼寶、五玉女寶、六居士寶、七將軍寶。彼有王子・數逾千人。碩大勇猛・破一切敵・彼之國境・廣達海濱・不用刀杖・悉以正義・居有天下。若其出家・即於此世・當成應供、等正覺者・脫除煩惱。阿摩晝・我授神典・汝其執持。』

六

阿摩晝尋報師曰・『如命奉行・』即起禮沸伽羅婆羅・乘牝馬車・與眾青年婆羅門俱・往詣伊車能伽羅林。及車止處・下車徒步・進入園林。

七

時眾比丘・遊步露地。阿摩晝至比丘許・而問之曰・『尊者瞿曇・今在何所・我等特來覲彼尊者。』

八

時眾比丘・如是思惟・『此阿摩晝・出身名門・為著名沸伽羅娑羅之名弟子。佛與如是善男子談・當無所苦。』彼等報阿摩晝言・『阿摩晝・彼閉戶處・有香房在・靜聲前進・徐至房前・作咳叩關・佛當啟戶。』

九

時阿摩晝．靜聲前進．徐至房前．作咳叩關．佛為啟戶．乃入房內。餘諸青年波羅門．亦隨之入．與佛相互問訊．於一面坐。阿摩晝於佛坐時．且步且立．問訊交談。

一〇

時佛告阿摩晝曰．『阿摩晝．今汝於我坐時．且步且立．問訊交談．汝與汝師．與師之師．耆宿長老．大婆羅門．相交談時．當為是耶。』『瞿曇．决不然也。我婆羅門相互之間．與步與立．與坐與臥．交談共論．分固應爾。今諸禿頭沙門．卑陋下劣．習黑冥法。我與此輩．交談共論．一若與汝．固當如是。』

一一

『阿摩晝．汝來此處．當有所冀。汝來此意．善自思念。阿摩晝青年婆羅門．缺乏修養．而自恃修養．懷憍慢心。此非因缺乏修養而何耶。』

一二

時阿摩晝．聞佛說言．缺乏修養．忿而不喜．心謂瞿曇．於我當懷惡意．然我即此．攻佛侮佛．乃告佛言．『瞿曇．釋迦族子．生性險惡。釋迦族子．生性粗暴。釋迦族子．生性輕率。釋迦族子．生性饒舌。彼實卑陋．而貶婆羅門．輕婆羅門．惡婆羅門．侮婆羅門．慢婆羅門。釋迦族子．出身卑陋．於婆羅門．不尊重供養．不之敬禮．義不應爾。』阿摩晝青年婆羅門．為是初次放言．於釋迦族指為卑陋。

一三

『阿摩晝．諸釋迦族．何攖汝怒。』『瞿曇．昔我一時．為師遣使．赴迦毗羅衛城．至釋種講堂。爾時眾多釋迦族諸王．與其王子．高坐於上．互擽哄笑．以為戲弄。無人為我．導入座席．由是觀之．是必嘲我。實釋迦族出身卑陋．於婆羅門．不尊重供養．不之敬禮．義不應爾。』阿摩晝青年婆羅門．如是再次放言．於釋迦族指為卑陋。

一四

『阿摩晝．小鳥如鶉．處其巢中．猶鳴自恣。迦毗羅衛城．為釋迦族本土。汝怒及瑣事．義不應爾。』

一五

『瞿曇．世有四姓．剎帝利婆羅門、吠舍、首陀羅。其中三姓．剎帝利、吠舍、首陀羅、當敬奉婆羅門。而釋迦族．出身卑陋．於婆羅門．不尊重供養．不之敬禮．義不應爾。』阿摩晝青年婆羅門．如是三次放言．於釋迦族指為卑陋。

一六

佛自念言．『此阿摩晝．毀釋迦族指為卑陋．殊極強暴。我今當問其為何姓。』佛告阿摩晝曰．『阿摩晝．汝姓何者。』『瞿曇．我姓乾訶耶那。』『阿摩晝．攷汝父母系．昔之姓氏．知是釋迦族主人所出．汝為釋迦族下婢子孫。阿摩晝．釋迦族祖先．為沃伽伽王。昔時王欲讓位．於寵妃子．將年長四王子．沃伽無伽、迦爛陀、訶提若耶、希尼富蘭．放逐國外。彼等被擯．居娑迦林．在雪山麓．湖水之畔。恐亂血統．與己姐妹．匹配為偶。沃伽伽王．語侍臣曰．「我諸王子．今在何所。」「王子住所．在娑迦林．雪山之麓．湖水之畔。恐亂血統．與己姊妹．匹配為偶。」時沃伽伽王．歡喜發言。「釋迦哉王子．最上釋迦哉王子。」從此已來．我釋迦族．遂以為名。此王實釋迦族先祖也。阿摩晝．王有下婢．名曰方面．產一黑兒．生而乾訶〔黑．〕便舉聲曰．「母其洗我．母其浴我。母其為我．除此穢物。會當於汝．有所饒益。」爾時之人．其稱乾訶．義為惡鬼．猶今之人．呼惡鬼也。眾如是說．「此子生便能言．生乾訶者．生惡鬼也。」從此已來．乾訶耶那種．遂以為名。阿摩晝．溯汝母父系姓．知釋迦族為尊貴裔．汝為釋迦族下婢子孫。』

一七

彼諸青年婆羅門．聞如是說．皆語佛曰．『尊者瞿曇．勿為酷言．毀阿摩晝．為婢子孫。此阿摩晝．出身優良．為良家子．博學多聞．有美名聲．足與瞿曇．問答談論。』

一八

時佛告彼眾曰．『諸青年婆羅門．設若汝等．謂阿摩晝．出身卑微．非良家子．無識寡聞．有惡名聲．不足與我．共論議者．我當捨彼．共汝等論。設若汝等．謂阿摩晝．出身優良．為良家子．博學多聞．有美名聲．足堪與我．共論議者．我捨汝等．當共彼論。』

一九

『瞿曇．彼阿摩晝．出身優良．為良家子．博學多聞．有美名聲．足與瞿曇．問答談論．我等盡默．聽共論議。』

二〇

時佛告阿摩晝曰．『阿摩晝．我今問汝．具足理由．汝雖不願．但宜明答。設不明答．或為異答．或默或去．即汝坐處．頭裂七分。阿摩晝．於汝意云何。汝不曾聞於婆羅門大長老阿闍梨或諸師．乾訶耶那族．從何因緣出．乾訶耶那族．祖先何人耶。』阿摩晝聞言默然．佛再為問．又復默然。時佛告阿摩晝曰．『阿摩晝．汝今當答．汝守沈默．今非其時。如來為問至三．具足理由．設不答者．即汝坐處．頭裂七分。』

二一

時帝釋天．手執金剛杵．巨鐵赤熱．光明赫灼．當阿摩晝頭上．虛空中立。〔彼自念言．〕『佛問至三．具足理由．設阿摩晝．不時答者．即彼坐處．頭裂七分。』佛見帝釋天．手執金剛杵．彼阿摩晝．亦仰見之．見已恐怖．身毛為豎．即依近佛．為求救護．而白佛言『尊者瞿曇．何所言說．請重說之。』『阿摩晝．於汝意云何。汝不曾聞於婆羅門大長老阿闍梨．乾訶耶那族．從何因緣出．乾訶耶那族．祖先何人耶。』『尊者瞿曇．我聞是事．如尊者說。乾訶耶那族．從是因緣出．彼是乾訶耶那族祖先也。』

二二

諸青年婆羅門．聞是言時．皆大聲曰．『此阿摩晝．出身卑微．非良家子．為釋迦族下婢子孫．而釋迦族．是其主人。我等皆謂．沙門瞿曇．所言真實．不輕毀人。』

二三

爾時佛便念言・『此諸青年婆羅門・以下婢子孫為言・攻阿摩晝・毋乃過酷。我當為彼脫免〔此攻毀言。〕』時佛告諸青年婆羅門曰・『汝等諸人・勿以下婢子孫為言・攻阿摩晝。彼乾訶〔黑〕者・是大仙人。往南方民間・學得梵天呪・來沃伽伽王所・索求王女瞿陀盧毘。沃伽伽王・默自念言・「咄咄此徒・我婢之子・何得向我索求王女。」彼於乾訶・起忿怒心・以馬蹄箭・扣於絃上・箭不能放・亦不能下。爾時諸臣。近乾訶仙・為如是言・「尊者・令王安穩。令王安穩。」「王可安穩。但若放箭下射・王之國土・皆當龜裂。」「尊者・令王安穩。令王國土・亦得安穩。」「王可安穩・國土可安穩・但若放箭上射・王之國土・七年無雨。」「尊者・令王安穩・令王國土安穩・且令得雨。」「王可安穩・國土可安穩・雨亦可降。但王當放箭・射王長子。王之長子・當可安穩・身毛無動。」時諸大臣白王言・「王請放箭・射王長子。王之長子・當可安穩・身毛無動。」沃伽伽王・射王長子・長子安穩・身毛無動。時王畏梵罰・即以女與。諸青年婆羅門・汝等過酷・勿以下婢子孫為言・攻阿摩晝・彼乾訶〔黑〕者・是大仙人。』

二四

爾時佛告阿摩晝曰・『阿摩晝・於汝意云何。若有剎帝利童子・與婆羅門女・為偶生子。緣此剎帝利童子・是婆羅門女・所生之子・於婆羅門眾中・可得坐席或受水不。』『得也瞿曇。』『復次・若婆羅門・於供養會・或於祝宴・或於祭祀・或於宴饗・得令彼食不。』『得也瞿曇。』『復次・婆羅門得口授彼呪不。』『得也瞿曇。』『復次・於婆羅門女眾中・擯斥彼不。』『不也瞿曇。』『復次・剎帝利得為彼行剎帝利即位灌頂不。』『不也瞿曇。』『何以故。』『瞿曇・以母系不純故。』

二五

『阿摩晝・於汝意云何。若有婆羅門童子・與剎帝利女・為偶生子。緣此婆羅門童子・是剎帝利女・所生之子・於婆羅門眾中・可得坐席或受水不。』『得也瞿曇。』『復次・若婆羅門・於供養會・或於祝宴・或於祭祀・或於宴饗・得令彼食不。』『得也瞿曇。』『復次・婆羅門得口授彼呪不。』『得也瞿曇。』『復次・於婆羅門女眾中・擯斥彼不。』『不也瞿曇。』『復次・剎帝利得

為彼行剎帝利即位灌頂不。』『不也瞿曇。』『何以故。』『瞿曇・以父系不純故。』

二六

『阿摩晝・如是女與女較・男與男比・是剎帝利優・婆羅門劣也。阿摩晝・於汝意云何。若眾婆羅門・因或婆羅門・行為惡事・剃去其髮・灰撒其頭・擯諸國外・或逐出城。彼於婆羅門眾中・猶得坐席或受水不。』『不也瞿曇。』『復次・若婆羅門・於供養會・或於祝宴・或於祭祀・或於宴饗・得令彼食不。』『不也瞿曇。』『復次・婆羅門得口授彼呪不。』『不也瞿曇。』『復次・於婆羅門女眾中・擯斥彼不。』『擯也瞿曇。』

二七

『阿摩晝・於汝意云何。若剎帝利眾・因或剎帝利・行為惡事・剃除其髮・灰撒其頭・擯諸國外・或逐出城。彼於婆羅門眾中・猶得坐席或受水不。』『得也瞿曇。』『復次・若婆羅門・於供養會・或於祝宴・或於祭祀・或於宴饗・得令彼食不。』『得也瞿曇。』『復次・婆羅門得授口彼呪不。』『得也瞿曇。』『復次・於婆羅門女眾中・擯斥彼不。』『不也瞿曇。』『阿摩晝・今有一剎帝利・犯最上罪惡・剎帝利眾・剃彼之髮・灰撒彼頭・擯諸國外・或逐出城。如是剎帝利・雖犯最上罪惡・猶復剎帝利優・婆羅門劣也・

二八

阿摩晝・梵天常童子說偈言。
　尊種姓眾中　剎帝利最勝　智德成就者　天人中最尊
阿摩晝・梵天常童子・此偈善說・實非拙說・意義具足・非無意義。為我所然可・我亦說是言。
　尊種姓眾中　剎帝利最勝　智德圓滿者　天人中最尊』

第二誦品

一

『瞿曇・何者心德〔行。〕何者是智〔明。〕』『阿摩晝・凡出身論議・種姓論議・憍慢論議・如「汝資格如我・汝資格不如我」等・於無上智德成就・斯皆不說。阿摩晝・有娶有嫁・有嫁娶談・凡出身論議・種姓論議・憍慢論義・如「汝資格如我・汝資格不如我」等・皆由是起。阿摩晝・為出身議所束縛者・為種姓議所束縛者・為憍慢議所束縛者・為嫁娶談所束縛者・實去無上智德成就・遠甚遠甚。阿摩晝・斷出身議・斷種姓議・斷憍慢議・斷嫁娶談・斷諸束縛・始現無上智德成就。』

二

『瞿曇・如何成德〔行・〕如何成智〔明。〕』『阿摩晝・今若如來・出現於世・〔如來〕是應供、等正覺、如是如是。乃至阿摩晝・比丘如是具足戒行〔參照沙門果經四〇至六三・〕如是如是・入住初禪。此又為彼德〔行〕一分。如是乃至入第四禪。此又為彼德〔行〕一分。阿摩晝・此是其德〔行〕也〔參照同經七五至八二〕。如是如是・其心傾注於智見。如是乃至此又為彼智〔明〕一分。乃至無復來此生。此又為彼智〔明〕一分。阿摩晝・此是其智〔明〕也〔參照同經八三至九八〕。阿摩晝・如是比丘・足稱智成就、德成就、智德成就。若有較此智德成就更殊勝者・絕無有也。

三

阿摩晝・於此無上智德成就・有失敗因・敗因有四。云何為四。阿摩晝・今有沙門・或婆羅門・不達無上智德成就之境・而擔負道具・以自落果實為食・行於曠野・入深林中。彼非智德成就者・僅其侍者耳。阿摩晝・此是無上智德成就第一敗因。阿摩晝・復有沙門・或婆羅門・不達無上智德成就・亦不達自落果實為食之境・而持鋤負籠・食莖根果・行於曠野・入深林中・彼非智德成就者・僅其侍者耳。阿摩晝・此是無上智德成就第二敗因。阿摩晝・復有沙門・或婆羅門・不達無上智德成就之境・不達自落果實為食・亦不達莖根果食之境・而於村城・起護摩堂・以奉事火。彼非智德成就者・僅其侍者耳。阿摩晝・此是無上智德成就第三敗因。阿摩晝・復有沙門・或婆羅門・不達無上智德成就之境・不達自落果實為食・不達莖根果食亦不得事火之境・於四通衢道・起四門屋・「諸從東西南北・四方沙門・或婆羅門・來此屋者・隨力供給。」彼非智德成就者・僅其侍者耳。阿摩晝・此是無上智德成就第四敗因。阿摩晝・無上智德成就・有如是四敗因。

四

阿摩晝・於汝意云何。汝及汝師・得謂有此無上智德成就不。』『瞿曇・不謂也。我及我師・如何人耶。無上智德成就・如何事耶。瞿曇・我及我師・去此無上智德成就・皆為遠也。』『阿摩晝・於汝意云何。汝不得達無上智德成就之境・其擔負道具・與汝師共以自落果實為食・行於曠野・入森林不。』『不也瞿曇。』『阿摩晝・於汝意云何。汝不達無上智德成就・亦不達自落果實為食之境・其持鋤負籠・與汝師共・食莖根果・行於曠野・入森林不。』『不也瞿曇。』『阿摩晝・於汝意云何。汝及汝師・不達無上智德成就・不達自落果實為食・亦不達莖根果食之境・其於村城・起護摩堂・奉事火不。』『不也瞿曇。』『阿摩晝・於汝意云何。汝及汝師・不達無上智德成就・不達自落果實為食・不達莖根果食・亦不達事火之境・其於四通衢道・起四門屋・「諸從東西南北・四方沙門・或婆羅門・來此屋者・隨力供給」不。』『不也瞿曇。』

五

『阿摩晝・汝及汝師・於無上智德成就・全無資格。復次・於無上智德成就之四敗端・亦無資格。阿摩晝・汝師婆羅門沸伽羅娑羅・如是放言・「禿頭沙門・卑陋下劣・習黑冥法・彼等何得與通三明之婆羅門・交談共論。」而彼自身・雖次劣行・亦不得成就。阿摩晝・汝師之言・何其禍汝。

六

阿摩晝・婆羅門沸伽羅娑羅・受拘薩羅國波斯匿王供養・而王於彼・不許一面。波斯匿王・與彼共議・隔幕而談。阿摩晝・波斯匿王・於純正受食者・云何不許與之一面。阿摩晝・汝師之言・何其禍汝。

七

阿摩晝・於汝意云何。設若波斯匿王・或坐象首・或坐馬背・或立車台・與其大臣・若諸王子・有事共議。王離其處・立於一方時・設有首陀羅族者或首陀羅僕來・而彼〔首陀羅族或首陀羅僕・〕立

於王處・論議王事・云如「王語・」言王所言・詢王所詢・彼寧得為王・或為副王不。』『不也瞿曇。』

八

『阿摩晝・汝之為汝・有如是者。「昔婆羅門・諸眾仙人・如呵咤摩、婆摩、婆摩提婆、毗婆審咤、耶婆提伽、鴦耆羅、跋羅陀皤闍、婆摩咤、迦葉、婆咎・作祕典、誦祕典・今之婆羅門・於此等古典聖句・所歌所語・所集載者・倣效而歌・倣效而語・效言所言・效說所說・唯此而已。乃謂如是我〔阿摩晝〕與我師・誦此祕典。」於是汝為仙人・得入仙道・無是理也。

九

阿摩晝・於汝意云何。汝曾於婆羅門長老師・或師之師・聞是說不。昔婆羅門・諸眾仙人・如阿咤摩・〔乃至〕婆咎・作誦祕典・今之婆羅門・於此等古典聖句・所歌所語・所集載者・倣效而歌・倣效而語・效言所言・效說所說・唯此而已。彼等〔古仙〕如汝師徒・今之所為・頗行沐浴、塗油、整髮髯、著華鬘、飾瓔珞、著白衣、五欲自恣不。』『不也瞿曇。』

一〇

『彼等如汝師徒・今之所為・食白米飯・諸種湯汁・諸種肴味不。』『不也瞿曇。』『彼等如汝師徒・今之所為・以麗裝美女隨侍不。』『不也瞿曇。』『彼等如汝師徒・今之所為・乘華尾馬車・手執長棒・鞭撻而行不。』『不也瞿曇。』『彼等如汝師徒・今之所為・深溝高壘・固戶堅關・以健者・持長劍・為守護不。』『不也瞿曇。』『阿摩晝・汝及汝師・以是應非仙人・不入仙道。然則阿摩晝・無論何人・有疑我者・問我可也・我當為說。』

一一

爾時佛出於大房舍經行。阿摩晝隨佛經行・於佛身中・數求三十二大人相。目觀佛身・盡見〔餘他〕諸相・唯不見二相。此二相者・即馬陰藏相・及廣長舌相。以此生疑・而心不定・不起信心。

一二

佛知其念・即示神力・使阿摩晝・見馬陰藏・佛復出舌・舐兩耳竅・及兩鼻孔・并以其舌・覆全額面。時阿摩晝・如是思惟・『沙門瞿曇・三十二相・皆悉具足。』即白佛言・『瞿曇・我等當去・以事甚忙。』『阿摩晝・汝可隨意。』時阿摩晝・乘馬車去。

一三

爾時・婆羅門沸伽羅娑羅・與眾婆羅門俱・出郁伽羅・於己學園・坐待阿摩晝。時阿摩晝・往詣學園・及車止處・下車步至沸伽羅娑羅所。至則與師問訊・於一面坐。沸伽羅娑羅問阿摩晝・作如是言・

一四

『阿摩晝・已見尊者瞿曇不。』『我等已見。』『阿摩晝・尊者瞿曇・有大名聲・如所聞不。尊者瞿曇・如其人不。』『尊者瞿曇・有大名聲・實如所聞。尊者瞿曇・實如其人・無有虛也。彼具足三十二大人相・一無所缺。』『阿摩晝・汝與瞿曇・有共論不。』『我與瞿曇・論議往返。』『共論何事。』阿摩晝・即以與佛共論・具白其師。

一五

沸伽羅娑羅聞是言時・告阿摩晝言・『咄哉何事・我之學徒・似是而非。如是為使命者・身當分散・死墮地獄。阿摩晝・汝語攻瞿曇・反為瞿曇・洩我祕事。咄哉何事・我之學徒・似是而非。如是為使命者・身當分散・死墮地獄。』彼起忿怒心・蹴退阿摩晝・即欲往詣佛所見佛。

一六

爾時餘諸婆羅門告沸伽羅娑羅言・『今日已遲・詣見瞿曇・非是時也。待諸明日・當往詣見。』沸伽羅娑羅・在己舍中・備嚼噉食・載之車上・持篝火俱・出郁伽羅・往詣伊車能伽羅林。及車止處・下車徒步・進至佛所・到佛所・問訊已・一面坐。沸伽羅娑羅婆羅門・於一面坐・作如是言・

一七

『瞿曇・我弟子阿摩晝已來不。』『汝弟子阿摩晝已來。』『瞿曇與阿摩晝・有共論不。』『有也。』『共論何事。』爾時・佛以共論事・具告沸伽羅娑羅。沸伽羅娑羅聞說已・白佛言・『瞿曇・阿摩晝・愚人也・唯願尊者・恕阿摩晝。』『婆羅門・彼阿摩晝・當得安穩。』

一八

爾時沸伽羅娑羅婆羅門・於佛身中・數求三十二大人相。於三十二相中・盡見餘相・不見二相。〔唯〕於此馬陰藏相・及廣長舌相・生疑惑念・而心不定・不起信心。

一九

佛知其念・即示神通力・使沸伽羅娑羅・見馬陰藏・佛復出舌・舐兩耳竅・及兩鼻孔・并以其舌・覆全額面。時沸伽羅娑羅・如是思惟・『瞿曇具足三十二相・一無所缺。』即白佛言・『唯願尊者・聽受我請・請從今日・與比丘眾・俱共食饍。』佛默然受請。

二〇

時沸伽羅娑羅・知佛許可・及時白佛言・『尊者瞿曇・時已到・食已辦。』時佛於晨著下衣・攜上衣持鉢・與比丘眾・往詣其舍・就座而坐。爾時・沸伽羅娑羅・以甘美嚼食噉食・手自斟酌・供佛滿足・勸請盡量・諸青年婆羅門・則敬待比丘眾。見佛食訖・洗鉢洗手畢・沸伽羅娑羅・取一低座・於一面坐。

二一

沸伽羅娑羅・坐於一面・佛為循序說法示教・即施論、戒論、生天之論・說諸慾災厄、邪惡、穢污、及出離利益。佛知沸伽羅娑羅心已調柔・障已除去・信念鬱勃・為說諸佛證悟法義・即苦及苦因・苦滅及苦滅道。時沸伽羅娑羅・猶如淨潔白疊・易為受染・即於座上・遠塵離垢・得生法眼・知『無論何物・凡集起者・終歸滅盡。』

二二

爾時沸伽羅娑羅．見法、達法、悟法、入法．度疑去惑．得確信心．唯從師〔佛〕教．不從餘道。即白佛言．『善哉瞿曇．善哉瞿曇．猶如使顛覆者得起．幽閉者得開．迷途者示之以道．冥室燃燈．有目得視．從瞿曇故．以無數方便．明導說法亦復如是。瞿曇．我今率妻子．及弟子眷屬．歸依佛法．及比丘僧。唯願聽我．自今已後．盡壽歸依．為優婆塞。唯願尊者．於郁伽羅．至沸伽羅娑羅舍．亦如至餘優婆塞舍。當使青年婆羅門．諸男女眾．問訊作禮．與座及水．起信心者．當於彼等．永有饒益．永得安樂。〔佛言．〕『婆羅門所言甚善。』

種德經第四

一

如是我聞。一時世尊在鴦伽國．與大比丘眾五百人俱．輾轉遊行．至瞻婆城．止宿伽伽蓮池側。時有婆羅門．名曰種德．住瞻婆城。其城生活饒裕．富水草木．五穀豐盛．由摩揭陀王斯尼喻頻婆娑羅授封此城．以為淨施。

二

時瞻婆城內婆羅門長者居士．聞如是言．『彼釋迦族出家釋子．沙門瞿曇．與大比丘眾五百人俱．輾轉遊行．至瞻娑城．止宿伽伽蓮池側。世尊瞿曇．具足普聞如是美稱．「此世尊者．是阿羅漢、等正覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、覺者、世尊也。」彼於此世界．天界、魔界、梵天界、於此大眾．諸天、世人、沙門婆羅門．自身證悟．為他說示。彼之說法．初語亦善．中語亦善．終語亦善．文義具足。示教梵行．完全清淨．完善圓滿。如是阿羅漢．宜覲見也。』瞻婆城內．諸婆羅門．長者居士．隊隊相隨．即共出城．欲詣伽伽蓮池側．

三

爾時種德．為午睡故．居屋台上。見此婆羅門眾．隊隊相隨．出瞻婆城．往詣伽伽蓮池側。問侍者曰．『婆羅門諸長者．以何因緣．隊隊相隨．出瞻婆城．往詣伽伽蓮池側。』『釋子沙門瞿曇．由釋迦族出家．〔彼〕與大比丘眾五百人俱．遊鴦伽國．至瞻婆城．止伽伽蓮池則。世尊瞿曇．具足普聞如是美稱．「此世尊者．是阿羅

漢、等正覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、覺者、世尊也。」此諸人等・欲往覲見彼瞿曇耳。』『侍者・曷往婆羅門諸長者所・持我之聲・語諸人曰・「卿等且住・我亦當共俱詣彼瞿曇所。」』侍者稱『諾・』至諸長者所・語諸人曰・『種德有言・「卿等且住・我亦當共俱詣彼瞿曇所。」』

四

時有婆羅門五百人・以少因緣・從各方來・止宿瞻婆城。彼等聞言『種德當往覲見瞿曇。』彼等至種德所・如是問言・『可敬之種德・欲往覲見沙門瞿曇・有是事不。』『諸卿・我作是念・亦當往見沙門瞿曇。』『可敬之種德・勿往相見。種德往見瞿曇・非至當也。若往相見・減種德聲・揚瞿曇名。減卿之聲・揚彼之名・故種德不應詣彼。瞿曇應詣此・見卿種德。

五

所以者何・種德父母真正・血統清淨・遠溯七世・譜系不紊・不為他人之所輕毀・故種德不應詣彼・瞿曇應詣此。可敬之種德・多有財寶・為大富裕・如是如是・瞿曇應詣此。可敬之種德・誦經持咒・於三吠陀、吠陀名義集、楷書〔知明、〕語源論、及第五古傳說・皆悉通曉・知語法論・通順世論・解大人相。可敬之種德・顏貌端美・色麗如蓮・丰姿有威・無卑陋容。可敬之種德・有德修德・修德成就。可敬之種德・所談清朗・所言優雅・語無嗄聲・意味明確・辯才具足。可敬之種德・為師中師。三百學子・教暗誦呪・眾多學子・由各方來・欲勤習咒。可敬之種德・齡高齒尊・經驗富足・耆老之人・〔而〕沙門瞿曇・年事幼稚出家人耳。可敬之種德・為摩揭陀王・崇敬尊重。可敬之種德・為婆羅門沸伽羅娑羅・崇敬尊重。可敬之種德・居瞻婆城・受封於王・以為淨施・其城饒裕・富水草木・五穀豐盛。即此一端・種德亦不應詣彼・瞿曇應詣此。』

六

種德聞言已・告諸婆羅門曰・『諸卿・當聽我說。我等往覲瞿曇・事屬至當・瞿曇來見我等・非至當也。諸卿・沙門瞿曇・父母真正・血統清淨・遠溯七世・譜系不紊・不為他人之所輕毀・故瞿曇不應來此・我等固應詣彼。沙門瞿曇・捨離眾親而出家。沙門瞿

曇・地中地上・金塊累累・棄捐不顧而出家。沙門瞿曇・青年貌美・黑髮如漆・捨離友好而出家。沙門瞿曇・父母涕泣・不之贊同・而彼剃除鬚髮・著袈裟衣・離家出家・入於出家生活。沙門瞿曇・顏貌端美・色麗如蓮・丰姿有威・無卑陋容。沙門瞿曇・具足戒行・有高貴德・善德成就。沙門瞿曇・所談清朗・所言優雅・語無嗄聲・意味明確・辯才具足。沙門瞿曇・為師中師。沙門瞿曇・永滅貪欲・〔心〕離動搖。沙門瞿曇・為業論者・行為論者・唯彼始得婆羅門族之所尊信。沙門瞿曇・由尊貴之剎帝利族出家。諸卿・瞿曇有豐盈財產・由大富種姓出家。諸卿・眾多之人・來自遠方・請問瞿曇。諸卿・數千天人・歸依瞿曇。諸卿・瞿曇聲名・普聞一切・「此世尊者・是阿羅漢、等正覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、覺者、世尊也。」諸卿・瞿曇具足三十二相。諸卿・沙門瞿曇・值一切人・先自開口・即稱善來・言語親和・問訊有禮・無不悅容・易於親近。諸卿・沙門瞿曇・恒為四眾崇敬尊重。諸卿・眾多人天・信仰瞿曇。彼之所止・城邑村落・非人鬼神・不敢觸嬈。諸卿・瞿曇率有教眾・教眾師主・眾教祖中・尊為第一人。瞿曇之得名稱・非如沙門婆羅門・以無上明行足・是彼大名稱。諸卿・摩揭陀王・率諸王子、諸妃、侍從、及諸重臣・皆悉歸依沙門瞿曇。諸卿・拘薩羅王・率諸王子、諸妃、侍從、及諸重臣・皆悉歸依沙門瞿曇。諸卿・沸伽羅娑羅婆羅門・率其諸子、諸夫人、諸侍臣・皆悉歸依沙門瞿曇。諸卿・沙門瞿曇・為摩揭陀王・崇敬尊重。諸卿・沙門瞿曇・為拘薩羅王・崇敬尊重・諸卿・沙門瞿曇・為沸伽羅娑羅婆羅門崇敬尊重。諸卿・沙門瞿曇・來至瞻婆城・止宿伽伽蓮池側。若有沙門・或婆羅門・來我地者・皆我客也。地主於客・崇敬尊重・義所應爾。今者瞿曇・來至瞻婆城・止宿伽伽蓮池側・我等之客也。於客尊敬・義所應爾。我等往覲瞿曇・事屬至當。瞿曇來見我等・非至當也。諸卿・我知瞿曇・如是美德。是諸美德・猶未能盡瞿曇一切。何以故・以瞿曇美德・未可量知故。』

七

諸婆羅門聞是說時・白種德言・『可敬之種德・稱讚沙門瞿曇。設若瞿曇止宿處・距此百由旬・崇奉之人・猶當攜糧往覲。我等宜共相率・往覲瞿曇。』以是種德・與眾婆羅門俱詣伽伽蓮池。

八

將過林中・種德起如是念・『我設問瞿曇・彼報我言「婆羅門・不應如是問。婆羅門・應如是問。」在座聞者・當輕蔑我・咸謂「種德幼雅無智・問瞿曇語・竟不得當。」如是輕我・是損我名。名稱減損・收入隨減。何以故・我賴名稱始有收入故。復次・設若瞿曇・問我義者・我答或不稱彼意・而彼報我言・「婆羅門・不應如是答。婆羅門・應如是答。」在座聞者・當輕蔑我・咸謂「種德幼稚無智・答瞿曇語・竟不得當。」如是輕我・是損我名。名稱減損・收入隨減。何以故・我賴名稱始有收入故。今已來此・我設不覲瞿曇・於此還者・眾當輕我・咸謂「種德幼稚無智・彼雖傲慢・而畏瞿曇・不能往見・今已來此・不覲瞿曇・竟於此還。」眾如是言・是損我名。名稱減損・收入隨減。何以故・我賴名稱始有收入故。』

九

種德如是・詣世尊止宿所。彼於世尊・慇懃敬意・禮敬問訊・於一面坐。瞻婆城諸婆羅門長者居士・或有問訊世尊禮敬世尊而坐者・或有合掌而坐者・或有稱名而坐者・或有默然而坐者。

一〇

種德猶復〔如是〕深念而坐・『我設問瞿曇・彼報我言・『婆羅門・不應如是問。婆羅門・應如是問。』在座聞者・當輕蔑我・咸謂「種德幼稚無智・問瞿曇語・竟不得當・」如是輕我・是損我名。名稱減損・收入隨減・何以故・我賴名稱始有收入故・復次・設若瞿曇・問我義者・我答或不稱彼意・而彼報我言・「婆羅門・不應如是答・婆羅門・應如是答。」在座聞者・當輕蔑我・咸謂「種德幼稚無智・答瞿曇語・竟不得當。」如是輕我・是損我名。名稱減損・收入隨減。何以故・我賴名稱始有收入故。若沙門瞿曇・問我師所授三吠陀者・我答彼問・當合其意耳。』

一一

爾時世尊・知種德心中所念・而思惟言・『種德起念・自取煩惱。我當問彼・師所傳授之三吠陀。』世尊告種德曰・『汝婆羅門・成就幾法・得名婆羅門・自稱「我為婆羅門・」其言真誠・能不虛妄。』

一二

爾時種德・如是思維・『噫・我所冀求・正復如是・「若瞿曇問我・師所授三吠陀者・我答彼問・當合其意・」今者瞿曇・問我師授之三吠陀・我答彼問・足合其意也。』

一三

時種德直立・四顧大眾・白世尊言・『瞿曇・我婆羅門・成就五殊勝法・得名婆羅門。自稱「我為婆羅門・」其言真誠・無有虛妄。云何為五。婆羅門父母真正・血統清淨・遠溯七世・譜系不紊・不為他人之所輕毀・是為一法。誦經持呪・於三吠陀、吠陀名義集、楷書〔知明、〕語源論、及第五古傳說・皆悉通曉・知語法論・通順世論・解大人相・是為二法。顏貌端美・色麗如蓮・丰姿有威・無卑陋容・是為三法。有德修德・修德成就・是為四法。學問高超・於〔捧供物捧酥油之〕護摩捧持者中・為第一或第二賢者・是為五法。瞿曇・婆羅門成就此五殊勝法者・得名婆羅門。自稱「我為婆羅門・」其言真誠・無有虛妄。』

一四

『婆羅門・若有於此等五法中・捨其一法・而具餘四・亦得名婆羅門・自稱「我為婆羅門・」其言真誠・無虛妄耶。』『有也瞿曇。所以者何・瞿曇・於五法中・可捨顏貌・何用顏貌為。有婆羅門・父母真正・血統清淨・遠溯七世・譜系不紊・不為他人之所輕毀・誦經持呪・於三吠陀、吠陀名義集、楷書〔知明〕語源論、及第五古傳說・皆悉通曉・知語法論・通順世論・解大人相・有德修德・修德成就・學問高超・於護摩捧持者中・為第一或第二賢者之人・瞿曇・彼婆羅門・成此四者・得名婆羅門・自稱「我為婆羅門・」其言真誠・無有虛妄。』

一五

『婆羅門・若有於此四法中・捨其一法・而具餘三・亦得名婆羅門・自稱「我為婆羅門・」其言真誠・無虛妄耶。』『有也瞿曇。所以者何・瞿曇・於四法中・可捨除呪・何用呪為。有婆羅門・父母真正・血統清淨・遠溯七世・譜系不紊・不為他人之所輕毀・有德修德・修德成就・學問高超・於護摩捧持者中・為第一或第二賢

者之人・瞿曇・彼婆羅門・成此三者・得名婆羅門・自稱「我為婆羅門・」其言真誠・無有虛妄。』

一六

『婆羅門・若有於此三法中・捨其一法・而具餘二・亦得名婆羅門・自稱「我為婆羅門・」其言真誠・無虛妄耶。』『有也瞿曇。所以者何・瞿曇・於三法中・可捨除生系・何用生系為。有婆羅門・有德修德・修德成就・學問高超・於護摩捧持者中・為第一或第二賢者之人・瞿曇・彼婆羅門・成此二者・得名婆羅門・自稱「我為婆羅門・」其言真誠・無有虛妄。』

一七

諸婆羅門聞是說時・語種德言・『可敬之種德・勿為是言・勿為是言。可敬之種德・不但輕我顏貌・且輕呪輕生系。可敬之種德・惟瞿曇之語是從。』

一八

爾時世尊告諸婆羅門曰・『婆羅門・設汝等謂種德寡聞・無美名聲・人不賢明・不足與我・共論議者・且止種德我共汝等論。設汝等謂種德多聞・有美名聲・為人賢明・足堪與我・共論議者・汝等且止・我當共彼論。』

一九

種德聞已・如是說言・『可敬之瞿曇・且垂小待。可敬之瞿曇・且垂小默。我當以法・答此諸人。』爾時種德・告諸婆羅門曰・『可敬諸卿・勿為是言・勿為是言。勿謂「種德輕我顏貌・且輕呪輕生系・惟瞿曇之語是從。」諸卿・我非輕顏貌・亦非輕呪輕生系者。』

二〇

種德有甥・名曰鴦伽・在婆羅門・為一青年・時侍座中。種德尋告諸婆門言・『可敬諸卿・我甥鴦伽・汝等見不・』『唯然見也。』『諸卿・青年鴦伽・顏貌端美・色麗如蓮・丰姿有威・無卑陋容。

今諸大眾・普共集此・眾之顏貌・唯除瞿曇・無及彼者。諸卿・鴦伽誦經持呪・於三吠陀吠陀名義集、楷書〔知明、〕語源論、及第五古傳說・皆悉通曉・知語法論・通順世論・解大人相。彼所習呪・為我傳授。諸卿・鴦伽父母・皆悉真正・血統清淨・遠溯七世・譜系不紊・不為他人之所輕毀。彼之父母・我所知也。諸卿・設若青年鴦伽・殺生、取非所與、邪淫、妄語、且復飲酒・彼有顏貌・竟何用為。何用呪為。何用生系為。諸卿・婆羅門有德修德・修德成就・學問高超・於護摩捧持者中・為第一或第二賢者・諸卿・彼婆羅門・成此二者・得名婆羅門・自稱「我為婆羅門・」其言真誠・無有虛妄也。』

二一

『婆羅門・若有於此二法中・捨其一法・而具餘一・亦得名婆羅門・自稱「我為婆羅門・」其言真誠・無虛妄耶。』『不也瞿曇。所以者何・戒能淨慧・慧能淨戒。慧與戒同・戒與慧同。有戒者有慧・有慧者有戒。世之最上・稱戒與慧。瞿曇・猶如以手洗手・以足洗足・此亦如是・戒能淨慧・慧能淨戒。慧與戒同・戒與慧同。有戒者有慧・有慧者有戒。世之最上・稱戒與慧。』

二二

『婆羅門・如汝所說・戒能淨慧・慧能淨戒。慧與戒同・戒與慧同。有戒者有慧・有慧者有戒。世之最上・稱戒與慧。婆羅門・云何為戒・云何為慧。』『瞿曇・我等所知・唯只此耳。善哉瞿曇・其義所在・當為明示。』

二三

『婆羅門・諦聽諦聽・應善思念・當為汝說。』種德答曰・『唯然。』世尊如是說言・『婆羅門・今者如來・出現於世・〔如來〕是應供、等正覺、如是如是・乃至婆羅門・比丘如是具足戒行〔參照沙門果經四〇至六三〕。如是如是・入住初禪・入第二禪・入第三禪・乃至入第四禪・乃至以心傾注於智見。如是乃至此又為彼慧之一分。乃至無復來此生。此又為彼慧之一分。婆羅門・此其慧也〔參照同經七五至九八。〕』

二四

種德聞如是說已．白世尊言．『唯我瞿曇．卓越超羣。猶如使倒者得起．隱者得現．迷途者示之以道．冥室燃燈．有目得視．瞿曇．以無數方便．為我等說法．亦復如是。我今歸依世尊．歸依法．歸依僧眾。可敬瞿曇．唯願聽我．自今已後．盡壽為歸依優婆塞。唯願瞿曇．聽受我請．垂於明日．與比丘眾．俱共食饍。』世尊默然許之。爾時種德．知世尊許可．即從座起．問訊世尊．右遶作禮而去。種德即於當夜．在己舍中。供辦甘美軟硬食物．及時白世尊言．『瞿曇．時已到．食已辦。』

二五

爾時世尊．於晨著下衣．攜外衣持鉢．與比丘眾．詣種德舍．就座而坐。眾比丘間．佛居上座．種德手自斟酌．以甘美軟硬食．供佛及僧．歡喜滿足。世尊食訖．洗鉢澡手．爾時種德．取一低座．於一面坐。坐一面已．種德白世尊言．

二六

『唯我瞿曇．若我於座中．即席起立．禮敬瞿曇．眾當輕我。如是輕我．是減我名。名稱減損．收入隨減。何以故．我賴名稱．始有收入故。若我於座中．合掌叉手．意同起座．請受我禮。若我於座中．脫除頭巾．意同低首．請受我禮。唯我瞿曇．若我於車中．離車下乘．禮敬世尊瞿曇．眾當輕我。眾之輕我．是減我名。名稱減損．收入隨減。何以故．我賴名稱．始有收入故。唯我瞿曇．若我乘車．舉揚笞杖．意同下乘．請受我禮。若我乘車．以手揚舉．意同低首．請受我禮。』

二七

爾時世尊．以法教誡勉勵種德．使之歡喜．起座而去。

究羅檀頭經第五

一

如是我聞．一時佛與大比丘眾五百人俱．遊行摩揭陀國．入佉瘣婆提婆羅門村。止宿佉瘣婆提之阿婆羅提迦園中。時有婆羅門．名究羅檀頭．住居佉瘣婆提村。此城人畜繁盛．草木池水．五穀俱豐．

由摩揭陀國王斯尼喻頻婆娑羅授封此村．以為淨施。爾時究羅檀頭婆羅門．欲設大祀．七百牡牛．七百牡犢．七百牝犢．七百牝羊．七百牡羊．運近祭壇柱側．將以供祀。

二

佉奚婆提諸婆羅門長者居士．聞如是言．『彼釋迦族．出家釋子．沙門瞿曇．與大比丘眾五百人俱．遊行摩揭陀國．止宿佉奚婆提之阿婆羅提迦園中。世尊瞿曇．具足如是美稱普聞．「此世尊者．是應供、等正覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊也。」彼於此世界．天界、魔界、梵天界．於此大眾．諸天、世人、沙門婆羅門．自身證悟而為說示。彼之說法．初語亦善．中語亦善．終語亦善．文義具足。闡明梵行．純潔清淨．完全圓滿。如是真人．宜覲見也。』佉奚婆提諸婆羅門．長者居士．即便相率出佉奚婆提．隊隊相隨．欲詣阿婆羅提迦園。

三

時究羅檀頭婆羅門．在高樓上．方將午睡．見諸婆羅門長者居士．出佉奚婆提．隊隊相隨．欲詣阿婆羅提迦園．問侍者曰．『諸婆羅門．長者居士．以何因緣．隊隊相隨．出佉奚婆提．往詣阿婆羅提迦園。』『釋子沙門瞿曇．由釋迦族出家．〔彼〕與大比丘眾五百人俱．遊行摩揭陀國．止宿佉奚婆提之阿婆羅提迦園中。世尊瞿曇．有具足如是美稱普聞．「此世尊者．是應供、等正覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊也。」此諸人等．欲往覲見彼瞿曇耳。』

四

時究羅檀頭婆羅門．作是念言．『我聞是事．「沙門瞿曇．知三種祭祀．十六祭法。」而我不知三種祭祀．十六祀法．欲設大祀。我今寧可詣瞿曇所．問三種祭祀十六祀法。』彼告侍者曰．『侍者．曷往諸婆羅門長者居士所．語諸人曰．「究羅檀頭婆羅門有言．諸師小住．我亦當共俱詣見沙門瞿曇。」』侍者稱『諾．』即承教命．往語諸人。

五

時佉瓮婆提・居住婆羅門數百人・將助究羅檀頭・施設大祀・聞『究羅檀頭・當往覲見沙門瞿曇・』即便至彼〔問言〕・『尊者究羅檀頭・欲往覲見沙門瞿曇・有是事不。』『然也・我亦欲往覲見沙門瞿曇。』

六

『尊者究羅檀頭・勿往覲見。尊者究羅檀頭・往覲瞿曇・非相應也。若往覲見・減損究羅檀頭名稱・增益沙門瞿曇聲名。減尊者之名・增瞿曇之聲・即此一端・尊者究羅檀頭・往覲瞿曇・亦非相應。沙門瞿曇・應詣此也。尊者究羅檀頭父母真正・血統清淨・遠溯七世・脈系不紊・不為他人之所輕毀・即此一端・究羅檀頭・不應詣彼・沙門瞿曇・固應詣此。尊者究羅檀頭・身為長者・大富闊綽・如是如是・沙門瞿曇固應詣此。尊者究羅檀頭・誦經持呪・於三吠陀、吠陀名義集、楷書〔知明、〕語原論、及第五古傳說・皆悉通曉・知語法論・通順世論・解大人相・無有遺漏。尊者究羅檀頭・顏貌端正・美碩秀麗・最勝最上・得梵色相・梵威具足。尊者究羅檀頭・持戒具足・戒德增上。尊者究羅檀頭・聲美如蜜・溫雅具備・音吐清朗・意味明豁。尊者究羅檀頭・為眾導師・三百學子・口受祕典・四方學者・多來請受。尊者究羅檀頭・長老耆宿・沙門瞿曇・年事幼稚普行者耳。尊者究羅檀頭・為摩揭陀王・尊重供養。尊者究羅檀頭・為婆羅門沸伽羅娑羅・尊重供養。尊者究羅檀頭・居佉瓮婆提・此城人畜繁盛・草木池水・五穀俱豐・受封於王・以為淨施。即此一端・尊者究羅檀頭・不應詣彼・沙門瞿曇・固應詣此。』

七

究羅檀頭・聞是言已・告諸婆羅門曰・『當聽我說。我等固應往覲瞿曇・尊者瞿曇・來見我等・非相應也。沙門瞿曇・父母真正・血統清淨・遠溯七世・脈系不紊・不為他人之所輕毀。即此一端・瞿曇不應來此・我等固應詣彼。沙門瞿曇・捨離眾親而出家・金銀財寶・蓄於地中・積於地上・棄捐不顧而出家。沙門瞿曇・冲齡黑髮・氣度不凡・少壯之年・離家出家。沙門瞿曇・初出家時・父母涕泣・涕泣聲中・剃除鬚髮・著袈裟衣・離家出家。沙門瞿曇・顏貌端正・美碩秀麗・最勝最上・得梵色相・梵威具足。沙門瞿曇・戒德具足・聖戒善戒・具足其德。沙門瞿曇・聲美如蜜・溫雅具備・音吐清朗・意味明豁。沙門瞿曇・為眾多人天之導師。沙門瞿

曇・滅盡貪慾・於衣食住・無有執著。沙門瞿曇・為業論者・實行論者・避惡不善・為婆羅門眾之所尊重。沙門瞿曇・為尊貴之剎帝利族・為大財富之豪族・捨離而出家。眾多之人・來自遠方・請問瞿曇。數千天神・盡其一生歸依瞿曇。沙門瞿曇・美稱普聞・「此世尊者・是應供、等正覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊也。」沙門瞿曇・具足三十二大人相。沙門瞿曇・先自開口・「善來、善來・」親愛歡喜・柔和接人・使人易於啟齒進言。沙門瞿曇・恒為四眾尊敬供養。沙門瞿曇・為諸天眾人之所篤信。沙門瞿曇・所止村落・或止城邑・非人鬼神・不敢觸嬈。沙門瞿曇・弟子眾多・為其導師・眾教主中・最為第一。沙門瞿曇・所得名稱・非如沙門婆羅門・以無上明行足・是彼大名稱。摩揭陀王・率王族眷・誓盡壽命・歸依瞿曇。拘薩羅王・率王族眷・誓盡壽命・歸依瞿曇。沸伽羅娑羅婆羅門率其家屬・誓盡壽命・歸依瞿曇。沙門瞿曇為摩揭陀國斯尼喻頻婆娑羅王・拘薩羅國波斯匿王・沸伽羅娑羅婆羅門・尊敬供養。沙門瞿曇・來至佉羌婆提・止宿阿婆羅提迦園中。若有沙門或婆羅門・來我地者・皆我客也。我等於客・尊敬供養・義所應爾。今者沙門瞿曇・來至佉羌婆提・止宿阿婆羅提迦園中・我等之客也。我等於客・尊敬供養・義所應爾。即此一端・瞿曇不應來此・我等固應詣彼。我知如是稱讚瞿曇・惟任何稱讚・猶未得當・尊者瞿曇・稱讚難盡。』

八

諸婆羅門・聞是說已・白究羅檀頭言・『如尊者究羅檀頭稱讚瞿曇者・設使尊者瞿曇止宿處・距此百由旬・善信男子・猶當攜糧往覲。我等宜共相率・往覲瞿曇。』時究羅檀頭・與諸婆羅門至阿婆羅提迦佛止宿所問訊已・一面坐。諸婆羅門長者居士・或有禮佛而坐者・或有問訊而坐者・或有叉手向佛而坐者・或有默然而坐者。

九

究羅檀頭・坐一面已・白佛言・『瞿曇・我聞「沙門瞿曇・知三種祭祀・十六祀法。」而我不知・三種祭祀・十六祀法・欲設大祀。善哉瞿曇・請為我說・三種祭祀・十六祀法。』『婆羅門・汝今諦聽・善思念之・當為汝說。』究羅檀頭・答曰『唯然。』

一〇

佛言・『婆羅門・昔有摩訶毗耆陀王。富有財寶・庫藏盈溢。王於閑靜處・默自念言・「我於人世・富有財寶・統大國土。今欲設大祀・願我得長夜利益安樂。」時王召婆羅門顧問・而語之曰・「我於閑靜處・默自念言・「我於人世・富有財寶・統大國土。今欲設大祀・願我得長夜利益安樂。」婆羅門・我欲設大祀。願尊者教我・可得長夜利益安樂。」

一一

婆羅門顧問・聞是語已・即白王言・「王之國土・多見災厄・村有殺傷・城有殺傷・路有掠劫。於此多災國土・王惟徵稅・彼非法者・王未去之。王可作是念・「我以殺捕・抄沒呵逐・除此掠劫・解其苦難。」然如是解除掠劫苦難・非正法也。其免殺者・後當侵惱王之國土。王當如是・真正解除・掠劫苦難。即於國土之內・修農牧者・當給種子・與以食物・勤商賈者・給以資金・勤吏治者・備以俸食。彼等各事其業・當不侵惱王之國土。王當得儲積・多大財寶・國無災厄・民當安居歡喜踴躍・撫育子孫・家不閉戶。」婆羅門・王答顧問曰・「當如所言。」即於國內・修農牧者・給之種子・與以食物・勤商賈者・給以資金・勤吏治者・備以俸食。彼等各事其業・皆不侵惱王之國土。王得儲積多大財寶・國無災厄・民得安居・歡喜踴躍・撫育子孫・家不閉戶。

一二

時王復召顧問・如是說言・「掠劫苦難・我已解除。如尊者所言・得儲大財寶。國無災厄・民得安居・歡喜踴躍・撫育子孫・家不閉戶。我欲設大祀・願尊者教我・可得長夜利益安樂。」「王欲祀者・當於國內・居都鄙之諸剎帝利族・悉告之曰・「我欲設大祀。願諸尊者・聽許我請・使我得長夜利益安樂。」〔復次我王・〕當於國內・居都鄙之諸臣眷屬・亦悉告以如是如是。居都鄙之婆羅門耆宿・亦悉告以如是如是。居都鄙之居士富豪・悉告之曰・「我欲設大祀。願諸尊者・聽許我請・使我得長夜利益安樂。」」王答顧問曰・「當如所言。」即於國內・居都鄙之諸剎利種・悉告之曰・「我欲設大祀。願諸尊者・聽許我請・使我得長夜利益安樂。」〔眾白王言・〕「王欲祀者・今正是時。」王於國內・居都鄙之諸臣眷屬・乃致居都鄙之婆羅門耆宿・乃致居都鄙之居士富豪・悉告之曰・「我欲設大祀。願諸尊者・聽許我請・使我得長夜利益安

樂。」〔眾白王言・〕「王欲祀者・今正是時。」如是得四種臣民許可・是此祭祀所應具者。

一三

摩訶毗耆陀王・成就八法。父母真正・血統清淨・遠溯七世・脈系不紊・不為他人之所輕毀・是為初法。顏貌端正・美碩秀麗・最勝最上・所謂梵色・梵威具足・是為二法。多有財寶・庫藏盈溢・是為三法。有威武力・具備四軍・敵聞其名・無不靡伏・是為四法。信心具足・富施與心・於諸沙門、婆羅門、窮人、乞者・平等施與・行善如泉・是為五法。巨細諸端・靡不博識・是為六法。諸語意味・無不解知・是為七法。博學賢明・凡已往事・今事將事・盡能分別・是為八法。摩訶毗耆陀王・成就此八法。如是八法・是此祭祀所應具者。

一四

顧問婆羅門・成就四法。父母真正・血統清淨・遠溯七世・脈系不紊・不為他人之所輕毀・是為初法。誦經持咒・於三吠陀、吠陀名義集、楷書〔知明、〕語源論、及第五古傳說・皆悉通曉・知語法論・通順世論・解大人相・悉無遺漏・是為二法。戒德具足・戒德增上・是為三法。博學賢明・於持祭具勺柄者中・居第一位或第二位・是為四法。顧問婆羅門・成就此四法。如是四法・是此祭祀所應具者。

一五

時顧問婆羅門・於祭祀之先・以三種法・為摩訶毗耆陀王說示・「若王設大祀・以將設時・多損財寶・起悔恨心。此悔恨心・不宜生起。若王設大祀・以在設時・多損財寶・起悔恨心。此悔恨心・不宜生起。若王設大祀・以已設時・多損財寶・起悔恨心・此悔恨心・不宜生起。」顧問婆羅門・於祭祀之先・以此之法・說示於王。

一六

時顧問婆羅門・於祭祀之先・以十種法・除王祀時所生悔恨・〔而白王言・〕「施設祭祀・諸殺生者・不殺生者・咸來集會。殺生者

來・聽其自來・不殺生者來・尊者為之施祀・當生歡喜・起信念心。施設祭祀・諸偷盜者・不偷盜者・亦復如是如是。諸邪婬者・不邪婬者・諸妄語者・不妄語者・諸兩舌者・不兩舌者・諸粗語者・不粗語者・諸綺語者・不綺語者・諸貪慾者・不貪慾者・諸嫉妬者・不嫉妬者・諸邪見者・或正見者・咸來集會。乃至如是邪見者來・聽其自來・正見者來・尊者為之施祀・當生歡喜・起信念心。」顧問婆羅門・於摩訶毗耆陀王祭祀之先・以此十法・除王祀時所生悔恨。

一七

時顧問婆羅門・於王設大祀・以〔如是〕十六種法・開導王意・為之勉勵・使之歡喜。謂「設大祀時・或有人言・「王設大祀・而居都鄙諸剎帝利族・不召之來・共相從事・今乃如是施設大祀。」如是評王殊・不可也居。都鄙之諸剎帝利族當・悉召來共・相從事王。可由是知・如是事說・言「尊者施祀・當生歡喜・起信念心。」設大祀時・或有人言・「王設大祀・而居都鄙諸臣眷屬・乃至居都鄙之婆羅門耆宿・乃至居都鄙之居士富豪・不召之來・共相從事・今乃如是施設大祀。」如是評王・殊不可也。居都鄙之居士富豪・當悉召來・共相從事。王可由是・知如是事・說言「尊者施祀・當生歡喜・起信念心。」設大祀時・或有人言・「王設大祀・而父母不正・血統不淨・遠溯七世・脈系亂紊・常為他人之所輕毀・今乃如是施設大祀」如是評王・殊不可也。吾王父母真正・血統清淨・遠溯七世・脈系不紊・不為他人之所輕毀。王乃由是・知如是事・說言「尊者施祀・當生歡喜・起信念心。」設大祀時・或有人言・「王設大祀・而顏貌醜陋・非最上之美碩秀麗・無梵色相・梵威不具。乃至無多財寶・庫藏不豐。乃至無威武力・四軍不備・敵聞其名・無所懾伏。乃至信心不具・乏施與心・不於沙門婆羅門、窮人、乞者・平等施與・其行慈善・亦不如泉。乃至巨細諸端・皆無博識。乃至諸語意味・不能解知。乃至不博學賢明・凡已往事・今事將事・不能分別・今乃如是・施設大祀。」如是評王・殊不可也。乃至吾王博學賢明・凡已往事・今事將事・盡能分別。王可由是・知如是事・說言「尊者施祀・當生歡喜・起信念心。」設大祀時・或有人言・「王設大祀・而顧問婆羅門・父母不正・血統不淨・遠溯七世・脈系亂紊・常為他人之所輕毀・王乃如是・施設大祀。」如是評王・殊不可也。王之顧問婆羅門・父母真正・血統清淨・遠溯七世・脈系不紊・不為他人之所輕毀。王可由是・知如是事・說言「尊者施祀・當生歡喜・起信念心。」設大祀時・或

有人言・「王設大祀・而顧問婆羅門・於經於咒・誦持不利・於三吠陀、吠陀名義集、楷書〔知明、〕語源論、及第五古傳說・皆不通曉・不知語法論・不通順世論・不解大人相・皆悉遺漏。乃至戒德不具・無增上戒。乃至不博學賢明・於持祭具勺柄者中・非居第一或第二位・王乃如是施設大祀。」如是評王・殊不可也。王之顧問婆羅門・乃至博學賢明・於持祭具勺柄者中・居第一位或第二位。王可由是・知如是事・說言「尊者施祀・當生歡喜・起信念心。」」顧問婆羅門・於王設大祀・以此十六法・開導王意・為之勉勵・使之歡喜。

一八

婆羅門・此大祀時・不殺牛羊・不殺雞豚・及種種生類亦不殺傷・不截樹木・以為壇柱・不刈吉祥草・以供祀用・不以鞭撻・威嚇僕役・亦無言語・用為威嚇・亦無涕淚・哭泣以從。唯用酥、油、生酥、乳、蜜及糖・完此祭祀。

一九

婆羅門・時居若都若鄙・諸剎利種・諸臣眷屬・居士富豪・多持財寶・來詣王所・而白王言・「此多財寶・為王持來・願王受納。」「我有多財寶・儲積正當・無所匱乏。此汝等物・可并取去。」彼等見拒於王・退於一面・共相議言・「我等不宜・將此財寶・持還家中。我等寧可備助後祀。」

二〇

婆羅門・時於東方祭壇凹處所備施物・為都鄙之諸剎利種者・南方祭壇・凹處所備・為都鄙之諸臣眷屬者・西方祭壇・凹處所備・為都鄙之婆羅門耆宿者・北方祭壇・凹處所備・為都鄙之居士富豪者。婆羅門・此大祀時・不殺牛羊・不殺雞豚・及種種之生類・亦不殺傷・不截樹木・以為壇柱・不刈吉祥草・以供祀用・不以鞭韃・威嚇僕役・亦無言語・用為威嚇・亦無涕淚・哭泣以從。彼等為其所欲・不為所不欲。彼等於任何事・為其所欲・不為所不欲。唯以酥、油、生酥、乳、蜜及糖・完此祭祀。如是四民許可具足・摩訶毗耆陀王・成就八法・顧問婆羅門成就四法。此三者是三種法也。婆羅門・是謂設祭祀時十六祀法。』

二一

諸婆羅門．聞是說已．舉大聲言．『噫．此之謂祀哉。噫．此之謂設祀哉。』究羅檀頭婆羅門．默然而坐。時諸婆羅門語究羅檀頭婆羅門言．『尊者究羅檀頭．何故不讚瞿曇善說耶。』『我非不讚瞿曇善說．設不讚者．當裂其頭。我乃如是自思惟耳．「瞿曇不言如是我聞．有如是事．」瞿曇唯言．「爾時如是．爾時如是。」我自思惟．「沙門瞿曇．明是爾時．大祀施主摩訶毗耆陀王．或是大祀祭主顧問婆羅門也。」尊者瞿曇．是設此祭祀．或使設此祭祀．身壞命終生於善趣天界中者．然歟否歟。』『然也婆羅門．我是設此祭祀．或使設此祭祀．身壞命終．生於善趣天界中者。我即爾時大祀祭主顧問婆羅門也。』

二二

『瞿曇．復有餘祀．較此之祭祀．十六祀法．能小煩雜．亦少傷害．得大果報大功德者耶。』婆羅門．復有餘祀．較此三祭祀．十六祀法．乃至得大功德者也。』『何者是此祀耶。』『婆羅門．為常時施與具足戒德出家者．常時施與．祖先供養者是也。』

二三

『瞿曇．常時施與．祖先供養．如是祭祀．以何因緣．較此三祭祀十六祀法．能少煩雜少傷害．得大果報大功德耶。』『婆羅門．若此等祭祀．彼阿羅漢．或入阿羅漢道者．不之近也。所以者何。於如是處．常見鞭撻．有捕喉事。故如是祭祀．彼阿羅漢．或入阿羅漢道者．不之近也。若為常時施與具足戒德出家者．常時施與．祖先供養．如是供養．彼阿羅漢．或入阿羅漢道者．即之近也。所以者何。於如是處．不見鞭撻．無捕喉事。故如是供養．彼阿羅漢．或入阿羅漢道者．即之近也。婆羅門．常時施與．祖先供養．以是因緣．齊彼三祭祀十六祀法．能少煩雜少傷害．得大果報大功德也。』

二四

『瞿曇．復有餘祀．較此三祭祀．十六祀法．及常時施與．祖先供養．能少煩雜．亦少傷害．得大果報大功德者耶。』『婆羅門．復

有餘祀・較此三祭祀・十六祀法・乃至大功德者也。』『何者是此祀耶。』『婆羅門・為四方僧伽・起建精舍是也。』

二五

『瞿曇・復有餘祀・較此三祭祀・十六祀法・常時施與・祖先供養・及起精舍・能少煩雜・亦少傷害・得大果報大功德者耶。』『婆羅門・復有餘祀・較此三祭祀・十六祀法・乃至大功德者也。』『何者是此祀耶。』『婆羅門・具深信心・歸依佛・歸依法・歸依僧是也。』

二六

『瞿曇・復有餘祀・較此三祭祀・十六祀法・常時施與・祖先供養・起建精舍・及歸依〔三寶・〕能少煩雜・亦少傷害・得大果報大功德者耶。』『婆羅門・復有餘祀・較此三祭祀・十六祀法・乃至大功德者也。』『何者是此祀耶。』『婆羅門・具深信心・受持五戒・不殺生、不偷盜、不邪婬、不妄語、不飲酒是也。』

二七

『瞿曇・復有餘祀・較此三祭祀・十六祀法・常時施與・祖先供養・起建精舍・為三歸依・及持五戒・能少煩雜・亦少傷害・得大果報大功德者耶。』『婆羅門・復有餘祀・較此三祭祀十六祀法・乃至大功德者也。』『何者是此祀耶。』『婆羅門・今者如來・出現於世・如是乃至比丘如是具足戒行〔參照沙門果經四〇至六三〕。婆羅門・較彼祭祀・能少煩雜少傷害・得大果報大功德者・此為最勝也。如是如是・入住初禪〔參照同經七五〕。婆羅門・較彼祭祀・能少煩雜少傷害・得大果報大功德者・此為最勝也。如是乃至入第二禪・入第三禪・乃至入第四禪〔參照同經七七至八一〕。婆羅門・較彼祭祀・能少煩雜少傷害・得大果報大功德者・此為最勝也。如是乃至・以心傾注於智見〔參照同經八三〕。婆羅門・較彼祭祀・能少煩雜少傷害・得大果報大功德者・此為最勝也。如是乃至・無復來此生〔參照同經九七。〕婆羅門・較彼祭祀・能少煩雜少傷害・得大果報大功德者・此為最勝也。』

二八

究羅檀頭婆羅門．聞是說已．白佛言．『善哉瞿曇．善哉瞿曇．猶如使倒者得起．閉者得開．迷途者示之以道．冥室燃燈．有目得視．從瞿曇以無數方便．明導說法．亦復如是。瞿曇．今我歸依瞿曇．歸依法．歸依僧眾。尊者瞿曇．唯願聽我．自今已後．盡壽歸依為優婆塞。瞿曇．我當放此七百牛、七百牡犢、七百牝犢、七百牝羊、七百牡羊．全其生命。涼水青草．聽其飲食．任彼涼風．為之吹拂。』

二九

時佛為究羅檀頭．依次說法。即施論、正論、生天之論．諸慾災厄、邪惡、污穢．出離利益。佛知究羅檀頭．心已調柔．障礙已除．信念勃生．為說諸佛證悟法義．苦及苦因．苦滅及苦滅道。究羅檀頭．猶如潔淨白疊．易為受染．即於座上．遠離塵垢．得生法眼．知「無論何物．凡集起者．終歸滅盡。」

三〇

爾時究羅檀頭．見法、達法、悟法、入法．度疑去惑．得確信心．唯從師〔佛〕教．不從餘道．即白佛言．『唯願尊者瞿曇許我．請於明日．與比丘眾．俱共食饍。』佛默然許之。時究羅檀頭．知佛許可．即從座起．禮敬而去。究羅檀頭．越宿躬自．於祭壇凹處．供設甘美．噉食噉食。到時白佛言．『時已到．食已辦。』佛於晨時．著下衣．攜上衣持鉢．與比丘眾．往究羅檀頭祭壇凹處．就座而坐。比丘眾間佛居上座．時究羅檀頭．以甘美噉食噉食．手自斟酌．供佛及僧．勸請盡量．食至滿足。見佛食訖．洗鉢澡手畢．究羅檀頭．取一低座．於一面坐。佛為說法示教利喜已．從座起而去。

摩訶梨經第六

一

如是我聞。一時世尊．在毗舍離〔城外〕大林重閣講堂。時拘薩羅國與摩揭陀國眾多婆羅門．以事遣派．在毗舍離。彼等風聞〔如是言．〕『釋種出家．沙門瞿曇．今〔適〕在毗舍離。尊者瞿曇．有如是美譽．「彼世尊者．是應供、正覺者、明行足、善逝〔幸福者、〕世間解、無上士、調御丈夫、天人師、覺者、世尊也。」世

尊於此世界・天界、魔界、梵天界・於此大眾・諸天、世人、沙門、婆羅門・自身證知而為說示。世尊說法・初中後善・文義具足・示教梵行・完全圓滿亦復清淨。善哉覲見如此應供。』

二

拘薩羅國與摩揭陀國婆羅門眾・往詣大林重閣講堂。爾時尊者那耆多・為世尊侍者・彼等近前白言・『尊者那耆多・世尊瞿曇・今在何所。我等咸欲覲見世尊。』『諸友・覲見非是時也・今者世尊・退居己室。』婆羅門眾・為欲覲世尊而後歸故・却坐一面。

三

〔爾時〕復有離車人・名曰兔唇・亦與眾離車人俱・來至大林重閣講堂那耆多側・近前禮敬・立而白言・『尊者那耆多・應供、正覺者、世尊・今在何所・我等來此・欲覲世尊。』『摩訶梨・覲見世尊非是時也。世尊今已退居己室。』離車人兔唇・為欲覲世尊而後歸故・亦却坐一面。

四

爾時沙彌師子・至那耆多前・禮敬已・立而白言・『尊者迦葉・拘薩羅國與摩揭陀國・眾多婆羅門・來此欲覲世尊。離車人兔唇・與眾離車人來・亦欲覲世尊。尊者迦葉・為令諸人等・可得覲見・不亦善乎。』『師子・汝可自往啟白世尊。』沙彌師子・報那耆多曰・『唯然尊者。』即詣世尊所・禮敬已・旁立白言・『世尊・拘薩羅國與摩揭陀國眾多婆羅門・〔今者〕來此欲覲世尊。離車人兔唇・與眾離車人來・亦欲覲世尊・此諸人等・冀許面覲。』『師子・於香室前・隱蔽之處・敷座可也。』沙彌師子・報世尊曰・『唯然世尊。』乃於香室前・隱處敷座。世尊出室・至室前隱處・就座而坐・

五

爾時拘薩羅國與摩揭陀國・眾婆羅門・近至世尊側・問訊已・一面坐。離車人兔唇・與眾離車人俱・亦至世尊側・問訊已・一面坐。離車人兔唇・白世尊言・『世尊・二三日前・離車人善宿・來至我處・作如是言・「摩訶梨・我在世尊所・僅經三年・而我得見天之

形色・令人興奮・快樂歡喜。惟未得聞・令人興奮快樂歡喜天之聲音。」世尊・如是可樂・天之聲音・為彼善宿・不得聞者・有耶無耶。』『摩訶梨・如是天聲・為彼善宿・不得聞者・是有非無。』

六

『世尊・天之聲音・非無是有・善宿何故不能聞耶。』『摩訶梨・設有比丘・在於東方・為求得見天之形色・興奮歡樂・非為求聞天之聲音・專一修定。〔此比丘者・〕在於東方・一向修定・即於東方・見天形色・而不得聞天之聲音。何以故・以此比丘・在於東方・為求得見天之形色・非為求聞天之聲音・一向修定故。

七

復次・摩訶梨・設若比丘・在於南方・如是如是。在於西方・如是如是。在於北方・如是如是。乃至上下四維・為求得見天之形色・非為求聞天之聲音・一向修定。〔此比丘者・〕上下四維・一向修定・即於上下四維・見天形色・而不得聞天之聲音。何以故・以此比丘・於上下四維・為求得見天之形色・非為求聞天之聲音・一向修定故。

八

摩訶梨・設若比丘・在於東方・為求得聞天之聲音・興奮歡樂・非為求見天之形色・一向修定。〔此比丘者・〕在於東方・一向修定・即於東方・聞天聲音・而不得見天之形色。何以故・以此比丘・在於東方・為求得聞天之聲音・非為求見天之形色・一向修定故。

九

復次摩訶梨・設若比丘・在於南方・如是如是。在於西方・如是如是。在於北方・如是如是。乃至上下四維・為求得聞天之聲音・非為求見天之形色・一向修定。〔此比丘者・〕上下四維・一向修定・即於上下四維・聞天聲音・而不得見天之形色。何以故・以此比丘・於上下四維・為求得聞天之聲音・非為求見天之形色・一向修定故。

一〇

摩訶梨・設若比丘・在於東方・為求得見天之形色・興奮歡樂・復為求聞天之聲音・兼同修定。〔此比丘者・〕在於東方・兼同修定・即於東方・見天形色・聞天聲音。何以故・以此比丘・在於東方・為求得見天之形色・復為求聞天之聲音・兼同修定故。

一一

復次摩訶梨・設若比丘・在於南方・如是如是・在於西方・如是如是。在於北方・如是如是。乃至上下四維・為求得見天之形色・復為求聞天之聲音・兼同修定。〔此比丘者・〕上下四維・兼同修定・即於上下四維・見天形色・聞天聲音。何以故・以此比丘・於上下四維・為求得見天之形色・復為求聞天之聲音・兼同修定故。摩訶梨・天之聲音・非無是有・善宿不得聞者・以此故也。』

一二

『世尊・諸比丘眾・在世尊所・淨修梵行・即為修習并為發得此等定耶。』『摩訶梨・諸比丘眾・在我之處・淨修梵行・非為修習非為發得此等定也。摩訶梨・於此等外・復有勝法・諸比丘眾・為證現是・在我之處・淨修梵行。』

一三

『世尊・何者是此法耶。』『摩訶梨・謂有比丘・斷滅三結・入預流果・不墮惡趣・必趣證悟。諸比丘眾・為證現是・在我之處・淨修梵行之殊勝法・即此是也。摩訶梨・復有比丘・斷滅三結・薄貪、瞋、癡・入一來果・唯有一度・還來此世・使苦終盡。諸比丘眾・為證現是・在我之處・淨修梵行之殊勝法・即此是也。摩訶梨・復有比丘・斷滅五下分結・成為化生者・即於是處入涅槃・於此世界不復還來。諸比丘眾・為證現是・在我之處・淨修梵行之殊勝法・即此是也。摩訶梨・復有比丘・滅盡諸漏・成無漏心解脫、慧解脫・自身實證・實現入住。諸比丘眾・為證現是・在我之處・淨修梵行之殊勝法・即此是也。摩訶梨・凡此諸法・為殊勝法・諸比丘眾・為證現是・在我之處・淨修梵行。』

一四

『世尊・證現此等諸法・為有道迹不。』『摩訶梨・有其道迹。』『世尊・何者是道迹耶。』『謂八支聖道・正見、正思、正語、正業、正命、正精進、正念、正定・是為證現諸法之道迹也。』

一五

『摩訶梨・我曾在憍賞彌瞿師羅園・時有遊行者滿提左・與其持鉢弟子闍利・師徒出家二人・近我問訊・立於一面・作如是言・「敬友瞿曇・命身二者・一耶異耶・」〔我答之曰・〕「吾友諦聽・善思念之・當為汝說。」彼等答曰・「唯然吾友。」

一六

我〔如是〕言・「吾友・今者如來・出現於世・〔如來〕是應供、等正覺・乃至我友・比丘如是具足戒行〔參照沙門果經四〇至六三〕。如是如是・入住初禪〔參照同經七五〕。吾友・命身二者・一耶異耶之語・於如是知、如是見比丘・豈相應耶・」「吾友・此語〔不〕相應也。」「吾友・我亦如是知見・故不說言・命身二者一耶異耶。」

一七

「如是如是・入第二禪。如是如是・入第三禪。如是如是・乃至入第四禪〔參照同經七七至八一〕。吾友・命身二者・一耶異耶之語・於如是知・如是見比丘・豈相應耶。」「吾友・此語〔不〕相應也。」「吾友・我亦如是知、如是見・故不說言・命身二者・一耶異耶。」

一八

「如是如是・以心傾注於智見〔參照同經八三〕・於如是知、如是見比丘・說言命身二者・一耶異耶之語・豈相應耶。」「吾友・此語〔不〕相應也。」「吾友・我亦如是知、如是見・故不說言命身二者・一耶異耶。」

一九

「如是如是・乃至無復來此生〔參照同經九七〕・於如是知如是見比丘・說言命身二者・一耶異耶之語・豈相應耶。」「吾友・於如是知、如是見比丘・此語・不相應也。」「吾友・我亦如是知、如是見・故不說言命身二者一耶異耶。」』離車人兔唇・聞世尊說・發歡喜心。

闍利經第七

一

如是我聞。一時佛住憍賞彌瞿師羅園〔美音精舍。〕時遊行者滿提左・與其持鉢弟子闍利・師徒出家二人・近佛問訊・立於一面・作如是言・『敬友瞿曇・命身二者・一耶異耶。』『吾友諦聽・善思念之・當為汝說。』二人答曰・「唯然吾友。」

二至五

佛言『吾友・今者如來・出現於世・〔如來〕是應供、等正覺・乃至吾友・我亦如是知・如是見・而不說言・「命身二者一耶異耶。」』〔本經與摩訶梨經一六至一九全文相同・故從畧。〕彼等二人・聞佛說已・發歡喜心。

迦葉師子吼經第八

一

如是我聞。一時世尊・在委若國金槃鹿野林・爾時裸形梵志迦葉・詣世尊所・禮敬問訊・於一面立・裸形迦葉・白世尊言・

二

『瞿曇・我聞「瞿曇呵責一切苦行。極力毀罵諸苦行人・指一切生活為弊穢。」瞿曇・如是人言・「瞿曇呵責一切苦行。極力毀罵諸苦行人・指一切生活為弊穢・」斯言・果是瞿曇之所說耶。或為誤謗世尊瞿曇耶。或是如法宣法耶。或大小言論・與如是人等・同其主張者・皆悉可以輕毀不耶。我等所以〔為如是問〕者・實以不願尊者瞿曇・〔誤〕受誹謗也。』

三

『迦葉．若有人言「瞿曇呵責一切苦行。極力毀罵諸苦行人．指一切生活為弊穢．」作此言者．非述我說。彼等或以偽言．誹謗我也。迦葉．我以清淨．超人間天眼．如是乃至見有苦行人．生活弊穢身壞命終．生於惡生、惡趣、惡處、地獄中者。迦葉．我以清淨超人間天眼．如是乃至又見苦行人．生活弊穢．身壞命終．生於善趣、天界中者。迦葉．我以清淨超人間天眼．如是乃至或見苦行人．住於少苦．身壞命終．生於惡生、惡趣、惡處、地獄中者。迦葉．我以清淨超人間天眼．如是乃至或見苦行人．住於少苦．身壞命終．生於善趣、天界中者。迦葉．此諸苦行人．若來、若去、若死、若生．我則如是．如實知之．我寧呵責一切苦行耶．寧極毀罵諸苦行人．指一切生活為弊穢耶。

四

迦葉．或有沙門婆羅門．精智善辯．其細心處．如〔弓矢家．〕能穿秋毫．以己智慧．謂能摧破空論。彼我之間關於某點．有相同者．有不同者。或有彼等說是處．我亦說是．彼等說非處．我亦說非。或有彼等說是處．我則說非．彼等說非處．我則說是。或有我說是處．他亦說是．我說非處．他亦說非。或有我說是處．他則說非．我說非處．他則說是。

五

我往彼等處．說如是言．「吾友．所不同者．我等捨置。所相同者．有智之人．當以師問師．以教眾問教眾．〔按此方法．〕推尋談論。其不善者．說是不善．當非難者．說當非難．不當為者．說不當為．不合賢聖者．說不合賢聖．污濁者．說是污濁．如斯諸〔不善〕法．於此〔二〕師中．誰能堪任全捨離者。為是沙門瞿曇耶．抑異眾師耶。」

六

迦葉．亦得有如是事。有智之人．尋問談論．為如是言．「其不善者．說不善．〔乃至〕污濁者．說是污濁．如斯諸〔不善〕法．於此〔二〕師中．沙門瞿曇．全能捨離．餘異眾師．所不能及。」迦葉．彼有智者．如是尋問．如是論時．而於此中．特稱讚我。

七

迦葉・復次有智之人・當以師問師・以教眾問教眾・〔按此方法・〕推問談論・「其是善者・則說是善・無可非難者・說無可非難・當為者・則說當為・合賢聖者・說合賢聖・清淨者・說是清淨・如斯諸〔善〕法・於此〔二〕師中・誰能堪任全獲得者。為是沙門瞿曇耶・抑異眾師耶・」

八

迦葉・亦得有如是事。有智之人・尋問談論・為如是言・「其是善者・則說是善・〔乃至〕清淨者・說是清淨・如斯諸〔善〕法・於此〔二〕師中・沙門瞿曇・全能獲得・餘異眾師・所不能及。」迦葉・彼有智者・如是尋問・如是論時・而於此中・特稱讚我。

九

迦葉・復次有智之人・當以師問師・以教眾問教眾・〔按此方法・〕推尋談論。「其不善者・則說是不善・〔乃至〕污濁者・則說是污濁・如斯諸〔不善〕法・於此〔二〕師中・誰能堪任全捨離者。為是沙門瞿曇弟子眾耶・抑異眾師之弟子眾耶。」

一〇

迦葉・亦得有如是事。有智之人・尋問談論・為如是言・「其不善者・則說是不善・〔乃至〕污濁者・說是污濁・如斯諸〔不善〕法・於此〔二〕師中・沙門瞿曇之弟子眾・全能捨離・餘異師眾之弟子眾・所不能及。」迦葉・彼有智者・如是尋問・如是論時・而於此中・特稱讚我。

一一

迦葉・復次有智之人・當以師問師・以教眾問教眾・〔按此方法・〕推尋談論。「其是善者・則說是善・〔乃至〕清淨者・則說是清淨・如斯諸〔善〕法・於此〔二〕師中・誰能堪任全獲得者。為是沙門瞿曇弟子眾耶・抑異眾師之弟子眾耶。」

一二

迦葉・亦得有如是事。有智之人・尋問談論・為如是言・「其是善者・則說是善・〔乃至〕清淨者・說是清淨・如斯諸〔善〕法・於此〔二〕師中・沙門瞿曇之弟子眾・全能獲得・餘異眾師之弟子眾・所不能及」迦葉・彼有智者・如是尋問・如是論時・而於此中・特稱讚我。

一三

迦葉・有道有迹。登道迹者・確能〔如是〕自知自見・「沙門瞿曇・所言所說・適時、真實、有義、合法、合乎律儀。」復次迦葉・登道迹者・自知自見・念言「沙門瞿曇・所言所說・適時、真實、有義、合法、合乎律儀・」然是何道耶・是何迹耶。曰八聖道。即正見、正思、正語、正業、正命、正精進、正念、正定是也。迦葉・是實為道・是實為迹。登道迹者・確能〔如是〕自知自見・「沙門瞿曇・所言所說、適時、真實、有義、合法、合乎律儀。」』

一四

如是說已・裸形迦葉・白世尊言・『吾友瞿曇・或有沙門婆羅門・以如是諸種苦行・有得沙門名・有得婆羅門名。離服裸形・不重儀禮・食後舐手・〔施主〕請近施食・不受其食・請待施食・亦不受食・不受齎來之食・不受特備之食・不受請食・不直取瓶皿中食・不取閫內食・不取杖間食・不取杵間食・不受二人中間〔一人所給〕食・不受孕婦食・不受乳婦食・不受在男處之女食・不受〔飢饉時食・〕有狗在旁者・不受其食・有蠅羣聚者・不受其食・不食魚・不食肉・不飲穀酒・不飲果酒・不飲麪酒・〔於行乞時・〕或受一家食・唯受一餐食・或受二家食・唯受二餐食・或受七家食・唯受七餐食・唯以一施物為活・以二施物為活・以七施物為活・或一日一食・二日一食・〔乃至〕七日一食・迄至半月一食・如是隔置一定期間・取食修行。吾友瞿曇・或有沙門婆羅門・實以如是諸種苦行・有得沙門名・有得婆羅門名。若或食莠・或復食稷・或復食糠・或復食革・或食水草・或食糠粃・或食飯汁・或食胡麻粉・或食野草・或食牛糞・或食樹根花實・或食自落果・以為生活。吾友瞿曇・或有沙門婆羅門・實以如是諸種苦行・有得沙門名・有得婆羅門名。或披莎衣・或披半莎衣・或著塚間衣・或著糞掃衣・或衣提利多樹皮・或衣黑羚羊皮・或著黑羚羊皮條所編衣・或著吉祥草衣・或衣樹皮・或衣木片・或著人髮所編衣・或著馬毛所編衣・

或著梟羽所編衣・或拔鬚髮・或常站立・不坐牀席・或常蹲踞・或臥荊棘・或臥板牀・或臥露地・或常唯側臥・或被塵埃〔任其附著・〕或住露天・隨臥而安・或食污物・或不飲吸〔涼水・〕或一夜三浴・住修苦行。』

一五

『迦葉・設若有人・離服裸形・不重儀禮・食後舐手・如是乃至半月一食・如是隔置一定期間・取食修行。然戒不具足・心不具足・慧不具足・不能勤修・彼於沙門名・婆羅門名・相去實遠。迦葉・比丘為無恚心・為無害心・修慈悲心・復盡諸漏・成無漏心解脫、慧解脫・即於現在・逮達自知自證住時・彼實得名為沙門・名為婆羅門。迦葉・設復有人・若或食莠・或復食稷・或復食糠・如是乃至或食樹根花實・或食自落果・以為生活。然戒不具足・心不具足・慧不具足・不能勤修・彼於沙門名・婆羅門名・相去實遠。迦葉・比丘為無恚心・為無害心・修慈悲心・復盡諸漏・成無漏心解脫、慧解脫・即於現在・逮達自知自證住時・彼實得名為沙門・名為婆羅門・迦葉・設復有人・或披莎衣・或披半莎衣・如是乃至或一夜三浴・住修苦行。然戒不具足・心不具足・慧不具足・不能勤修・彼於沙門名・婆羅門名・相去實遠。迦葉・比丘為無恚心・為無害心・修慈悲心・復盡諸漏・成無漏心解脫、慧解脫・即於現在自知自證住時・彼實得名為沙門・名為婆羅門。』

一六

如是說已・裸形迦葉・白世尊言・『瞿曇・得沙門名。難・得婆羅門名難。』『迦葉・謂「得沙門名難・得婆羅門名難・」此是世間所常言也。迦葉・然僅離服裸形・不重儀禮・食後舐手・乃至半月一食・如是隔置一定期間・取食修行・僅因是〔瑣細〕事・或僅因是諸種苦行・以得沙門名・婆羅門名・自是難復甚難・便謂「得沙門名難・得婆羅門名難・」其言殊不當也。若長者、長者子、汲水婢・亦能〔決心〕行如是事・「我今即當離服裸形・不重儀禮・食後舐手・乃至半月一食・如是隔置一定期間・取食修行。」迦葉・因除如是事・復有〔重要〕行事・除是諸苦行・復有修行・以得沙門婆羅門名・難復甚難・故謂「得沙門名難・得婆羅門名難・」其言則當也。迦葉・比丘為無恚心・為無害心・修慈悲心・復盡諸漏・成無漏心解脫、慧解脫・即於現在・逮達自知自證住時・迦葉・彼實得名為沙門・名為婆羅門。迦葉・復次設僅食莠・或復食

稷・乃至或食樹根花實・或食自落果・以為生活・僅因是事・或僅因是諸種苦行・以得沙門名婆羅門名・自是難復甚難・便謂「得沙門名難・得婆羅門名難・」其言殊不當也。若長者、長者子、汲水婢・亦能〔決心〕行如是事・「我今即當食莠食稷・乃至食樹根花實・食自落果・以為生活。」迦葉・因除如是事・復有〔重要〕行事・除是諸苦行・復有修行・以得沙門婆羅門名・難復甚難・故謂「得沙門名難・得婆羅門名難・」其言則當也。迦葉・比丘為無恚心・為無害心・修慈悲心・復盡諸漏・成無漏心解脫、慧解脫・即於現在逮達自知自證住時・迦葉・彼實得名為沙門・名為婆羅門。迦葉・復次設僅披莎衣・或披半莎衣・乃至或一夜三浴・住修苦行・僅因是事・或僅因是諸種苦行・以得沙門名・婆羅門名・自是難復甚難・便謂「得沙門名難・得婆羅門名難・」其言殊不當也。若長者、長者子、汲水婢・亦能〔決心〕為如是事・「我今當披莎衣・披半莎衣・乃至一夜三浴・住修苦行。」迦葉・因除如是事・復有〔重要〕行事・除是諸苦行・復有修行・以得沙門婆羅門名・難復甚難・故謂「得沙門名難・得婆羅門名難・」其言則當也。迦葉・比丘為無恚心・為無害心・修慈悲心・復盡諸漏・成無漏心解脫、慧解脫・即於現在・逮達自知自證住時・迦葉・彼實得名為沙門・名為婆羅門。』

一七

如是說已・裸形迦葉・白世尊言・『瞿曇・沙門難知・婆羅門難知。』『迦葉・謂「沙門難知・婆羅門難知・」此是世間所常言也。迦葉・然僅離服裸形・不重儀禮・食後舐手・乃至半月一食・如是隔置一定期間・取食修行・僅因是事・或僅因是諸種苦行・以沙門婆羅門・難知甚難知・而謂「沙門難知・婆羅門難知・」其言殊不當也。若長者、長者子、汲水婢・亦復能知〔如是事・〕「此人離服裸形・不重儀禮・食後舐手・乃至半月一食・如是隔置一定期間・取食修行。」迦葉・因除如是事・復有〔重要〕行事・除是諸苦行・復有修行・以沙門婆羅門・難知甚難知・故謂「沙門難知・婆羅門難知・」其言則當也。迦葉・比丘為無恚心・為無害心・修慈悲心・復盡諸漏・成無漏心解脫、慧解脫・即於現在・逮達自知自證住時・彼實得名為沙門・名為婆羅門。迦葉。復次設僅食莠・或復食稷・乃至或食樹根花實・或食自落果・以為生活・僅因是事・或僅因是諸種苦行・以沙門婆羅門・難知甚難知・而謂「沙門難知・婆羅門難知・」其言殊不當也。若長者、長者子、汲水婢・亦復能知〔如是事・〕「此人食莠食稷・乃至食樹根花實・

食自落果・以為生活。」迦葉・因除如是事・復有〔重要〕行事・除是諸苦行・復有修行・以沙門婆羅門・難知甚難知・故謂「沙門難知・婆羅門難知・」其言則當也。迦葉・比丘為無恚心・為無害心・修慈悲心・復盡諸漏・成無漏心解脫、慧解脫・即於現在・逮達自知自證住時・彼實得名為沙門・名為婆羅門。迦葉・復次設僅披莎衣・或披半莎衣・乃至或一夜三浴・住修苦行・僅因是事・或僅因是諸種苦行・以沙門婆羅門・難知甚難知・而謂「沙門難知・婆羅門難知・」其言殊不當也。若長者、長者子、汲水婢・亦復能知〔如是事・〕「此人披莎衣・披半莎衣・乃至一夜三浴・住修苦行。」迦葉・因除如是事・復有〔重要〕行事・除是諸苦行・復有修行・以沙門婆羅門・難知甚難知・故謂「沙門難知・婆羅門難知・」其言則當也。迦葉・比丘為無恚心・為無害心・修慈悲心・復盡諸漏・成無漏心解脫、慧解脫・即於現在・逮達自知自證住時・彼實得名為沙門・名為婆羅門。』

一八

如是說已・裸形迦葉・白世尊言・『瞿曇・何者是戒具足・何者是心具足・何者是慧具足。』『迦葉・今者如來・出現於世・如是如是・乃至亦見怖畏・受持學處而自修學。身業語業清淨具足・營淨生活・具足戒行・諸根之門・悉為守護・具足正念正智・自知滿足〔參照沙門果經四〇至四二〕。迦葉・云何比丘具足戒行。今有比丘・捨殺離殺・不用刀杖・懷慚愧心・充滿慈悲・利益一切生類有情・而住哀愍。此為比丘戒行一分。如是如是・乃至或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・然於諸種無益徒勞之明・若許願還願如是乃至給樹根施藥料・除藥料等・以此等明・邪命自活・今於是事・皆悉捨離。此又為比丘戒行一分〔參照同經四三至六二〕。迦葉・比丘如是・戒行具足・因戒制御・故任在處處・皆無怖畏。猶如剎帝利・灌頂即位・降伏其敵・任在處處・無所畏敵・此比丘者・亦復如是・戒行具足・因戒制御・故任在處處・無怖畏心。彼具足聖戒聚故・內心感受無垢純淨安樂。迦葉・比丘如是具足戒行。迦葉・此即戒具足也〔參照同經六三〕。

一九

迦葉・復次云何比丘守護諸根之門。今有比丘・以眼〔根〕見色〔境・〕而不取〔總〕相・亦不取別相・如是如是・乃至彼若無所抑制・則其意根・隨生貪愛、憂悲、過惡、與不淨法・御此意根・

以護意根．令其意根．歸於制御。此諸聖根．具足制御．內心感受無垢純淨安樂。迦葉．比丘如是守護諸根之門。如是乃至捨此五蓋．觀自身者．便生歡喜．歡喜者生喜．懷喜者身安穩．身安穩便覺樂．樂則心入三昧．彼離諸欲．離不善法．有尋有伺．離生喜樂．入住初禪。彼已離生喜樂．潤漬其身．周遍盈溢．且復充滿．全身到處．無不普洽．離生喜樂。迦葉．譬如熟巧浴僕．或其弟子．器撒洗粉．以水漬調．洗粉受潤．因潤散碎．內外俱潤．以至周遍．無不廣普。比丘如是．離生喜樂．潤漬其身．周遍盈溢．且復充滿．全身到處．無不普洽．離生喜樂。迦葉．此是比丘心具足一分〔參照同經六四至七六〕。迦葉．復有比丘．無尋無伺．定生喜樂．入第二禪。如是如是．入第三禪。如是如是．入第四禪。如是乃至此是比丘心具足一分。迦葉．此即心具足也〔參照同經七七至八二〕。

二〇

如是心寂靜純淨．無有煩惱．離隨煩惱．柔然將動．而恒安住於不動相中．爾時比丘．以心傾注於智見。彼知是事．「我身由色成．四大種成．父母所生．飯粥長養．為無常、破壞、粉碎、斷絕、壞滅之法。又我之識．依存於此．與此關聯〔參照同經八三〕」。迦葉．譬如琉璃寶珠．美麗優秀．八面玲瓏．磨治瑩明．清澄無濁．具一切〔美〕相．有綖貫之．綖深青色．若深黃色．若赤紅色．若純白色．若淡黃色。迦葉．比丘如是．心寂靜純淨．無有煩惱．離隨煩惱．柔然將動．而恆安住於不動相時．以心傾注於智見．彼知是事．「我身由色成．四大種成．父母所生．粥飯長養．為無常、破壞、粉粹、斷絕、壞滅之法。又我之識．依存於此．與此關聯。」此是比丘慧具足一分。如是乃至證知無復來此生。此是比丘慧具足一分。迦葉．此即慧具足也〔參照同經八四至九八〕。迦葉．較此戒具足、心具足、慧具足．更高妙之戒具足、心具足、慧具足．則無有也。

二一

迦葉．或沙門婆羅門．有說戒者。彼等以種種方便．稱讚戒行。然於最高聖戒．未見與我全相等者．況出我上耶。故我於此增上戒．最為第一。迦葉．或沙門婆羅門．有說厭行者。彼等以種種方便．稱讚厭行。然於此最高聖厭行．未見與我全相等者．況出我上耶。故我於此增上遁世．最為第一。迦葉．或沙門婆羅門．有說慧者。

彼等以種種方便・稱讚於慧。然於最高聖慧・未見與我全相等者・況出我上耶。故我於此增上慧・最為第一。迦葉・或沙門婆羅門・有說解脫者。彼等以種種方便・稱讚解脫。然於最高聖解脫・未見與我全相等者・況出我上耶。故我於此增上解脫・最為第一。

二二

迦葉・異學行腳僧・或當有如是言・「沙門瞿曇・作師子吼。但吼於空處・不吼於大眾中。」當答之曰・「勿說此言。沙門瞿曇・作師子吼・在大眾中・亦復如是。」迦葉・當如是答彼等。迦葉・復次異學行腳僧・亦當有如是言・「瞿曇作師子吼・在大眾中・亦復如是。但吼而非為無畏。」當如是如是答・「乃至吼而無畏。」復有如是如是言・「乃至但無人問彼。」當如是如是答・「乃至人皆問彼。」復有如是如是言・「乃至但不答人問。」當如是如是答・「乃至彼答人問。」復有如是如是言・「乃至但所答之言不能滿〔問者〕意。」當如是如是答・「乃至所答之言足能滿〔問者〕意。」復有如是如是言・「乃至但眾不以為當一心聽。」當如是如是答・「乃至眾皆以為當一心聽。」復有如是如是言・「乃至但聽而不信受。」當如是如是答・「乃至聽而信受。」復有如是如是言・「乃至信而無表現。」當如是如是答・「乃至信而表現。」復有如是・如是言・「乃至但不如實行。」當如是如是答・「乃至如實而行。」復有如是如是言・「乃至行而無成就。」當如是如是答・「乃至行而成就。」〔總言之〕當如是答彼等言・「沙門瞿曇。作師子吼・在大眾中・亦復如是。吼而無畏・人皆問彼・彼答人問・所答之言・足滿人意・眾皆以為當一心聽・聽而信受・信而表現・如實而行・行而成就。」迦葉・當如是答。

二三

迦葉・我昔一時・在王舍城靈鷲山。曾於其處・有苦行梵志尼俱陀。以遁世問我。我答問時・彼甚歡喜。』『吾師・聽世尊法・誰不歡喜者。我聽世尊法・亦甚歡喜。最勝吾師・最勝吾師。猶如使倒者得起・閉者得開・迷途者示之以道・冥室燃燈・有目得視・世尊所說・亦復如是・以無數方便・宣說正法。吾師・今我歸依世尊・歸依法僧。唯願吾師・許我於世尊所・出家得受進具。』

二四

『迦葉・異學欲於此法此律・出家受進具者・先當別住・為期四月。俟經四月・稱可眾意・然後僧眾使其出家・令為比丘。但於此際・我當〔酌〕察其稟性如何。』『吾師・異學欲於此法此律・出家受進具・先當別住・為期四月・稱可眾意・然後僧眾使之出家・令為比丘・而我則願別住四年。經四年後・稱可眾意・僧眾當可使我出家・成為比丘。』裸形迦葉・於世尊所・實行出家・受具足戒・受戒未久・長老迦葉・獨自離住・成不放逸・慇懃專念・精勤止住・為良家子出家所求〔獲得之〕無上梵行・彼於時未久・即於現在・逮達自知自證而住・知『生已盡・梵行已立・所作已辦・無復來此生・』長老迦葉・成阿羅漢。

布吒婆樓經第九

一

如是我聞。一時世尊・在舍衛城祇樹給孤獨園。時布吒婆樓普行外道・與普行外道眾三百人俱・住末梨園中・提陀迦樹環遶之大講堂教義論究所。

二

爾時世尊・清旦・整下衣・持上衣及鉢・入舍衛城乞食。然於其時・世尊念言・『於舍衛城・遊行乞食・為時尚早。寧可往訪末梨園中提陀迦樹環遶之大講堂教義論究所。』

三

時布吒婆樓普行外道・與諸多侍眾・共坐一處・大聲喧嚷・互相詈罵・耽於種種無益議論。即論王、論盜、論大臣、論軍隊、論怖畏、論戰爭、論食、論飲、論衣、論床、論鬘、論香、論親戚、論乘具、論部落、論村里、論都市、論鄉間、論婦女、論勇士、論市街、論瑣事、論亡靈、論餘諸雜事、論水陸起源・及論斯有斯無等。

四

爾時布吒婆樓普行外道・遙見世尊・自彼方來・即令其眾・靜默毋嘩・曰・『諸士・肅靜勿聲。沙門瞿曇來矣。彼愛沈默・彼長老並

讚嘆沈默。蓋知吾等會眾沈默・當覺來訪之不虛也。』彼等普行外道・聞是言已・眾皆沈默。

五

世尊行近布吒婆樓所・布吒婆樓語世尊曰・『善來世尊・吾等歡迎世尊。世尊久不來此。請坐世尊・此座之設・為世尊也。』世尊就所設座而坐。布吒婆樓・別取低座・坐於一方。世尊告布吒婆樓曰・『布吒婆樓・今汝等集此・以何因緣・為何論議・而汝等論議・因何中止耶。』

六

布吒婆樓・聞是言已・答世尊曰・『世尊・吾等集此・所欲論者・可〔且〕置之。因此等論・世尊日後・易得聞也。世尊・曩者多有外道沙門婆羅門・集〔此〕論議場所・就增上想滅・發生論議曰・「增上想滅・云何而起耶。」時有一類・作是說言・「人人皆以無因無緣而想生・無因無緣而想滅。生時即有想・滅時則無想。」斯一類者・以如是說增上想滅。餘者對之・作是說言「不然吾友。想・實人我也。夫人我・有來有去。來時即有想・去時即無想。」斯一類者・以如是說增上想滅。復有餘者・對之作是說言・「不然。實有沙門婆羅門・具大神通與大威力・彼等於人・移想而來・掣想而去。移來則有想・掣去則無想。」斯一類者・以如是說增上想滅。復有餘者・對之作是說言・「實則不然。蓋有天神・具大神力與大威力・其於人也・移想而來・掣想而去。移來則有想・掣去則無想。」斯一類者・以如是說增上想滅。世尊・爾時・我心生念・念言世尊・「嗚呼世尊・精通此法・倘於此時・世尊在者・倘於此時・善逝在者。」實因世尊熟知增上想滅者也。世尊・何者是增上想滅。』

七

『布吒婆樓・彼沙門婆羅門・言「人人皆以無因無緣而想生・無因無緣而想滅・」固有誤也。所以者何・布吒婆樓・有因有緣・人之想生・有因有緣・人之想滅。由於修習而一類之想生・由於修習而一類之想滅。』世尊說言・『云何修習・布吒婆樓・今者如來・出現於世・如來是應供、等正覺、乃至身業語業・清淨具足・營淨生活・具足戒行・諸根之門・悉為守護・具足正念正智・自知滿足

〔參照沙門果經四〇至四二〕。布吒婆樓・云何比丘具足戒行。布吒婆樓・今有比丘・捨殺離殺・不用刀杖・懷慚愧心・充滿慈悲・利益一切生類有情・而住哀愍。此為比丘戒行一分。如是如是・乃至復次・或有沙門婆羅門・為世所敬・食他信施・然於諸種無益徒勞之明・若許願、還願、乃至給樹根、施藥料・除藥料等・以此等明・邪命自活・今於是事・皆悉捨離・此又為比丘戒行一分〔參照同經四三至六二〕。

八

布吒婆樓・比丘如是・戒行具足・因戒制御・故任在處處・皆無怖畏。如是乃至彼具足聖戒聚・內心感受無垢純淨安樂。布吒婆樓・比丘如是具足戒行〔參照同經六三〕。

九

布吒婆樓・云何比丘守護諸根之門。布吒婆樓・今有比丘・以眼〔根〕見色〔境〕時・如是如是・乃至此諸聖根・具足制御・內心感受無垢純淨安樂。布吒婆樓・比丘如是守護諸根之門。乃至如是如是〔考照同經六四至七四〕。

一〇

捨此五蓋觀自身者・便生歡喜・歡喜者生喜・懷喜者身安穩・身安穩便覺樂・樂則心入三昧。彼離諸欲・離不善法・有尋有伺・離生喜樂・入住初禪。因此先滅欲想・是時生離生喜樂之微妙真實想。以此之故・彼於是時・具有離生喜樂之微妙真實想。如是由修習故一想生・由修習故他想滅。此即由於修習也。』

一一

世尊復言・『布吒婆樓・復有比丘・滅除尋伺・內心靜安・得心一境相・無尋無伺・定生喜樂・入第二禪。是時先滅離生喜樂之微妙真實想・同時生定生喜樂之微妙真實想。以此之故・彼於是時・具有定生喜樂之微妙真實想。如是由修習故一想生・由修習故他想滅。此即由於修習也。』

一二

世尊復言・『布吒婆樓・復有比丘・離喜住捨・正念正智・身受快樂・如諸聖說・「捨、念、樂住・」入第三禪。是時先滅定生喜樂之微妙真實想・同時生捨樂之微妙真實想。以此之故・彼於是時・具有捨樂之微妙真實想。如是由修習故一想生・由修習故他想滅。此即由於修習也。』

一三

世尊復言・『布吒婆樓・復有比丘・捨樂離苦・先滅憂喜・不苦不樂・捨念清淨・入第四禪。是時先滅捨樂之微妙真實想・同時生不苦不樂之微妙真實想。以此之故・彼於是時・具有不苦不樂之微妙真實想。如是由修習故一想生・由修習故他想滅。此即由於修習也。』

一四

世尊復言・『布吒婆樓・復有比丘・超出所有色想・滅障礙想・不憶異想・故達「空是無邊」之空無邊處。因此先滅色想・同時生空無邊處樂之微妙真實想。以此之故・彼於是時・惟有空無邊處之微妙真實想。如是由修習故一想生・由修習故他想滅。此即由於修習也。』

一五

世尊復言・『布吒婆樓・復有比丘・超出所有空無邊處・達「識是無邊」之識無邊處。因此先滅空無邊處之微妙真實想・同時生識無邊處之微妙真實想。以此之故・彼於是時・具有識無邊處之微妙真實想。如是由修習故一想生・由修習故他想滅。此即由於修習也。』

一六

世尊復言・『布吒婆樓・復有比丘・超出所有識無邊處・達「所有皆無」之無所有處。因此先滅識無邊處之微妙真實想・同時生無所有處之微妙真實想。以此之故・彼於是時・具有無所有處之微妙真實想。如是由修習故一想生・由修習故他想滅。此即由於修習也。』

一七

『布吒婆樓・緣比丘以達有獨特之想・彼便由前至後・次第以達想之極致。處此想之極致時・彼作念言・「思慮之事・於我為惡・不思慮事・於我為善。設我仍有思慮意欲・我之此想・雖得消滅・而餘粗想・將復再生。我今寧可不為思慮・不起意欲。」彼便不為思慮・不起意欲。不為思慮不起意欲已・其想即滅・餘想不生・而彼達於〔想〕滅。布吒婆樓・如是次第以達增上想滅智定。

一八

布吒婆樓・於汝意云何。汝前頗曾聞如斯次第增上想滅智定不。』『不也世尊・今吾唯知從世尊所說・謂「布吒婆樓・緣比丘以達有獨特之想・彼便由前至後・次第以達想之極致。處此想之極致時・彼作念言・「思慮之事・於我為惡・不思慮事・於我為善。設我仍有思慮意欲・我之此想・雖得消滅・而餘粗想・將復再生。我今寧可不為思慮・不起意欲。」彼便不為思慮・不起意欲。不為思慮不起意欲已・其想即滅・餘想不生・而彼達於〔想〕滅。布吒婆樓・如是次第以達增上想滅智定。」』『布吒婆樓・實如是也。』

一九

『世尊・世尊說示・想之極致・為一為多耶。』『布吒婆樓・吾所說示・想之極致・亦一亦多。』『如是世尊・云何說示・想之極致・亦一亦多耶。』『布吒婆樓・實如是如是達於〔想〕滅・遂如是如是現想之極致・布吒婆樓・故吾說示・想之極致・亦一亦多。』

二〇

『世尊・先有想生・然後智生耶。先有智生・然後想生耶。抑智與想・非前非後而生耶。』『布吒婆樓・先有想生・然後智生・實由想生・而智生起。是以人人皆悉自知・「實由此緣故・於吾生智慧。」布吒婆樓・可知依此理趣・先生想・後生智・由想生故・有智生起。』

二一

『世尊想即人我耶。抑想與我為異耶。』『布吒婆樓・汝以何者為我耶。』『世尊・吾自思惟・粗我有形・四大所成段食所養。』『布吒婆樓・汝之粗我有形・四大所成・段食所養・設若真實・布吒婆樓・則汝想與我・實非一物。布吒婆樓・由此差別〔智〕・可得而知・想我非一。布吒婆樓・如是粗我有形・四大所成・段食所養・〔且置不論・〕但於此人・猶有一想生他想滅。布吒婆樓・由此差別・可得而知・想我實非一。』

二二

『世尊・吾以我為意所成・支節具足・諸根圓滿。』『布吒婆樓・汝之我為意所成・支節具足・諸根圓滿・設若真實・布吒婆樓・則汝之想與我・實非一物。布吒婆樓・由此差別・可得而知・想我非一・布吒婆樓・如是我為意所成・支節具足・諸根圓滿・〔且置不論・〕但於此人・猶有一想生他想滅。布吒婆樓・由此差別・可得而知・想我實非一也。』

二三

『世尊・吾以我為無形・而想所成。』『布吒婆樓・汝之我為無形・而想所成・設若真實・布吒婆樓・則汝之想與我・實非一物。布吒婆樓・由此差別・可得而知・想我非一。布吒婆樓・如是我為無形・而想所成、〔且置不論・〕但於此人・猶有一想生他想滅。布吒婆樓・由此差別・可得而知・想我實非一。』

二四

『復次世尊・「人我即為想耶・抑想與我為異耶・」斯義吾可得知不。』『布吒婆樓・人我與想為同一耶・抑想與我為各異耶・汝欲知此・甚難甚難。以汝依他〔宗〕見・有他〔宗〕信忍・持他〔宗〕所期・以他〔宗〕之研究為歸・以他〔宗〕之行持為旨故。』

二五

『世尊・若吾依他〔宗〕見・有他〔宗〕信忍・持他〔宗〕所期・以他〔宗〕之研究為歸・以他〔宗〕之行持為旨者・故此想即為人我耶。抑我與想為各異耶・知之甚難。如是世尊・復〔欲請問・〕

世界常住耶・唯此真實而餘為虛妄耶。』『布吒婆樓・世界常住耶・唯此真實而餘為虛妄耶・此為吾所不記。』『如是世尊・此世界無常耶・唯此真實而餘為虛妄耶。』『布吒婆樓・世界無常耶・唯此真實而餘為虛妄耶・此為吾所不記。』『復次世尊・世間有限耶・唯此真實而餘為虛妄耶。』『布吒婆樓・此為吾所不記。』『如是世尊・世界無限耶・唯此真實而餘為虛妄耶。』『布吒婆樓・此為吾所不記。』

二六

『復次世尊・此命與身為一耶・唯此真實而餘為虛妄耶。』『布吒婆樓・此為吾所不記。』『復次世尊・此命與身為各異耶・唯此真實而餘為虛妄耶。』『布吒婆樓・此為吾所不記。』

二七

『如是世尊・如來死後存在耶・唯此真實而餘為虛妄耶。』『布吒婆樓・此為吾所不記。』『如是世尊・如來死後不存在耶・唯此真實而餘為虛妄耶。』『布吒婆樓・此為吾所不記。』『如是世尊・如來死後亦存在亦不存在耶・唯此真實而餘為虛妄耶。』『布吒婆樓・此為吾所不記。』『如是世尊・如來死後亦非存在亦非不存在耶・唯此真實而餘為虛妄耶。』『布吒婆樓・此為吾所不記。』

二八

『世尊・凡此等等・世尊何故判為不記耶。』『布吒婆樓・此不與義合・不與法合・而非根本梵行・非趣出離・非趣離欲・非趣止滅・非趣寂靜・非趣證悟・非趣正覺・非趣涅槃。是故依吾判為不記。』

二九

『如是世尊・世尊所記・為何者耶。』『布吒婆樓・「此是苦・」實吾所記者也。布吒婆樓・「此是苦集・」實吾所記者也。布吒婆樓・「此是苦滅・」實吾所記者也。布吒婆樓・「此是趣苦滅道・」實吾所記者也。』

三〇

『然而世尊・世尊所記・為何故耶。』『布吒婆樓・此實合義合法・是根本梵行・是趣出離・是趣離欲・是趣止滅・是趣寂靜・是趣證悟・是趣正覺・是趣涅槃。故為吾所記。』『誠然世尊・誠然善逝。世尊請便・今正是時。』於是世尊起座而去。

三一

世尊去未久・普行外道等・皆向布吒婆樓普行外道・作譏誚言曰・『布吒婆樓・於沙門瞿曇所說・作如是讚嘆・「誠然世尊・誠然善逝。」然於「世間常住耶・」「世界無常耶・」「世界有限耶・」「世界無限耶・」「命與身為一耶・」「命與身各異耶・」「如來死後存在耶・」「如來死後不存在耶・」「如來死後亦存在亦不存在耶・」「如來死後亦非存在亦非不存在耶・」凡此諸問・吾等不見沙門瞿曇確示一法。』布吒婆樓聞是言已・告彼等普行外道曰・『諸士・「世界常住耶・乃至如來死後亦非存在亦非不存在耶・」凡此諸問・吾固不見沙門瞿曇確示一法。但沙門瞿曇・所說之道・如實、真正、真如而住法合法。矧沙門瞿曇・如是善說如實、真正、真如・住法合法之道時・理智如吾者・何由不讚嘆此善說法耶。』

三二

後二三日・象首舍利弗與布吒婆樓・詣世尊所。象首舍利弗・禮敬世尊・坐於一面。布吒婆樓亦親禮世尊・慇懃問訊已・就一面坐。布吒婆樓・白世尊言・『世尊・世尊去未久・普行外道等・皆向吾作譏誚言曰・「布吒婆樓・於沙門瞿曇所說・作如是讚嘆・「誠然世尊・誠然善逝。」然於「世界常住耶・乃至如來死後亦非存在亦非不存在耶・」凡此諸問・吾等不見沙門瞿曇確示一法。」世尊・吾聞是言已・答彼等普行外道曰・「諸士・「世界常住耶・乃至如來死後亦非存在亦非不存在耶・」凡此諸問・吾固不見沙門瞿曇確一示法。但沙門瞿曇所說之道・如實、真正、真如・住法合法。矧沙門瞿曇・如是善說如實、真正、真如・住法合法之道時・理智如吾者・何由不讚嘆此善說法耶。」』

三三

『布吒婆樓・彼等一切普行外道・皆悉盲目・為無眼子・而於其中・唯汝一人・具眼士也。布吒婆樓・我所說法・有決定記・不決

定記。布吒婆樓・云何名為我所說法・不決定記。蓋謂「世界常住耶」者是也。布吒婆樓・此為我所說法・不決定記。復次・布吒婆樓・謂「世界無常耶」者是也。此為我所說法・不決定記。布吒婆樓・謂「世界有限耶・乃至如來死後亦非存在亦非不存在耶」者是也。此亦為我所說法・不決定記。布吒婆樓・何故此等為我所說法・不決定記。布吒婆樓・以此等不與義合・不與義合・不與法合・非根本梵行・非趣出離・乃至非趣涅槃故也。是故此等・為我所說法・不決定記。布吒婆樓・云何名為我所說法之決定記。布吒婆樓・「此是苦・」實為我所說法之決定記。布吒婆樓・「此是苦集・」實為我所說法之決定記。布吒婆樓・「此是苦滅・」實為我所說法之決定記。布吒婆樓・「此是趣苦滅道・」實為我所說法之決定記。布吒婆樓・何故此等為我所說法之決定記。布吒婆樓・以此等與義合・與法合・是根本梵行・是趣出離・〔乃至〕是趣涅槃故也。是故此等・為我所說法之決定記。

三四

布吒婆樓・或有一類沙門婆羅門・謂「我於死後・一向安樂・亦且無病・」作如是言・有如是見。我訪彼等・如是問曰・「諸友・汝等謂我於死後・一向安樂・亦且無病・作如是言・有如是見・真實不耶。」彼等聞是言・報我曰「然。」我又問曰・「諸友・一向安樂之世界・汝等實知實見耶。」彼等聞是問・答我言「不也。」我又問曰・「諸友・汝等於一夜或一日・於半夜或半日・亦曾審知有一向安樂之我耶。」彼等聞是問・答我言「不也。」我又問曰・「諸友・趨於一向安樂世界・惟此道可實現・惟此路得通達・汝等曾了知耶。」彼等聞是問・答我言「不也。」我又問曰・「諸友・生彼世界一向安樂之天神曰・「尊主・若欲實現一向安樂世間・當行善業・當步正道・所以者何・吾等所行正爾・故得生於一向安樂世界・」汝等曾聞其說示耶。」彼等聞是問・答我言「不也。」布吒婆樓・於汝意云何・彼等沙門婆羅門所說・合正理不。

三五

譬如有人・作如是言・「吾於此國中・求交且愛第一美女。」餘人若問曰・「吾友・汝於此國中・求交且愛第一美女・則汝當知・國中所謂第一美女・屬剎帝利族耶・婆羅門族耶・吠舍族耶・抑首陀羅耶。」彼聞是言・答曰「不知。」又問彼曰・「吾友・汝於國中・求交且愛第一美女・則汝當知・在此國中・第一美女・名何姓

何・彼女身軀・長耶短耶・抑適中耶。彼女皮膚・青黑耶・純黑耶・黃金色耶。彼女所住・村落鄉鎮耶・抑城市耶。」彼聞是問・答曰「不知。」又問彼曰・「吾友・汝所求交且愛者・汝竟不知其人・不見其人耶。」彼聞是問・答曰「唯然。」布吒婆樓・於汝意云何。此人所說・合正理不。』『世尊・此人所說・實不合正理也。』

三六

『布吒婆樓・沙門婆羅門・亦復如是・謂「我於死後・一向安樂・亦且無病・」作如是言・有如是見。我訪彼等・如是問曰・「諸友・汝等謂我死後・一向安樂・亦且無病・作如是言・有如是見・真實不耶。」彼等聞是言・答我曰「唯然。」我又問曰・「諸友・一向安樂之世界・汝等覺知現見耶・止住其中耶。」彼等聞是問・答我言「不也。」我又問曰・「諸友・汝等於一夜或一日・於半夜或半日・亦曾審知一向安樂之我耶。」彼等聞是問・答我言「不也。」我又問曰・「諸友・趨於一向安樂世界・惟此道可實現・惟此路得通達・汝等曾了知耶。」彼等聞是問・答我言「不也。」我又問曰・「諸友・生彼世界一向安樂之天神曰・「尊主・若欲實現一向安樂世界・當行善業・當步正道・所以者何・吾等所行正爾・故得生於一向安樂世界・」汝等曾聞其說示耶。」彼等聞是問・答我言「不也。」布吒婆樓・於汝意云何・彼等沙門婆羅門所說・合正理不。』『世尊・彼等沙門婆羅門所說・實不合正理也。』

三七

『布吒婆樓・例如有人・於〔向四方之〕四交道〔四入口〕處・欲登一殿堂・樹立一梯。〔餘人〕問彼曰・「今者吾友・君欲立梯・登一殿堂・而此殿堂・在東方耶・在西方耶・在北方耶・抑南方耶。其堂高耶低耶・抑適中耶。君知之耶。」彼於此問・答曰「不知。」〔餘人〕又問「今者吾友・君欲建梯・以登殿堂・而此殿堂・君竟不知・亦不見耶。」彼於此問・答曰「唯然。」布吒婆樓。於汝意云何。此人所說・合正理不。』『世尊・此人所說・實不合正理也。』

三八

『布吒婆樓・沙門婆羅門・亦復如是・謂「我於死後・一向安樂・亦且無病・」作如是言・有如是見。乃至布吒婆樓・於汝意云何・彼等沙門婆羅門所說・合正理不。』『世尊。彼等沙門婆羅門所說・實不合正理也。』

三九

『布吒婆樓・實有三種我得。即粗我得・意所成我得・無形我得是也。布吒婆樓・何者是粗我得耶。有形而四大所成・段食所養者・粗我得也。何者是意所成我得耶。有形而支節具足・諸根圓滿者・意所成我得也。何者是無形我得耶。無形之想所成者・無形我得也。

四〇

布吒婆樓・我之說法・實為欲使永斷粗我得。依之隨入・斷離染污法・增長清淨法・於現法中・智慧充廣・自身證達・至於安住。布吒婆樓・汝意或謂・「斷離染污法・增長清淨法・於現法中・智慧充廣・欲自證達・至於安住・然而〔有情〕猶住苦中。」布吒婆樓・勿作是念。所以者何・若斷離染污法・增長清淨法・於現法中・智慧充廣・能自證達・而自安住・是則愉快歡喜・成就輕安・又得正念正智・住於安樂。

四一

布吒婆樓・我之說法・實為欲使永斷意所成我得。依之隨入・斷離染污法・增長清淨法・於現法中・智慧充廣・自身證達・至於安住。布吒婆樓・汝意或謂・「斷離染污法・增長清淨法・於現法中・智慧充廣・欲自證達・至於安住・然而〔有情〕猶住苦中。」布吒婆樓・勿作是念。所以者何・若斷離染污法・增長清淨法・於現法中・智慧充廣・能自證達・而自安住・是則愉快歡喜・成就輕安・又得正念正智・住於安樂。

四二

布吒婆樓・我之說法・實欲為使永斷無形我得。依之隨入・斷離染污法・增長清淨法・如是乃至住於安樂。

四三

布吒婆樓・又若有人・向我問曰・「尊者・卿之說法・云何永斷粗我得・依之隨入・斷離染污法・增長清淨法・如是乃至逮達住安樂耶。」於如是問・我當答曰・「吾友・我之說法・如是欲使永斷粗我得。依之隨入・斷離染污法・增長清淨法・〔乃至如是〕逮達住於安樂。」

四四

布吒婆樓・又若有人・向我問言「尊者・卿之說法・云何永斷意所成我得・依之隨入・斷離污法・增長清淨法・〔如是乃至〕逮達住於安樂耶。」於如是問・我當答曰・「吾友・我之說法・如是欲使永斷意所成我得・依之隨入・斷離染污法・增長清淨法・〔乃至如是〕逮達住於安樂。」

四五

布吒婆樓・又若有人・向我問言・「尊者・卿之說法・云何永斷無形我得・依之隨入・斷離染污法・增長清淨法・〔如是乃至〕逮達住於安樂耶。」於如是問・我當答曰・「吾友・我之說法・如是欲使永斷無形我得・〔乃至如是〕逮達住於安樂。」布吒婆樓・於汝意云何・我之所說・合正理不。』『世尊・世尊所說・實合正理也。』

四六

『布吒婆樓・猶如樹立一梯・於殿堂下・欲登一殿堂・〔餘人〕問彼曰・「今者吾友・君欲立梯・以登殿堂・而此殿堂・在東方耶・在西方耶・在南方耶・抑北方耶・高耶低耶・抑適中耶。君知之耶。」彼答問言・「我之立梯・於殿堂下・為欲如是而登殿堂。」布吒婆樓・於汝意云何・此人所說・合正理不。』『世尊・彼之所說・實合正理也。』

四七

『布吒婆樓・此亦如是・設若有人・向我問言・「尊者・卿之說法・云何永斷粗我得〔云云。〕復次・卿之說法・云何永斷意所成

我得云云。復次・卿之說法・云何永斷無形我得・依之隨入・斷離染污法・增長清淨法・於現法中・智慧充廣・自身證達・至安住耶。」於如是問・我當答曰・「吾友・我之說法・如是永斷無形我得。依之隨入・斷離染污法・增長清淨法・如是乃至住於安樂。」布吒婆樓・於汝意云何。我之所說・合正理不。』『世尊・世尊所說・實合正理也。』

四八

〔時〕象首舍利弗・白世尊言・『世尊・粗我得存在時・意所成我得之存在為虛・而無形我得之存在亦虛・正於爾時・唯粗我得之存在為實耶。世尊・意所成我得存在時・粗我得之存在為虛・而無形我得之存在亦虛・正於爾時・唯意所成我得之存在為實耶。世尊・無形我得存在時・粗我得之存在為虛・而意所成我得之存在亦虛・正於爾時・唯無形我得之存在為實耶。』

四九

『象首・粗我得存在時・唯名為粗我得・決不名為意所成我得・亦不名為無形我得。象首・意所成我得存在時・唯名為意所成我得・決不名為粗我得・亦不名為無形我得。象首・無形我得存在時・唯名為無形我得・決不名為粗我得・亦不名為意所成我得。象首・設若有人・向汝問言・「汝曾存於過去世・汝非已有不。汝將存於未來世・汝非當有不。汝正存於現在・汝非今有不。」象首・有是問者・汝云何答。』『世尊・設若有人・向我問言・「汝曾存於過去世・汝非已有不。汝將存於未來世・汝非當有不。汝正存於現在・汝非今有不。」世尊・有是問者・我當答言・「我曾存於過去世・我非不已有也。我將存於未來世・我非不當有也。我正存於現在・我非不今有也。」世尊・於如是問者・我當作是答。』

五〇

『象首・又若問汝・「汝曾存於過去我得時・唯汝之此我得為實・而未來〔我得〕為虛・現在〔我得〕亦虛耶。復次・汝將存於未來我得時・唯汝之此我得為實・而過去〔我得〕為虛・現在〔我得〕亦虛耶。復次・汝正存於現在我得時・唯汝之此我得為實・而過去〔我得〕為虛・未來〔我得〕亦虛耶。」象首・有是問者・汝云何答。』『世尊・若問我言・「汝曾存於過去我得時・如是乃至・汝

正存於現在我得時・唯汝之此我得為實・而過去者為虛・未來者亦虛耶。」世尊・有是問者・我當答言・「我曾存於過去我得時・唯我之此我得為實・而未來者為虛・現在者亦虛也。復次・我將存於未來我得時・唯我之此我得為實・而過去者為虛・現在者亦虛也。復次・我正存於現在我得時・唯我之此我得為實・而過去者為虛・未來者亦虛也。」於如是問者・我當作是答。』

五一

『象首・此亦如是。粗我得存時・決不名為意所成我得・亦不名為無形我得。唯名為粗我得也。象首・意所成我得存時・乃至象首・無形我得存時・決不名為粗我得・亦不名為意所成我得。唯名為無形我得也。

五二

象首・譬如由牛有乳・乳變為酪・酪為生酥・生酥為熟酥・熟酥為醍醐。當有乳時・唯名為乳・決不名酪・不名生酥・不名熟酥・不名醍醐。當有酪時・乃至有生酥時・乃至有醍醐時・唯名醍醐・決不名乳・亦不名酪・不名生酥・不名熟酥。

五三

象首・此亦如是。粗我得存時・乃至象首・意所成我得存時・乃至象首・無形我得存時・決不名為粗我得・亦不名為意所成我得・唯名為無形我得也。象首・凡此等等・為世間共相・世間言語・世間名稱・世間記述法・如來用之・正當者也。』

五四

世尊如是說已・布吒婆樓普行外道曰・『偉哉世尊・大哉世尊。猶如使倒者得起・閉者得開・迷途者示之以道・冥室燃燈・有目得視・世尊以無數方便・說示教法・亦復如是。世尊・我今歸依佛陀・歸依教法・歸依僧眾。唯願世尊・聽攝受我・自今已後・盡壽歸依・為優婆塞。』

五五

象首舍利弗．白世尊言．『偉哉世尊．大哉世尊。猶如使倒者得起．閉者得開．迷途者示之以道．冥室燃燈．有目得視．世尊以無數方便．說示教法．亦復如是。世尊．我今歸依佛陀．歸依教法．歸依僧眾。唯願世尊許我等於世尊所．得出家受進具。』

五六

於是象首舍利弗．於世尊所．出家受進具。受進具後．尊者象首舍利弗．即住獨處．成不放逸．慇懃專念．精勤止住．為良家子出家所求最上梵行之究竟道．彼為時未久．即於現在．自身實證達住．自知『生已盡．梵行已立所作已辦．不受後有。』尊者象首舍利弗．成阿羅漢。

須婆經第十

第一誦品

一

如是我聞。世尊般涅槃未久．時長老阿難．住舍衛城祇樹給孤獨園．時有堵提氏子須婆儒童．以事居舍衛城。

二

時堵提氏子須婆儒童．告一儒童言．『儒童．汝可往詣沙門阿難所。持我之聲．敬問沙門阿難少病少惱．起居輕利．氣力安住。可如是言．「堵提氏子須婆儒童．敬問尊者阿難．少惱少病．起居輕利．氣力安住。」又如是言．「尊者阿難唯願哀愍屈臨堵提氏子須婆儒童舍．斯為幸甚。」』

三

彼儒童應堵提子須婆儒童曰「唯然．」即往詣長老阿難所。至已．禮敬問訊長老阿難．道親善詞．於一面坐。彼儒童坐一面已．以如是言．白長老阿難曰．『堵提氏子須婆儒童。敬問尊者阿難．少病少惱．起居輕利．氣力安住。為如是言．「尊者阿難．唯願哀愍．屈臨堵提氏子須婆儒童舍．斯為幸甚。」』

四

如是言已・長老阿難・語彼儒童言・『儒童・我今甫服藥・為時不宜。但看明日機會適宜・將可往也。』時彼儒童・即從座起・還至堵提氏子須婆儒童所。至已・以如是言・報堵提氏子須婆儒童曰・『我以卿語・告尊者阿難言・「堵提氏子須婆儒童・敬問尊者阿難・少病少惱・起居輕利・氣力安住。為如是言・「尊者阿難・唯願哀愍・屈臨堵提氏子須婆儒童舍・為幸甚也。」」如是言已・沙門阿難・即語我曰・「儒童・我今甫服藥・為時不宜・但看明日・機會適宜・將可往也。」彼尊者阿難・已如是準備・或當明日・適時而來。』

五

時長老阿難・過是夜已・即於午前・整理衣服・攜制多迦比丘・為隨行沙門・往堵提氏子須婆儒童舍・至已・就座而坐。時堵提氏子須婆儒童・至長老阿難前・禮敬問訊長老阿難・道親善詞・於一面坐。堵提氏子須婆儒童・坐於一面・向長老阿難・為如是言・『尊者阿難・於彼尊者瞿曇承侍近住・給事殊久。尊者阿難・當知尊者瞿曇之所稱讚・又為勸導・使人入住如是諸法。阿難・彼尊者瞿曇稱讚諸法・為何者耶。又勸導眾人使之入住於何處耶。』

六

『儒童・彼世尊稱讚三蘊。又勸導眾人・使人住此處。云何為三。曰聖戒蘊曰聖定蘊・曰聖慧蘊。儒童・此等三蘊・為彼世尊之所稱讚・又勸導眾人・使人住其處。』『復次阿難。彼尊者瞿曇之所稱讚・又為勸導使人入住之聖戒蘊・為何者耶。』

七至二九

『儒童・今者如來出現於世・如是如是。乃至儒童・比丘如是具足戒行〔參照沙門果經四〇至六三〕。

三〇

儒童・是謂彼世尊之所稱讚・又為勸導使人入住之聖戒蘊。然於此中・更有須成辦者。』

『希有也・阿難。未曾有也・阿難。阿難・所謂聖戒蘊者已圓滿・非不圓滿也。阿難・我於佛教之外沙門婆羅門中・未見有如是圓滿之聖戒蘊。阿難・佛教之外沙門婆羅門・設於己中・見如是圓滿之聖戒蘊者・彼等唯此以為滿足・自念「唯此已足・唯此可達沙門所期。此外我等無有更須成辦者。」而尊者阿難言・「然於此中・更有須成辦者。」』

第二誦品

一至一二

『復次阿難。彼尊者瞿曇所稱讚・又為勸導使人入住之聖定蘊・為何者耶。』『儒童・云何比丘守護諸根之門。如是如是・乃至全身到處・離生喜樂・無不普洽〔參照同經六四至七六〕。

一三

儒童・比丘已度諸欲・離不善法・由離生喜樂・有尋有伺・具住初禪。此之初禪・以離生喜樂而潤其身・周遍潤漬・亦復充滿・彼之全身・離生喜樂無不普洽。於彼定中・亦有此也。

一四至一五

儒童・復有比丘・息滅尋伺・乃至〔全身到處〕定生喜樂・無不普洽〔參照同經七七至七八〕。如是乃至於彼定中・亦有此也。

一六至一八

儒童・復有比丘・離喜住捨・乃至捨念清淨・如是如是・〔全身到處〕無喜之樂・乃至以純淨心・周洽普遍〔參照同經七九至八二〕。如是乃至於彼定中・亦有此也。

一九

儒童・是謂為彼世尊之所稱讚・又為勸導使人入住之聖定蘊。然於此中・更有須成辦者。』『希有也・阿難。未曾有也・阿難。阿難・所謂聖定蘊者・已圓滿・非不圓滿也。阿難・我於佛教之外沙門婆羅門中・未見有如是圓滿之聖定蘊。阿難・佛教之外沙門婆羅

門・設於已中・見如是圓滿之聖定蘊者・彼等唯此為滿足・自念「唯此已足・唯此可達沙門所期・此外我等無有更須成辦者。」而尊者阿難言・「然於此中・更有須成辦者。」

二〇至二一

復次阿難。彼尊者瞿曇所稱讚・又為勸導・使人入住之聖慧蘊・為何者耶。』『如是心寂靜純淨・如是如是・乃至〔又我之識・依存於此〕與此關聯〔參照同經八三至八四〕。

二二

儒童・比丘如是・得心寂靜純淨・純潔無穢・無隨煩惱・柔軟堪忍・堅住不動時・因知見故・於一切心・引發引導・彼便知是事・「此身是色・四大所造・母父所生・飯粥積集・以無常、消耗、磨滅、破壞、壞滅為本性・而我之識・依存於此・與此聯關。」於彼慧中・亦有此也。

二三至二四

彼如是心寂靜純淨・如是乃至〔具足一切大肢、小肢、及與〕異根〔參照同經八五至八六〕。於彼慧中・亦有此也。

二五至三五

彼如是心寂純靜淨・如是乃至證知「生已盡・乃至無復來此生」〔參照同經八七至九八〕。

三六

儒童・比丘如是・心寂靜純淨・純潔無穢・無隨煩惱、柔軟堪忍・堅住不動時・因漏盡智・於一切心・引發引導・彼便如實知「此是苦・」「此是苦集・」「此是苦滅・」「此是趣苦滅道・」如實知「此是漏・」「此是漏集・」「此是漏滅・」「此是趣漏滅道。」如是知、如是見時・彼心自欲漏解脫・有漏解脫・無明漏解脫・得解脫時・生解脫智。證知「生已盡・梵行已立・所作已辦・無復來此生。」於彼慧中・亦有此也。

三七

儒童・是謂為彼世尊之所稱讚・又為勸導使人入住之聖慧蘊。唯於此中・無復須成辦者。』『希有也・阿難。未曾有也・阿難。復次阿難・所謂聖慧蘊者已圓滿・非不圓滿也。復次阿難・我於佛教之外沙門婆羅門中・未見有如是圓滿之聖慧蘊。可謂於此中・無復須成辦者。殊勝也・阿難。殊勝也・阿難。猶如使倒者得起・隱者得現・示道於迷・闇中來燈・有目得視・尊者阿難・正復如是・以種種方便・開示正法。阿難・我今歸依世尊瞿曇・又歸依法・又歸依僧。尊者阿難・唯願知我・自今已後・盡壽歸依為優婆塞』云。

堅固經第十一

一

如是我聞。一時世尊在那爛陀城婆婆利菴羅園中。爾時居士堅固・詣世尊所・禮敬世尊・於一面坐。時居士堅固・白世尊言・『世尊・此那爛陀城・殷盛豐樂・人民熾盛・城中之人・敬信世尊。善哉世尊・唯願世尊勑一比丘・以上人法・為現神通神變・則那爛陀城人・當益敬信世尊。』為是言時・世尊告居士堅固曰・『堅固・我實不教比丘等以如是法・謂「汝比丘等可為白衣在俗者・以上人法・現神通神變。」』

二

居士堅固・又復白世尊言・『世尊・我非意欲擾惱世尊・但猶一再白此事。世尊・此那爛陀城・殷盛豐樂・人民熾盛・城中之人・敬信世尊。善哉世尊・唯願世尊・勑一比丘・以上人法・為現神通神變・則那爛陀城人・當益敬信世尊。』世尊復告居士堅固曰・『堅固・我實不教比丘等以如是法・謂「汝比丘等・可為白衣在俗者・以上人法・現神通神變。」』

三

居士堅固・三復白世尊言・『世尊・我非意欲惱擾世尊・但猶一再白此事。世尊・此那爛陀城殷盛豐樂・人民熾盛・城中之人・敬信世尊。善哉世尊・唯願世尊・勑一比丘・以上人法・為現神通神變・則那爛陀城人・當益敬信世尊。』『堅固・我自識知體現而教

說者・為三種神變。云何三種。曰神通神變・觀察他心神變・及教誡神變是也。

四

堅固・云何・為神通神變。堅固・今有一比丘・現無量神通。能以一身・現作多身・能以一身・還作一身・若顯若隱・牆、壁、山嶽・通過無礙・如處空虛・出沒大地・如在水中・涉水不沈・如履地上・於空虛中趺坐駛行・如鳥附翼・夫謂日月・有大神力・與大威德・手能捫之・能以現身・立至梵天。或為得信歸依者見・彼一比丘能現無量神通・而以一身・現作多身・而以多身・還作一身・若顯若隱・牆、壁、山嶽・通過無礙・如處空虛・出沒大地・如在水中・涉水不沈・如履地上・於空虛中・趺坐駛行・如鳥附翼・夫謂日月・有大神力・與大威德手能捫之・能以現身・立至梵天。

五

彼得信歸依者・以其所見・語未信未歸依者言・「友・奇特哉・友・希有哉・沙門之大神通大威德也。我見一比丘・能現無量神通・而以一身・現作多身・如是乃至・能以現身・立至梵天。」彼未信未歸依者・將如是答彼得信歸依者言・「友・實有明呪・曰達馱梨。彼比丘者・以此明咒・現無量神通蓋能一身・現作多身・如是乃至能以現身・立至梵天也。」堅固・汝意云何・彼未信未歸依者・於彼得信歸依者・將為如是言不耶。』『世尊・將為如是言。』『堅固・是故我於神通神變・作過患觀・厭惡慚愧而避之也。

六

復次堅固云何為觀察他心神變。堅固今有一比丘・能觀諸有情・及他人之心・觀察心所・觀察尋伺・言「汝意如此・汝意如斯・汝心如是。」或為得信歸依者見・彼一比丘・能觀諸有情・及他人之心・觀察心所・觀察尋伺・言「汝意如此・汝意如斯・汝心如是」

七

彼得信歸依者・以其所見・語未信未歸依者言・「友奇特哉・友・希有哉沙門之大神通大威德也。我見一比丘・能觀諸有情・及他人

之心・觀察心所・觀察尋伺・言「汝意如是・汝意如是汝心如是。」」彼未信未歸依者・將如是答彼得信歸依者言・「友・有明咒曰摩尼柯。彼比丘者・以此明咒・觀諸有情・及他人心・觀察心所・乃至言「汝意如是・汝意如是・汝心如是。」」堅固・汝意云何。彼未信未歸依者於彼得信歸依者・將為是言不耶。』『世尊・將為如是言・』『堅固・是故我於觀察他心神變・作過患觀・厭惡慚愧・而避之也。

八

復次・云何為教誡神變。堅固・今有一比丘・為如是教誡・「汝等當如是尋思・勿如是尋思當如是作意・勿如是作意・當捨離此・達彼而住。」堅固・此實名為教誡神變也。

九至四三

復次堅固・今者如來・出現於世・〔如來〕是應供、等正覺、如是云云・〔參照沙門果經四〇至七四。〕

四四

捨此五蓋・觀自身者・便生歡喜・歡喜者生喜・懷喜者身安穩・身安穩便覺樂・樂則心入三昧。彼離諸欲・離不善法・有尋有伺・離生喜樂・入住初禪。彼已離生喜樂・潤漬其身・周遍盈溢・且復充滿・全身到處・無不普洽・離生喜樂〔參照同經七五〕。

四五

堅固譬如熟巧浴僕・或其弟子・於盥浴器而撒洗粉・以水漬調・洗粉受潤・因潤散碎・內外俱潤・以至周遍・無不廣普。如是堅固・離生喜樂・潤漬其身・周遍盈溢・且復充滿・全身到處・無不洽普・離生喜樂。堅固・此實名為教誡神變也〔參照同經七六〕。

四六至四九

〔參照同經七七至八〇〕。

五〇至五一

如是如是・入第四禪。乃至堅固・此實名為教誡神變也〔參照同經八一至八二〕。

五二

如是心寂靜純淨・無有煩惱・離隨煩惱・柔然將動・而恆安住於不動相中・爾時比丘・以心傾注於智見。如是如是・乃至堅固・此即名為教誡神變也〔參照同經八三〕。

五三至六六

如是如是・證知「生已盡・梵行已立・所作已辦・無復來此生。」堅固・此即名為教誡神變也〔參照同經八四至九八〕。

六七

堅固・此三種神變・我自識知・體現而教說者。堅固・昔於比丘教眾之中・一比丘心起如是念・「此等四大種・地水火風・於何處滅盡耶。」堅固・時彼比丘・統攝一心・而入於定・如趣天道・其路現前。

六八

堅固・爾時比丘・往彼四大王眾天所・問四大王眾天言・「卿等・此等四大種・地水火風・於何處滅盡。」堅固・如是問時・四大王眾天・答比丘言・「比丘・此等四大地水火風・於何處滅盡・吾等實不知之比丘・遠勝吾等者・有四大王。彼等當知・此等四大種・地水火風・於何處滅盡。」

六九

堅固・爾時比丘・往彼四大王所・問四大王言・「卿等・此等四大種・地水火風・於何處滅盡。」堅固如是問時四大王答比丘言・「比丘・此等四大・地水火風・於何處滅盡・吾等實不知之。比丘有天遠勝吾等・名曰三十三天。彼等當知此等四大種・地水火風・於何處滅盡。」

七〇

堅固・爾時比丘・往三十三天所・問三十三天言・「卿等・此等四大種・地水火風・於何處滅盡。」堅固・如是問時・三十三天・答比丘言・「比丘此等四大種・地水火風・於何處滅盡・吾等實不知之。比丘遠勝吾等者・有天主帝釋・名曰沙迦。此等四大種・地水火風・於何處滅盡・彼當知之。」

七一

堅固・爾時比丘・往帝釋天所・〔如是乃至〕「如是比丘・有天遠勝我・名曰夜摩。〔如是乃至・〕彼當知之。」

七二

堅固・爾時比丘・往夜摩天所。〔如是乃至・〕「如是比丘・有天子遠勝吾等・名曰須夜摩。〔如是乃至・〕彼當知之。」

七三

堅固・爾時比丘・往須摩天子所・〔如是乃至・〕「如是比丘・有天遠勝我・名曰覩史多。〔如是乃至・〕彼當知之。」

七四

堅固・爾時比丘・往覩史多天所・〔如是乃至・〕「如是比丘・有天子遠勝吾等・名曰覩史多天子〔如是乃至・〕彼當知之。」

七五

堅固・爾時比丘・往覩史多天子所・〔如是乃至・〕「如是比丘・有天遠勝我名曰樂變化天。〔如是乃至・〕彼當知之。」

七六

堅固・爾時比丘・往樂變化天所・〔如是乃至・〕「如是比丘有天子遠勝吾等・名曰妙化天子。〔如是乃至・〕彼當知之。」

七七

堅固・爾時比丘・往妙化天子所・〔如是乃至〕「如是比丘有天遠勝我・名曰他化自在天。〔如是乃至・〕彼當知之。」

七八

堅固・爾時比丘・往他化自在天所・〔如是乃至・〕「如是比丘有天子遠勝吾等。名曰自在天子。〔如是乃至・〕彼當知之。」

七九

堅固・爾時比丘・往自在天子所。〔如是乃至・〕「如是比丘・有天遠勝我。名曰梵眾天。〔如是乃至・〕彼當知之。」

八〇

堅固・時彼比丘・統攝一心而入於定・如趣天道・其路現前。堅固・爾時比丘・往梵眾天所・問梵眾天言・「卿等此等四大種・地水火風・於何處滅盡。」堅固・如是問時・梵眾天答比丘言・「比丘・此等四大種・地水火風於何處滅盡・吾等實不知之・比丘・有梵天大梵天。勝者、無能勝者、一切見者、支配者、自在者、作者、化作者、優越者、創造者、主宰者、已生未生者之父・彼遠勝吾等・此等四大種・地水火風・於何處滅盡・彼當知之。」「卿等・彼大梵天・今在何所。」「比丘・梵天何在何由〔住〕於何方・吾等實不知之。比丘・但現兆相・生光明・顯光耀・則梵天出現。生光明顯光耀・即梵天出現之前相也。」

八一

堅固・時彼大梵天・尋即出現。堅固・時彼比丘・往大梵天所・問梵天言・「卿・此等四大種・地水火風・於何處滅盡。」堅固・如是問時・彼大梵天答比丘言・「比丘・我為梵天、大梵天、勝者、無能勝者、一切見者、支配者、自在者、作者、化作者、優越者、創造者、主宰者、已生未生者之父也。」

八二

堅固・比丘又復問梵天言・「卿・我非問卿・「卿為梵天、大梵天、勝者、無能勝者、一切見者、支配者、自在者、作者、化作

者、優勝者、創造者、主宰者、已生未生者之父。」卿・我為問卿・「此等四大種・地水火風・於何處滅盡。」」堅固・彼大梵天・復答比丘言・「比丘・我為梵天、大梵天、勝者、無能勝者、一切見者、支配者、自在者、作者、化作者、優越者、創造者、主宰者、已生未生者之父。」

八三

堅固・比丘三復問彼大梵天言・「卿・我非問卿・「卿為梵天、大梵天、勝者、無能勝者、一切見者、支配者、自在者、作者、化作者、優越者、創造者、主宰者、已生未生者之父。」卿・我為問卿・「此等四大種・地水火風・於何處滅盡。」」堅固・時大梵天執比丘臂退於一隅・語比丘言・「比丘・於此世界中・梵眾天皆謂「不論任何物・梵天無不見・不論任何物・梵天無不知・不論任何物・梵天無不驗・」以是之故・於彼等前・我未說也。比丘・此等四大種・地水火風・於何處滅盡・我實不知。比丘・於此世界・捨彼世尊・而向餘者・索解此問・是汝之苦・亦汝之失。比丘・汝可往詣・彼世尊所・質此疑問・如世尊說・善受持之。」

八四

堅固・時彼比丘・譬如壯士・屈臂乍伸・伸臂乍屈頃・於梵天界・〔倏忽〕隱身・現於我前。堅固・時比丘・禮敬我・一面坐。堅固・彼比丘白我言・「世尊・此等四大種・地水火風・於何處滅盡。」

八五

堅固・我於如是問・答彼比丘言・「比丘・昔有航海者・攜鳥尋陸地・乘船航海洋・不見陸地時・由船放彼鳥・飛東南西北・既翔於上方・復翱於四維。彼若見陸地・飛去固確實・若不見陸地・彼還歸船來。比丘・汝亦如是・乃至上往梵天質疑索解・竟不成就・還來我前。比丘・汝今不應如是問・「世尊・此等四大種・地水火風・於何處滅盡・」比丘・應如是問・

「於何不堅牢　水與地火風　並長短粗細　淨以及不淨　於何名與色　永滅令無餘」

今答如是。

「識無形無量　遍通一切處　於此水與地　火風不堅牢　長短與粗細　不淨淨亦然
於此名與色　永滅令無餘　由於識滅故　〔一切〕令永滅」」』佛陀如是說。〔爾時〕充滿喜悅居士堅固・聞〔佛〕所說・心生歡喜。

露遮經第十二

一

如是我聞。一時世尊・與大比丘眾五百人俱・遊行拘薩羅國・入娑羅婆提村。時露遮婆羅門・領有娑羅婆提村。〔其村〕人民熾盛・草木〔繁茂〕・水〔有利便・五〕穀豐饒・為王領地。拘薩羅國波斯匿王・即封此村與婆羅門・以為淨施。

二

爾時露遮婆羅門・起如是惡見・謂『諸有沙門・或婆羅門・苟知善法・則其所證善法・不應為他人說。所以然者・人於他人・能何用為。此事猶如壞故縛已・更造新縛。我說斯是貪慾惡法。所以然者・人於他人・能何用為。』

三

時露遮婆羅門・聞〔如是言〕・『自釋迦族出家釋子・沙門瞿曇・遊行拘薩羅國・與大比丘五百人俱・來娑羅婆提村。彼世尊瞿曇・名稱如是流聞天下・『此世尊者・是應供、等正覺、明行足、善逝世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛陀、世尊也。』彼於此世界・天界、魔界、梵天界・於此大眾・諸天、世人、沙門、婆羅門・自覺自證・〔為他人〕說。彼所說法・初善中善・亦復終善・文義具足・說示梵行・完全清淨。如此應供・宜〔往〕覲見。』

四

爾時露遮婆羅門・語剃頭師毗史迦言・『毗史迦・今持我聲・詣沙門瞿曇所・敬候沙門瞿曇・無病息災・氣力安住・可如是言・「瞿曇・露遮婆羅門・敬候世尊・無病息災・氣力安住。尊者瞿曇・受露遮婆羅門明日之饗・請與比丘眾・俱共受食。」』

五

剃頭師毗史迦・報露遮婆羅門言・『宜也尊者。』即到世尊所・禮世尊・一面坐。剃頭師毗史迦・坐一面已・白世尊言・『世尊・露遮婆羅門・敬候世尊・無病息災・氣力安住・命如是言・「世尊・受露遮婆羅門明日之饗・請與比丘眾・俱共受食。」』爾時世尊・默然受請。

六

時剃頭師毗史迦・知世尊許可・起座禮世尊・作右遶禮・至露遮婆羅門所・而告之曰・『尊者・我等以卿言白世尊・「世尊・露遮婆羅門・敬候世尊無病息災・氣力安住・命如是言・「世尊・受露遮婆羅門明日之饗・請與比丘眾・俱共受食。」」』

七

露遮婆羅門・即於翌日・在己舍中・具辦甘美噉食噉食・語剃頭師毘史迦言・『毘史迦・可詣沙門瞿曇所・以時白言・「瞿曇・時已到・食已辦。」』剃頭師毘史迦・報露遮婆羅門言・『宜也尊者。』即詣世尊所・禮世尊・一面立。剃頭師毘史迦以時白世尊言・『世尊・時已到・食已辦。』爾時世尊・清旦整下衣・攜上衣持鉢・與比丘眾俱・往娑羅婆提村。

八

時剃頭師毘史迦隨侍世尊。白世尊言・『露遮婆羅門・起如是惡見・謂「諸有沙門或婆羅門・苟知善法・則其所證善法・不應為他人說。所以然者・人於他人・能何用為。此事猶如壞故縛已・更造新縛。我說斯是貪慾惡法。所以然者・人於他人・能何用為。」唯願世尊・除彼惡見。』『毘史迦・將如汝願・毘史迦・將如汝願。』

九

爾時世尊・至露遮婆羅門舍・就座而坐。露遮婆羅門・以甘美噉食噉食・手自斟酌・供養佛陀及比丘眾。世尊食訖・去鉢行澡水畢・時露遮婆羅門・取一小牀・於一面坐。世尊告露遮婆羅門曰・『露

遮・汝起惡見言・「諸有沙門或婆羅門・苟知善法・則其所證善法・不應為他人說。所以然者・人於他人・能何用為。此事猶如壞故縛已・更造新縛。我說斯是貪慾惡法。所以然者・人於他人・能何用為。」汝實起如是惡見耶。』『實爾瞿曇。』

一〇

『露遮・汝意云何。娑羅婆提村・汝所領有耶。』『實爾瞿曇。』『露遮・若有人言・「露遮婆羅門・領有娑羅婆提村・是村所產・唯獨露遮為應享有・勿給餘人・」則於依汝生活眾中・彼豈不為障害者耶。』『瞿曇・是障害者。』『露遮・為障害者・是於彼等齎與利益恩惠或不齎與耶。』『瞿曇・彼不齎以利益恩惠也。』『不齎以利益恩惠者・是於彼等起慈心耶・起害心耶。』『瞿曇・起害心也。』『起害心者・為邪見耶。抑正見耶。』『瞿曇・是邪見也。』『露遮・我說邪見〔之人〕・當墮地獄・或畜生道・唯此二道・必墮其一。

一一

露遮・汝意云何。迦尸及拘薩羅國・為波斯匿王所領有耶。』『實爾瞿曇。』『露遮・若有人言・「波斯匿王・領有迦尸及拘薩羅國・迦尸及拘薩羅國之所產・唯波斯匿王為應享有・勿給餘人・」則於依波斯匿王、生活之汝身及餘眾人・彼豈不為障害者耶。』『瞿曇・是障害者。』『為障害者・是於彼等・齎與利益恩惠耶・抑不齎與耶。』『瞿曇・彼不齎以利益恩惠也。』『不齎以利益恩惠者・是於彼等起慈心耶・抑起害心耶。』『瞿曇・起害心也。』『起害心者・為邪見耶・抑正見耶。』『瞿曇・是邪見也。』『露遮・我說邪見〔之人・〕當墮地獄・或畜生道・唯此二道・必墮其一。』

一二

『如是露遮・若有人言・「露遮婆羅門・領有娑羅婆提村・是村之所產・唯露遮為應享有・勿給餘人。」則於依汝生活眾中・彼為障害・為障害者・不齎以利益恩惠・不齎以利益恩惠者・是起害心・起害心者・為邪見也。

一三

露遮・若有人如是言・「諸有沙門或婆羅門・苟知善法・則其所證善法・不應為他人說・所以然者・人於他人・能何用為・此事猶如壞故縛已・更造新縛・我說斯是貪慾惡法・所以然者・人於他人・能何用為・」是則於從如來所教之法與律・證預流果・證一來果・證不還果・證阿羅漢〔果・〕達最勝地之良家眾・〔又〕於積生天行・而生天界之眾人中・彼為障害・為障害者・不齎以利益恩惠・不齎以利益恩惠者・是起害心・起害心者・為邪見也。露遮・我說邪見〔之人〕・當墮地獄・或畜生道・唯此二道・必墮其一。

一四

露遮・若有人如是言・「波斯匿王・領有迦尸及拘薩羅國・迦尸及拘薩羅之所產・唯波斯匿王為能享有・勿給餘人・」則於依波斯匿王生活之汝身及餘眾人・彼為障害・為障害者・不齎以利益恩惠・不齎以利益恩惠者・是起害心・起害心者・為邪見也。

一五

露遮・若有人如是言・「諸有沙門或婆羅門・苟知善法・則其所證善法・不應為他人說・所以然者・人於他人・能何用為・此事猶如壞故縛已・更造新縛・我說斯是貪慾惡法・所以然者・人於他人・能何用為・」則於從如來所教之法與律・證預流果・證一來果・證不還果・證阿羅漢〔果・〕達最勝地之良家眾・〔又〕於積生天行・而生天界之眾人中・彼為障害・為障害者・不齎以利益恩惠・不齎以利益恩惠者・是起害心・起害心者・為邪見也。露遮・我說邪見〔之人〕・當墮地獄・或畜生道・唯此二道・必墮其一。

一六

露遮・世有三師・應受責難・難如此師者・其所責難・合乎真實・無有罪也。云何為三〔師。〕露遮・茲有一師・出家修道・然所志望之沙門果・未得成就・而為諸弟子說法言・「此於汝等為有利益・此於汝等為有福樂。」諸弟子不聽彼〔言・〕不傾耳聽・不生菩提心・捨離師教而進〔己道。〕彼得如是受責難言・「尊者出家修道。然所志望之沙門果・未得成就・而為諸弟子說法言・「此於汝等為有利益・此於汝等為有福樂。」諸弟子不聽是〔言・〕不傾耳聽・不生菩提心・捨離師教而進〔己道。〕此事猶如・熱衷於欲逃逝之女・又如欲抱背面之女・我說斯是貪慾惡法。所以然者・人

於他人・能何用為。」露遮・是為應受世人責難之第一師・而難此師者・其所責難・合乎真實・無有罪也。

一七

露遮・復有一師・出家修道・然所志望之沙門果・未得成就・而為諸弟子說法言・「此於汝等為有利益・此於汝等為有福樂。」諸弟子聽彼〔之言・〕傾耳而聽・生菩提心・而離師教不進〔己道。〕彼得如是受責難言・「尊者出家修道・然所志望之沙門果・未得成就・而為諸弟子說法言・「此於汝等為有利益・此於汝等為有福樂。」諸弟子聽受是〔言・〕傾耳而聽・生菩提心・而離師教不進〔己道。〕此事猶如捨己之田・鋤他田草・我說斯是貪慾惡法。所以然者・人於他人・能何用為。」露遮・是為應受世人責難之第二師・而難此師者・其所責難・合乎真實・無有罪也。

一八

露遮・復有一師・出家修道・得所志望之沙門果為諸弟子而說法言・「此於汝等為有利益・此於汝等為有福樂。」諸弟子不聽彼〔言・〕不傾耳聽・不生菩提心・捨離師教而進〔己道。〕彼得如是受責難言・「尊者出家修道・得所志望之沙門果・而為諸弟子說法言・「此於汝等為有利益・此於汝等為有福樂。」然諸弟子不聽是〔言・〕不傾耳聽・不生菩提心・捨離師教而進〔己道。〕此事猶如壞故縛已・更造新縛・我說斯是貪慾惡法。所以然者・人於他人・能何用為。」露遮・是為應受世人責難之第三師・而難此師者・其所責難・合乎真實・無有罪也。露遮・彼等為應受世人責難之三師・而難此三師者・其所責難・合乎真實・無有罪也。』

一九至五三

露遮婆羅門・聞如是說已・白世尊言・『瞿曇・世有不可責難之師耶。』『露遮・世有不可責難之師也。』『瞿曇・世之不可責難之師・為云何〔師〕耶。』『露遮・今者如來・出現於世・〔如來〕是應供、等正覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛陀、世尊也・如是云云〔參照沙門果經四〇至七四〕。

五四

捨此五蓋・觀自己者・便生歡喜・歡喜者生喜・懷喜者身安穩・身安穩便覺樂・樂則心入三昧。彼離諸欲・離不善法・有尋有伺・離生喜樂・入住初禪。彼已離生喜樂・潤漬其身・周遍盈溢・且復充滿・全身到處・離生喜樂・無不普洽〔參照同經七五〕。

五五

露遮・譬如熟巧浴僕・或其弟子・〔如是乃至・〕全身到處・離生喜樂・無不普洽〔參照同經七六〕。露遮・凡為師者・弟子承其教・能達如是最勝之地・則此種師・為世之不可責難之師。而難此師者・其所責難・不合真實・為有罪也。

五六至六一

露遮・復有比丘・滅除尋伺・內心靜安・心成專一・無尋無伺・定生喜樂・入第二禪・乃至入第三禪・乃至入第四禪〔參照同經七七至八二〕。露遮・凡為師者・弟子承其教・能達如是最勝之地・則此種師・為世之不可責難之師。而責難此師者・其所責難・不合真實・為有罪也。

六二

如是心寂靜純淨・無有煩惱・離隨煩惱・柔然將動・而恒安住於不動相中・爾時比丘・以心傾注於智見。露遮・凡為師者・弟子承其教・能達如是最勝之地・則此種師・為世之不可責難之師。而難此師者・其所責難・不合真實・為有罪也。

六三至七五

如是云云〔參照同經八四至九六。〕

七六至七七

如是心寂靜純淨・無有煩惱・離隨煩惱・柔然將動・而恒安住於不動相中・爾時比丘・以心傾注於漏盡智。彼如實證知「此是苦・」乃至證知「生已盡・梵行已立・所作已辦・無復來此生」〔參照同經九七及九八。〕露遮・凡為師者・弟子承其教・能達如是最勝之

地・則此種師・為世之不可責難之師。而難此師者・其所責難・不合真實・為有罪也。』

七八

露遮婆羅門・聞如是說時・白世尊言・『瞿曇・猶如有人・見他人將墮入地獄・攫其頭髮・救而安之於地上・世尊瞿曇・亦復如是・見將墮入地獄中者・救而安之於地上。微妙哉瞿曇・微妙哉瞿曇。譬如使倒者得起・隱者得現・迷途者示之以道・冥室燃燈・有目得視・世尊瞿曇・亦復如是・以無數方便・說法示教。我〔今〕歸依世尊瞿曇・歸依法及比丘僧。世尊瞿曇・唯願攝受我・自今已後・盡壽歸依為優婆塞。』

三明經第十三

一

如是我聞。一時世尊・欲於拘薩羅國人間遊化・與大比丘眾五百人俱・至拘薩羅之摩那沙迦多婆羅門村・止住是村之北・阿致羅筏底河邊之菴羅林。

二

爾時摩那沙迦多村・住有名聞甚高而又富裕諸婆羅門。如商伽婆羅門・多梨車婆羅門・沸伽羅娑羅婆羅門・生漏婆羅門・忉提耶婆羅門等・及餘諸婆羅門・皆為名聞甚高而又富裕之人也。

三

時有婆悉吒及跋羅陀皤闍二人・為休養故・遊步諸方・互共論議正道邪道。

四

青年婆悉吒曰・『此為正道・此道真正。欲解脫者・行此正道・可入梵天・得與共住。此是沸伽羅娑羅婆羅門所說。』

五

青年跋羅陀皤闍曰．『此為正道．此道真正。欲解脫者．行此正道．可入梵天．得與共住。此是多梨車婆羅門所說。』

六

青年婆悉咤不能說服青年跋羅陀皤闍．而青年跋羅陀皤闍亦不能說服青年婆悉咤。

七

時青年婆悉咤語青年跋羅陀皤闍曰．『跋羅陀皤闍．彼釋迦族．出家釋子．沙門瞿曇現住摩那沙迦多村北．阿致羅底河邊之菴羅林。世尊瞿曇．有美名稱．遍流於世．「彼世尊者．是應供、等正覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛陀．世尊也。」跋羅陀皤闍．我等當詣沙門瞿曇所．共向瞿曇．問如是義。沙門瞿曇．有所言說．我等如言．當共奉持。』青年跋羅陀皤闍答青年婆悉咤曰．『唯然。』

八

於是青年婆悉咤及跋羅陀皤闍．往世尊所。至世尊所．禮敬問訊．於一面坐。坐一面已．青年婆悉咤問世尊曰．『瞿曇．今者我等．遊步諸方．互共論議正道邪道。我言「此為正道．此道真正。欲解脫者．行此正道．可入梵天．得與共住。此是沸伽羅娑羅婆羅門所說。」而跋羅陀皤闍言．「此為正道．此道真正。欲解脫者．行此正道．可入梵天．得與共住。此是多梨車婆羅門所說。」瞿曇．於是互有論爭．互有異議．各持所說．莫衷一是。』

九

『婆悉咤．汝今如是言．「此為正道．此道真正。欲解脫者．行此正道．可入梵天．得與共住。此是沸伽羅娑羅婆羅門所說。」而青年跋羅陀皤闍．作如是言．「此為正道．此道真正。欲解脫者．行此正道．可入梵天．得與共住。此是多梨車婆羅門所說。」婆悉咤．汝等論爭異議．各異所說．為何者耶。』

一〇

『瞿曇・所說實為正道邪道也。瞿曇・設若諸婆羅門・〔例如〕阿陀利耶婆羅門・提提利耶婆羅門・瞻陀迦婆羅門・瞻陀筏婆羅門・沸羅服摩遮利耶婆羅門・說種種道・而此等求解脫之諸婆羅門・各行其道・能盡入梵天・得與共住不。瞿曇・猶如村城附近・有多種異道・皆向村城。瞿曇・諸婆羅門・〔例如〕阿陀利耶婆羅門・提提利耶婆羅門・瞻陀迦婆羅門・瞻陀筏婆羅門・沸羅服摩遮利耶婆羅門・實亦如是・說種種道・而此等求解脫者・各行其道・能盡入梵天・得與共住不。』

一一

『婆悉吒・汝言「彼等能至梵天」耶。』『瞿曇・我言「彼等能至梵天。」』『婆悉吒・汝言「彼等能至梵天」耶。』『瞿曇・我言「彼等能至梵天。」』『婆悉吒・汝言「彼等能至梵天」耶。』『瞿曇・我言「彼等能至梵天。」』

一二

『婆悉吒・通達三明之諸婆羅門中・亦有一婆羅門・得見梵天者不。』『不也瞿曇・無有見者。』『婆悉吒・通達三明之諸婆羅門中・亦有一師・得見梵天者不。』『不也瞿曇・無有見者。』『婆悉吒・通三明之諸婆羅門中・亦有師之師・得見梵天者不。』『不也瞿曇・無有見者。』『婆悉吒・通三明之諸婆羅門中・亦有七世先師・得見梵天者不。』『不也瞿曇・無有見者。』

一三

『然則婆悉吒・通達三明之婆羅門中・有創作聖歌・傳持此之諸古仙。今諸三明婆羅門・不過〔隨古仙教・〕諷詠此等古仙所遺讚歌、歌詠、詩書・重誦其歌・重說其語而已。若斯古仙・如阿咤摩、婆摩、婆摩提婆、毘婆審咤、耶婆提伽、鴦耆羅、跋羅陀皤闍、婆悉吒、迦葉、婆咎・曾為如是言耶・「梵天在何處・從循何道・得詣梵天・向於何處・得至梵天・於如是問・我等知之・我等見之。」』『不也瞿曇・無有言者。』

一四

『婆悉吒・如是三明婆羅門中・無一婆羅門見梵天者。三明婆羅門中・無有一師・見梵天者。三明婆羅門中・無一其師之師・見梵天者。三明婆羅門中・七世先師・無有見梵天者。三明婆羅門中・有創作聖歌・傳持此之諸古仙。今諸三明婆羅門・不過〔隨古仙教・〕諷詠此等古仙所遺讚歌、歌詠、詩書・重誦其歌・重說其語而已。若斯古仙・如阿咤摩、婆摩、婆摩提婆、毘婆審咤、耶摩提伽、鴦耆羅、跋羅陀皤闍、婆悉吒、迦葉、婆咎・不曾為如是言・『梵天在何處・從循何道・得詣梵天・向於何處・得至梵天・於如是問・我等知之・我等見之。』然彼諸三明婆羅門・為如是言『此實正道・此道真正・求解脫者・行此正道・可入梵天・得與共住・言雖如是・我等猶未知見・唯隨此種教言・而說得〔與梵天〕共住道耳。』婆悉吒・於汝意云何。諸三明婆羅門・設如是言・無意義不。』『誠然瞿曇。諸三明婆羅門・設如是言・無意義也。』

一五

『婆悉吒・彼諸三明婆羅門・以不自知不自見之教・說〔與梵天〕能得共住之道・曰・『此實正道・此道真正・求解脫者・行此正道・可入梵天・得與共住・』無是理也。婆悉吒・猶如盲人・次第踵接・排成一列・其先者不能見・中者亦不能見・後者亦不能見。婆悉吒・諸三明婆羅門之言・有若盲人・如是踵列・其先者不見・中者亦不見・後者亦不見。此諸三明婆羅門之言・誠屬可笑・有名無實・空虛言也・虛妄言也。

一六

婆悉吒・於意云何。諸三明婆羅門・覩見日月・諸餘之人・亦見日月。於日月出沒時・合掌禮敬・祈禱讚嘆・面向日月出沒處不。』『唯然瞿曇・諸三明婆羅門・覩見日月・諸餘之人・亦見日月。於日月出沒時・合掌禮敬・祈禱讚嘆・面向日月出沒處所。』

一七

『婆悉吒・於意云何。諸三明婆羅門・覩見日月・諸餘之人・亦見日月。於日月出沒時・合掌禮敬・祈禱讚嘆・面向日月出沒處所。而謂「此為正道・此道真正。求解脫者・行此正道・可至日月・得與共住・」得作如是言不・教示應得與日月共住之道不。』『不也瞿曇・不得作如是說言。』

一八

『婆悉吒・諸三明婆羅門・見彼日月・諸餘之人・亦見日月。於日月出沒時・合掌禮敬・祈禱讚嘆・面向日月出沒處所。於『此為正道・此道真正。求解脫者・行此正道・可至日月・得與共住。』彼等不能如是言・不能說與日月得共住道。復次諸三明婆羅門・何能得見梵天耶。復次諸三明婆羅門之師・無有得見梵天者。復次・諸三明婆羅門・其師之師・無有得見梵天者。復次諸三明婆羅門・七世先師・亦無得見梵天者。而諸三明婆羅門中・有創作聖歌・傳持此之諸古仙。今諸三明婆羅門・不過〔隨古仙教・〕諷詠此等古仙所遺讚歌、歌詠、詩書・重誦其歌・重說其語而已。若斯古仙・如阿咤摩、婆摩、婆摩提婆、毘婆審咤、耶摩提伽、鴦耆羅、跋羅陀皤闍、婆悉吒、迦葉、婆咎・不為如是言・『梵天在何處・從循何道・得詣梵天・向於何處・得至梵天・於如是問・我等知之我等見之。』然彼諸三明婆羅門・為如是言・『此實正道・此道真正・求解脫者・行此正道・可入梵天・得與共住・言雖如是・我等猶未知見・唯隨此種教言・而說得與梵天共住道耳。』婆悉吒・於汝意云何。諸三明婆羅門・設如是言・實為無意義不。』『誠然瞿曇。諸三明婆羅門・設如是言・無意義也。』『然也婆悉吒。彼諸三明婆羅門・以不自不知自見之教・說〔與梵天〕能得共住之道・曰・「此實正道・此道真正。求解脫者・行此正道・可入梵天・得與共住・」無是理也。

一九

婆悉吒・設有人言・「我於此處絕麗美女・有所欲望。」餘人問彼・「噫・君・汝於此地絕麗美女・有所欲望。汝知彼女・屬何種姓・剎帝利、婆羅門、吠舍、首陀羅耶。」彼聞是問・答曰「不知。」人又問彼・「噫・君・汝於此地絕麗美女・有所欲望。汝知美女之名姓耶・彼女身軀・長耶短耶・皮色黑耶・暗黑色耶・青白為顏耶・所居何村何鎮何市耶。」彼聞是問・答曰「不知。」人又問彼・「噫・君・汝所欲望者・汝不知之耶・亦不見之耶。」彼聞是問・答曰「唯然。」婆悉吒・於汝意云何。其人之言・設如是者・實為無意義不。』『唯然瞿曇。其人之言・設如是者・實無意義也。』

二〇

『婆悉咤・諸三明婆羅門・實亦如是・無有得見梵天者。復次諸三明婆羅門之師・無有得見梵天者。復次諸三明婆羅門・其師之師・無有得見梵天者。復次諸三明婆羅門・七世先師・亦無得見梵天者。而諸三明婆羅門中・有創作聖歌・傳持此之諸古仙。今諸三明婆羅門・不過〔隨古仙教・〕諷詠此等諸仙所遺讚歌、歌詠、詩書・重誦其歌・重說其語而已。若斯古仙・如阿咤摩、婆摩、婆摩提婆、毘婆審咤、耶摩提伽、鴦耆羅、跋羅陀皤闍、婆悉咤、迦葉、婆咎・不曾為如是言・「梵天在何處・從循何道・得詣梵天・向於何處・得至梵天・於如是問・我等知之・我等見之。」然彼諸三明婆羅門・為如是言「此實正道・此道真正・求解脫者・行此正道・可入梵天・得與共住。言雖如是・我等猶未知見・唯隨此種教言・說與梵天共住道耳。」婆悉咤・於汝意云何。諸三明婆羅門・設如是言・實為無意義不。』『誠然瞿曇。諸三明婆羅門・設如是言・無意義也。』『然也婆悉咤・彼諸三明婆羅門・以不自知不自見之教・說〔與梵天〕能得共住之道・曰・『此為正道・此道真正求解脫者・行此正道・可入梵天・得與共住・』無是理也。

二一

婆悉咤・今有一人・於四交衢道上・欲造一梯而登高樓。餘人問彼・「噫・君・汝造梯欲登高樓。此樓在何所・東南西北耶。知其高耶低耶・抑適中耶。」彼聞是問・答曰「不知。」人又問彼・「噫・君・汝自造梯・欲登高樓・而此〔高樓・〕不見不知耶。」彼聞是問・答曰「唯然・不見不知。」婆悉咤・於汝意云何。此人之言・設如是者・實為無意義不。』『唯然瞿曇。此人之言・設如是者・實無意義也。』

二二

『婆悉咤・諸三明婆羅門・實亦如是・無有得見梵天者。復次諸三明婆羅門之師・無有得見梵天者。〔如是乃至〕諸三明婆羅門・設如是言・實為無意義不。』『誠然瞿曇。諸三明婆羅門・設如是言・無意義也。』

二三

『婆悉咤・如是彼諸三明婆羅門・以不自知不自見之教・說〔與梵天〕能得共住之道〔云云・〕無是理也。

二四

婆悉咤・譬如阿致羅筏底河・水漲平岸・鳥來得飲。時有一人・於河彼岸・將有所事・心有所望・欲渡此河而往彼方。立於此岸・喚彼岸言・「彼處之岸・其來此方。彼處之岸・其來此方。」婆悉咤・於汝意云何。縱令此人・喚望祈求・彼處之岸・寧來此方不。』『不也瞿曇・不來此也。』

二五

『婆悉咤・諸三明婆羅門・亦復如是・捨其應修婆羅門之法・執修非婆羅門法・而唱是言・「我等喚因陀羅。我等喚蘇摩。我等喚婆留那。我等喚沙那。我等喚生主。我等喚梵天。我等喚摩醯提。我等喚夜摩。」婆悉咤・彼諸三明婆羅門・捨其應修婆羅法・執修非婆羅門法・而〔謂〕因呼喚、願求、希望、歡悅故・身滅死後・共住梵天・實無是理也。

二六

婆悉咤・譬如阿致羅筏底河・水漲平岸・鳥來得飲。時有一人・於河彼岸・將有所事・心有所望・欲渡此河而往彼方。然而其人・在河此岸・臂為堅鏈・緊固反縛。婆悉咤・於汝意云何。其人猶能從河此岸・達彼岸不。』『不也瞿曇・不能達也。』

二七

『復次婆悉咤・此等五欲・亦復如是・於聖戒中・稱為鉤鎖・又稱繫縛。云何為五。眾生所期・眼所見色・起欲、愛、著・感於愛著・而生愛樂。於耳所聞聲・如是如是・鼻所嗅香・如是如是・舌所嘗味・如是如是・身觸所觸・起欲、愛、著・感於愛著・而生愛樂。婆悉咤・此等五欲・於聖戒中・實稱鉤鎖・又稱繫縛。婆悉咤・諸三明婆羅門・實執著於此等五欲・為惑為囚・不見危險・其於是等・無自在智而自滿足。

二八

婆悉咤・彼諸三明婆羅門・實捨其應修婆羅門法・執修非婆羅門法・執著五欲・為惑為囚・不見危險・其於是等・無自在智而自滿

足・彼為愛欲之所繫縛。〔謂〕彼等身滅死後・得共住梵天・無是理也。

二九

婆悉咤・譬如阿致羅筏底河・水漲平岸・鳥得來飲。時有一人・於河彼岸・將有所事・心有所望・欲渡此河而往彼方。其人在河此岸・襆被偃臥・蒙首蓋身。婆悉咤・於汝意云何。其人果能從河此岸・達彼岸不。』『不也瞿曇・不能達也。』

三〇

『婆悉咤・此等五蓋・亦復如是・於聖戒中・曰障曰蓋・曰妨曰礙。云何為五。貪欲、瞋恚、睡眠、掉悔、及疑是也。婆悉咤・此等五蓋・於聖戒中・實可稱曰・障、蓋、妨、礙。婆悉咤・諸三明婆羅門・實捨應修婆羅門法・執修非婆羅門法・彼為五蓋・所障所蓋・所妨所礙。〔謂〕彼等身滅死後・得共住梵天・無是理也。

三一

婆悉咤・於汝意云何。汝亦頗聞・可尊可敬年長之師諸婆羅門・其所說所傳者・為何如耶。梵天有愛著耶・無愛著耶。』『無愛著也・瞿曇。』『有怨心耶・無怨心耶。』『無怨心也・瞿曇。』『有瞋心耶・無瞋心耶。』『無瞋心也・瞿曇。』『有恨心耶・無恨心耶。』『無恨心也・瞿曇。』『得自在耶・不得自在耶。』『得自在也・瞿曇。』

三二

『婆悉咤・於汝意云何。諸婆羅門有愛著耶・無愛著耶。』『有愛著也・瞿曇。』『有怨心耶・無怨心耶。』『有怨心也・瞿曇。』『有瞋心耶・無瞋心耶。』『有瞋心也・瞿曇。』『有恨心耶・無恨心耶。』『有恨心也・瞿曇。』『得自在耶・不得自在耶。』『不得自在也・瞿曇。』

三三

『婆悉咤・如是諸三明婆羅門有愛著・梵天無愛著。諸三明婆羅門有愛著・而猶得與無愛著之梵天・共行住不。』『不也瞿曇・無是事也。』

三四

『善哉婆悉咤・〔謂〕有愛著之彼諸三明婆羅門・身滅死後・得與無愛著之梵天共住・無是理也。

三五

婆悉咤・實亦如是・諸三明婆羅門有怨心・梵天無怨心。乃至諸三明婆羅門有瞋心・梵天無瞋心。乃至諸三明婆羅門不得自在・梵天得自在。諸三明婆羅門・不得自在・而猶得與得自在之梵天・共行住不。』『不也瞿曇・無是事也。』

三六

『善哉婆悉咤・〔謂〕不得自在之彼諸三明婆羅門・身滅死後・得與得自在之梵天共住・無是理也。婆悉咤・由是言之・諸三明婆羅門・以邪道為正道・步趨邪道則身沈・身沈遂身滅・履乾燥地・如渡河中。是故諸三明婆羅門・所有三明・等於沙漠・形同叢林・〔齎致〕不幸者也。』

三七

婆悉咤・聞如是說・白世尊言・『瞿曇・我聞「沙門瞿曇・明識與梵天得共住之道。」』『婆悉咤・於汝意云何。摩那沙迦多村・距此近而不遠耶。』『唯然瞿曇・摩那沙迦多村・距此近而不遠。』『婆悉咤・於汝意云何。茲若有人・生於是村・長於是村・暫時離住其村之地・餘人問彼・赴村道徑。婆悉咤・彼生是村・長於是村・今聞人問・赴村道徑・有遲疑耶。』『不也瞿曇・無有遲疑。所以者何・生於是村・長於是村者・赴村道徑・能盡知故。』

三八

『婆悉咤・正使生於是村・長於是村者・聞人問彼・赴村道徑・或有遲疑・而若如來・聞人問梵天界事・或達梵天界道・則無有遲

疑。婆悉咤・我知梵天・知梵天界・又知達此之道・我之知此・一如達梵天界・生梵天界者。』

三九

青年婆悉咤・聞如是說・白世尊言・『瞿曇・我聞「沙門瞿曇・明識與梵天得共住之道。」善哉・唯願世尊瞿曇・為我等故・開示與梵天得共住之道・於婆羅門而施拔濟。』『婆悉咤・然則諦聽當善憶念・將為汝說。』婆悉咤・報世尊言『唯然。』

四〇

世尊言曰・『婆悉咤・今者如來・出現於世・〔如來〕是應供、等正覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊也。如來於此世界・天界、魔界、梵天界・於此大眾・諸天、世人、沙門婆羅門・獨自證悟・而為說示。如來宣說教法・初善、中善、終亦善・文義具足・示教梵行・完全清淨・無與倫比〔參照沙門果經四〇〕。

四一

若長者・若長者子・若生於餘地〔次低〕種姓者・聽受如來教法・彼等聽受已・信仰如來・得信仰故・作如是念・「障礙哉・塵道家居。自在哉・出家生活。專修梵行・完全清淨・耀如螺鈿・若處居家・殊非易易。今我寧可剃除鬚髮・著袈裟衣・離家出家」〔參照同經四一〕。

四二

如是出家者・以波羅提木叉制禁・永住持戒・精勤正行・雖於小罪亦見怖畏・受持學處而自修學。身業語業・清淨具足・營淨生活・具足戒行・諸根之門・悉為守護・具足正念正智・自知滿足〔參照同經四二〕。

四三至七五

婆悉咤・云何比丘具足戒行。今有比丘・捨殺離殺・如是如是・捨離五蓋・乃至樂則心入三昧。乃至離生喜樂・無不普洽。

七六

彼以慈心・在於一方・遍滿而住。同向第二、第三、第四〔方處・〕遍滿而住。如是・在上下四側・一切方處・向具有一切世界・悉以廣大無邊・無怨無瞋之慈心・遍滿而住。

七七

復次婆悉咤・譬如法螺名手・氣力強盛・其聲殊易響澈四方・婆悉咤・以成滿之慈行・以心解脫・實亦如是・於欲界業・無所餘剩。婆悉咤・此實得與梵天共住之道也。

七八

婆悉咤・比丘住於悲心・如是如是。住於喜心・如是如是。住於捨心・遍滿一方。同向第二、第三、第四〔方處・遍滿而住。〕如是・在上下四側・一切方處・向具有一切世界悉以廣大無邊・無怨無瞋之捨心・遍滿而住。

七九

婆悉咤・譬如法螺名手・氣力強盛・其聲殊易響澈四方・婆悉咤・以成滿之捨心・以解脫心・實亦如是・欲界所業・無所餘剩。此實得與梵天共住之道也。

八〇

婆悉咤・於汝意云何。如是而住之比丘・有愛著耶・無愛著耶。』『無愛著也・瞿曇。』『有怨心耶・無怨心耶。』『無怨心也・瞿曇。』『有瞋心耶・無瞋心耶。』『無瞋心也・瞿曇。』『有恨心耶・無恨心耶。』『無恨心也・瞿曇。』『得自在耶・不得自在耶。』『得自在也・瞿曇。』

八一

『婆悉咤・如是・比丘無愛著・梵天無愛著。無愛著之比丘得與無愛著之梵天・共行住耶。』『唯然世尊・〔得與梵天共行住也。〕』『善哉婆悉咤・當如是言・無愛著之比丘・身滅死後・得

與無愛著之梵天共住・理所應爾。婆悉咤・如是比丘無怨心・梵天無怨心・乃至比丘無瞋心・梵天無瞋心・乃至比丘無恨心・梵天無恨心。比丘得自在・梵天亦得自在・得自在之比丘・得與得自在之梵天・共行住耶。』『唯然瞿曇・〔得與梵天共行住也。〕』『善哉婆悉咤・當如是言・得自在之比丘・身滅死後・得與得自在之梵天共住・理所應爾。』

八二

青年婆悉咤與跋羅陀幡闍・聞是說已・白世尊言・『嗚呼瞿曇・是殊勝教也。嗚呼瞿曇・是殊勝教也。瞿曇・猶如使倒者得起・隱者得現・迷途者示之以道・冥室燃燈・有目得視・可敬瞿曇・亦復如是・以無數方便・說法示教。今者我等歸依尊者瞿曇・歸依法・歸依比丘僧。唯願世尊・攝受我等・自今已後・至盡壽命・歸依世尊・為優婆塞。』

大本經第十四

第一誦品

一

如是我聞・一時世尊在舍衛國祇樹給孤獨園花林窟。時眾多比丘・托鉢歸來・食後集坐花林圓堂・於前生事・而起論議・間有說言・『以前生如是如是故・是於前生如是如是。』

二

世尊以清淨超人間天耳・聞諸比丘・作如是議。即從座起・來花林圓堂・就座而坐。坐已・謂諸比丘曰・『諸比丘・今集坐此・何所論議。互共何言・未終畢耶。』諸比丘等・聞如是問・白世尊言・『世尊・今者我等・托鉢歸來・食後集坐花林圓堂・於前生事・而起論議・間有說言・「以前生如是如是故・是於前生如是如是。」世尊・互共言畢・時世尊來。』

三

『諸比丘・汝等欲聞前生法言耶。』『世尊・世尊講說前生法言・正是〔良〕時。善逝・正是〔良〕時。諸比丘等・聞世尊〔說・〕謹當受持。』『諸比丘・諦聽諦聽・應善憶念・我當說之。』諸比丘等・諾世尊言・『敬聽世尊。』

四

世尊如是說言・『諸比丘・過去九十一劫・毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・出現於世。諸比丘・過去三十一劫・尸棄世尊、阿羅漢、等正覺者・出現於世。諸比丘・彼三十一劫中・毗舍婆世尊、阿羅漢、等正覺者・出現於世。諸比丘・此賢劫中・拘樓孫世尊、阿羅漢、等正覺者・出現於世。諸比丘・此賢劫中・拘那含世尊、阿羅漢、等正覺者・出現於世。諸比丘・此賢劫中・迦葉世尊、阿羅漢、等正覺者・出現於世。諸比丘・此賢劫中・今我阿羅漢、等正覺者、出現於世。

五

諸比丘・毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・種姓為剎帝利・出現剎帝利族。諸比丘・尸棄世尊、阿羅漢、等正覺者・種姓為剎帝利・出現剎帝利族。諸比丘・毗舍婆世尊、阿羅漢、等正覺者・種姓為剎帝利・出現剎帝利族。諸比丘・拘樓孫世尊、阿羅漢、等正覺者・種姓為婆羅門・出現婆羅門族。諸比丘・拘那含世尊、阿羅漢、等正覺者・種姓為婆羅門・出現婆羅門族。諸比丘・迦葉世尊、阿羅漢、等正覺者・種姓為婆羅門・出現婆羅門族。諸比丘・今我阿羅漢、等正覺者・種姓為剎帝利・出現剎帝利族。

六

諸比丘・毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・姓拘利若。諸比丘・尸棄世尊、阿羅漢、等正覺者・姓拘利若。諸比丘・毗舍婆世尊、阿羅漢、等正覺者・姓拘利若。諸比丘・拘樓孫世尊、阿羅漢、等正覺者・姓迦葉。諸比丘・拘那含世尊、阿羅漢、等正覺者・姓迦葉。諸比丘・迦葉世尊、阿羅漢、等正覺者・姓迦葉。諸比丘・今我阿羅漢、等正覺者・姓瞿曇。

七

諸比丘．毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者．壽量八萬歲。諸比丘．尸棄世尊、阿羅漢、等正覺者．壽量七萬歲。諸比丘．毗舍婆世尊、阿羅漢、等正覺者．壽量六萬歲。諸比丘．拘樓孫世尊、阿羅漢、等正覺者．壽量四萬歲。諸比丘．拘那含世尊、阿羅漢、等正覺者．壽量三萬歲。諸比丘．迦葉世尊、阿羅漢、等正覺者．壽量二萬歲。諸比丘．今我壽量．短少而微．多亦不過百年之數．或稍較長。

八

諸比丘．毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者．於波波羅樹下．成最正覺。諸比丘．尸棄世尊、阿羅漢、等正覺者．於分陀利樹下．成最正覺。諸比丘．毘舍婆世尊、阿羅漢、等正覺者．於娑羅樹下．成最正覺。諸比丘．拘樓孫世尊、阿羅漢、等正覺者．於尸利沙樹下．成最正覺。諸比丘．拘那含世尊、阿羅漢、等正覺者．於烏暫婆羅樹下．成最正覺。諸比丘．迦葉世尊、阿羅漢、等正覺者．於尼拘律陀樹下．成最正覺。諸比丘．今我阿羅漢．於鉢多樹下．成最正覺。

九

諸比丘．毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者．有二弟子．一名騫荼．二名提舍．諸弟子中．最為賢者。諸比丘．尸棄世尊、阿羅漢、等正覺者．有二弟子．一名阿毗浮．二名三婆婆．諸弟子中．最為賢者。諸比丘．毗舍婆世尊、阿羅漢、等正覺者．有二弟子．一名扶遊．二名鬱多摩．諸弟子中．最為賢者。諸比丘．拘樓孫世尊、阿羅漢、等正覺者．有二弟子．一名毗樓．二名薩尼．諸弟子中．最為賢者。諸比丘．拘那含世尊、阿羅漢、等正覺者．有二弟子．一名舒槃那．二名鬱多樓．諸弟子中最為賢者。諸比丘．迦葉世尊、阿羅漢、等正覺者．有二弟子．一名提舍．二名婆羅婆．諸弟子中．最為賢者。諸比丘．今我二弟子．一名舍利弗．二名目犍連．諸弟子中．最為賢者。

一〇

諸比丘．毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者．有三僧會。一會比丘六百八十萬人．二會比丘十萬人．三會比丘八萬人。諸比丘．毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者．有此三僧會．〔比丘〕皆得漏盡。諸比

丘．尸棄世尊、阿羅漢、等正覺者．有三僧會。一會比丘十萬人．二會比丘八萬人．三會比丘七萬人。諸比丘．尸棄世尊、阿羅漢、等正覺者．有此三僧會．〔比丘〕皆得漏盡。諸比丘．毗舍婆世尊、阿羅漢、等正覺者．有三僧會。一會八萬人．二會七萬人．三會六萬人。諸比丘．毗舍婆世尊、阿羅漢、等正覺者．有此三僧會．〔比丘〕皆得漏盡。諸比丘．拘樓孫世尊、阿羅漢、等正覺者．有一僧會．比丘四萬人。諸比丘．拘樓孫世尊、阿羅漢、等正覺者．有此一僧會．〔比丘〕皆得漏盡。諸比丘．拘那含世尊、阿羅漢、等正覺者．有一僧會．比丘三萬人。諸比丘．拘那含世尊、阿羅漢、等正覺者．有此一僧會．〔比丘〕皆得漏盡。諸比丘．迦葉世尊、阿羅漢、等正覺者．有一僧會．比丘二萬人。諸比丘．迦葉世尊、阿羅漢、等正覺者．有此一僧會．〔比丘〕皆得漏盡。諸比丘．今我有一僧會．比丘一千二百五十人。諸比丘．我有此一僧會．〔比丘〕皆得漏盡。

一一

諸比丘．毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者．有一比丘常隨弟子．名曰無憂．最為第一。諸比丘．尸棄世尊、阿羅漢、等正覺者．有一比丘常隨弟子．名曰忍行．最為第一。諸比丘．毗舍婆世尊、阿羅漢、等正覺者．有一比丘常隨弟子．名曰寂滅．最為第一。諸比丘．拘樓孫世尊、阿羅漢、等正覺者．有一比丘常隨弟子．名曰善覺．最為第一。諸比丘．拘那含世尊、阿羅漢、等正覺者．有一比丘常隨弟子．名曰安和．最為第一。諸比丘．迦葉世尊、阿羅漢、等正覺者．有一比丘常隨弟子．名曰善友．最為第一。諸比丘．今我有一比丘常隨弟子．名曰阿難．最為第一。

一二

諸比丘．毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者．其父為王．名曰槃頭。母為王妃．名槃頭婆提．生身母也。槃頭王都．名槃頭婆提。諸比丘．尸棄世尊、阿羅漢、等正覺者．其父為王．名曰明相。母為王妃．名曰光耀．生身母也。明相王都．名曰明相。諸比丘．毗舍婆世尊、阿羅漢、等正覺者．其父為王．名曰善燈。母為王妃．名曰稱戒．生身母也。善燈王都．名曰無喻。諸比丘．拘樓孫世尊、阿羅漢、等正覺者．父名祀得．是婆羅門。母名善枝．婆羅門女．生身母也。諸比丘．時有王在．名曰安和。安和王都．名曰安和。諸比丘．拘那含世尊、阿羅漢、等正覺者．父名大德．是婆羅門。母

名善勝・婆羅門女・生身母也。諸比丘・時有王在・名曰清淨。清淨王都・名曰清淨。諸比丘・迦葉世尊、阿羅漢、等正覺者・父名梵施・是婆羅門。母名財主・婆羅門女・生身母也。諸比丘・時有王在・名曰汲毗。汲毗王都・名波羅捺。諸比丘・今我父王・名曰淨飯。母為王妃・名大清淨妙妃・生身母也。我父王城・名迦毗羅。』世尊所說如是。善逝如是說已・即從座起・入於精舍。

一三

世尊去未久・彼諸比丘・互起議言・『諸友・如來神通大力・不可思議・諸友・其大威力・未曾有也。蓋如來於過去佛・般涅槃、斷障害、斷道、畢輪〔迴・〕已拔一切苦者・憶其如是種姓・憶如是名・憶如是姓・憶如是壽量・憶如是二弟子・憶如是僧會・而為是言・「彼世尊・是如是生・彼世尊・是如是名・如是姓・如是戒・如是法・如是慧・如是修行・如是解脫。」諸友・於意云何。其為如來以善能知達法界・因善知達法界故・如來於過去佛・般涅槃、斷障害、斷道、畢輪〔迴・〕已拔一切苦者・憶其如是種姓・憶如是名・憶如是姓・憶如是壽量・憶如是二弟子・憶如是僧會・而為是言「彼世尊・是如是生・彼世尊・是如是名・如是姓・如是戒・如是法・如是慧・如是修行・如是解脫」耶。或因諸神・以此等意・語告如來・是故如來於過去佛・般涅槃、斷障害、斷道、畢輪〔迴・〕已拔一切苦者・憶其如是種姓・憶如是名・憶如是姓・憶如是壽量・憶如是二弟子・憶如是僧會・而為是言・「彼世尊・是如是生・彼世尊・是如是名・如是姓・如是戒・如是法・如是慧・如是修行・如是解脫」耶。』彼諸比丘・如是互共議言・未至終畢。

一四

爾時世尊・夜靜處起・步入花林圓堂・就座而坐・坐已・謂諸比丘曰・『諸比丘・今集坐此・何所論議。互共何言・未終畢耶。』彼諸比丘・聞如是問・白世尊言・『世尊・世尊去未久・我等之間・互起議言・諸友・如來神通大力・不可思議・諸友・其大威力・未曾有也。蓋如來於過去佛・般涅槃、斷障害、斷道、畢輪〔迴・〕已拔一切苦者・憶其如是種姓・〔乃至〕而為是言・「彼世尊・如是如是・至如是解脫。」諸友・於意云何。其為如來以善能知達法界・因善知達法界故・如來於過去佛・般涅槃、斷障害、斷道、畢輪〔迴・〕已拔一切苦者・憶其如是種姓・〔乃至〕而為是言・

「彼世尊・如是如是・至如是解脫」耶。或因諸神・以此等意・語告如來・故如來於過去佛・般涅槃、斷障害、斷道、畢輪〔迴・〕已拔一切苦者・憶其如是種姓・〔乃至〕而為是言・「彼世尊・如是如是・至如是解脫」耶。世尊・如是互共議言未畢・時世尊來。』

一五

『諸比丘・如來善能知達法界・因善知達法界故・如來於過去佛・般涅槃、斷障害、斷道、畢輪〔迴・〕已拔一切苦者・憶其如是種姓・憶如是名・憶如是姓・憶如是壽量・憶如是二弟子・憶如是僧會・而為是言・「彼世尊・是如是生・彼世尊・是如是名・如是姓・如是戒・如是法・如是慧・如是修行・如是解脫・」又因諸神・以此等意・語告如來・故如來於過去佛・般涅槃、斷障害、斷道、畢輪〔迴・〕已拔一切苦者・憶其如是種姓・憶如是名・憶如是姓・憶如是壽量・憶如是二弟子・憶如是僧會・而為是言・「彼世尊・是如是生・彼世尊・是如是名・如是姓・如是戒・如是法・如是慧・如是修行・如是解脫。」諸比丘・汝等復欲聞前生法言耶。』『世尊・今正是時。善逝・今正是時。世尊若復講說前生法言・諸比丘等・聞世尊〔說・〕謹當受持。』『諸比丘・諦聽諦聽・應善思念・我當說之。』諸比丘等・諾世尊言・『敬聽世尊。』

一六

世尊如是說言・『諸比丘・毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・過去九十一劫・出現於世。諸比丘・毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・種姓為剎帝利・出現剎帝利族。諸比丘・毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・姓拘利若。諸比丘・毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・壽量八萬歲。諸比丘・毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・於波波羅樹下・成最正覺。諸比丘・毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・有二弟子・一名騫荼・二名提舍・諸弟子中・最為賢者。諸比丘・毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・有三僧會・一會比丘六百八十萬人・二會比丘十萬人・三會比丘八萬人。諸比丘・毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・有此三僧會・〔比丘〕皆得漏盡。諸比丘・毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・有一比丘常隨弟子・名曰無憂・最為第一。諸比丘・毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・其父為王・名曰槃頭。母為王妃・名槃頭婆提・生身母也。槃頭王都・名槃頭婆提。

一七

諸比丘・毗婆尸菩薩・從兜率天・正念自覺・降入母胎。此為斯時常法也。諸比丘・此是常法。菩薩從兜率天・降入母胎時・天、魔、梵天界、沙門、婆羅門・天人之間・放大光明・遠勝諸天神威。於世間空處・徹下無礙・雖有大威神力・有大威力・日月光明・照耀不及黑暗幽冥之所・亦放大光明・遠勝諸天神威。生於其處眾生・因是光明・互相覩識・乃念「有餘眾生・實住斯處。」一萬世界・震撼、動搖、而復震動。放大光明・遠勝諸天神威・照現於世。此為斯時常法・

一七

諸比丘・此是常法。菩薩入母胎・時有四天子・而為彼守護。於四方近衛・令「人與非人・不得傷菩薩・或傷菩薩母。」此為斯時之常法。

一八

諸比丘・此是常法。菩薩入母胎・時菩薩母・原持五戒・離殺生、離偷盜、離愛慾、離妄言、離飲酒。此為斯時常法。

一九

諸比丘・此是常法。菩薩入母胎・時菩薩母・心不耽著男子愛慾。復次菩薩母・心不為任何男子・所動所感污。此為斯時常法。

二〇

諸比丘・此是常法。菩薩入母胎・時菩薩母・享受五欲樂・接受五欲樂・持以自娛。此為斯時常法。

二一

諸比丘・此是常法。菩薩入母胎・時菩薩之母・不生何疾病・安樂無疲困。復次菩薩母・自觀菩薩胎・大小肢具足・諸根無一缺。譬如毗琉璃寶珠・清淨而優良・八面而工細・透明復輝煌・具足一切相。其中貫以綖・綖色青或黃・或赤、白、淡黃・遇有目之士・置

掌而察觀．知「此琉璃珠．清淨而優良．八面而工細．透明復輝煌．具足一切相。其中貫有綖．綖色青或黃．或赤、白、淡黃。」諸比丘．菩薩入母胎．亦復有如是．時菩薩之母．不生何疾病．安樂無疲困。復次菩薩母．自觀菩薩胎．大小肢具足．諸根一無缺。此為斯時常法。

二二

諸比丘．此是常法。菩薩誕生後．七日而母死．往生兜率天。此為斯時常法。

二三

諸比丘．此是常法。他女懷胎兒．或九月產子．或十月產子．母之產菩薩．月數有一定。母懷菩薩胎．十月始生產。此為斯時常法。

二四

諸比丘．此是常法。他女產子．或坐或橫臥．唯母產菩薩．不坐亦不臥。菩薩母分娩．係立而生產。此為斯時常法．

二五

諸比丘．此是常法。菩薩出母胎．諸神先接受．而後人接受。此為斯時常法。

二六

諸比丘．此是常法。菩薩出母胎．不墮於地上．四天子受彼．立而前白言．「王妃可歡欣．生子為偉人。」此為斯時常法。

二七

諸比丘．此是常法。菩薩出母胎．淨潔而誕生．不為水所污．不污於粘液．不污於血液．一切不淨物．皆不能染污．清淨而且潔。諸比丘．譬如摩尼珠．置迦尸繒上．珠不污此繒．繒亦不污珠。其所以然者．兩俱清淨故。諸比丘．菩薩出母胎．亦復有如是．淨潔而

誕生・不為水所污・不污於粘液・不污於血液・一切不淨物・皆不能染污・清淨而且潔。此為斯時常法。

二八

諸比丘・此是常法。菩薩出母胎・空中湧二泉・一溫一清冷・洗菩薩及母。此為斯時常法。

二九

諸比丘・此是常法。菩薩出生時・立足即安穩・北向邁七步・白蓋覆蔭下・舉目而四矚・大聲發言曰・「世唯我第一・世唯我最老・世唯我最勝。此是最後生・不復有再生。」此為斯時常法。

三〇

諸比丘・此是常法。菩薩出母胎・天、魔、梵天界、沙門、婆羅門・天人之間・放大光明・遠勝諸天神威。於世間空處・徹下無礙・雖有大威神力・有大威力・日月光明・照耀不及黑暗幽冥之所・亦放大光明・遠勝諸天神威。生於其處眾生・因是光明・互相覩識・乃念「有餘眾生・實住於斯處。」一萬世界・震撼、動搖、而復震動。放大光明・遠勝諸天神威・照現於世。此為斯時常法。

三一

諸比丘・毗婆尸王子生時・眾白槃頭王言・「王今生子。王請觀之。」諸比丘・王觀王子已・召占相婆羅門・為如是言・「尊者・占相婆羅門・可觀王子相。」諸比丘・占相婆羅門・觀王子已・即白王言・「王・深可欣喜・生子英偉。御族之中、出此英子・幸哉大王・福哉大王。王之此子・具大人相・凡三十二。具此大人・當趣二道・無有他途。若其在家・當為王者・為奉法之轉輪聖王・平定四境・安維邦土・七寶具足。彼有七寶・即輪寶、象寶、馬寶、摩尼寶、女寶、居士寶、及第七將軍寶。勇健之敵・彼能降伏・子息眾多・數逾千人。不施刑鞭・不用刀劍・唯以正法・統領斯土・廣達海濱。若其出家・於此世間・當成去覆之阿羅漢、等正覺者。

三二

大王・云何王子具三十二大人相。謂大人具此相者・當趣二道・無有他途。若其在家・當為王者・為奉法之轉輪聖王・平定四境・安維邦土・七寶具足。彼有七寶・即輪寶、象寶、馬寶、摩尼寶、女寶、居士寶、及第七將軍寶。勇健之敵・彼能降伏・子息眾多・數逾千人。不施刑鞭・不用刀劍・唯以正法・統領斯土・廣達海濱。若其出家・於此世間・當成去覆之阿羅漢、等正覺者。大王・此王子・足安平。大王・王子足安平・是謂大人大人之相。大王・此王子・足掌上・具千輻・有輪有轂・現車輪相・一切具足。王子足掌・具有千輻・有輪有轂・現車輪相・一切具足・是謂大人大人之相。大王・此王子・足跟廣長。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・手足指長。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・手足柔嫩。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・手足指間有網縵。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・足踝高・如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・脛如鹿。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・直立垂手・雙掌可以捫膝。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・具馬陰藏。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・膚色如金。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・皮膚柔軟・不受塵埃。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・一一毛孔・一一毛生。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・身毛上向・色如眼藥・其色紺青・右旋而生・形若耳輪。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・手足平直・如同梵天。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・七處平滿。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・胸如師子。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・肩脅充滿。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・身體（廣長）如尼拘律陀樹・身長一尋・與手長等・手之長度・與身長等。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・上身圓滿。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・味覺敏銳。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・頰如師子。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・具四十齒。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・齒俱等正。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・齒密無間。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・犬齒白淨・如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・具廣長舌。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・口吐梵音・其聲猶如迦陵頻伽。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・眼色紺青。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子・眉毛如牛。如是如是・是謂大人大人之相。大王・此王子眉間白毫柔如木棉。如是如是・是謂大人

大人之相。大王・此王子・頂有肉髻。王子頂有肉髻・是謂大人大人之相。

三三

大王・王子如是具三十二大人相。具此相者・當趣二道・無有他途。若其在家・當為王者・為奉法之轉輪聖王・〔如是乃至〕當成去覆之阿羅漢、等正覺者。」諸比丘・槃陀王即以新衣・衣占相婆羅門・飽饜所欲・

三四

諸比丘・王給四乳母・為侍毗婆尸太子。一者司乳哺・二者司沐浴・三者司侍役・四者司抱持。諸比丘・日夜為太子・白蓋常張覆・以「障寒與署・勿受惡草毒・勿為塵所侵・勿為露所觸。」諸比丘・太子生於世・為眾所愛喜。諸比丘・猶青紅白蓮・眾人皆愛喜。諸比丘・太子亦如是・為眾所愛喜。眾人愛且喜・展轉抱於膝。

三五

諸比丘・太子生於世・聲音好而麗・其聲有如蜜・其聲令人喜。諸比丘・如彼雪山鳥・名迦陵頻伽・鳴聲好而麗・其聲有如蜜・其聲令人喜。諸比丘・太子亦如是・聲音好而麗・其聲有如蜜・其聲令人喜。

三六

諸比丘・太子生於世・從業異熟果・因得現天眼。日夜能澈視・周遍一由旬。

三七

諸比丘・太子生於世・視物目不瞬・如三十三天。諸比丘・『太子目不瞬・』故稱『毗婆尸。』諸比丘・王斷諸事務・坐於裁判〔廷・〕膝上坐太子・教之以義趣。諸比丘・爾時毗婆尸太子・坐於父之膝・能識別義趣・而入於正理。諸比丘・「太子識義趣・進入於正理・」故太子稱號・亦曰「毗婆尸。」亦曰「毗婆尸。」

三八

諸比丘・王為太子故・建造三宮殿・一備雨期住・二為冬季居・三供夏間宿・歡樂備五欲。諸比丘・太子於雨期・居宮四閱月・女樂師侍奉・歡娛未出宮。』

第二誦品

一

『諸比丘・太子於多年・數百年・數千年後・告勅御者・「御者・今可駕馬於吉祥車・詣遊園林・以觀地方。」諸比丘・御者諾曰・「唯然太子。」即便駕馬於吉祥車・白太子言・「吉祥乘具・馬已駕訖・裝束俱備・敬請乘坐・從心所欲。」諸比丘・太子乘吉祥車・即驅此車・詣遊園林。

二

諸比丘・太子詣遊園林・見一老人・身曲如椷・腰傴不伸・拄杖顫步・苦失青春。問御者曰・「御者・此人為何。彼之毛髮・不似他人。彼之身體・不若他人。」「太子・彼稱老人。」「御者・何以稱老。」「太子・彼稱老者・生壽向盡。」「御者・吾亦當老・能免老不。」「太子・尊體與我・無分貴賤・老之於人・皆不能免。」「御者・今遊已足・可還宮矣。」諸比丘・御者諾曰・「唯然太子。」即便還宮。諸比丘・爾時太子・行入內宮・苦而不樂・敗興灰心。以「生為可恥。生於世者・當知有老。」

三

諸比丘・槃頭王召御者・如是問言・「御者・太子出遊・亦歡樂耶。御者・太子出遊・心喜悅耶。」「大王・太子出遊・不歡不樂。大王・太子出遊・心不喜悅。」「御者・太子出遊・何所見耶。」「大王・太子詣遊園林・見一老人・身曲如椷・腰傴不伸・拄杖顫步・苦失青春。問於我曰・「御者・此人何為。彼之毛髮・不似他人。彼之身體・不若他人。」「太子・彼稱老人。」「御者・何以稱老。」「太子・彼稱老者・生壽向盡。」「御者・吾亦當老・能免老不。」「太子・尊體與我・無分貴賤・老之於人・皆不能免。」「御者・今遊已足・可還宮矣。」大王・我稱諾曰・

「唯然太子。」即便還宮。大王・爾時太子・行入內宮・苦而不樂・敗興灰心。以「生為可恥。生於世者・當知有老・」」

四

諸比丘・王如是思惟・「勿令太子・捨棄王位・勿令太子・離家出家。不得令彼占相婆羅門言・成為真實。」諸比丘・王為太子・更設方便・增集五欲・不使太子・捨棄王位・不使太子・離家出家・欲使占相婆羅門言・成為虛妄。諸比丘・太子為具備五欲之羣之所圍遶。

五

諸比丘・太子於多年・數百年・數千年後・告勅御者・如是如是・即驅此車・詣遊園林。

六

諸比丘・太子詣遊園林・見一病人・病苦甚劇・獨臥糞穢・賴人扶持・賴人導領・問御者曰・「御者・此人為何。其人之目・不似他人。其人之聲・不若他人。」「太子・是謂病人。」「御者・何謂病人・」「太子・謂病人者・難望痊愈。」「御者・吾亦當病・能免病不。」「太子・尊體與我・無分貴賤・病之於人・皆不能免。」「御者・今遊已足・可還宮矣。」諸比丘・御者諾曰・「唯然太子。」即便還宮。諸比丘・爾時太子・行入內宮・苦而不樂・敗興灰心。以「生為可恥。生於世者・當知有老・當知有病。」

七

諸比丘・槃頭王召御者・如是問言・「御者・太子出遊・亦歡樂耶。御者・太子出遊・心喜悅耶。」「大王・太子出遊・不歡不樂。大王・太子出遊・心不喜悅。」「御者・太子出遊・何所見耶。」「大王・太子詣遊園林・見一病人。病苦甚劇・獨臥糞穢・賴人扶持・賴人導領。問於我曰・「御者・此人為何。其人之目・不似他人。其人之聲・不若他人。」〔如是乃至〕大王・我稱諾曰・「唯然太子。」即便還宮。大王・爾時太子・行入內宮・苦而不樂・敗興灰心。以「生為可恥。生於世者・當知有老・當知有病。」」

八

諸比丘・王如是思惟・「勿令太子・捨棄王位。勿令太子・離家出家。不得令彼占相婆羅門言・成為真實。」諸比丘・王為太子・更設方便・增集五欲・不使太子・捨棄王位・不使太子・離家出家・欲使占相婆羅門言成為虛妄。諸比丘・太子為具備五欲之羣之所圍遶。

九

諸比丘・太子於多年・數百年・數千年後・告勅御者・如是如是・即驅此車・詣遊園林。

一〇

諸比丘・太子詣遊園林・見眾多之人・著雜色衣・集而造纍。問御者曰・「御者・云何多人・著雜色衣・集而造纍耶。」「太子・是謂死人。」「御者・可驅吾車・近彼死人。」諸比丘・御者諾曰・「唯然太子。」即便驅車・近彼死人。諸比丘・太子見死人已・問御者曰・「御者・何謂死人。」「謂死人者・父母親族皆不見彼・彼亦不見父母親族。」「御者・吾亦當死・不免死耶。王與王妃及餘親族・皆不見我・我亦不見王與王妃及餘親族耶。」「太子・尊體與我・無分貴賤・死之於人・皆不能免。王與王妃・及餘親族・不見太子・太子亦當不見王與王妃及餘親族。」「御者・今遊已足・可還宮矣。」諸比丘・御者諾曰・「唯然太子。」即便還宮。諸比丘・太子行入內宮・苦而不樂・敗興灰心。以「生為可恥。生於世者・當知有老・當知有病・當知有死。」

一一

諸比丘・槃頭王召御者・如是問言・「御者・太子出遊・亦歡樂耶。〔乃至〕太子出遊・何所見耶。」「大王・太子詣遊園林・見眾多之人・著雜色衣・集而造纍。問於我曰・「御者・云何多人・著雜色衣・集而造纍耶。」〔乃至〕大王・我稱諾曰・「唯然太子。」即便還宮。大王・爾時太子・行入內宮・苦而不樂・敗興灰心。以「生為可恥。生於世者・當知有老・當知有病・當知有死。」」

一二

諸比丘・王如是思維・「勿令太子・捨棄王位。」〔乃至〕諸比丘・太子為具備五欲之羣之所圍遶。

一三

諸比丘・太子於多年・數百年・數千年後・告勅御者・〔如是如是・〕即驅此車・詣遊園林。

一四

諸比丘・太子詣遊園林・逢見一人・剃髮出家・著袈裟衣。問御者曰・「御者・此人何為。其人之頭・不似他人。其人之衣・不若他人。」「太子・是謂出家人。」「御者・何謂出家人。」「太子・謂出家者・善能行法・善行正業・善行善業・善行福業・善行不殺生・善於眾生而行慈悲。」「御者・善哉出家。御者・善哉行法・善哉行正業・善哉行善業・善哉行福業・善哉不殺生・善哉善於眾生而行慈悲。御者・可驅吾車・近出家人。」諸比丘・御者諾曰・「唯然太子。」即便驅車近出家人。諸比丘・太子問彼出家人言・「汝何為者。今汝之頭・不似他人。今汝之衣・不若他人。」「太子・我是出家人。」「何謂出家人。」「太子・我之出家・善能行法・善行正業・善行善業・善行福業・善行不殺生・善於眾生而行慈悲。」「善哉汝之出家・善哉行法・善哉行正業・善哉行善業・善哉行福業・善哉不殺生・善哉善於眾生而行慈悲。」

一五

諸比丘・太子告御者言・「御者・汝將車還宮。我當於此・剃除鬚髮・著袈裟衣・離家出家。」御者諾曰・「唯然太子。」將車還宮。太子於是剃除鬚髮・著袈裟衣・離家出家。

一六

諸比丘・王都槃頭婆提・八萬四千大眾・聞「毗婆尸太子・剃除鬚髮・著袈裟衣・離家出家。」咸自念言・「毘婆尸太子・剃除鬚髮・著袈裟衣・離家出家・於法於律必不劣・於出家必不劣・太子猶且剃除鬚髮・著袈裟衣・離家出家・今者我等不當如是耶。」諸

比丘．於是八萬四千大眾．倣毗婆尸菩薩．剃除鬚髮．著袈裟衣．相率離家出家。諸比丘．毗婆尸菩薩．為眾所圍遶．遊行村、城、都。

一七

諸比丘．毗婆尸菩薩．於寂靜處時．心起如是念．「我為眾圍遶．於我非相應。今當離羣眾．一人以自住。」諸比丘．毗婆尸菩薩．即於後時．離眾獨住。彼等出家人．八萬四千眾．取他途而行．毗婆尸菩薩．別〔行〕於他途。

一八

諸比丘．毗婆尸菩薩．於寂靜處時．復起如是念．「嗚呼此世界．陷於諸苦惱。有生、老、死沒．死此而生彼。人不知出離．如斯苦、老、死．當如何了知．出離老死苦。」諸比丘．毗婆尸菩薩．便起如是念．「何故有老死。老死從何緣。」諸比丘．毗婆尸菩薩．即以方便．從事思惟．因慧而悟．「有生故老死。老死從生緣。」諸比丘．毗婆尸菩薩．便起如是念．「何故而有生。生是從何緣。」諸比丘．毗婆尸菩薩．即以方便．從事思惟．因慧而悟．「有有故有生．生是從有緣。」諸比丘．毗婆尸菩薩．便起如是念．「何故而有有。有是從何緣。」諸比丘．毗婆尸菩薩．即以方便．從事思惟．因慧而悟．「有取故有有．有是從取緣。」諸比丘．毗婆尸菩薩．便起如是念．「何故而有取。取是從何緣。」諸比丘．毗婆尸菩薩．即以方便．從事思惟．因慧而悟．「有愛故有取。取是從愛緣。」諸比丘．毗婆尸菩薩．便起如是念．「何故而有愛。愛是從何緣。」諸比丘．毗婆尸菩薩．即以方便．從事思惟．因慧而悟．「有受故有愛。愛是從受緣。」諸比丘．毗婆尸菩薩．便起如是念．「何故而有受。受是從何緣。」諸比丘．毗婆尸菩薩．即以方便．從事思惟．因慧而悟．「有觸故有受．受是從觸緣．」諸比丘．毗婆尸菩薩．便起如是念．「何故而有觸．觸是從何緣．」諸比丘．毗婆尸菩薩．即以方便．從事思惟．因慧而悟．「有六處故有觸。觸從六處緣。」諸比丘．毗婆尸菩薩．便起如是念．「何故有六處。六處從何緣。」諸比丘．毗婆尸菩薩．即以方便．從事思惟．因慧而悟．「有名色故有六處。六處從名色緣。」諸比丘．毗婆尸菩薩．便起如是念．「何故有名色。名色從何緣。」諸比丘．毗婆尸菩薩．即以方便．從事思惟．因慧而悟．「有識故有名色。名色是從識緣。」諸比丘．毗婆尸菩薩．便起如

是念・「何故而有識。識是從何緣。」諸比丘・毗婆尸菩薩・即以方便・從事思惟・因慧而悟・「有名色故有識。識是從名緣。」

一九

諸比丘・毗婆尸菩薩・便起如是念・「識還於名色。不復有更進。於是處生・或老、或死、或沒・或當生他處。即謂緣名色有識・緣識有名色・緣名色有六處・緣六處有觸・緣觸有受・緣受有愛・緣愛有取・緣取有有・緣有有生・緣生有老、死、憂、悲、苦惱。如是生起・有此一切苦蘊集。」諸比丘・毗婆尸菩薩・以「集也集也・」於所未嘗聞之法中・生眼、生智、生慧、生識、生覺。

二〇

諸比丘・毗婆尸菩薩・復起如是念・「何者無時老死無。何者滅即老死滅。」諸比丘・毗婆尸菩薩・即以方便・從事思惟・因慧而悟・「生無時老死無。生滅即老死滅。」諸比丘・毗婆尸菩薩・便起如是念・「何者無時而生無・何者滅即生滅。」諸比丘・毗婆尸菩薩・即以方便・從事思惟・因慧而悟・「有無時生無。有滅即生滅。」諸比丘・毗婆尸菩薩・便起如是念・「何者無時而有無。何者滅即有滅。」諸比丘・毗婆尸菩薩・即以方便・從事思惟・因慧而悟・「取無時有無。取滅即有滅。」諸比丘・毗婆尸菩薩・便起如是念・「何者無時而取無。何者滅即取滅・」諸比丘・毗婆尸菩薩・即以方便・從事思惟・因慧而悟・「愛無時取無。愛滅即取滅。」諸比丘・毗婆尸菩薩・便起如是念・「何者無時而愛無。何者滅即愛滅。」諸比丘・毗婆尸菩薩・即以方便・從事思惟・因慧而悟・「受無時愛無。受滅即愛滅。」諸比丘・毗婆尸菩薩・便起如是念・「何者無時而受無。何者滅即受滅。」諸比丘・毗婆尸菩薩・即以方便・從事思惟・因慧而悟・「觸無時受無。觸滅即受滅。」諸比丘・毗婆尸菩薩・便起如是念・「何者無時而觸無。何者滅即觸滅。」諸比丘・毗婆尸菩薩・即以方便・從事思惟・因慧而悟・「六處無時觸無。六處滅即觸滅。」諸比丘・毗婆尸菩薩・便起如是念・「何者無時六處無。何者滅即六處滅。」諸比丘・毗婆尸菩薩・即以方便・從事思惟・因慧而悟・「名色無時六處無。名色滅即六處滅。」諸比丘・毗婆尸菩薩・便起如是念・「何者無時名色無。何者滅即名色滅。」諸比丘・毗婆尸菩薩・即以方便・從事思惟・因慧而悟・「識無名色無。識滅名色滅。」諸比丘・毗婆尸菩薩・便起如是念・「何者無時而識無。何者滅即識滅。」諸

比丘・毗婆尸菩薩・即以方便・從事思惟・因慧而悟・「名色無時識無。名色滅即識滅。」

二一

諸比丘・毗婆尸菩薩・便起如是念・「依我如此觀道・逮達於覺悟。是即名色滅則識滅・識滅則名色滅・名色滅則六處滅・六處滅則觸滅・觸滅則受滅・受滅則愛滅・愛滅則取滅・取滅則有滅・有滅則生滅・生滅則老、死、憂、悲、苦惱滅。故如是有此一切苦蘊滅。」諸比丘・毗婆尸菩薩・以「滅也滅也・」於所未嘗聞法之中・生眼、生智、生慧、生識、生覺。

二二

諸比丘・毗婆尸菩薩・即於後時・於五取蘊・住生滅觀・以「色如是如是也・色集如是如是也・色滅如是如是也。受如是如是也・受集如是如是也・受滅如是如是也。想如是如是也・想集如是如是也・想滅如是如是也。行如是如是也・行集如是如是也・行滅如是如是也。識如是如是也・識集如是如是也・識滅如是如是也。」彼於五取蘊・住生滅觀・為時未久・離煩惱執・心得解脫。』

第三誦品

一

『諸比丘・毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・便作是念・「我今當說法・」諸比丘・毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・復作是念・「我之所達・此法甚深・難見難覺・寂靜高遠・非言說境・理實微妙・唯賢者之所知・今此諸眾生・享樂愛慾・染著愛慾・喜悅愛慾。彼等享樂愛慾・染慾喜慾眾生・於以此為緣之緣起法・是事難見。於一切行寂靜・一切生棄捨・盡愛、離欲、滅、涅槃・是事難見。我雖為說法・人必不解我〔所說。〕是於我疲勞・是於我苦惱。」

二

諸比丘・毘婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・時心現起所未曾聞・不可思議偈言。

我勤苦所達　不必為人說　大眾滿貪瞋　不易悟此法　違俗而精深　難見微細法
染著於貪愛　無明暗所覆　如是之眾生　不能見此法

諸比丘・毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・如是熟思・心即恬淡・無意說法。諸比丘・爾時一大梵天・知毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・心之所念・即自思惟・「嗚呼・此世云亡。嗚呼・此世云滅。今毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・心中恬淡・無意說法。」

三

諸比丘・時大梵天・譬如壯士・屈臂乍伸・伸臂乍屈・如是頃間・從梵天界・隱身來下・現於毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者面前。諸比丘・時大梵天・隻肩披上衣・以右膝著地・向毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・叉手合掌・作如是言・「世尊・唯願世尊・為人說法。唯願善逝・為人說法。眾生之中・亦有污垢少者・因不聞法・故爾云亡。〔若得聞法・〕當能解知。」

四

諸比丘・如是言時・毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・告大梵天曰・「梵天・我亦曾作如是念・「我今當說法。」梵天・時我作是念・「我之所達此法甚深・難見難覺・寂靜高遠・非言說境・理實微妙・唯賢者之所知。今此諸眾生・享樂愛慾・染著愛慾・喜悅愛慾。彼等享樂愛慾・染慾喜慾眾生・於以此為緣之緣起法・是事難見。於一切行寂靜・一切生棄捨、盡愛、離欲、滅、涅槃・是事難見。我雖為說法・人必不解我〔所說。〕是於我疲勞・是於我苦惱。」梵天・時我心中現起所未曾聞・不可思議偈言。

我勤苦所達　不必為人說　大眾滿貪瞋　不易悟此法　違俗而精深　難見微細法
染著於貪愛　無明暗所覆　如是之眾生　不能見此法

梵天・我如是熟思・心即恬淡・無意說法。」

五

諸比丘・大梵天再向毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・作如是言・「世尊・唯願世尊・乃至當能解知。」

六

諸比丘・大梵天三向毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・作如是言・「世尊・唯願世尊・為人說法。唯願善逝・為人說法。眾生之中・亦有污垢少者・因不聞法・故爾云亡。〔若得聞法・〕當能解知。」諸比丘・爾時毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・聞梵天勸請・因愍眾生・故以佛眼・觀視世界。諸比丘・毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・以彼佛眼・遍觀世界・見眾生中・污有厚薄・根有利鈍・信有深淺・覺有難易・或亦有人・畏先世罪。譬如於青蓮華池・若紅蓮華池・若白蓮華池・有青蓮華。或紅蓮華・或白蓮華・生於水中・長於水中・從水生出・浸於〔水〕中者。有青蓮華・或紅蓮華・或白蓮華・生於水中・長於水中・與〔水〕齊平者。有青蓮華・或紅蓮華・或白蓮華・生於水中・長於水中・出立水上・不為水污者。諸比丘・毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・以彼佛眼・遍視世界・見眾生中・亦復如是・污有厚薄・根有利鈍・信有深淺・覺有難易・或亦有人・畏先世罪。

七

諸比丘・時大梵天・知毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・心起思念・即於毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者前。以偈白言。

如人立山頂　於高巖石上　觀視周圍人　賢明者亦然　唯願普眼士　登法所成樓
願已離悲者　觀溺於悲中　願大雄勝士　見生老所惱　挺身商隊長　及無累長者
於此世界上　闊步而遊行　唯願我世尊　為人說正法　彼等〔若得聞〕　當有覺悟者

諸比丘。時毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。以偈告彼大梵天曰。

今者為彼等　開演甘露門　如有得聞者　可自棄邪信　梵天汝應知　以有世間人
於茲高勝法　而懷擾害想　我於此等人　則不為之說

諸比丘。時大梵天言。「我從毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。已得允許說法。」言已・禮敬毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。作禮右遶隱身而退。

八

諸比丘。時毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。如是思惟。「我今先當為誰說法。誰於此法。能速解知。」諸比丘。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。如是思惟。「王子鬻荼及王師之子提舍。住王都槃

頭婆提。皆有教養。賢而有智。出生以來。久少污垢。我今當為王子鴦荼及王師之子提舍說法。彼等當能速解知此法。」諸比丘。時毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。譬如壯士。屈臂乍伸。伸臂乍屈。如是頃間・菩提樹下。倏然隱沒。現於王都槃頭婆提鹿野苑內。

九

諸比丘。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。告守苑人曰・「守苑人。可入王都。告王子鴦荼及王師之子提舍曰。「尊者。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。今來至首都。住安樂鹿野苑。彼欲見卿等。」」諸比丘。守苑人諾毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者曰・「唯然世尊・」即入首都・至王子鴦荼及王師之子提舍所。如是說言。「尊者・毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。今來此首都・住安樂鹿野苑。彼欲見卿等。」

一〇

諸比丘。時王子鴦荼及王師之子提舍。即備吉祥車。驅車出王都。至安樂鹿野苑。車道畢處。降車徒步。至毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者前。禮敬已・一面坐。

一一

毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。即為彼等・循次說法。說布施論、戒論、諸愛慾厄。煩惱卑劣。出離功德。世尊知彼二人・心已調柔・心意和軟・心無偏見・心高意悅。為說諸佛所讚嘆法苦、集、滅、道。王子鴦荼。王師子提舍。猶如潔淨白疊。易為受染。即於座上・遠離塵垢。得生法眼。知「無論何物・凡是集法・皆是應滅法。」

一二

彼等依師教誡・見法、知法、悟法、入法。渡懷疑〔水。〕捨去諸說。不賴他人。得確信心。白毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者言・「奇哉世尊。奇哉世尊。猶如使倒者得起。隱者得現。迷途者示之以道。冥室燃燈。有目得視。世尊以無數方便。說法示教。亦復如

是。世尊。我等歸依世尊。〔歸依〕教法。世尊。唯願聽許我等。於世尊所。令得出家而受進具。」

一三

諸比丘。王子鴦荼。王師子提舍・於毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者所・出家受進具。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。即以法言。教化彼等。加以勉勵。使之歡喜。為說諸行災厄。煩惱卑劣。涅槃功德。彼等親承毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。所教法言。奮勵歡喜。為時未久。心離煩惱。而得解脫。

一四

諸比丘。首都槃頭婆提。八萬四千眾。聞「毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。來首都槃頭婆提。住安樂鹿野苑。王子鴦荼。王師子提舍。於毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者所・剃除鬚髮。著袈裟衣。離家出家。」彼等聞〔之。〕咸自念言。「王子鴦荼。王師子提舍。於毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者所。剃除鬚髮。著袈裟衣。離家出家。蓋是法律必不劣。出家必不劣。王子鴦荼。王師子提舍。尚於毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者所・剃除鬚髮・着袈裟衣・離家出家・今者我等・不當出家耶。」諸比丘。時八萬四千眾。出首都槃頭婆提。至安樂鹿野苑。於毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者前・禮敬已・一面坐。

一五

毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。即為彼等。次第說法。說布施論、戒論、天論、諸愛慾厄。煩惱卑劣。出離功德。世尊知彼等。心已調柔。心意和輭。心無偏見。心高意悅。為說諸佛所讚歎法苦、集、滅、道。彼八萬四千眾・猶如潔淨白疊・易為受染。即於座上。遠離塵垢。得生法眼。知「無論何物・凡是集法・皆是應滅法。」

一六

彼等依師教誡。見法、知法、悟法、入法。度懷疑〔水・〕捨去諸說。不賴他人。得確信心。白毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者言。「奇哉世尊。奇哉世尊。猶如使倒者得起。隱者得現。迷途者示之

以道。冥室燃燈。有目得視。世尊以無數方便。說法示教。亦復如是。世尊。我等歸依世尊。歸依教法。世尊。唯願聽許我等。於世尊所。令得出家而受進具。」

一七

諸比丘。彼八萬四千眾。於毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者所。出家受進具。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。即以法言。教化彼等。加以勉勵。使之歡喜。為說諸行災厄。煩惱卑劣。涅槃功德。彼等親承毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。所教法言。奮勵歡喜。為時未久。心離煩惱。而得解脫。

一八

諸比丘。以前八萬四千出家之眾。聞「毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者・來首都槃頭婆提・住安樂鹿野苑・說法示教。」諸比丘。彼八萬四千出家之眾。出首都槃頭婆提。至安樂鹿野苑。於毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者前・禮敬已・一面坐。

一九

毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。即為彼等。循次說法。說布施論、戒論、天論、諸愛慾厄。煩惱卑劣。出離功德。〔如是乃至〕即於座上。遠離塵垢。得生法眼。知「無論何物・凡是集法・皆是應滅法。」

二〇

彼等依師教誡。見法、知法、悟法、入法。度懷疑〔水。〕捨去諸說。不賴他人。得確信心。白毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者言。「奇哉世尊。奇哉世尊。〔如是乃至〕令得出家而受進具。」

二一

諸比丘。彼八萬四千出家之眾。於毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者所。出家受進具。〔如是乃至〕為時未久。心離煩惱。而得解脫。

二二

諸比丘。爾時首都槃頭婆提。有大比丘眾。六百八十萬。諸比丘。毗婆尸世尊・阿羅漢・等正覺者。獨居寂靜處。起如是念。「首都槃頭婆提。有大比丘眾。六百八十萬。我今當宣示。「諸比丘。宜遍歷遊行。為大眾利益。為大眾安樂。為愛憐世人・為天人利益・為天人安樂。在一道上。勿以二人行。諸比丘。當宣示以法。文義具足。初善、中善、終亦善。當教示以梵行。皆悉清淨。完善充滿。於此眾生中。有污垢少者。以不聞法故墮。〔聞法〕當解知。迨至六年後。可還首都。為誦波羅提木叉。」」

二三

諸比丘。爾時有大梵天。知毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。心之所念。譬如壯士。屈臂乍伸。伸臂乍屈。如是頃間。從梵天界。隱身來下。現於毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者面前。諸比丘。時大梵天。隻肩披上衣。向毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。叉手合掌。作如是言。「實爾世尊。實爾善逝。首都槃頭婆提。有大比丘眾。六百八十萬。世尊。唯願以是言。宣示比丘眾。「諸比丘。宜遍歷遊行。為大眾利益。為大眾安樂。為愛憐世人。為天人利益。為天人安樂。在一道上。勿以二人行。諸比丘。當宣示以法。文義具足。初善、中善、終亦善。當教示以梵行。皆悉清淨。完善充滿。於此眾生中。有污垢少者。以不聞法故墮。〔聞法〕當解知。迨至六年後。可還首都・為誦波羅提木叉。」世尊。我等亦如是。六年後來都。為誦婆羅提木叉。」諸比丘・大梵天如是說已・敬禮毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。右遶隱沒。

二四

諸比丘。時毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。午後獨居。起告諸比丘曰。「諸比丘。時我獨居寂靜處。起如是念。「首都槃頭婆提。有大比丘眾。六百八十萬。今我當宣示。諸比丘。宜遍歷遊行。為大眾利益。為大眾安樂。為愛憐世人。為天人利益。為天人安樂。在一道上。勿以二人行。諸比丘・當宣示以法・文義具足・初善、中善、終亦善。當教示以梵行。皆悉清淨。完善充滿。於眾生中。有污垢少者。以不聞法故墮。〔聞法〕當解知。迨至六年後。可還首都。為誦波羅提木叉。」

二五

諸比丘。爾時有大梵天。知我心所念。譬如壯士。屈臂乍伸。伸臂乍屈。如是頃間。從梵天界。隱身而現於我面前。諸比丘。時大梵天。隻肩披上衣。向我合掌。作如是言。「實爾世尊。實爾善逝。首都槃頭婆提。有大比丘眾。六百八十萬。世尊。唯願以是言。宣示比丘眾。諸比丘。宜遍歷遊行。為大眾利益・為大眾安樂。為愛憐世人。為天人利益。為天人安樂。〔如是如是乃至〕〔聞法〕當解知。迨至六年後。可還首都。為誦波羅提木叉。世尊。我等亦如是。六年後來都。為誦波羅提木叉。」諸比丘。彼大梵天。如是言已・向我禮敬。作右遶禮。隱身而退。

二六

諸比丘。我今許可。為大眾利益。為大眾安樂。為愛憐世人。為天人利益。為天人安樂。宜遍歷遊行。在一道上。勿以二人行。諸比丘。當宣示以法。文義具足。初善、中善、終亦善。當教示以梵行・皆悉清淨。完善充滿。眾生之中。有污垢少者。以不聞法故墮。〔聞法〕當解知。迨至六年後。可還首都。為誦波羅提木叉。」諸比丘。時彼比丘眾。一一出行。遍歷人間住所。

二七

諸比丘。爾時閻浮洲。住有八萬四千眾。經過一年時。諸神舉聲言。「諸友・今已過一年・尚餘有五年。迨至五年後・可來槃頭婆提・為誦婆羅提木叉。」〔嗣〕經過二年時。諸神舉聲言。「諸友。今已過二年。尚餘有四年。迨至四年後。可來槃頭婆提。為誦波羅提木叉。」經過三年時。諸神舉聲言。「諸友。今已過三年。尚餘有三年。迨至三年後。可來槃頭婆提。為誦波羅提木叉。」經過四年時。諸神舉聲言。「諸友。今已過四年。尚餘有二年。迨至二年後。可來槃頭婆提。為誦波羅提木叉。」經過五年時。諸神舉聲言。「諸友。今已過五年。尚餘有一年。迨至一年後。可來槃頭婆提。為誦波羅提木叉。」經過六年時。諸神舉聲言。「諸友・今已過六年・可來槃頭婆提・為誦波羅提木叉。」諸比丘。時比丘眾。或以自己神通力。或以諸神神通力。為誦波羅提木叉故。於一日中。畢集首都槃頭婆提。

二八

諸比丘。爾時毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。為比丘僧伽。誦如是波羅提木叉曰。

諸佛之所說　第一為忍辱　苦行及隱忍　得第一涅槃　若有害他人　不得為出家

若有傷他人　不得為沙門　當為淨心者　為受善業者　不種諸罪因　是諸佛教誡

既已無有諍　亦復無有害　而受攝制於　波羅提木叉　食膳知其量　坐臥〔與人〕離

一心唯高潔　是諸佛教誡

二九

諸比丘。我於或時。在郁伽羅。住須跋伽林沙羅樹王下。獨居寂靜處。心生如是念。「易成形之眾生所居。唯淨居天。我前曾住。今久未住。我今欲往彼淨居天。」諸比丘。時我如壯士。屈臂乍伸。伸臂乍屈。如是頃間。於郁伽羅須跋伽林沙羅樹王下。隱身而沒。現無造天。諸比丘。彼諸天眾中。數千諸天。至我面前。向我禮敬。於一面立。諸比丘。立一面諸天。如是白我言。「吾友。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。過去九十一劫。出現剎帝利族。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。姓拘利若。吾友。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。壽量八萬歲。吾友。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。於波波羅樹下。成最正覺。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。有二弟子。一名騫荼。二名提舍。諸弟子中。最為賢者。吾友。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。有三僧會。一會比丘六百八十萬人。二會比丘十萬人。三會比丘八萬人。吾友。毗・婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。有此三僧會。〔比丘〕皆得漏盡。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。有一比丘常隨弟子。名曰無憂。最為第一。吾友。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。其父為王。名曰槃頭。母為王妃。名槃頭婆提。生身母也。槃頭王都。名槃頭婆提。吾友。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。如是踰城。如是出家。如是精勤。如是成正覺。如是轉法輪。吾友。我等於毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者所。修持梵行。淨愛慾樂。來生於此。」

三〇

諸比丘。彼天眾中。數千諸天。至我面前。向我禮敬。於一面立。諸比丘。立一面諸天。如是白我言。「吾友。此賢劫中。世尊、阿羅漢、等正覺者。出現於世。吾友。世尊種姓為剎帝利。出現剎帝

利族。吾友。世尊姓瞿曇。吾友。世尊壽命短少。速疾而逝。多亦不過百年左右。吾友。世尊於鉢多樹下。成最正覺。吾友。世尊有二弟子。一名舍利弗。二名目犍連。諸弟子中。最為賢者。吾友。世尊有一僧會。比丘．一千二百五十人。諸友。世尊有此一僧會。〔比丘〕皆得漏盡。吾友。世尊有一常隨弟子。名曰阿難。最為第一。吾友。世尊父王。名曰淨飯。母為王妃。名大清淨妙。生身母也。父王首都。名迦毗羅。吾友。世尊如是踰城。如是出家。如是精勤。如是成正覺。如是轉法輪。吾友。我等於世尊所。修持梵行。淨愛慾樂。來生於此。」

三一

諸比丘。我便與無造天等。共往無熱天。諸比丘。我便與無造天、無熱天、俱往善見天。諸比丘。我便與無造天、無熱天、善見天。俱往大妙見天。諸比丘．我便與無造天、無熱天、善見天、大妙見天。俱詣阿迦膩陀天。諸比丘．此等天眾中。數千諸天。至我面前。向我禮敬。於一面立。諸比丘。立一面諸天。如是白我言。「吾友。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。過去九十一劫。出現於世。〔吾友。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。種姓為剎帝利。出現剎帝利族。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。姓拘利若。吾友。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。壽命八萬歲。吾友。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。於波波羅樹下。成最正覺。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。有二弟子。一名騫荼。二名提舍。諸弟子中。最為賢者。吾友。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。有三僧會。一會比丘六百八十萬人。二會比丘十萬人。三會比丘八萬人。吾友。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。有此三僧會。〔比丘〕皆得漏盡。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。有一比丘常隨弟子。名曰無憂。最為第一。吾友。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。其父為王。名曰槃頭。母為王妃。名槃頭婆提。生身母也。槃頭王都。名槃頭婆提。吾友。毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者。如是踰城。如是出家。如是精勤。如是成正覺。如是轉法輪。吾友。我等於毗婆尸世尊、阿羅漢、等正覺者所。修持梵行。淨愛慾樂。來生於此。〕」

三二

諸比丘。彼天眾中。數千諸天。至我面前。向我禮敬。於一面立。諸比丘。立一面諸天。如是白我言。「吾友．此賢劫中世尊、阿羅

漢、等正覺者。出現於世。〔吾友。世尊種姓為剎帝利。出現剎帝利族。吾友。世尊姓瞿曇。吾友。世尊壽命短少。速疾而逝。多亦不過百年左右。吾友。世尊於鉢多樹下。成最正覺。吾友。世尊有二弟子。一名舍利弗。二名目犍連。諸弟子中。最為第一。吾友。世尊有一僧會。比丘一千二百五十人。吾友。世尊有此一僧會・〔比丘〕皆得漏盡。吾友。世尊父王。名曰淨飯。母為王妃。名大清淨妙。生身母也。父王首都。名迦毗羅。吾友。世尊如是踰城。如是出家。如是精勤。如是成正覺。如是轉法輪。吾友。我等於世尊所。修持梵行。淨愛慾樂。來生於此。〕」

三三

諸比丘。如來以善能知達法界。因善知達法界故。如來於過去佛入般涅槃、斷諸障害、斷道、畢輪〔迴・〕已拔一切苦者。憶其生。憶其名。憶其姓。憶其壽量。憶其二弟子。憶其僧會。而為是言。「彼諸世尊。是如是種姓彼諸世尊。是如是名。如是姓。如是戒。如是法。如是慧。如是住。如是解脫。」』世尊如是說已。彼諸比丘。聞世尊所說。心生歡喜。

長部經典二

江鍊百據日譯本重譯

沙門芝峯校證

目次

大緣經第十五　　奇崎修一原譯　　一
舊譯　長阿含卷第一〇大緣方便經（大正藏一）。中阿含卷第二四大因經（大正藏二六）・人本欲生經（大正藏一四）・大生義經（大正藏五四）。本經開端・阿難言佛所說緣起法非深邃。却為易知・佛告以緣不了達此法者・不得出離輪迴・於是為說緣起諸支（老死、生、有、取、愛、受、觸、名色、識）之相關關係・更說計我者四類。七識住。八解脫等。其中述說緣起之系列・有二事可注意・一為本經唯舉九支・二為述愛支之下・更有求、利、用、欲、著、嫉、守、護之枝末愛等・次第由愛生起・由最後之護・生杖、劍、鬪、諍、爭競、爭論、惡口、妄語等無數罪惡法・而由此溯及受。換言之・於說緣起支之文中・存有末枝之釋述是也。本經異譯之人本欲生經・傳有道安之註釋・分別緣起初勝法門經及其異譯之緣生初勝分法本經、婆沙論、俱舍論等・則引用大緣方便經・是知後世認為說緣起之經者・以此經為重要而特有其一系統・故研究十二因緣說・不得忽視本經也。
大般涅槃經第十六　　平等通昭原譯　　九
舊譯　長阿含卷第二至第四遊行經（大正藏一）・佛般泥洹經（大正藏五）・般泥洹經（大正藏六）・大般涅槃經（大正藏七）。本經就分量言・為長部經典中之最長經典・關於佛陀晚年・王舍城附近之消息・最後之說法・向涅槃地之道途。入滅、荼毗、分舍利等・所述頗詳。本經全體・於巴漢雙方經文中・難見一致・然就巴漢及漢譯諸經相較・可得言者・為本經之二大骨幹・一、為一代師主佛陀之入滅・二、為領導教團者・以後非為佛之自身而是法・不論佛或存或沒・而此法當永為教團之中心。本經以此骨幹為主・此外有附加補充・形跡所在・隨處可見。所補充者・為佛之入滅談話・其相互間・初無聯系・嗣經整理・循序貫串・復於語句間・增補說明・因得演成此部經文。蓋本經原非完整之作・而於佛之入滅談話・當時

編纂・似較散漫也。巴利聖典中・如大本經之過去佛傳。中部經典第二六及第三六・律藏之大品小品・及小經集經・隨處散記之佛陀生涯之事蹟・此等記述・皆屬鱗爪・而完整佛傳・除本經外・餘無有焉。又本經中・有二特點・一、所述佛陀為生身之師・同於人法・二、所載偈文・皆為古雅文言・於此可見本經所存佛傳資料・較近事實・足稱為佛傳文學之最古者。至華氏城之繁榮及三禍之豫言・以某教戒・勘校經律・辨其正邪・比丘相互間稱呼之指示・起塔之說等・顯屬後代之事實。然跋祇與摩揭陀之爭・種族國城之七不退法・則為表示當時社會政情之資料。而經中諸偈・多係佛及弟子思想感情之吐露與詠歎・為僧團所傳承・結集本經之動機在此・經文之中心亦在此・可謂為最原始之部分。

大善見王經第十七　　干潟龍祥原譯　　五八

舊譯　中阿含卷第一四大善見王經（大正藏一）・長阿含卷第三遊行經中分之後半（大正藏一）・佛般泥洹經卷下（大正藏五）・般泥洹經卷下（大正藏六）・大般涅槃經卷中卷下（大正藏七）。新譯本生經第九五（南傳藏小部經典七）・及行藏經第四（南傳藏小部經典一九）。本經為述說大善見王本生之經・蓋原自有大善見王之故事・王所居者為拘尸城地・已見於大般涅槃經中・以示佛入滅之拘尸城非邊鄙小城・故涅槃經中所插入者・殆係故事全部・惟納之於一經。殆有失之於過長・而礙全體之結構・乃於涅槃經中・保留其必要部分・而將全部故事・獨成一經・另置此經於涅槃經之次云。

闍尼沙經第十八　　干潟龍祥原譯　　七二

舊譯　長阿含卷第五闍尼沙經（大正藏一）・人仙經（大正藏九）。本經主旨・係述說以梵天為首一切天界・皆是為依佛教修行者之住所。修行有進・得住上位天界・新生於天者・依佛道修行之德・其色光勝餘天神・即諸天界・應行之道・亦不外佛道。本經結構・為常童形梵天・化作五髻童子・現於三十三天・為諸天說四神通・三徑路・四念處・七定具・歸依三寶・善行於教・則死後生於他化自在天乃至乾闥婆界。毘沙門天王眷屬闍尼沙夜叉。從天王聞此說・以告佛陀・佛復以此告阿難。經之開端・為佛於那提迦村・說村民及諸國信者死後之運命・此亦見於大般涅槃經・似同出一源・而本經所置重者・為佛具能力觀知此等死者之運命也。

大典尊經第十九　　山本快龍原釋　　八二

舊譯　長阿含卷第五典尊經（大正藏一）・大堅固婆羅門緣起經（大正藏八）。本經與前之闍尼沙經同一趣向・兩者之中・

亦有相同部分。經述常童梵天・化現其身・為五髻童子・欲使三十三天・知世尊成大智・非一朝一夕之所致。於是說佛前生・稱大典尊（內大臣或侍從職位）・為王者師・以此段因緣・為談話骨幹・示以如來八無等法・先述修四無量心而至梵界之道・復為說示・與梵王如是共住・然斯究非所以至涅槃之道・而真能證涅槃者・為八聖道。其要旨謂當時一般人・均以得生梵天梵界為理想・實較佛說涅槃・遙有遜色・此旨與前之闍尼沙經同。

大會經第二十　　阿部文雄原譯　　九八

舊譯　長阿含卷第十二大會經（大正藏一）・大三摩惹經（大正藏一九）・雜阿含卷第四四之一一九二經（大正藏九九）・別譯雜阿含卷第五之一〇五經（大正藏一〇一）。舊譯後二經僅相當於本經一至三之部分・而前二經・亦與本經・大有出入。原文殊屬晦澀・殆因諸天神名甚多且全為偈語・故西藏譯・亦與漢巴兩文頗異・本經以偈述說十方世界諸眾天神・覲瞻佛陀・及其僧團・表示讚歎、而欲聞法・咸集會於迦毘羅城佛所在處。諸天神中・有化作自然現象者・地方神、守護神、鬼神、鳥神、龍神、夜叉・以及淨居天、梵天、四天王、水天、日天、月天等。眾皆歡喜・集於大會。經末所述・有魔軍來・圖擾此和平法會・未果而去云。

帝釋所問經第二十一　　小野島行忍原譯　　一〇四

舊譯　長阿含卷第一〇釋提桓因問經（大正藏一）・中阿含卷第三三釋問經（大正藏二六）・帝釋所問經（大正藏一五）・雜寶藏經卷第六帝釋問事緣（大正藏二〇三）。人本經所說・佛答帝釋問・以妄想為眾生不和之本・當就善心・滅此妄想・具戒・修三業・向六善境・律六根以離欲。經初有乾闥婆之相思歌・及帝釋說瞿波故事・兩皆偈語。此歌為情味盎然之絕唱。瞿波本事歌・詩趣雖不及前歌・然亦神韻超逸。經末有帝釋六果報偈・述其聞法向上之歡喜。就此經內容結構觀之・在佛教文學上・有其優越地位・可斷言也。

大念處經第二十二　　石川海淨原譯　　一一四

舊譯　中阿含卷第二四念處經（大正藏二六。）本經示四念處觀・為可淨眾生、度憂悲、滅苦惱、得正法、證涅槃之唯一道。又說就五蓋、五蘊、六處、七覺支、四聖諦・如法觀察・可破淨、樂、常、我之四倒。其中詳述身念處觀・就呼吸、身體位置、態度・及其構造要素・解剖部分・以及死屍等・若起精勤・正智正念・則破其身之四倒・得證解脫。復述修習四念處者・所受果報・得阿羅漢果或阿那含果。並反覆明示・不退

轉之奮勉精勤・有其必要原因。四念處觀之說・散見於多數經典中・其綱領較簡敷陳適當者・為中部經典之念處經・而本經所述・則於此觀法・復加入必要之四聖諦教說。此經所述修行方法・與戒律關係頗深・在相應部經典念處經中・將此觀法與戒律・視為同一・而就正法護持上・力述四念處觀。於此可見本經內容所說者・在根本佛教之重要方面・足示一斑也。

弊宿經第二十三　　水野弘元原譯　　一二五

舊譯　長阿含卷第七弊宿經（大正藏一）・中阿含卷第一六蜱肆經（大正藏二六）・大正句王經（大正藏四五）。本經述佛滅以後事・凡明記於文中者・南傳五部之中約有十種・本經即其一・係述佛滅未久・鳩摩羅迦葉與婆羅門弊宿相問答・以示教化。其問答之長而有序・為經典中所罕見者・此足與彌蘭王問經（那先比丘經）相比擬。婆羅門弊宿・否認有來世・及化生有情與善惡業報・鳩摩羅迦葉・巧引諸喻・破其邪見・善為雜論・以暢悅心識・善解美語・善於言談・可知其為談論名手・而有比丘五百相從・亦可窺知其在教團所處地位也。

長部經典二

大緣經第十五

一

如是我聞。一時佛住拘樓國・名劍磨瑟曇之拘樓城邑。爾時長老阿難・詣世尊所・至已・禮世尊・一面坐・長老阿難・坐於一面・問世尊言・『云何世尊・謂此緣起法・極為深邃・具深邃相・奇特不可思議。如我等觀・明白易了故。』『阿難・勿作此言。阿難・勿作此言。阿難・此緣起法・殊為深邃・具深邃相。阿難・生類於此法・不覺不徹見・如絲之紛纏・亦如所覆瘡・亦如捫叉草・如波羅波草・不得出離惡生、惡趣、地獄輪迴。

二

阿難・若〔有人〕問・「由決定緣・有老死耶・」應答言「有。」若復問言・「由云何緣・有老死耶。」應告彼言・『由生緣有老死。』阿難・若有人問・「由決定緣・而有生耶。」應答言「有。」若復問言・「由云何緣・而有生耶。」應告彼言・「由有緣有生。」阿難・若有人問・「由決定緣・而有有耶。」應答言

「有。」若復問言・「由云何緣・而有有耶。」應告彼言・「由取緣有有。」阿難・若有人問・「由決定緣・而有取耶。」應答言「有。」若復問言・「由云何緣・而有取耶。」應告彼言・「由愛緣有取。」阿難・若有人問・「由決定緣・而有愛耶。」應答言「有。」若復問言・「由云何緣・而有愛耶。」應告彼言・「由受緣有愛。」阿難・若有人問・「由決定緣・而有受耶。」應答言「有。」若復問言・「由云何緣・而有受耶。」應告彼言・「由觸緣有受。」阿難・若有人問・「由決定緣・而有觸耶。」應答言「有。」若復問言・「由云何緣・而有觸耶。」應告彼言・「由名色緣有觸。」阿難・若有人問・「由決定緣・有名色耶。」應答言「有。」若復問言・「由云何緣・有名色耶。」應答彼言・「由識緣有名色。」阿難・若有人問・「由決定緣・而有識耶。」應答言「有。」若復問言・「由云何緣・而有識耶。」應答彼言・「由名色緣有識。」

三

阿難・如是緣名色生識・緣識生名色・緣名色生觸・緣觸生受・緣受生愛・緣愛生取・緣取生有・緣有生生・緣生生老死・緣老死生愁、悲、苦、憂、惱。於是有一切苦蘊集。

四

「由生緣有老死・」既言之矣。阿難・云何由生緣有老死・當如是知。阿難・若任何者・在任何處・一切無生・如天之於天相・乾闥婆之於乾闥婆相・夜叉之於夜叉相・物精之於物精相・人之於人相・四足之於四足相・鳥之於鳥相・蝎蛇之於蝎蛇相。阿難・若諸有情・於如實相・無有生時・即無一切生時・由生滅故・亦得施設老死耶。』『是實不然・世尊。』『是故阿難・此即老死因・有其因緣・有其集・有其緣・曰生是也。

五

「由有緣有生・」既言之矣。阿難・云何由有緣有生・當如是知。阿難・若任何者・在任何處・一切無有・如欲有、色有、無色有・無一切有時・由有滅故・亦得施設生耶。』『是實不然・世尊。』『是故阿難・此即生因・有其因緣・有其集・有其緣・曰有是也。

六

「由取緣有有・」既言之矣。阿難・云何由取緣有有・當如是知。阿難・若任何者・在任何處・一切無取・如欲取、見取、戒取、我取・無一切取時・由取滅故・亦得施設有耶。』『是實不然・世尊。』『是故阿難・此即有因・有其因緣・有其集・有其緣・曰取是也。

七

「由愛緣有取・」既言之矣。阿難・云何由愛緣有取・當如是知。阿難・若任何者・在任何處・一切無愛・如色愛、聲愛、香愛、味愛、觸愛、法愛・無一切愛時・由愛滅故・亦得施設取耶。』『是實不然・世尊。』『是故阿難・此即取因・有其因緣・有其集・有其緣・曰愛是也。

八

「由受緣有愛・」既言之矣。阿難・云何由受緣有愛・當如是知。阿難・若任何者・在任何處・一切無受・如眼觸所生受、耳觸所生受、鼻觸所生受、舌觸所生受、身觸所生受、意觸所生受・無一切受時・由受滅故・亦得施設愛耶。』『是實不然・世尊。』『是故阿難・此即愛因・有其因緣・有其集・有其緣・曰愛是也。

九

阿難・如是緣受生愛・緣愛生求・緣求生利・緣利生用・緣用生欲（欲貪）・緣欲生著・緣著生嫉・緣嫉生守・緣守生護・緣護生劍、杖、鬪、諍、爭競、爭論、惡口、妄語等無數罪惡法。

一〇

「緣護生劍、杖、鬪、諍、爭競、爭論、惡口、妄語等無數罪惡法・」既言之矣。阿難・云何緣護生劍、杖、鬪、諍、爭競、爭論、惡口、妄語等無數罪惡法・當如是知。阿難・若任何者・在任何處・一切無護・無一切護時・由護滅故・亦生劍、杖、鬪、諍、爭競、爭論、惡口、妄語等無數罪惡法耶。』『是實不然・世

尊。』『是故阿難．此即生劍、杖、鬪、諍、爭競、爭論、惡口、妄語等無數罪惡法之因．有其因緣．有其集．有其緣．曰護是也。

一一

「緣守有護．」既言之矣。阿難．云何緣守有護．當如是知。阿難．若任何者．在任何處．一切無守．無一切守時．由守滅故．亦得施設護耶。』『是實不然．世尊。』『是故阿難．此即護因．有其因緣．有其集．有其緣．曰守是也。

一二

「緣嫉有守．」既言之矣。阿難．云何緣嫉有守．當如是知。阿難．若任何者．在任何處．一切無嫉．無一切嫉時．由嫉滅故．亦得施設守耶。』『是實不然．世尊。』『是故阿難．此即守因．有其因緣．有其集．有其緣．曰嫉是也。

一三

「緣著有嫉．」既言之矣。阿難．云何緣著有嫉．當如是知。阿難．若任何者．在任何處．一切無著．無一切著時．由著滅故．亦得施設嫉耶。』『是實不然．世尊。』『是故阿難．此即嫉因．有其因緣．有其集．有其緣．曰著是也。

一四

「緣欲有著．」既言之矣。阿難．云何緣欲有著．當如是知。阿難．若任何者．在任何處．一切無欲．無一切欲時．由欲滅故．亦得施設著耶。』『是實不然．世尊。』『是故阿難．此即著因．有其因緣．有其集．有其緣．曰欲是也。

一五

「緣用有欲．」既言之矣。阿難．云何緣用有欲．當如是知。阿難．若任何者．在任何處．一切無用．無一切用時．由用滅故．亦得施設欲耶。』『是實不然．世尊。』『是故阿難．此即欲因．有其因緣．有其集．有其緣．曰用是也。

一六

「緣利有用・」既言之矣。阿難・云何緣利有用・當如是知。阿難・若任何者・在任何處・無一切利・無一切利時・由利滅故・亦得施設用耶。』『是實不然・世尊。』『是故阿難・此即用因・有其因緣・有其集・有其緣・曰利是也。

一七

「緣求有利・」既言之矣。阿難・云何緣求有利・當如是知。阿難・若任何者・在任何處・無一切求・無一切求時・由求滅故・亦得施設利耶。』『是實不然・世尊。』『是故阿難・此即利因・有其因緣・有其集・有其緣・曰求是也。

一八

「緣愛有求・」既言之矣。阿難・云何緣愛有求・當如是知。阿難・若任何者・在任何處・無一切愛・如欲愛、有愛、非有愛・無一切愛時・由愛滅故・亦得施設求耶。』『是實不然・世尊。』『是故阿難・此即求因・有其因緣・有其集・有其緣・曰愛是也。阿難・如是愛有二類法・雖由此二類・而於受則會於一。

一九

「緣觸有受・」既言之矣。阿難・云何緣觸有受・當如是知。阿難・若任何者・在任何處・一切無觸・如眼觸、耳觸、鼻觸、舌觸、身觸、意觸・無一切觸時・由觸滅故・亦得施設受耶。』『是實不然・世尊。』『是故阿難・此即受因・有其因緣・有其集・有其緣・曰觸是也。

二〇

「緣名色有觸・」既言之矣。阿難・云何緣名色有觸・當如是知。阿難・依彼形、色、相、貌・施設名身・然無其形、色・無其相、貌時・猶於色身・得施設名觸（心觸）耶。』『是實不然・世尊。』『阿難・依彼形色相貌・施設色身・然無其形色相貌時・猶於名身・得施設有對觸（身觸）耶。』『是實不然・世尊。』『阿難・依彼形色相貌・雖施設名身色身・然無其形色相貌時・猶得施

設名觸、有對觸耶。』『是實不然・世尊。』『阿難・依彼形色相貌・雖施設名色・然無其形色相貌時・猶得施設名色耶。』『是實不然・世尊。』『是故阿難・此即觸因・有其因緣・有其集・有其緣・曰名色是也。

二一

「緣識有名色・」既言之矣。阿難・云何緣識有名色・當如是知。阿難・識不入母胎時・名色於母胎・猶得結成耶。』『是實不然・世尊。』『阿難・識入母胎後・若歸於消滅・猶得現名色相耶。』『是實不然・世尊。』『阿難・若識在幼少童男童女時斷・名色猶得增長、發達耶。』『是實不然・世尊。』『是故阿難・此即名色因・有其因緣・有其集・有其緣・曰識是也。

二二

「緣名色有識・」既言之矣。阿難・云何緣名色有識・當如是知。阿難・若識不依名色・猶得於未來・施設生、老、死、苦集存在耶。』『是實不然・世尊。』『是故阿難・此即識因・有其因緣・有其集・有其緣・曰名色是也。阿難・唯於〔人之〕生、老、死、滅・或再生時・唯於有名道時・有言語道時・有施設道時・有智慧界時・唯於流轉輪迴而施設現相時・名色悉與識俱。

二三

阿難・夫計我者說有幾種。阿難・計我為有色有量者說言・「我之我・有色有量。」復次阿難・計我為有色無量者說言・「我之我・有色無量。」復次阿難・計我為無色有量者說言・「我之我・無色有量。」復次阿難・計我為無色無量者說言・「我之我・無色無量。」

二四

阿難・此中計我・說有色有量者・或於現世計我・說有色有量・或於來世計我・說有色有量・彼如是思惟・「若有異相・當使合致我之此相。」是故阿難・謂彼執我為有色有量之邪見・蓋至言也。阿難・此中計我・說有色無量者・或於現世計我・說有色無量・或於來世計我・說有色無量・彼如是思惟・「若有異相・當使合致我之

此相。」是故阿難・謂彼執我為有色無量之邪見・蓋至言也。阿難・此中計我・說無色有量者・或於現世計我・說無色有量・或於來世計我・說無色有量・乃至於來世計我・說無色無量・彼如是思惟・「若有異相・當使合致我之此相。」是故阿難・謂彼執我為無色無量之邪見・蓋至言也。阿難・計我者所說如是。

二五

阿難・夫不計我不為是說者又有幾種。阿難・不計我為有色有量者・不說「我之我為有色有量。」復次阿難・不計我為有色無量者・不說「我之我為有色無量。」復次阿難・不計我為無色有量者・不說「我之我為無色有量。」復次阿難・不計我為無色無量者・不說「我之我為無色無量。」

二六

阿難・此中不計我為有色有量・不為是說者・或不於現世計我・說有色有量・或不於來世計我・說有色有量・彼不如是思惟・「若有異相・當使合致我之此相。」是故阿難・謂彼不執我為有色有量之邪見・蓋至言也。阿難・此中不計我為有色無量・不為是說者・或不於現世計我・說有色無量・或不於來世計我・說有色無量・彼不如是思惟・「若有異相・當使合致我之此相。」是故阿難・謂彼不執我為有色無量之邪見・蓋至言也。阿難・此中不計我為無色有量・不為是說者・或不於現世計我・說無色有量・或不於來世計我・說無色有量・彼不如是思惟・「若有異相・當使合致我之此相。」是故阿難・謂彼不執我為無色有量之邪見・蓋至言也。阿難・此中不計我為無色無量・不為是說者・或不於現世計我・說無色無量・或不於來世計我・說無色無量・彼不如是思惟・「若有異相・當使合致我之此相。」是故阿難・謂彼不執我為無色無量之邪見・蓋至言也。阿難・不計我而不說者如是。

二七

阿難・云何觀我。阿難・謂有如是觀我者・就受而言・或以「受是我之我・」或以「受實非我之我・不能感受者是我之我。」阿難・或有如是觀我者・以「受實非我之我・不能感受者亦非我之我・我依於我而可領納・即受法是我之我。」

二八

阿難・此中彼言・「受是我之我」者・當語彼言・「吾友・此受有三・樂受、苦受、不苦不樂受。於此三受中・汝見何受為我耶。」阿難・若於或時・領納樂受・不於同時領納苦受・亦不領納不苦不樂受・是時領納・當唯樂受。阿難・又若於或時・領納苦受・不於同時領納樂受・亦不領納不苦不樂受・是時領納・當唯苦受。阿難・又若於或時・領納不苦不樂受・不於同時領納樂受・亦不領納苦受・是時領納・當唯不苦不樂受。

二九

阿難・樂受實是無常、有為緣起法・是滅盡法・是敗壞法・是離欲法・是滅法也。阿難・苦受亦實是無常、有為、緣起法・是滅盡法・是敗壞法・是離欲法・是滅法也。阿難・不苦不樂受亦實是無常、有為、緣起法・是滅盡法・是敗壞法・是離欲法・是滅法也。若適領納樂受者・亦將念「此是我之我・」彼依樂受滅故・實又不得不念「我之我已滅。」若適領納苦受者・亦將念「此是我之我・」彼依苦受滅故・實又不得不念「我之我已滅。」若適領納不苦不樂受者・亦將念「此是我之我・」彼依不苦不樂受滅故・實又不得不念「我之我已滅。」如是說「受是我之我」者・其所觀我・於現見法・為無常與樂苦俱滅之生滅法。是故阿難・觀「受是我之我・」蓋實不可。

三〇

阿難・此中彼言・「受實非我之我・不能感受者是我之我」者・又當語彼言・「吾友・無一切所受處・是處猶得以為有我耶。」』『是實不然・世尊。』『是故阿難・觀「受實非我之我・不能感受者是我之我・」蓋亦不可。

三一

阿難・此中彼言・「受實非我之我・不能感受者亦非我之我・我依於我而可領納・即我之我・受法是也。」又當語彼言・「吾友・一切受悉皆滅時・即無一切受時・由此受滅故・猶得以為有我耶。」』『是實不然・世尊。』『是故阿難・觀「受實非我之我・

不能感受者亦非我之我．我依於我而可領納．即我之我．是為受法．」蓋亦不可。

三二

阿難．是故比丘不觀受是我．亦不觀不能感受者是我．亦不觀我依於我而可領納．即我之我．是為受法。如是不觀我．則彼於世．一無所執。不執故無怖畏．無怖畏故獨般涅槃．自知「生已盡．梵行已立．所作已辦．更無後有。」阿難．於如是解脫心比丘．設有人問言．「如來死後有耶．」彼言斯執．其言不正。問言「如來死後無耶．」彼言斯執．其言不正。問言「如來死後亦有亦無耶．」彼言斯執．其言不正。問言「如來死後亦非有亦非無耶．」彼言斯執．其言不正。是依何因耶。阿難．唯有名．有名道．唯有言語．有言語道．唯有施設．有施設道．唯有智慧．有智慧界．唯為流轉輪迴．比丘唯於此等知之解脫。若有不知不見．如是知如是解脫比丘〔之徒．〕而起執著．是不正也。

三三

阿難．識住有七．處有二。云何為七。阿難．或有有情．具異類身異類想．即人、與一分天．與一分墮獄者．是為第一識住。阿難．或有有情．具異類身一類想．即由初禪而生之梵眾天．是為第二識住。阿難．或有有情．具一類身異類想．即光音天．是為第三識住。阿難．或有有情．具一類身一類想．即遍淨天．是為第四識住。阿難．或有有情．超一切色想．超有對想．不作意諸種想．生「空無邊」之空無邊處．是為第五識住。阿難．或有有情．超一切空無邊處．生「識無邊」之識無邊處．是為第六識住。阿難．或有有情．超一切識無邊處．生「一切無有」之無所有處．是為第七識住。〔云何二處。第一為〕無想有情處．第二為非想非非想處。

三四

阿難．此中如是知．具異類身異類想有情．即人、與一分天．與一分墮獄．是第一識住者．阿難．實又知其集、滅、福、禍．知其出離〔輪迴。〕彼猶依此〔識住〕得歡喜耶。』『是實不然．世尊。』如是如是．乃至『阿難．此中如是知．超一切識無邊處．生「一切無有」之無所有處．是第七識住者．阿難．實又知其集、滅、福、禍．知其出離〔輪迴。〕彼猶依此〔識住〕得歡喜耶。』

『是實不然・世尊。』『阿難・此中如是知・是無想有情處者・阿難・實又知其集、滅、福、禍・知其出離〔輪迴。〕彼猶依此〔處〕得歡喜耶。』『是實不然・世尊。』『阿難・此中如是知・是非想非非想處者・阿難・實又知其集、滅、福、禍・知其出離〔輪迴。〕彼猶依此〔處〕得歡喜耶。』『是實不然・世尊。』『是故阿難・由比丘如實知此等七識住・及此等二處之集、滅、福、禍・出離・生（緣起）解脫。阿難・此比丘名曰慧解脫。

三五

阿難・此解脫有八・云何為八。有色想者觀色・是第一解脫。內懷無色想觀外色・是第二解脫・唯〔觀〕「清淨」解脫・是第三解脫。超一切色想・超有對想・不作意諸種想・入住「空無邊」之空無邊處・是第四解脫。超一切空無邊處・入住「識無邊」之識無邊處・是第五解脫。超一切識無邊處・入住「一切無有」之無所有處・是第六解脫。超一切無所有處・入住非想非非想處・是第七解脫。超一切非想非非想處・入住想受滅盡・是第八解脫。

三六

是故阿難・比丘於此八解脫・順入或逆入・或順逆俱入・唯樂時樂所・唯於樂間出入解脫・便由有漏滅・謂於現見法・自知現前・入住無漏心解脫、慧解脫。阿難・此比丘名曰俱解脫。阿難・除此俱解脫・更無較此殊勝解脫。』世尊如是說。長老阿難・〔聞〕世尊說・觀喜踴躍。

大槃涅槃經第十六

第一誦品

一

如是我聞。一時世尊・在王舍城靈鷲山。爾時韋提希〔夫人〕子摩揭陀王阿闍世・欲伐跋祇國人。彼作是言・『此跋祇國人・縱使如是強豪・如是威勇・我將伐之・我將除之・我將滅之・我將使之歸於覆亡。』

二

時韋提希子摩揭陀王阿闍世．告摩揭陀大臣禹舍〔雨行〕婆羅門言．『婆羅門．汝詣世尊所．禮世尊足。持我之聲．敬問無病離苦．輕利安易．愉快強健。說言．「世尊．韋提希子摩揭陀王阿闍世．禮世尊足．敬問無病離苦．輕利安易．愉快力強．健勝不耶。」又如是言。『世尊．韋提希子摩揭陀王阿闍世．欲伐跋祇國人。彼為是言．「此跋祇國人．縱有強威．我將伐之．我將除之．我將滅之．我將使之歸於覆亡。」』世尊所教誡．汝善憶念．如實語我。因世尊言不虛妄也。』

三

摩揭陀大臣禹舍婆羅門．諾韋提希子摩揭陀王阿闍世曰．『唯然。』備諸多華車．己亦乘華車．離王舍城．往靈鷲山。到車所止處．下車步進．至世尊所．禮敬世尊．共相問訊．互致歡詞於一面坐。摩揭陀大臣禹舍婆羅門．坐於一面．為如是言．『瞿曇．韋提希子摩揭陀王阿闍世．禮世尊足．敬問無病離苦．輕利安易．愉快力強．健勝不耶。瞿曇．韋提希子摩揭陀王阿闍世．欲伐跋祇國人。彼如是言．「此跋祇國人．縱有強威．我將伐之．我將除之．我將滅之．我將使之歸於覆亡。」』

四

爾時尊者阿難．立世尊後．執扇扇世尊。世尊語尊者阿難曰．『阿難．汝聞跋祇國人．數相集會．集者眾多不。』『世尊．我聞跋祇國人．數相集會．集者眾多。』『阿難．跋祇國人．數相集會．集者眾多．若能爾者．跋祇國人．可望繁榮．當無衰亡。阿難．汝聞跋祇國人．共集共起．咸共為其所當為不。』『世尊．我聞跋祇國人．共集共起．咸共為其所當為。』『阿難．跋祇國人．共集共起．咸共為其所當為．阿難．若能爾者．跋祇國人．可望繁榮．當無衰亡。阿難．汝聞跋祇國人．不制定未制定事．不破壞已制定事．於昔所制定跋祇人法．遵奉而行不。』『世尊．我聞跋祇國人．不制定未制定事．不破壞已制定事．於昔所制定跋祇人法．遵奉而行。』『阿難．跋祇國人．不制定未制定事．不破壞已制定事．於昔所制定跋祇人法．遵奉而行．阿難．若能爾者．跋祇國人．可望繁榮．當無衰亡。阿難．汝聞跋祇國人．敬其耆老．尊崇供養．於彼等言．心順從不。』『世尊．我聞跋祇國人．敬其耆老．尊崇供養．於彼等言．心能順從。』『阿難．跋祇國人．敬其耆老．尊崇供養．於彼等言．心能順從．阿難．若能爾者．跋祇國

人・可望繁榮・當無衰亡。阿難・汝聞跋祇國人・於宗族之婦女閨幼・不強暴攫取・無拘留事不。』『世尊・我聞跋祇國人・於宗族之婦女閨幼・不強暴攫取・無拘留事。』『阿難・跋祇國人・於宗族之婦女閨幼・不強暴攫取・無拘留事・阿難・若能爾者・跋祇國人・可望繁榮・當無衰亡。阿難・汝聞跋祇國人・敬〔城〕內外跋祇宗廟・尊崇維護・不廢供養・不違定法・合於前規不。』『世尊・我聞跋祇國人・敬〔城〕內外跋祇宗廟・尊崇維護・不廢供養・不違定法・合於前規。』『阿難・跋祇國人・敬〔城〕內外跋祇宗廟・尊崇維護・不廢供養・不違定法・合於前規・阿難・若能爾者・跋祇國人・可望繁榮・當無衰亡。阿難・汝聞跋祇國人・於阿羅漢・善為正當之護衛支持不。復次・汝聞阿羅漢若來其土者・此阿羅漢・於領土內・可得安住不。』『世尊・我聞跋祇國人・於阿羅漢・善為正當之護衛支持・設阿羅漢・來其土者・此阿羅漢・於領土內・可得安住。』『阿難・跋祇國人・於阿羅漢・善為正當之護衛支持・設阿羅漢・來其土者・此阿羅漢・於領土內・可得安住・若能爾者・跋祇國人・可望繁榮・當無衰亡。』

五

爾時世尊・告摩揭陀大臣禹舍婆羅門曰・『婆羅門・我曾一時・在毗舍離薩爛陀陀廟・我於其處・為跋祇國人・說此七不退法。婆羅門・跋祇國人間・存此七法・彼等依此七法・善受教訓・婆羅門・故若爾者・跋祇國人・可望繁榮・當無衰亡。』摩揭陀大臣禹舍婆羅聞如是說・白世尊言・『嗚呼瞿曇・跋祇國人・若具一法・即繁榮可期・當無衰亡・況具七法・復何言哉。嗚呼瞿曇・韋提希子摩揭陀王阿闍世・設以戰爭・或以外交・唯除不和反間・而欲征伏跋祇國人・誠不可能。我今請辭・嗚呼瞿曇・我因事忙・諸端待理・』『婆羅門・知時宜者・但去可也。』時摩揭陀大臣禹舍婆羅門・於世尊言・愉悅歡喜・起坐而去。

六

摩揭陀大臣禹舍婆羅門去未久・世尊告尊者阿難曰・『阿難・汝往集王舍城左右諸比丘・盡會講堂。』尊者阿難諾世尊曰・『唯然世尊。』即集近在王舍城諸比丘・盡會講堂・至世尊前。至已・禮敬世尊・於一面立。尊者阿難・立於一面・白世尊言・『世尊・諸比丘已集・世尊・世尊知時・願即來臨。』世尊即從座起・往詣講堂・就座而坐・告諸比丘曰・『諸比丘・我當教汝・七不退法。諦

聽諦聽．善憶念之．今為汝說。』諸比丘諾世尊曰．『唯然世尊。』世尊曰．『諸比丘．比丘等數相集會．集者眾多時．則比丘等．可期繁榮．當無衰亡。復次諸比丘．比丘等共集共立．咸共為僧伽行時．則比丘等可期繁榮．當無衰亡。復次諸比丘．比丘等不制定未制定事．不破壞已制定事．於制定學處．遵從行時．則比丘等可期繁榮．當無衰亡。復次諸比丘．比丘等於具經驗久出家諸長老．於僧伽師父．僧伽導師．皆為恭敬．尊崇供養．於彼等言．心順從時．則比丘等．可期繁榮．當無衰亡。復次諸比丘．比丘等．不起後有愛慾．不為所制時．則比丘等可期繁榮．當無衰亡。復次諸比丘．比丘等喜住蘭若時．則比丘等可期繁榮．當無衰亡。復次諸比丘．比丘等獨住自覺．又願善梵行者來．來已安心住時．則比丘等可期繁榮．當無衰亡。諸比丘．此七不退法．住比丘間．而比丘等．依此七法．善受教訓時．則比丘等可期繁榮．當無衰亡。

七

諸比丘．復有七不退法．我當教汝。諦聽諦聽．善憶念之．今為汝說。』彼諸比丘．諾世尊曰．『唯然世尊。』世尊曰．『復次諸比丘．比丘等無喜行事．不悅樂行事．不好與行事時．則比丘等可期繁榮．當無衰亡。復次諸比丘．比丘等無喜談話．不悅樂談話．不好與談話時．則比丘等可期繁榮．當無衰亡。復次諸比丘．比丘等無喜睡眠．不悅樂睡眠．不好耽睡眠時．則比丘等可期繁榮．當無衰亡。復次諸比丘．比丘等無喜羣黨．不悅樂羣黨．不好入羣黨時．則比丘等可期繁榮．當無衰亡。復次諸比丘．比丘等無有惡欲．不陷於惡欲而為所左右時．則比丘等可期繁榮．當無衰亡。復次諸比丘．比丘等自不為惡友．又不黨同惡友時．則比丘等可期繁榮．當無衰亡。復次諸比丘．比丘等．達到下位特殊境地．而於中途．不停止其到達〔涅槃〕時．則比丘等可期繁榮．當無衰亡。復次諸比丘．此七不退法．住比丘間．而比丘等．依此七法．善受教訓時．則比丘等可期繁榮．當無衰亡。

八

復次諸比丘．復有七不退法我當教示。諦聽諦聽．善憶念之．今為汝說。』彼諸比丘．諾世尊曰．『唯然世尊。』世尊曰．『諸比丘．比丘等有信、有慚、有愧、多聞、勤於精進、念不忘失、有智慧時．則比丘等可期繁榮．當無衰亡。復次諸比丘．此七不退法．

住比丘間・而比丘等・依此七法・善受教訓時・則比丘等可期繁榮・當無衰亡。

九

復次諸比丘・復有七不退法・我當教示。諦聽諦聽・善憶念之・今為汝說。』彼諸比丘・諾世尊曰・『唯然世尊。』世尊曰・『諸比丘・比丘等修思念覺意（念覺支）・修法研鑽覺意（擇法覺支）・修精進覺意（精進覺支）・修喜悅覺意（喜覺支）・修靜安覺意（輕安覺支）・修三昧覺意（定覺支）・修捨覺意（行捨覺支）時・則比丘等可期繁榮・當無衰亡。復次諸比丘・此七不退法・住比丘間・而比丘等・依此七法・善受教訓時・則比丘等可期繁榮・當無衰亡。

一〇

復次諸比丘・復有七不退法・我當教示。諦聽諦聽・善憶念之・今為汝說。』彼諸比丘・諾世尊曰・『唯然世尊。』世尊曰・『復次諸比丘・比丘等修無常想・修無我想・修不淨想・修苦想・修捨離想・修離情想・修滅想時・則比丘等可期繁榮・當無衰亡。復次諸比丘・此七不退法・住比丘間・而比丘等・依此七法・善受教訓時・則比丘等可期繁榮・當無衰亡。

一一

諸比丘・復有六不退法・我當教示。諦聽諦聽・善憶念之・今為汝說。』彼諸比丘・諾世尊曰・『唯然世尊。』世尊曰・『復次諸比丘・比丘等於梵行者間・無論公私・常行仁慈身業時・則比丘等可期繁榮・當無衰亡。復次諸比丘・比丘等於梵行者間・無論公私・常行仁慈口業時・則比丘等・可期繁榮・當無衰亡。復次諸比丘・比丘等於梵行者間・無論公私・常行仁慈意業時・則比丘等可期繁榮・當無衰亡。復次諸比丘・比丘等從僧團規定所得物・乃至鉢所盛・簡單食物・凡未分配・皆不取食・與持戒者・與梵行者・共分而食・無偏頗時・則比丘等可期繁榮・當無衰亡。復次諸比丘・比丘等不殘不壞・無瑕無穢・令為自由人・為智者所讚・不為他所污・如趣三昧・於斯戒律・而持聖戒・無論公私・與梵行者・相共住時・則比丘等可期繁榮・當無衰亡。復次諸比丘・比丘等有趣涅槃聖見・行聖見者・如趣苦滅・由斯正見而持正見・無論公私・與

梵行者・相共住時・則比丘等可期繁榮・當無衰亡。諸比丘・此六不退法・住比丘間・而比丘等・依此六法・善受教訓時・則比丘等可期繁榮・當無衰亡。』

一二

爾時世尊・住彼王舍城靈鷲山・為比丘等・數數說法。所說之法・即戒定慧。若所修戒共定・其果報大・利益亦大。若所修定共慧・其果報大・利益亦大。若所修慧共心・則欲漏、有漏、見漏、無明漏等諸漏・完全解脫。

一三

爾時世尊・於王舍城・隨宜住已・告尊者阿難曰・『阿難・吾欲往菴婆羅提迦園。』尊者阿難諾曰・『唯然世尊。』世尊即與大比丘眾俱・往菴婆羅提迦園。

一四

於是世尊・住菴婆羅提迦園王家。世尊為比丘等・數數說法。所說之法・即戒定慧。若所修戒共定・其果報大・利益亦大。若所修定共慧・其果報大・利益亦大。若所修慧共心・則由欲漏、有漏、見漏、無明漏等諸漏・完全解脫。

一五

爾時世尊・於菴婆羅提迦園・隨宜住已・告尊者阿難曰・『阿難・我今欲往那爛陀。』尊者阿難諾世尊曰・『唯然世尊。』世尊即與大比丘眾俱・往那爛陀。於是世尊・住那爛陀波波利菴婆林。

一六

爾時尊者舍利弗・至世尊前・頂禮世尊・於一面坐。坐一面已・尊者舍利弗・如是白言・『世尊・我於世尊・有如是信。若沙門若婆羅門中・猶較世尊・更為大知・謂於正覺〔尤殊勝〕者・昔未〔曾〕有・〔將亦〕不當有・〔今亦〕無有。』『舍利弗・汝言中肯・偉而且勇・發師子吼・謂「世尊・我於世尊・有如是信。若沙門若婆羅門中・猶較世尊・更為大知・謂於正覺〔尤殊勝〕者・昔

未〔曾〕有・〔將亦〕不當有・〔今亦〕無有。」舍利弗・於過去久長時間・曾有諸阿羅漢、等正覺者・汝以汝心・知是等諸世尊心・知「彼世尊・已有如是戒・彼世尊已有如是法・如是慧・如是行・如是解脫」耶。』『不也世尊。』『復次舍利弗・於未來久長時間・將有諸阿羅漢、等正覺者・汝以汝心・知是等諸世尊心・知「彼世尊・當有如是戒・彼世尊當有如是法・如是慧・如是行・如是解脫」耶。』『不也世尊。』『復次舍利弗・今我阿羅漢・等正覺者・汝以汝心・而知我心・知「世尊有如是戒・世尊有如是法・如是慧・如是行・如是解脫」耶。』『不也世尊。』『舍利弗・今汝於過去、未來、現在諸阿羅漢、等正覺者・無是他心通・汝今何故・說此偉而且勇・中肯之言・發師子吼・謂「世尊・我於世尊・有如是信。若沙門若婆羅門中・猶較世尊・更為大知・謂於正覺〔尤殊勝〕者・昔未〔曾〕有・〔將亦〕不當有・〔今亦〕無有」耶。』

一七

『世尊・我於過去、未來、現在諸阿羅漢、等正覺者・無是他心通・唯我知法次第。世尊・譬如城市・在王邊境・城有堅壁・堅壘及門・而復唯留單門出入。是處門守・賢明精智・阻止生人・讓熟人入。〔設若有人〕循行城周・彼於壘穴・或壘破處・或柵隙間・貓出入者・悉不之見。彼如是推測・無論何者・體大生物・出入城市・唯當從此單門出入。世尊・我亦如是・知法次第。世尊・我知過去諸阿羅漢、等正覺者。彼諸世尊・捨去五蓋・知心污濁足以損人・而心善住於四念處・如實修行・七菩提分・成就最勝之等正覺。復次世尊・我知未來諸阿羅漢・等正覺者。彼諸世尊・捨去五蓋・知心污濁足以損人・而心善住於四念處・如實修行・七菩提分・成就正覺。復次世尊・我知現在阿羅漢等正覺者世尊・捨去五蓋・知心污濁足以損人・而心善住於四念處・如實修行・七菩提分・成就最勝之等正覺。』

一八

爾時世尊・住彼那爛陀波波利菴婆林・又為比丘等・種種說法。所說之法・即戒如是・定如是・慧如是。所修戒共定・是大果報・亦大利益。所修定共慧・是大果報・亦大利益。所修慧共心・則由欲漏、有漏、見漏、無明漏等諸漏・完全解脫。

一九

世尊於那爛陀・隨宜住已・告尊者阿難曰・『阿難・我今欲往巴吒釐村。』尊者阿難・諾世尊曰・『唯然世尊。』世尊即與大比丘眾俱・往巴吒釐村。

二〇

巴吒釐村優婆塞等・悉聞世尊・來至巴吒釐村。巴吒釐村優婆塞等・便至世尊前・至已禮敬・却坐一面。巴吒釐村優婆塞等・坐一面已・白世尊言・『唯願世尊屈住我等之休息所。』世尊默然許可。

二一

巴吒釐村優婆塞等知世尊許可・即從座起・禮敬世尊・右遶而去・至休息所。於休息所・鋪諸敷具・為設寶座・安置水瓶・立油燈已・還世尊所。至已禮敬世尊・於一面立。巴吒釐村優婆塞等立於一面・白世尊言・『世尊・休息所中・敷具已鋪・寶座已設・水瓶已置・油燈已立。世尊知宜・今唯是時。』

二二

於是世尊・整著下衣・攝持衣鉢・與比丘眾俱往休息所。至已洗足・入休息所・近中央柱・東面而坐。眾比丘等・亦皆洗足・入休息所・隨從世尊・傍近西壁・東面而坐。巴吒釐村優婆塞等・亦皆洗足入休息所・隨從世尊・傍近東壁・西面而坐。

二三

爾時世尊・告巴吒釐村優婆塞等曰・『諸家長・人因犯戒・成無戒者・有此五禍。何謂為五。諸家長・犯戒之無戒者・因放逸故・食極不足。此因犯戒成無戒者之第一禍。復次諸家長・犯戒之無戒者・惡聲流布。此因犯戒成無戒者之第二禍。復次諸家長・犯戒之無戒者・任入何處・若剎帝利眾間・若婆羅門眾間・若家長眾間・若沙門眾間・皆感不安而入昏惑。此因犯戒成無戒者之第三禍。復次諸家長・犯戒之無戒者・惱亂而死。此因犯戒成無戒者之第四禍。復次諸家長・犯戒之無戒者・身壞死後・生於惡生、惡趣、苦

趣、地獄。此因犯戒成無戒者之第五禍。諸家長．此實因犯戒成無戒者之五禍也。

二四

諸家長．人因修戒成持戒者．有此五利。何謂為五。諸家長．修戒之持戒者．因不放逸．食至豐足。此因修戒成持戒者之第一利。復次諸家長．修戒之持戒者．善譽周聞。此因修戒成持戒者之第二利。復次諸家長．修戒之持戒者．任入何處．若剎帝利眾間．若婆羅門眾間．若家長眾間．若沙門眾間．皆感安泰不入昏惑。此因修戒成持戒者之第三利。復次諸家長．修戒之持戒者．不亂惱而死。此因修戒成持戒者之第四利。復次諸家長．修戒之持戒者．身壞死後．生於善處天界。此因修戒成持戒者之第五利。諸家長．此因修戒成持戒者之五利也。』

二五

爾時世尊．為巴吒釐村優婆塞等．說法至夜．忠言勉勵．歡喜令去．曰．『諸家主．夜已闌．知時所宜．當可歸去。』巴吒釐村優婆塞等諾世尊曰．『唯然世尊。』即從座起．禮敬世尊．右遶而去。世尊於巴吒釐村優婆塞等去後．即入空舍。

二六

爾時摩揭陀大臣須尼陀及禹舍．正在巴吒釐村．築造城塞．以防跋祇人〔侵入。〕時巴吒釐村．有千眾天神．構築宅地。是時威力之王及其大臣．於威力天神．構築宅地處．意將築宅。中位之王及其大臣．於中位天神．構築宅地處．意將築宅。下位之王及其大臣．於中位天神．構築宅地處．意將築宅。

二七

世尊以超過人眼．清淨天眼．見彼千天神．正在巴吒釐村．構築宅地。世尊晨起．問阿難曰．『阿難．在巴吒釐村．築城塞者誰耶。』『世尊．摩揭陀大臣須尼陀及禹舍．正在巴吒釐村．築造城塞．以防跋祇人〔侵入．〕』

二八

『阿難・猶如與三十三天相商而為・阿難・摩揭陀大臣須尼陀及禹舍・正復如是・在巴吒釐村・築造城塞・以禦跋祇人。阿難・我以超過人眼・清淨天眼・見千眾天神・正在巴吒釐村・構築宅地。威力之王・及其大臣・於威力天神構築宅地處・意將築宅。中位之王・及其大臣・於中位天神・構築宅地處・意將築宅。下位之王・及其大臣・於下位天神・構築宅地處・意將築宅。阿難・唯聖者所居・商賈所集・此巴吒釐子（華氏）城當為首都・當為貨物集散之地。然華氏城・將有三危。即或因火危・或因水危・或因鄰友失和之危是。』

二九

時摩揭陀大臣須尼陀及禹舍・至世尊前。與世尊互為敬禮。敬禮已・共相問訊・於一面立。摩揭陀大臣須尼陀及禹舍・立於一面・白世尊言・『唯願尊者瞿曇・許於今日〔在我等舍・〕與比丘眾・受供養食・』世尊默然許可・

三〇

摩揭陀大臣須尼陀及禹舍・知世尊許可・即歸己舍・供辦甘美嚼食噉食・以時白世尊言・『瞿曇・時已至・食已辦。』世尊清旦・整著下衣・攝持衣鉢・與比丘眾俱・往摩揭陀大臣須尼陀及禹舍居。至已・就座而坐。眾比丘中・佛坐上首・時摩揭陀大臣須尼陀及禹舍・以甘美嚼食噉食・手自斟酌・勸請佛及比丘眾・咸得飽滿・悉至饜足。世尊食訖・澡手洗鉢・摩揭陀大臣須尼陀及禹舍・別取低座・坐於一面。

三一

摩揭陀大臣須尼陀及禹舍・坐一面時・世尊以偈致感謝言。

賢者誕居處　於是處持戒　守護梵行故　是處有諸神　彼於諸神等　奉事以供養

敬神神敬彼　互崇敬亦然　故受神之惠　如母惠愛子　諸神所惠者　當常邀福祉

世尊以此偈・感謝摩揭陀大臣須尼陀及禹舍已・起座而去。

三二

時摩揭陀大臣須尼陀及禹舍・侍從世尊・立而念曰・『今沙門瞿曇・出此城門・當名此門・為瞿曇門。當其所渡恆河渡處・曰瞿曇渡。』於是世尊所出之門・爰名瞿曇門。

三三

爾時世尊・至恒河邊。時河水平岸・鳥可得飲。或者求舟・或者求筏・或者結桴・欲渡彼岸。爾時世尊・譬如力士・屈伸臂頃・隱身此岸・與比丘眾・同登彼岸。

三四

世尊觀見・或者求舟・或者求筏・或者結桴・皆欲渡河。爾時世尊・知此意已・無問自說（鳥陀那）曰。

『當於世人結筏時　有人捨深處造橋　依此得渡河與海　如是彼為賢智者』

第二誦品

一

爾時世尊・告尊者阿難曰・『阿難・今當往拘利村。』尊者阿難・諾世尊曰・『唯然世尊。』世尊即與大比丘眾俱・往拘利村。於是世尊・住彼拘利村。

二

世尊於彼處・告比丘等曰・『諸比丘・我及汝等・因不覺了四聖諦故・久在輪迴・俱共流轉。云何為四。諸比丘・我及汝等・因不覺了苦聖諦故・久在輪迴・俱共流轉。諸比丘・我及汝等・因不覺了苦集聖諦・久在輪迴・俱共流轉。諸比丘・乃至因不覺了苦滅聖諦亦復如是。諸比丘・我及汝等・因不覺了趣苦滅道聖諦故・久在輪迴・俱共流轉。然諸比丘・覺了苦聖諦・覺了苦集聖諦・覺了苦滅聖諦・覺了趣苦滅道聖諦・斷除有愛・斷趣有〔網〕時・自今更無後有。』

三

世尊善逝・說此語已・師主復說偈言。

『因於四聖諦　不能如實知　各各於所生　久處輪迴道　觀見彼〔聖諦〕　能斷趣有〔網〕
切斷苦根故　便無有再生』

四

爾時世尊・住拘利村・為比丘等・數數說法。所說之法・即戒如是・定如是・慧如是・所修戒共定・其果報大・利益亦大。所修定共慧・其果報大・利益亦大。所修慧共心・則由欲漏、有漏、見漏、無明漏等諸漏・完全解脫。

五

世尊於拘利村・隨宜住已・告尊者阿難曰・『阿難・我今欲往那提迦。』尊者阿難諾世尊曰・『唯然世尊。』世尊即與大比丘眾俱・往那提迦。世尊於彼那提迦・住根葭迦筏沙多〔磚堂。〕

六

尊者阿難・至世尊前・禮敬世尊・於一面坐。尊者阿難・坐於一面・白世尊言・『世尊・有一比丘・名曰遮樓・於那提迦命終・彼趣生何處・死後何狀。世尊・有比丘尼・名曰難陀・於那提迦命終・彼女趣生何處・死後何狀。世尊・有優婆塞・名須達哆・於那提迦命終・彼趣生何處・死後何狀。世尊・有優婆夷・名曰善生・於那提迦命終・彼女趣生何處・死後何狀。世尊・有優婆塞・名迦俱陀・於那提迦命終・彼趣生何處・死後何狀。世尊・有優婆塞・名迦陵伽・有優婆塞・名尼迦吒・有優婆塞・名迦提沙婆・有優婆塞・名曰陀多・有優婆塞・名散陀多・有優婆塞・名婆頭樓・乃至世尊・有優婆塞・名蘇婆頭樓・於那提迦命終・彼趣生何處・死後何狀。』

七

『阿難・遮樓比丘・於此現世・即自漏盡・知無漏心解脫、慧解脫・實逮達作證而住。阿難・難陀比丘尼・斷五下分結・而為化生・於其處入滅・於彼世界・更不還來。阿難・須達哆優婆塞・斷除三結・漸滅貪瞋癡・得斯陀含一度還來此世・盡於苦滅。阿難・

善生優婆・夷・斷除三結・得須陀洹不墮惡趣・必成〔阿羅漢果〕正覺。阿難・迦俱陀優婆塞・斷五下分結・命終化生・於其處入滅・於彼世界・更不還來。阿難・迦陵伽優婆塞・尼迦吒優婆塞・迦提沙婆優婆塞・陀多優婆塞・散陀多優婆塞・婆頭樓優婆塞・乃至阿難・蘇婆頭樓優婆塞・斷五下分結・而為化生・即於其處入滅・於彼世界・更不還來。阿難・復有五十餘人優婆塞・於那提迦命終・斷五下分結・而為化生・即於其處入滅・於彼世界・更不還來。阿難・復有九十人優婆塞・於那提迦命終・斷除三結・漸滅貪瞋癡・得斯陀含・一度還來此世・盡於苦滅。阿難・更有五百人優婆塞・於那提迦命終・斷除三結・得須陀洹・不墮惡趣・必成正覺。

八

阿難・夫人之有死・非不可思議。然於人死・來問如來・阿難・是於如來・殊煩擾也。阿難・今當為汝・說法鏡次第。具是法鏡聖聲聞・隨所樂欲・得自說言「我滅地獄・滅畜生道・滅餓鬼境・滅墮地獄惡趣・我得須陀洹・住不退轉法・必定成正覺。」

九

阿難・云何具是法鏡聖聲聞・隨所樂欲・自謂「我滅地獄・滅畜生道・滅餓鬼境・滅墮地獄惡趣・我得須陀洹・住不退轉法・必定成正覺・」說是法鏡次第者耶。阿難・謂聖聲聞・於佛陀具正信・以「如斯世尊・是阿羅漢、等正覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛陀、世尊。」於法具足正信・以「依於世尊善所說法・有目得見・隨時顯現・見得明瞭・導於涅槃・在於智者・各自當知。」於僧伽具足正信・以「世尊弟子僧伽・善能修身・世尊弟子僧伽・立時修身・世尊弟子僧伽・以智修身・世尊弟子僧伽・正直修身・是即世尊弟子僧伽・四雙八輩・皆可供養・皆可接待・可敬可拜・為此世之無上福田。」謂聖聲聞・聖者所愛・不殘不缺・無瑕無穢・令為自由人・為賢者所讚・不為他所污・具足如是趣三昧戒。阿難・此實為法鏡次第・聖聲聞具足此者・隨所樂欲・得自說言・「我滅地獄・滅畜道生・滅餓鬼境・滅墮地獄惡趣・我得須陀洹・住不退轉法・必定成正覺」也。』

一〇

世尊住那提迦磚堂．又為比丘等．數數說法。所說之法．即戒如是．定如是．慧如是。乃至則由欲漏、有漏、見漏、無明漏等諸漏．完全解脫。

一一

世尊於那提迦．隨宜住已．告尊者阿難曰．『阿難．我今欲往毘舍離。』尊者阿難諾世尊曰．『唯然世尊。』世尊即與大比丘眾俱．往毘舍離。世尊於彼毘舍離．住菴婆波梨林。

一二

世尊於彼處．告比丘等曰．『諸比丘．比丘當具正念自覺．是為我之教汝等者。諸比丘．云何比丘當具正念。諸比丘．茲有比丘．於身觀身．精勤自覺．深住思念．當除〔此〕世貪欲憂悲。於受亦復如是如是。於心亦復如是如是。於法觀法．精勤自覺．深自思念．當除〔此〕世貪欲憂悲。諸比丘．是為比丘正念。

一三

諸比丘．云何比丘當具自覺。諸比丘．比丘於出於入．恆為自覺．視前顧後．恆為自覺．屈臂伸臂．恆為自覺．攝持衣鉢．恒為自覺．食飲咀嘗．恆為自覺．大小便利．恆為自覺．行止坐聽．覺寤語默．恆為自覺。諸比丘．是為比丘自覺。諸比丘．比丘當具正念自覺．是為我所教汝等者。』

一四

娼婦菴婆波梨．聞『世尊實至毘舍離．住我菴羅林。』娼婦菴婆波梨．備諸最極華麗之車．乘華車中．駕此諸車．即從毘舍離．進赴己園林。至已．禮敬世尊．却坐一面。世尊於娼婦菴婆波梨．即以法言示教訓誡．鼓舞使喜。娼婦菴婆波梨．依世尊法言．受教承訓．為所鼓舞．心生歡喜．白世尊言．『世尊．唯願世尊．許於明日．在我家園．與比丘眾．受供養食。』世尊默然許可。娼婦菴婆波梨知世尊許可．即從座起．禮敬世尊．右遶而去。

一五

住毘舍離眾離車人．聞『世尊實至毘舍離．住菴婆波梨林。』彼眾離車人．備諸最極華麗之車．乘華車中．駕此諸車．從毘舍離出．離車人中．或者以紺青．為紺青色紺青衣．紺青莊嚴．或者以黃．為黃色黃衣．黃莊嚴．或者以赤．為赤色赤衣．赤莊嚴．或者以白．為白色白衣．白莊嚴。

一六

時娼婦菴婆波梨．與最青年之離車人．車輪軸軛．共相衝撥。離車人語娼婦菴婆波梨曰．『菴婆波梨．今汝何故．與青年離車人．車輪軸軛．相衝撥耶。』『諸公子．我因已請世尊與比丘眾．在我家園．受供養食故。』『菴婆波梨．與汝十萬金．換此供養食。』『諸公子．設使汝與我毘舍離國土．我亦不能讓此大供養食。』眾離車人．即振手曰．『嗚呼悲哉．今一小婦人．我等為所勝。嗚呼悲哉．今一小婦人．我等為所辱。』彼眾離車人．即詣菴婆波梨林。

一七

世尊見彼諸離車人．從遠處來。告比丘等曰．『諸比丘．比丘等中．有未覩忉利天者諸比丘．今可觀離車人眾。諸比丘．汝等可數數觀離車人眾。諸比丘．彼離車人眾．與忉利天眾．可作同觀。』

一八

彼諸離車人．到車所止處．下車步進．至世尊前。至已．禮敬世尊．卻坐一面。諸離車人．坐一面已．世尊即以法言．示教訓誡．鼓舞使喜。彼眾離車人．依世尊法言．受教承訓．為所鼓舞．心生歡喜．白世尊言．『世尊．唯願世尊．許於明日．在我等舍．與比丘眾．受供養食。』『諸離車人．我於明日．已受娼婦菴婆波梨設供養食。』彼眾離車人．即振手曰．『嗚呼悲哉．今一小婦人．我等為所勝。嗚呼悲哉．今一小婦人．我等為所辱。』彼眾離車人．於世尊言．歡喜感謝．即從座起．禮敬世尊．右遶而去。

一九

娼婦菴婆波梨．即於其夜．．在己家園．供辦甘美嚼食噉食．以時白世尊言．『世尊．時已至．食已辦。』世尊清旦．整著下衣．攝

持衣鉢・與比丘眾俱・往娼婦菴婆波梨居。至已・就座而坐。眾比丘中・佛坐上首・時娼婦菴婆波梨・以甘美嚼食噉食・手自斟酌・勸請佛及比丘眾・咸得飽滿・悉至饜足。世尊食訖・澡手洗鉢・娼婦菴婆波梨・別取低座・坐於一面。娼婦菴婆波梨坐一面已・白世尊言・『世尊・我今以此園林・奉獻於佛・及比丘眾。』世尊受之。世尊於娼婦菴婆波梨・即以法言・示教訓誡・鼓舞使喜・起座而去。

二〇

於是世尊・在毘舍離・住菴婆波梨林・時為比丘等・數數說法。所說之法・即戒如是・定如是・慧如是・所修戒共定・其果報大・利益亦大・所修定共慧・其果報大・利益亦大。所修慧共心・則由欲漏、有漏、見漏、無明漏等諸漏・完全解脫。

二一

世尊於菴婆波梨林・隨宜住已・告尊者阿難曰・『阿難・我今欲往竹林村。』尊者阿難諾世尊曰・『唯然世尊。』世尊即與大比丘眾俱・往竹林村・於是世尊・住竹林村。

二二

爾時世尊・告比丘等曰・『諸比丘・汝等且往毘舍離邊境・或依友人・或依知識・或依親友・度雨安居。我亦於此竹林村中・度雨安居。』比丘等諾世尊言・『唯然世尊。』彼等即往毘舍離邊境・或依友人・或依知識・或依親友・度雨安居。世尊亦於彼竹林村・度雨安居。

二三

世尊於度雨安居中・身生重病・劇痛瀕死。然世尊正念自覺・不訴病苦・而自耐持。是時世尊・作是思惟・『我不告諸弟子・不訓教比丘眾・便即入滅・則非我宜。我今當以自力精進・耐持此病・住留壽命。』世尊即以自力精進・耐持其病・住留壽命・世尊之病・即便止息。

二四

爾時世尊・從病恢復。病恢復已・從居室出・坐蔭座處。時尊者阿難・至世尊前。至已・禮敬世尊・於一面坐。尊者阿難・坐一面已・白世尊言・『世尊・我見世尊安健。世尊・我見世尊堪耐。世尊・我見世尊有疾身衰・我深惶惑・不知東西・於法迷昧。然思「世尊・於比丘眾・尚無教命・此時世尊・當不入滅・」如是思念・我心稍安。』

二五

『然則阿難・諸比丘眾・於我尚有所待望耶。我〔悉〕說法・無分內外。阿難・如來法中・師無握拳・於諸弟子・一無所隱。是實阿難・設若有人・以「我導比丘眾・」「比丘眾依我・」作是念者・於比丘眾・應有教命。然而阿難・如來實無是念・「我導比丘眾・」「比丘眾依我。」如是阿難・如是於比丘眾・尚有何教命乎。復次阿難・我今衰老・為一老人・齡齒老邁・年已八十。阿難・譬如故車・依革紐助・・以趨以行・阿難・如來身體・亦復如是・依革紐助・以趨以行。阿難・如來不憶念一切相・入一一受滅無相心三昧時・阿難・是時如來身安健也。

二六

是故阿難・當以己為洲・以己為依處・・不以他人為依處・當以法為洲・以法為依處・不以他為依處而住。阿難・云何以己為洲・・以己為依處・不以他人為依處・以法為洲・以法為依處・不以他為依處而住耶。阿難・比丘於身觀身・精勤自覺・深自思惟・當除〔此〕世貪欲憂悲。於受於心・如是如是。於法觀法・精勤自覺・深自思惟・當除〔此〕世貪欲憂悲。阿難・比丘如是・以己為洲・以己為依處・不以他人為依處・以法為洲・以法為依處・不以他為依處而住。阿難・若於現在・或我滅後・若有樂欲以己為洲・以己為依處・不以他人為依處・以法為洲・以法為依處・不以他為依處・如是修行者・阿難・是則彼等・在我比丘中・最為第一。』

第三誦品

一

世尊清旦・整著下衣・攝取衣鉢・入毗舍離行乞。於毘舍離・行乞歸來・飯食訖・告尊者阿難曰・『阿難・可攜敷具俱行。我欲往遮

波羅塔廟・以便日中止息。』尊者阿難諾世尊曰・『唯然世尊。』即取敷具・從世尊後・隨侍而行。

二

世尊往遮波羅塔廟。至已・就座而坐。尊者阿難禮敬世尊・於一面坐。坐一面已・世尊告曰・『阿難・毘舍離可樂。憂園塔廟可樂。瞿曇塔廟可樂。薩達婆迦塔廟可樂。婆富弗塔廟可樂。薩爛陀陀塔廟可樂。遮波羅塔廟可樂。

三

阿難・若有人修四神足・反復修行・如車如礎・確然而立・充分修積・切實修習者・隨意所欲・當得住於一劫或住一劫以上。如來實修四神足・反復修行・如車如礎・確然而立・充分修積・切實修習。阿難・如來當隨意所欲・得住一劫・或住一劫以上。』

四

時尊者阿難・不能洞見・世尊如是・明示以相・光明顯發・未向世尊・為如是請・『世尊・為利眾生・為福眾生・為慈愍世間・為利益人天・為福樂人天・唯願世尊・垂住一劫・唯願善逝・垂住一劫。』是因阿難・心為魔所覆故。

五

世尊再度乃至三度・告尊者阿難曰・『阿難・毘舍離可樂。憂園塔廟可樂。瞿曇塔廟可樂。薩達婆迦塔廟可樂。婆富弗塔廟可樂。薩爛陀陀塔廟可樂。遮波羅塔廟可樂。阿難・若有人修四神足・反復修行・如車如礎・確然而立・充分修積・切實修習者・隨意所欲・當得住於一劫・或住一劫以上。如來實修四神足・反復修行・如車如礎・確然而立・充分修積・切實修習。阿難・如來當隨意所欲・得住一劫・或住一劫以上。』時尊者阿難・不能洞見・世尊如是・明示以相・光明顯發・未向世尊・為如是請・「世尊・為利眾生・為福眾生・為慈愍世間・為利益人天・為福樂人天・唯願世尊・垂住一劫・唯願善逝・垂住一劫。」是因阿難・心為魔所覆故。

六

爾時世尊・告尊者阿難曰・「阿難・知時宜者・汝今且去。」尊者阿難諾世尊曰・「唯然世尊。」即從座起・禮敬世尊・右遶而去・於不遠處。坐一樹下。

七

尊者阿難・甫去之頃・爾時惡魔・至世尊前・於一面立。惡魔立於一面・作如是言。『世尊・今請世尊入般涅槃・今請善逝入般涅槃・世尊可般涅槃・今正是時。復次世尊。世尊曾如是言・「惡者・我於我之比丘聲聞等・當使善能決定・善能自調・賢明多聞・持法修法・並修隨法・真正修行・行隨法行・奉持師說・復能說法・令知確立・開明分別・所為正直・若於非難異論・則能降之以法・及說具足神變之法。彼等未得如是法時・惡者・我當不入般涅槃。」

八

然而世尊・今世尊之比丘聲聞等・悉已善能決定・善能自調・賢明多聞・持法修法。並修隨法・真正修行・行隨法行・奉持師說・復能說法・令知確立・開明分別・所為正直・若於非難異論・則能降之以法・及說具足神變之法。世尊・今請世尊入般涅槃・今請善逝・入般涅槃・世尊可般涅槃・今正是時。世尊・世尊實曾有如是言・「我之比丘尼女聲聞等・當使善能決定・善能自調云云。乃至我之優婆塞聲聞等・當使善能決定・善能自調・賢明多聞・持法修法・並修隨法・真正修行・行隨法行・奉持師說・復能說法・令知確立・開明分別・所為正直・若於非難異論・則能降之以法・及說具足神變之法。彼等未得如是法時・惡者・我當不入般涅槃。」然而世尊・今世尊之優婆塞聲聞等・悉已善能決定・善能自調・賢明多聞・持法修法・並修隨法・真正修行・行隨法行・奉持師說・復能說法・令知確立・開明分別・所為正直・若於非難異論・則能降之以法・及說具足神變之法。世尊・今請世尊入般涅槃・今請善逝入般涅槃。世尊可般涅槃・今正是時。世尊・復次世尊實曾有如是言・「我之優婆夷女聲聞等・當使善能決定・善能自調・賢明多聞・持法修法・並修隨法・真正修行・行隨法行・奉持師說・復能說法・令知確立・開明分別・所為正直・若於非難異論・則能降之以法・及說具足神變之法。彼等未得如是法時・惡者・我不當入般涅槃。」然而世尊・今世尊之優婆夷女聲聞等・悉已善能決定・善能自調・賢明多聞・持法修法・並修隨法・真正修行・行隨法行・

奉持師說・復能說法・令知確立・開明分別・所為正直・若於非難異論・則能降之以法・及說具足神變之法。世尊・今請世尊入般涅槃・今請善逝入般涅槃。世尊・可般涅槃・今正是時。世尊・復次世尊實曾有如是言・「我此梵行・尚未成就・未榮未普・多人未知・未行擴布・未廣為人說・於是時中・惡者・我當不入般涅槃。」然而世尊・世尊梵行・今已成就・已榮已普・多人所知・已行擴布・已廣為人說。世尊・今請世尊入般涅槃・今請善逝入般涅槃。世尊可般涅槃・今正是時。』

九

如是言已・世尊告惡魔曰・「惡者・且安。如來般涅槃・為時不遠。是後三月・如來當般涅槃。」

一〇

世尊即於遮波羅塔廟・正念正智・捨壽命行。當此之時・地大震動・〔人民〕驚怖・身毛豎立・天鼓破裂。時世尊知此義・述烏陀那言。

「牟趣有量無量生　牟尼已捨是有因　內心有喜住正念　已裂如鎧我之生」

一一

尊者阿難・時作是念・「噫・實不可思議哉。噫・實未曾有哉。噫・此大地震。噫・如此劇烈之大地震。〔人人〕驚怖・身毛豎立・天鼓破裂。此大地震・是何因緣。」

一二

時尊者阿難・即至世尊前。至已・禮敬世尊・於一面坐。尊者阿難・坐一面已・白世尊言・「不可思議也・世尊。未曾有也・世尊。噫・此大地震。噫・如此劇烈之大地震。〔人人〕驚怖・身毛豎立・天鼓破裂。此大地震・是何因緣。」

一三

『阿難・現此大地震・實有八因八緣。云何為八。阿難・夫地在水上・水在風上・風處於空。阿難・大風起時・風吹水動・吹動之水・致地震動。此是現大地震之第一因第一緣。

一四

復次阿難・有具神通制御其心之沙門婆羅門・或有具大神力具大威力之天神・修地想少・修水想多時・致地震動。此是現大地震之第二因第二緣。

一五

復次阿難・菩薩從兜率天沒・正念正智・入母胎時・致地震動。此是現大地震之第三因第三緣。

一六

復次阿難・菩薩正念正智・出母胎時・致地震動。此是現大地震之第四因第四緣。

一七

復次阿難・如來證無上等正覺時・致地震動。此是現大地震之第五因第五緣。

一八

復次阿難・如來轉無上法輪時・致地震動。此是現大地震之第六因第六緣。

一九

復次阿難・如來正念正智・捨壽命行時・致地震動。此是現大地震之第七因第七緣。

二〇

復次阿難・如來完全捨離・於涅槃界・般涅槃時・致地震動。此是現大地震之第八因第八緣。阿難・此等是現大地震之八因八緣也。

二一

阿難・世有八眾。云何為八。曰剎帝利眾、婆羅門眾、居士眾、沙門眾、四天王眾、忉利天眾、魔眾、梵天眾。

二二

阿難・我復憶念・昔與數百剎帝利眾・近接相處・我於其處・曾坐曾語・亦曾會談。是時我色同彼等色・我聲同彼等聲。我以法言教誡令喜。語談之我・彼等莫識・〔意〕以「作斯語者・不知誰何。神乎人乎。」我以法言・教誡令喜已。隱身而沒。隱沒之我・彼等莫識・〔意〕以「隱身沒者・不知誰何。神乎人乎。」

二三

阿難・我復憶念・昔與數百婆羅門眾・亦復如是如是。與數百居士眾・亦復如是如是。與數百沙門眾・亦復如是如是。與數百四天王眾・亦復如是如是。與數百忉利天眾・亦復如是如是。與數百魔眾・亦復如是如是。乃至與數百梵天眾・近接相處・我於其處・曾坐曾語・亦曾會談。是時我色同彼等色・我聲同彼等聲。我以法言・教誡令喜。語談之我・彼等莫識・〔意〕以「作斯語者・不知誰何。神乎人乎。」我以法言・教誡令喜。隱身而沒。隱沒之我・彼等莫識・〔意〕以「隱身沒者・不知誰何。神乎人乎。」阿難。此是八眾。

二四

阿難・有八勝處。云何為八。

二五

或者內懷色想・觀外色有量・若好若醜。「於是等勝知勝見・」得如實想。此是第一勝處。

二六

或者內懷色想・觀外色無量・若好若醜・「於是等勝知勝見・」得如實想。此是第二勝處。

二七

或者內懷無色想・觀外色有量・若好若醜・「於是等勝知勝見・」得如實想。此是第三勝處。

二八

或者內懷無色想・外觀色無量・若好若醜・「於是等勝知勝見・」得如實想。此是第四勝處。

二九

或者內懷無色想・觀外色青、青顯、青現、青光・譬如烏摩迦華・又如兩面光滑之波羅奈衣青、青顯、青現、青光・如是內懷無色想・觀外色青、青顯、青現、青光・「於是等勝知勝見・」得如實想。此是第五勝處。

三〇

或者內懷無色想・觀外色黃、黃顯、黃現、黃光・譬如羯尼迦華・又如兩面光滑之波羅奈衣黃、黃顯、黃現、黃光・如是內懷無色想・觀外色黃、黃顯、黃現、黃光・「於是等勝知勝見・」得如實想。此是第六勝處。

三一

或者內懷無色想・觀外色赤、赤顯、赤現、赤光・譬如般豆時婆迦華・又如兩面光滑之波羅奈衣赤、赤顯、赤現、赤光・如是內懷無色想・觀外色赤、赤顯、赤現、赤光・「於是等勝知勝見・」得如實想。此是第七勝處。

三二

或者內懷無色想・觀外色白、白顯、白現、白光・譬如烏沙那斯星(太白金星・)又如兩面光滑之波羅奈衣白、白顯、白現、白光・如是

內懷無色想・觀外色白、白顯、白現、白光・「於是等勝知勝見・」得如實想。此是第八勝處。阿難・此是八勝處

三三

阿難・有八解脫。云何為八。有色想者觀色・此是第一解脫。內懷無色想觀外色・此是第二解脫・唯念「清淨・」心成一心・此是第三解脫。超一切色想・滅瞋恚想・不念諸想・入住「空無邊」之空無邊處。此是第四解脫。超一切空無邊處・入住「識無邊」之識無邊處。此是第五解脫。超一切識無邊處・入住「一切無有」之無所有處。此是第六解脫。超一切無所有處・入住非想非非想處。此是第七解脫。超一切非想非非想處・入住想受滅盡。此是第八解脫。阿難・此是八解脫。

三四

阿難・我曾於時・成無上正覺・住鬱鞞羅之尼連禪河畔阿踰波羅尼拘律樹下。阿難・爾時惡魔・來至我前・於一面立。阿難・惡魔立一面已・如是白我言・「世尊・今請世尊入般涅槃・今請善逝入般涅槃。世尊可般涅槃・今正是時。」

三五

如是言時・阿難・我告惡魔曰・「惡者・我於我之比丘聲聞等・當使善能決定・善能自調・賢明多聞・持法修法・並修隨法・真正修行・行隨法行・奉持師說・復能說法・令知確立・開明分別・所為正直・若於非難異論・則能降之以法・及說具足神變之法。彼等未得如是法時・我當不入般涅槃。我之比丘尼女聲聞等・當使善能決定・善能自調・賢明多聞・持法修法・並修隨法・真正修行・行隨法行・奉持師說・復能說法・令知確立・開明分別・所為正直・若於非難異論・則能降之以法・及說具足神變之法。彼等未得如是法時・惡者・我當不入般涅槃。我之優婆塞聲聞等・當使善能決定・善能自調・賢明多聞・持法修法・並修隨法・真正修行・行隨法行・奉持師說・復能說法・令知確立・開明分別・所為正直・若於非難異論・則能降之以法・及說具足神變之法。彼等未得如是法時・惡者・我當不入般涅槃。我之優婆夷女聲聞等・當使善能決定・善能自調・賢明多聞・持法修法・並修隨法・真正修行・行隨法行・奉持師說・復能說法・令知確立・開明分別・所為正直・若

於非難異論・則能降之以法・及說具足神變之法。彼等未得如是法時・惡者・我當不入般涅槃。惡者・我此梵行・尚未成就・未榮未普・多人未知・未行擴布・未廣為人說・於是時中・我當不入般涅槃。」

三六

然而阿難・今於遮波羅塔廟・惡魔又至我前・於一面立。阿難・惡魔立一面已・如是白我言・『世尊・今請世尊入般涅槃・今請善逝入般涅槃。世尊可般涅槃・今正是時。復次世尊・世尊曾如是言・「惡者・我於我之比丘聲聞等・當使善能決定・善能自調・賢明多聞・持法修法・並修隨法・真正修行・行隨法行・奉持師說・復善說法・令知確立・開明分別・所為正直・若於非難異論・則能降之以法・及說具足神變之法。彼等未得如是法時・我當不入般涅槃。」然而世尊・今世尊之比丘聲聞等・悉已善能決定・善能自調・賢明多聞・持法修法・並修隨法・真正修行・行隨法行・奉持師說・復善說法・令知確立・開明分別・所為正直・若於非難異論・則能降之以法・及說具足神變之法。世尊・今請世尊入般涅槃・今請善逝入般涅槃。世尊可般涅槃・今正是時。復次世尊・世尊又曾如是言・「惡者・我之比丘尼・我之優婆塞・我之優婆夷如是如是・乃至我此梵行・尚未成就・未榮未普・多人未知・未行擴布・未廣為人說・我當不入般涅槃。」然而世尊・世尊梵行・今已成就・已榮已普・多人所知・已行擴布・已廣為人說。世尊・今請世尊入般涅槃・今請善逝入般涅槃。世尊可般涅槃・今正是時。』

三七

如是言時・阿難・我告惡魔曰・「惡者且安・如來般涅槃・為時不遠。是後三月・如來當般涅槃。」阿難・如來今日於遮波羅塔廟・正念正智・已捨壽命行。』

三八

如是言時・尊者阿難・白世尊言・『世尊・為利眾生・為福眾生・為慈愍世間・為利益人天・為福樂人天・唯願世尊垂住一劫・唯願善逝垂住一劫。』『止・阿難・勿請如來・阿難・勸請如來・今非其時。』

三九

尊者阿難・再〔白世尊言・『世尊・為利眾生・為福眾生・為慈愍世間・為利益人天・為福樂人天・唯願世尊垂住一劫・唯願善逝垂住一劫。』『止・阿難・勿請如來。阿難・勸請如來・今非其時。』〕尊者阿難・三白世尊言・『世尊・為利眾生・為福眾生・為慈愍世間・為利益人天・為福樂人天・唯願世尊垂住一劫・唯願善逝垂住一劫。』『阿難・汝信如來之菩提耶。』『如是世尊。』『然則阿難・今汝何故三擾如來。』

四〇

『世尊・我親從世尊聞如是言・受如是言・「阿難・若有人修四神足・反復修行・如車如礎・確然而立・充分修積・切實修習者・隨意所欲・當得住於一劫・或住一劫以上。如來實修四神足・乃至得住一劫・或住一劫以上。」』『阿難・汝信之耶。』『如是世尊。』『阿難・是汝惡作・是汝之咎。如來如是明示以相・光明顯發・時汝不能洞見・為何不向如來・作如是請・「為利眾生・為福眾生・為慈愍世間・為利益人天・為福樂人天・唯願世尊垂住一劫・唯願善逝垂住一劫。」阿難・汝於如來・若有勸請・汝再度言・如來或卻・但三度言・當蒙許可。是故阿難・為汝惡作・為汝之咎。

四一

阿難・我曾一時・住王舍城靈鷲山。阿難・我於其處說曰・「阿難・王舍城可樂。靈鷲山可樂。阿難・若有人修四神足・反復修行・如車如礎・確然而立・充分修積・切實修習者・隨意所欲・當得住一劫・或住一劫以上。今如來修四神足・反復修行・如車如礎・確然而立・充分修積・切實修習。阿難・如來隨所欲・得住一劫・或住一劫以上。」阿難・如來如是明示以相・光明顯發・時汝不能洞見・不向如來・為如是請・「為利眾生・為福眾生・為慈愍世間・為利益人天・為福樂人天・唯願世尊垂住一劫・唯願善逝垂往一劫。」阿難・汝於如來・若有勸請・汝再度言・如來或却・但三度言・當蒙許可。是故阿難・為汝惡作・為汝之咎。

四二

阿難・我曾一時・住王舍城尼拘律樹園・住王舍城遮羅崖・住王舍城毘婆羅山側七葉窟・住王舍城仙人山側黑石窟・住王舍城寒林蛇頭巖・住王舍城榻補園・住王舍城迦蘭陀竹林・住王舍城耆婆菴羅園・悉曾如是如是說。乃至住王舍城摩陀究制鹿園。

四三

阿難・我亦於彼處曰・「阿難・王舍城可樂・靈鷲山可樂・瞿曇尼拘律樹園可樂・遮羅崖可樂・毘婆羅山側七葉窟可樂・仙人山側黑石窟可樂・寒林蛇頭巖可樂・榻補園可樂・迦蘭陀竹林可樂・耆婆菴羅園可樂・摩陀究制鹿園可樂。

四四

阿難・若有人修四神足・反復修行・如車如礎・確然而立・充分修積・切實修習者・隨意所欲・當得住一劫・或住一劫以上。今如來修四神足・反復修行・如車如礎・確然而立・充分修積・切實修習。阿難・如來隨所欲・得住一劫・或住一劫以上。」阿難・如來如是・明示以相・光明顯發・時汝不能洞見・不向如來・為如是請・「為利眾生・為福眾生・為慈愍世間・為利益人天・為福樂人天・唯願世尊垂住一劫・唯願善逝垂住一劫。」阿難・汝於如來・若有勸請・汝再度言・如來或却・但三度言・當蒙許可。是故阿難・為汝惡作・為汝之咎。

四五

阿難・我曾一時・住毘舍離憂園塔廟。阿難・我於其處曰・「阿難・毘舍離可樂。憂園塔廟可樂。阿難・若有人修四神足・反復修行・如車如礎・確然而立・充分修積・切實修習者・隨意所欲・當得住一劫・或住一劫以上。今如來修四神足・反復修行・如車如礎・確然而立・充分修積・切實修習。阿難・如來隨所欲・得住一劫・或住一劫以上。」阿難・如來如是・明示以相・光明顯發・時汝不能洞見・不向如來・為如是請・「為利眾生・為福眾生・為慈愍世間・為利益人天・為福樂人天・唯願世尊垂住一劫・唯願善逝垂住一劫。」阿難・汝於如來・若有勸請・汝再度言・如來或却・但三度言・當蒙許可。是故阿難・為汝惡作・為汝之咎。

四六

阿難・我曾一時・住毘舍離瞿曇塔廟・住毘舍離薩達婆塔廟・住毘舍離婆富弗塔廟・住毘舍離薩爛陀陀塔廟・悉曾如是如是說・乃至阿難・為汝惡作・為汝之咎。

四七

阿難・我今於遮波羅塔廟曰・「阿難・毘舍離可樂・憂園塔廟可樂・瞿曇塔廟可樂・薩達婆塔廟可樂・婆富弗塔廟可樂・薩爛陀陀塔廟可樂・遮波羅塔廟可樂。阿難・若有人修四神足・反復修行・如車如礎・確然而立・充分修積・切實修習者・隨意所欲・當得住一劫・或住一劫以上。今如來修四神足・反復修行・如車如礎・確然而立・充分修積・切實修習。阿難・如來隨所欲・得住於一劫・或住一劫以上。」阿難・如來如是・明示以相・光明顯發・時汝不能洞見・不向如來・為如是請・「為利眾生・為福眾生・為慈愍世間・為利益人天・為福樂人天・唯願世尊垂住一劫・唯願善逝垂住一劫。」阿難・汝於如來・若有勸請・汝再度言・如來或却・但三度言・當蒙許可。是故阿難・為汝惡作・為汝之咎。

四八

阿難・我豈未曾為是言耶。凡恩愛者・〔生〕離〔死〕別・〔身死已後、境界〕各殊。阿難・彼所生所存・所造破壞法・云何得謂實不破壞・無有是處。是以阿難・如來已棄已吐・已脫已擲・已捨壽命行。如來實已決為是言・「如來不久・當般涅槃。是後三月・如來入般涅槃。」如來復於壽命・自食言者・無有是處。阿難・我今欲往大林重閣講堂。』尊者阿難・諾世尊曰・『唯然世尊。』

四九

時世尊與尊者阿難俱往大林重閣講堂。世尊告尊者阿難曰・『阿難・汝往集毘舍離左近諸比丘・盡會講堂。』尊者阿難諾世尊曰・『唯然世尊・』即集毘舍離左近諸比丘・盡會講堂・至世尊前・至已・禮敬世尊・於一面立。尊者阿難・立於一面・白世尊言・『世尊・諸比丘已集・世尊・唯世尊知時・乞垂駕臨。』

五〇

世尊即往講堂・就座而坐・告諸比丘曰・『諸比丘・我所知法・已示汝等。汝等當善理解・實踐修習・廣為宣布。為令梵行長續久住・是即為饒益眾生・福樂眾生・慈愍世間・為饒益人天・福樂人天。諸比丘・云何謂我所知法・為汝等說・汝等當善理解・實踐修習・廣為宣布・而於梵行・為令長續・為令久住・是即為饒益眾生・福樂眾生・慈愍世間・為饒益人天・福樂人天之法。曰四念處、四精進、四神足、五根、五力、七菩提分、八聖道分。諸比丘・我知此法・已為汝說。汝等當善理解・實踐修習・廣為宣布。能令梵行長續久住・是即為饒益眾生・福樂眾生・慈愍世間・為饒益人天・福樂人天・』

五一

於是世尊・告諸比丘曰・『諸比丘・我今告汝等。諸行是壞法。依不放逸・而起精進。如來不久・當般涅槃。是後三月・如來入般涅槃。』世尊如是說・善逝如是說已・師復重說偈言。

我年已老　我命無幾　今捨汝等　我將去矣　由於我身　得自歸依　汝比丘等
其自精勤　當具正念　善守戒行　思惟攝意　善守己心　於法於律　住精勤者
可捨流轉　令苦終盡

第四誦品

一

世尊清旦・整着下衣・攝取衣鉢・於毘舍離行乞。飯食訖已・行乞歸來・如象之矚・矚毘舍離・告尊者阿難曰・『阿難・如來矚毘舍離・此當為最後。阿難・我今欲往犍荼村。』尊者阿難・諾世尊曰・『唯然世尊。』世尊即與大比丘眾俱・往犍荼村。爾時世尊住彼犍荼村。

二

世尊於其處・告諸比丘曰・『諸比丘・我及汝等・以不了知通達四法故・於斯長道・而有流轉輪迴。何謂為四。諸比丘・我及汝等・以不了知通達聖戒故・於斯長道・而有流轉輪迴。諸比丘・我及汝等・以不了知通達聖定故・於斯長道・而有流轉輪迴。諸比丘・我

及汝等・以不了知通達聖慧故・於斯長道・而有流轉輪迴。諸比丘・我及汝等・以不了知通達聖解脫故・於斯長道・而有流轉輪迴。諸比丘・知達聖戒・知達聖定・知達聖慧・知達聖解脫故・則斷有欲・滅趣有〔綱・〕更不再生。』

三

世尊如是說・善逝如是說已・師復重說偈言。

戒定慧解脫　四者為無上　依大名瞿曇　此法得覺知　佛知如是法　為諸比丘說
具眼之師尊　滅苦般涅槃

四

爾時世尊・住犍荼村・為比丘等・種種說法。所說之法・即戒如是・定如是・慧如是。所修戒共定・其果報大・利益亦大。所修定共慧・其果報大・利益亦大。所修慧共心・則由欲漏、有漏、見漏、無明漏等諸漏・完全解脫。

五

世尊於犍荼村・隨宜住已・告阿難曰・『阿難・我今欲往授手村・如是往菴羅村・往閻浮村・乃至往負彌城。』尊者阿難諾世尊曰・『唯然世尊。』世尊即與大比丘眾俱・往負彌城。

七

爾時世尊於負彌城・住阿難塔廟。世尊於其處・告諸比丘曰・『諸比丘・我當說此四大教法。諦聽諦聽・善憶念之・當為汝說。』彼比丘等諾世尊曰・『唯然世尊。』

八

世尊曰・『諸比丘・若有比丘・作如是言・「諸友・我從世尊・親聽親受・如是法・如是戒・如是師教義。」諸比丘・於彼比丘言・不應欣受・亦不應毀。以不欣不毀故・而於其辭句・善為理解・一依經律・而為勘合。若其所言・勘合經律・既離於經又違於律・乃得結論・「此言確非世尊所說・此由比丘・所謬聽受。」諸比丘・

如是言者・當捐捨之。若其所言・勘合經律・既合於經又依於律・乃得結論・「此言是真世尊所說・此由比丘・所正聽受。」諸比丘・於此第一大教法・當宜受持。

九

諸比丘・復次比丘・作如是言・「於如是處・實有僧團・奉有長老・多聞耆舊。我從僧團・親聽親受。如是法・如是律・如是師教義。」諸比丘・於彼比丘言・不應欣受・亦不應毀。以不欣不毀故・於其辭句・善為理解・一依經律・而為勘合。若其所言・勘合經律・離經違律・乃得結論・「此言確非世尊所說・由彼僧團所謬聽受。」諸比丘・如是言者・當捐捨之。若其所言・勘合經律・合經依律・乃得結論・「此言是真世尊所說・由彼僧團・所正聽受。」諸比丘・於此第二大教法・當宜受持。

一〇

諸比丘・復次比丘・作如是言・「於如是處・實住眾多長老比丘・具足多聞・善知阿含・持法持律持摩夷。我從眾長老・親聽親受。如是法・如是律・如是師教義。」諸比丘・於彼比丘言・不應欣受・亦不應毀。以不欣不毀故・於其辭句・善為理解・一依經律・而為勘合。若其所言・勘合經律・離經違律・乃得結論・「此言確非世尊所說・彼眾長老・所謬聽受。」諸比丘・如是言者・當捐捨之。若其所言・勘合經律・合經依律・乃得結論・「此言是真世尊所說・彼眾長老・所正聽受。」諸比丘・於此第三大教法・當宜受持。

一一

諸比丘・復次比丘・作如是言・「於如是處・實住一長老比丘・具足多聞・善知阿含・持法持律持摩夷。我從長老・親聽親受。如是法・如是律・如是師教義。」諸比丘・於彼比丘言・不應欣受・亦不應毀。以不欣不毀故・於其辭句・善能理解・一依經律・而為勘合。若其所言・勘合經律・離經違律・乃得結論・「此言確非世尊所說・由彼長老・所謬聽受。」諸比丘・如是言者・當捐捨之。若其所言・勘合經律・合經依律・乃得結論・「此言是真世尊所說・由彼長老・所正聽受。」諸比丘・於此第四大教法・當宜受持。諸比丘・於此四大教法・當宜受持。』

一二

爾時世尊・住彼負彌城・為比丘等・種種說法。所說之法・即戒如是・定如是・慧如是。所修戒共定・其果報大・利益亦大。所修定共慧・其果報大・利益亦大。所修慧共心・則由欲漏、有漏、見漏、無明漏等諸漏・完全解脫。

一三

世尊於負彌城・隨宜住已・告尊者阿難曰・『阿難・我今欲往波婆城。』尊者阿難・諾世尊曰・『唯然世尊。』世尊即與大比丘眾俱・往波婆城。世尊於其處・住波婆城鍛工子純陀之菴羅林。

一四

鍛工子純陀・聞『世尊實至波婆城・住我菴羅林。』鍛工子純陀・即至世尊前。至已禮敬世尊・於一面坐。鍛工子純陀・坐一面已・世尊以法言・示教訓誡・鼓舞使喜。

一五

鍛工子純陀・依世尊法言・受教承訓・為所鼓舞・心生歡喜・白世尊言・『世尊・唯願世尊・許於明晨・與比丘眾・在我舍中受供養食。』世尊默然許可。

一六

鍛工子純陀知世尊許可・即從座起・禮敬世尊・右遶而去。

一七

鍛工子純陀・即於其夜・供辦甘美嚼食噉食・並多備蕈・以時白世尊言・『世尊・時已至・食已辦。』

一八

世尊清旦・整著下衣・攝取衣鉢・與比丘眾俱・往鍛工子純陀舍。至已・就座而坐。世尊告鍛工子純陀曰・『汝所備蕈・取以供我。

其餘噉食噉食・供比丘眾。』鍛工子純陀・諾世尊曰・『唯然世尊。』即以所備蕈・供奉世尊・其餘噉食噉食・供養比丘眾。

一九

爾時世尊・告鍛工子純陀曰・『純陀・所餘之蕈・埋諸穴中。純陀・我於天、魔、梵界・沙門婆羅門間・天人之間・唯除如來・未見食是能消化者。』鍛工子純陀・諾世尊曰・『唯然世尊。』即埋蕈於穴・至世尊前。禮敬世尊・於一面坐。鍛工子純陀・坐一面已・世尊以法言・示教利喜已・起坐而去。

二〇

世尊受鍛工子純陀食・時發重〔赤痢〕病・赤血迸出・劇痛瀕死。爾時世尊・正念正智・堪忍不苦・世尊告尊者阿難曰・『阿難・我今欲往拘夷那竭。』尊者阿難・諾世尊曰・『唯然世尊。』

我聞如是事　純陀舍受食　賢者身罹疾　沈重瀕於危　師之發重病　食蕈為其因
世尊雖患痢　猶向拘夷城

二一

爾時世尊・中路却退・止一樹下。告尊者阿難曰・『阿難・汝可為我重敷四疊上衣。阿難・我疲欲坐。』尊者阿難・諾世尊曰・『唯然世尊。』即重敷四疊上衣。

二二

世尊就坐於所敷座。坐已・告尊者阿難曰・『阿難・汝可為我・盛取水來。阿難・我渴欲飲。』尊者阿難・聞是言已・白世尊言・『世尊・適有五百車乘・越水而過。水受車輪阻・少而混淆・濁流不清。世尊・彼脚拘多河・去此不遠・其水清澄・涼爽宜人・得之易易・殊為可喜。唯願世尊・就飲其處・又於四肢・可獲清涼。』

二三

世尊再告尊者阿難曰・『阿難・汝可為我盛取水來。阿難・我渴欲飲。』尊者阿難再白世尊言・『世尊・適有五百車乘・越水而過。

水受車輪阻・少而混淆・濁流不清。世尊・彼脚拘多河・去此不遠・其水清澄・涼爽宜人・得之易易・殊為可喜。唯願世尊就飲其處・又於四肢・可獲清涼。』

二四

世尊三告尊者阿難曰・『阿難・汝可為我盛取水來。阿難・我渴欲飲。』尊者阿難諾世尊曰・『唯然世尊。』即取鉢詣河。是處河水・受車輪阻・少而混淆・濁流不清・尊者阿難・詣彼河時・水乃清澄・不濁而流。

二五

尊者阿難・便自思念・『嗚呼・如來大神通大威力・實不可思議。嗚呼・實為希有。是處河水・受車輪阻・少而混淆・濁流不清・而我詣時・水乃清澄・不濁而流。』〔於是〕以鉢汲水・至世尊前。至已・白世尊言・『如來大神通大威力・不可思議哉世尊。希有哉世尊。世尊・彼河之水・受車輪阻・少而混淆・濁流不清・而我詣時・水乃清澄・不濁而流。願世尊飲。願善逝飲。』於是世尊飲水。

二六

爾時・末羅子福貴・為阿羅羅迦羅摩弟子・從拘夷那竭・步向波婆大道・末羅子福貴・見世尊坐一樹下。見已・至世尊前・禮敬世尊・於一面坐。末羅子福貴・坐於一面・白世尊言・『嗚呼世尊・出家之人・如是寂定。不可思議哉世尊。希有哉世尊。

二七

世尊・阿羅邏迦羅摩・昔於一時・步行大道・日中止息・於道側不遠坐一樹下。世尊・時有五百乘車・近而復近・經過其邊。世尊・彼商隊車・後隨一人・行至阿羅邏迦羅摩前・向彼為是言・「尊者・五百乘車經過・曾覩見耶。」「吾友・我實未見。」「然則尊者・曾聞聲耶。」「吾友・我實未聞。」「然則尊者・為睡眠耶。」「吾友・我實未睡。」「然則尊者・為醒覺耶。」「實然・吾友。」「若然尊者・身既醒覺・等有意識・今五百乘車・在近經過・而竟未見・未曾聞聲。尊者・汝之上衣・非塵土之所坌蔽

耶。」「然也・吾友。」世尊・彼人作是念・「嗚呼・實不可思議哉。嗚呼・實為希有哉。嗚呼・出家之人・其心如是寂靜・既為醒覺等有意識・今五百乘車・在近經過・而竟未見・未曾聞聲。」彼於阿羅邏迦羅摩・發深信言・言已而去。』

二八

『福貴・於汝意云何。若有既為醒覺・等有意識・五百乘車・在近通過・而不之見・不聞聲者・與有既為醒覺・等有意識・於天降雨・電閃雷鳴・灼爍霹靂・而不之見・不聞聲者・孰更為難能・孰更為難逮耶・』

二九

『尊者・莫言彼五百乘車・即若六百乘車・若七百乘車・若八百乘車・若九百乘車・若一千乘車・若一萬乘車・何足為難。若有既為醒覺・等有意識・於天降雨・電閃雷鳴・灼爍霹靂・而不之見・不聞聲者・斯更難能・斯更難逮。』

三〇

『然而福貴・昔於一時・我在阿頭・住籾穀家。時天降雨・電閃雷鳴・灼爍霹靂・殺彼籾穀家兄弟農夫二人・及四頭牛。福貴・時阿頭人眾大聚・至所殺兄弟農夫二人・及四牛側。

三一

福貴・爾時我從籾穀家出・於其戶外・敞地經行。福貴・彼大眾中・有一人來・至我所在・向我禮敬・於一面立。福貴・彼立一面已・我如是問言・

三二

「吾友・彼大眾聚・為何故耶。」「世尊・今天降雨・電閃雷鳴・灼爍霹靂・殺却農夫兄弟二人・及四頭牛。彼大眾聚・正為此故。然而世尊・身在何處。」「吾友・我身在此。」「然則世尊・何所見耶。」「吾友・我〔一〕無所見。」「然則世尊・聞何聲耶。」「吾友・我未聞聲。」「然則世尊・為睡眠耶。」「吾友・我未睡

也。」「然則世尊・為醒覺耶。」「然也吾友。」「然則世尊・身即醒覺・等有意識・於天降雨・電閃雷鳴・灼爍霹靂・而竟不見・不聞聲耶。」「然也吾友。」

三三

福貴・彼人作是念・「嗚呼・實不可思議。嗚呼實為希有・嗚呼・出家之人・其心如是寂靜・既為醒覺・等有意識・於天降雨・電閃雷鳴・灼爍霹靂・而竟不見・不聞其聲。」彼人於我・發深信言・向我禮敬・右遶而去。』

三四

末羅子福貴・聞是言已・白世尊言・『世尊・我於阿羅邏迦羅摩・一已所信・散若風吹・逝若奔流。殊勝哉世尊・殊勝哉世尊・如使倒者得起・隱者得顯・示迷以道・冥室燃燈・有目得見・世尊如是・以無數方便・曉人以法。世尊・我今歸依世尊・歸依法及比丘僧。唯願世尊攝受我・盡壽歸依為優婆塞。』

三五

末羅子福貴・告餘人曰。『汝將金色柔絹二疊衣・為我取來。』彼人諾末羅子福貴曰・『唯然尊者。』即取金色柔絹二疊衣來・末羅子福貴・以彼金色柔絹二疊衣・奉世尊曰・『世尊・是為金色柔絹二疊衣。唯願世尊・哀愍我故・垂賜納受。』『福貴・當以一疊施我・一施阿難。』末羅子福貴・諾世尊曰・『唯然世尊。』即以一疊奉世尊・一奉阿難。

三六

爾時世尊・於末羅子福貴・即以法言示教訓誡・鼓舞使喜。末羅子福貴・依世尊語・受教承訓・為所鼓舞・心生歡喜・即從座起・禮敬世尊・右遶而去。

三七

末羅子福貴去未久・尊者阿難即以金色柔絹二疊衣・被世尊身。金色柔絹・光輝若失。時尊者阿難・白世尊言・『不可思議哉世尊。

希有哉世尊。如來膚色・清淨輝麗。世尊・我以金色柔絹二疊衣・被世尊身時・是金色衣・光輝若失。』『然也阿難。阿難・實於二時・如來膚色・極為清麗。云何為二。阿難・是即如來成無上等正覺之夜・及入無餘涅槃界之夜。於此二時・如來膚色・極為清麗。

三八

阿難・今夜末更・於拘夷那竭末羅種之恕跋單林之沙羅雙樹間・如來當般涅槃。阿難・我欲往河。』尊者阿難・諾世尊言・『唯然世尊。』

福貴奉柔絹　金色二疊衣　著衣者我師　光色燦若金

三九

爾時世尊・與大比丘眾俱・往脚俱多河。至已・入脚俱多河・澡浴飲水・出往菴羅林。至已・告尊者純陀曰・『純陀・汝可為我重敷上衣四疊・純陀・我疲欲臥。』尊者純陀・諾世尊曰・『唯然世尊・』即重敷上衣四疊。

四〇

世尊即偃右脅・作師子臥・兩足相累・思欲起立・正念正智・注心專一。是時尊者純陀・坐世尊前。

四一

脚俱多河水　清澄而爽潔　佛趣往其處　現極疲氣色　世無比如來　入河浴復飲
教主居於中　比丘眾遶圍　世尊為說法　復趣菴羅林　比丘名純陀　世尊告之曰
於我臥床上　宜敷衣四疊　純陀受飭勵　制己速敷衣　教主色極疲　〔就床〕為臥息
爾時有純陀　於佛前侍坐

四二

爾時世尊・告尊者阿難曰・『阿難・或亦有人使鍛工子純陀起悔恨心。曰・「如來最後・受汝所奉供養食故・便般涅槃。吾友純陀・

是故於汝・無有利益・無有功德。」〔然而〕阿難・於鍛工子純陀・應以如是言・除其悔恨心。曰・「如來最後・受汝所奉供養食故・即般涅槃。吾友・此事於汝・為有利益・為有功德。吾友純陀・我從如來・親聞親受。於此二供養食・果報正等・而異熟果亦復正等・較餘供養食・最為殊勝・果報尤大・利益尤大。云何為二。即為如來受此供養食・成無上等正覺・及如來受此供養食・入無餘涅槃界。此二供養食・果報正等・而異熟果亦復正等・較餘供養食・最為殊勝・果報尤大・利益尤大。鍛工子尊者純陀・得積是業趣於長壽。鍛工子尊者純陀・得積是業・趣生善種族。鍛工子尊者純陀・得積是業・趣於安樂。鍛工子尊者純陀・得積是業・趣於名聞。鍛工子尊者純陀・得積是業・趣生天界。鍛工子尊者純陀・得積是業・趣獲王位。」阿難・於鍛工子純陀・應以如是言・除其悔恨心。』

四三

爾時世尊・令知此義已・即說偈言。

於施與者增功德　自制其心不積怨　善人如是捨惡故　滅貪瞋癡而寂定

第五誦品

一

爾時世尊・告尊者阿難曰・『阿難・我今欲往熙連禪河彼岸・拘夷那竭末羅族之恕跋單沙羅林。』尊者阿難・諾世尊曰・『唯然世尊。』世尊即與大比丘眾俱・往熙連禪河彼岸・拘夷那竭之恕跋單。至已・世尊告尊者阿難曰・『阿難・汝可為我・於沙羅雙樹間・敷置床座・使頭向北。阿難・我疲欲臥。』尊者阿難・諾世尊曰・『唯然世尊・』即於沙羅雙樹間・敷置床座・使頭向北。世尊即偃右脅・雙足相累・作師子臥・住於正念正智。

二

是時沙羅雙樹・開非時花・羣花彌敷・供養如來・集雨布散於如來身。天曼陀羅華・亦從空降・供養如來・集雨布散於如來身。天栴檀末・亦從空降・供養如來・集雨布散於如來身。天鐃亦為供養如來・鳴於虛空。天歌亦為供養如來・起於虛空。

三

爾時世尊・告尊者阿難曰・『阿難・沙羅雙樹・開非時花・羣花彌敷・供養如來・集雨布散於如來身。天上曼陀羅華・亦從空降・集雨布散於如來身。天上栴檀末・亦從空降・供養如來・集雨布散於如來身。天鐃亦為供養如來・鳴於虛空。天歌亦為供養如來・起於虛空。阿難・雖以如是施設・非敬崇如來・非供養如來。阿難・若比丘・若比丘尼・若優婆塞、若優婆夷・達住於法・達住隨法・真正逮達・隨法而行・斯於如來・最上敬崇・最上供養。是故阿難・「當達住法・達住隨法・真正逮達・隨法而行。」阿難・當如是修習。』

四

爾時尊者優波摩那・立世尊前・執扇扇世尊。世尊命尊者優波摩那却退曰・『比丘汝却・勿立我前。』時尊者阿難念言・『尊者優波摩那・久侍世尊・常為近侍・為近行者。今世尊臨終・而命彼却退曰・「比丘汝却・勿立我前・」是何因緣・世尊乃命尊者優波摩那曰・「比丘汝却・勿立我前。」』

五

尊者阿難白世尊言・『世尊・尊者優波摩那・久侍世尊・常為近侍・為近行者。今世尊臨終・而命彼曰・「比丘汝却・勿立我前。」是何因緣・世尊乃命尊者優波摩那曰・「比丘汝却・勿立我前。」』『阿難・十方世界・極眾諸天・冀覲如來・咸來會集。阿難・拘夷那竭末羅種之恕跋單沙羅林・周圍十二由旬間・住大力諸神・無空缺處・纖如兔毫尖・細難觸覺者・都無可插立。阿難・諸天喃喃為言・「嗚呼・我等冀覲如來・來自遠方。阿羅漢、等正覺者、如來出於世唯有是時。今日今夜末更・如來將般涅槃。而此比丘・有大威力・立如來前・而為障蔽・然則我等・冀於末更・奉覲如來・亦不可得。」阿難・諸天如是為喃喃言。』

六

『世尊・世尊思惟諸天何狀。』『阿難・有此諸天・處於虛空・念地上事・散髮而泣・伸臂而泣・宛轉躃踴・如岩奔裂・念「世尊般涅槃・毋乃過早・善逝般涅槃・毋乃過早・世間眼滅・毋乃過

早。」阿難・有此諸天・處於地上・念地上事・散髮而泣・伸臂而泣・宛轉躃踴・如岩奔裂・念「世尊般涅槃・毋乃過早・善逝般涅槃・毋乃過早・世間眼滅・毋乃過早。」若彼諸天・愛已盡者・正念正智・深自堪耐・念言「諸行無常・安得〔不滅。〕」』

七

『世尊・嘗於諸方・度雨安居已・時諸比丘・來覲如來。我等於彼諸比丘・心積修業者・因得親見・得為禮敬。然而世尊・世尊滅度後・我等於諸比丘・心積修業者・莫得親見・莫得禮敬。』

八

『阿難・有此四〔處・〕善信男子・當可得見・當可禮敬。云何為四。謂「如來生處・」阿難・如是之處・善信男子・當可得見・當可禮敬。謂「如來成等正覺處・」阿難・如是之處・善信男子・當可得見・當可禮敬。謂「如來轉無上法輪處・」阿難・如是之處・善信男子・當可得見・當可禮敬。謂「如來入無餘涅槃處・」阿難・如是之處・善信男子・當可得見・當可禮敬。阿難・此等四〔處・〕善信男子・實可得見・可禮敬也。阿難・實有善信比丘・若比丘尼・若優婆塞・若優婆夷・念此「如來生處・」「如來成無上等正覺處・」「如來轉無上法輪處・」「如來入無餘涅槃處・」當自來集。阿難・若人遍歷巡禮塔廟者・具有信心・而將臨死・於其死後・離軀體時・當得再生善趣天界。』

九

『世尊・我等於女人・當如之何。』『阿難・莫與相見。』『世尊・設相見者・當如之何。』『阿難・莫與共語。』『世尊・設來語者・當如之何。』『阿難・時當警戒。』

一〇

『世尊・我等於如來舍利・如何安置。』『阿難・汝等於如來舍利・無用煩慮。阿難・汝等宜自致力最上善法。宜修最上善行。於最上善・心不放逸・慇懃精勤而住。阿難・彼信如來・剎帝利學者・婆羅門學者・居士學者・當為如來・舍利供養。』

一一

『然則世尊・於如來舍利・當如何安置。』『阿難・如安置轉輪王舍利・於如來舍利・亦復如是。』『世尊・轉輪王舍利・如何安置。』『阿難・人於轉輪王體・纏以新布。纏新布已・裹新麻布。裹新麻布已・包以新衣。如是包纏・至五百重・納入鐵棺・灌注以油・舉此鐵棺・置鐵槨中・以眾名香・作成香[廿/ 積] ・用付荼毗・於四衢道・起轉輪王塔。阿難・轉輪王體・如是安置。阿難・如安置轉輪王舍利・安置如來舍利・亦復如是。在四衢道・起如來塔・於彼塔處・供置華鬘・香及顏料・使禮拜者・永獲利益・長有安樂。

一二

阿難・世有四者・應得起塔。云何為四。謂如來、阿羅漢、等正覺者・應得起塔。辟支佛・應得起塔。如來聲聞・應得起塔。轉輪王・應得起塔。阿難・云何如來、阿羅漢、等正覺者・應得起塔。阿難・大眾思念・「此是世尊、阿羅漢、等正覺者塔・」眾心得淨。彼等緣於其處心淨故・身壞命終時・而得再生善趣天界。阿難・是故如來、阿羅漢、等正覺者・應得起塔。復次阿難・云何辟支佛・應得起塔。阿難・大眾思念・「此是世尊辟支佛塔・」眾心得淨。彼等緣於其處心淨故・身壞命終時・而得再生善趣天界。阿難・是故辟支佛・應得起塔。復次阿難・云何如來聲聞・應得起塔。阿難・大眾思念・「此是世尊、阿羅漢、等正覺者聲聞之塔・」眾心得淨。彼等緣於其處心淨故・身壞命終時・而得再生善趣天界。阿難・是故如來聲聞・應得起塔。復次阿難・云何轉輪王・應得起塔。阿難・大眾思念・「此是喜法之法王塔・」眾心得淨。彼等緣於其處心淨故・身壞命終時・而得再生善趣天界。阿難・是故轉輪王・應得起塔。阿難・此等四者・得起塔也。』

一三

時尊者阿難入於住所・手把門閂・涕泣而立・如是念言・『嗚呼・我在學地・猶有所為。然而愍我教主・行將捨我・入般涅槃。』爾時世尊・問比丘等曰・『阿難何在。』『世尊・尊者阿難・入於住所・手把門閂・涕泣而立・如是念言・「嗚呼・我在學地・猶有所為。然而愍我教主・行將捨我・入般涅槃。」』世尊告一比丘曰・『比丘汝往・可持我聲・喚阿難言・「吾友阿難・教主召汝。」』

比丘諾世尊曰．『唯然世尊。』即至尊者阿難前．向尊者阿難為如是言．『吾友．教主召汝。』尊者阿難．諾比丘曰．『唯然吾友。』即至世尊前．至已．禮敬世尊．於一面坐。

一四

尊者阿難．坐一面已．世尊語曰．『止．阿難．勿悲勿哭。阿難．我豈未曾為是言耶．凡恩愛者．〔生〕離〔死〕別．〔身死已後．境界〕各殊。阿難．彼云何得所生所存．所造破壞法．謂實不壞者．無有是處。阿難．汝久侍如來．身業有慈．利益安樂．無二無量。口業有慈．利益安樂．無二無量。意業有慈．利益安樂．無二無量。阿難．汝善所為．宜事精進．速得無漏。』

一五

爾時世尊．告諸比丘曰．『汝諸比丘．於過去世．曾有諸阿羅漢、等正覺者。彼諸世尊．有勝侍者．猶如我今之有阿難。汝諸比丘．於未來世．當有諸阿羅漢、等正覺者。彼諸世尊．亦有勝侍者．當如我今之有阿難。汝諸比丘．阿難實為賢者．善知「此是比丘等可見如來之時．此是比丘尼之時．此是優婆塞之時．此是國王、或大臣、外道教師、外道弟子之時。」

一六

諸比丘．阿難有四不可思議希有之法。云何為四。諸比丘．若比丘眾．來見阿難．見俱歡喜。若於其處．阿難說法．彼等聞法．亦俱歡喜。諸比丘．阿難默然時．比丘眾不樂。諸比丘．若比丘尼眾．亦復如是如是。若優婆塞眾．亦復如是如是。乃至若優婆夷眾．來見阿難．見俱歡喜。若於其處．阿難說法．彼等聞法．亦俱歡喜。諸比丘．阿難默然時．優婆夷眾不樂。諸比丘．轉輪王亦有此四不可思議希有之法。諸比丘．若剎帝利眾．如是如是。婆羅門眾．如是如是。居士眾．如是如是。乃至沙門眾．皆來見王．見俱歡喜。若於其處．王為眾說．彼等聞說．亦俱歡喜。諸比丘．轉輪王默時．沙門眾不樂。諸比丘．阿難如是有四不可思議希有之法。諸比丘．若比丘眾．若比丘尼眾．若優婆塞眾．如是乃至若優婆夷眾．來見阿難．見俱歡喜。若於其處．阿難說法．彼等聞法．亦俱歡喜。諸比丘．阿難默然時．優婆夷眾不樂。諸比丘．阿難有此四不可思議希有之法。』

一七

尊者阿難．聞是說已．白世尊言．『世尊．唯願世尊．莫於此小城．竹藪中城．如枝葉城．入般涅槃。世尊．更有諸大城．如瞻婆城、王舍城、舍衛城、娑祇城、憍賞彌城、波羅奈城。唯願世尊．於彼等處而般涅槃。彼處有眾多剎帝利大講堂．婆羅門大講堂．居士大講堂．有歸依如來者。彼等當為如來．供養舍利。』『阿難．勿作是言．阿難．勿謂小城．勿謂竹藪中城．如枝葉城。

一八

阿難．昔者有王．名大善見．為喜法之轉輪法王．征服四境．安固人民．具足七寶。阿難．此拘夷那竭．時為大善見王王都．名拘舍婆提．東西長十二由旬．南北廣七由旬。阿難．拘舍婆提都．繁榮富裕．人民眾多．萬庶咸集．食物豐盛。阿難．猶如諸天阿羅迦曼陀王城．繁榮富裕．人民眾多．萬庶咸集．食物豐盛。阿難．拘舍婆提都．亦復如是．繁榮富裕．人民眾多．萬庶咸集．食物豐盛。阿難．拘舍婆提都．有十種聲．彌滿晝夜．自然歡喜。十種聲者．象聲、馬聲、兵車聲、大鼓聲、鼓聲、琵琶聲、歌聲、鈸聲、小鐃聲．及第十種「且食且飲．且歌」之聲。

一九

阿難．汝往拘夷那竭．告諸末羅人曰．「諸筏斯多．於今夜末更．如來般涅槃。諸筏斯多．宜來會集．勿於後時．以「如來在我等村土而般涅槃。我等於末更．未得見如來．」致貽後悔。」』尊者阿難．諾世尊曰．『唯然世尊。』即整下衣．攝持衣鉢．攜同一人．入拘夷那竭。

二〇

時拘夷那竭諸末羅人．以事集於會議堂中。尊者阿難．往彼講堂．至已．告拘夷那竭諸末羅人曰．『諸筏斯多．如來於今夜末更般涅槃．諸筏斯多．宜來會集。諸筏斯多．宜來會集。勿於後時．以「如來在我等村地．而般涅槃。我等於末更．未得見如來．」致貽後悔。』

二一

諸末羅人．末羅人子．末羅人女．末羅人妻．從尊者阿難．聞是言已．苦慼悲憂．心慟不支．或者散髮而泣．伸臂而泣．宛轉躃踴．如岩奔裂．念『如來般涅槃．毋乃過早。善逝般涅槃．毋乃過早。世間眼滅．毋乃過早。』諸末羅人．末羅人子．末羅人女．末羅人妻．苦慼悲憂．心慟不支．咸詣恕跋單沙羅林阿難所。

二二

時尊者阿難．如是念言．『若使拘夷那竭諸末羅人．一一禮世尊．即至天明．彼末羅人禮敬世尊．當不能畢。我今寧可使末羅人．某為一團．某為一團．分團而立．禮世尊言．「世尊．某名某名諸末羅人．率子及妻．偕眾及友．禮世尊足。」』尊者阿難．以此方便．使末羅人．即於末更．禮敬世尊。

二三

是時有遊行僧．名曰須跋．住拘夷那竭。遊行僧須跋．聞『今夜末更．沙門瞿曇．當般涅槃。』遊行僧須跋．如是念言．『我嘗聞彼年高長老．師之弟子遊行僧言．「阿羅漢、等正覺者、如來．出現於世．為希有也。」沙門瞿曇．然於今夜末更．當般涅槃．而我於法有疑．我信瞿曇．能以說法．祛我此疑。』

二四

於是遊行僧須跋．即詣恕跋單沙羅林．尊者阿難所。至已．白尊者阿難言．『嗚呼阿難．我聞年高長老．師之弟子遊行僧言．「阿羅漢、等正覺者、如來．出現於世．為希有也。」沙門瞿曇．然於今夜末更．當般涅槃。而我於法有疑．我信瞿曇．能以說法．祛我此疑。嗚呼阿難．唯願使我得見沙門瞿曇。』如是言時．尊者阿難．告須跋曰．『止．吾友須跋．勿擾如來。世尊已疲。』遊行僧須跋再度如是言．乃至三度如是白尊者阿難言．『嗚呼阿難．我聞年高長老．師之弟子遊行僧言．「阿羅漢、等正覺者、如來．出現於世．為希有也。」沙門瞿曇．然於今夜末更．當般涅槃。而我於法有疑．我信曇瞿．能以說法．祛我此疑。嗚呼阿難．唯願使我得見沙門瞿曇。』尊者阿難．三告須跋曰．『止止．吾友須跋．勿擾如來。世尊已疲。』

二五

世尊聞知尊者阿難與須跋間所為之言。世尊即告尊者阿難曰・『止・阿難・勿遮須跋。阿難・須跋可見如來。須跋所問・皆因欲知・故爾為問・非欲擾〔我。〕我應答彼所問・彼當立可理解。』尊者阿難・乃告須跋曰・『可往・吾友須跋・已蒙世尊・親自許可。』

二六

時遊行僧須跋・即至世尊前。至已・禮敬世尊・共相問訊・互道友誼・於一面坐。遊行僧須跋坐一面已・白世尊言・『瞿曇乎・彼沙門婆羅門・領有僧伽・率有弟子・為弟子師・而為知者頗有名聞・身為教主・眾所崇敬者・如不蘭迦葉、末伽梨憍舍利、阿浮陀拘舍金披羅、波浮迦旃、薩若毘那梨弗、尼犍子・此諸師等・皆以己智・能盡知耶・不盡知耶・有能知耶・有不知耶。』『止・須跋。「彼等以己智・能盡知耶・不盡知耶・有能知耶・有不知耶・」勿作是言・須跋。我當為汝說法・諦聽諦聽・善憶念之・我為汝說。』遊行僧須跋・諾世尊曰・『唯然世尊。』

二七

世尊曰・『須跋・雖於諸法諸律・若不見八聖道處者・則於彼處不見〔第一果〕沙門・不見第二〔果〕沙門・不見第三〔果〕沙門・不見第四〔果〕沙門。須跋・凡於法於律・若見八聖道處者・便於彼處・見〔第一果〕沙門・亦見第二〔果〕沙門・亦見第三〔果〕沙門・亦見第四〔果〕沙門。須跋・今於〔我〕法〔我〕律・見八聖道處・是故便見〔第一果〕沙門・第二〔果〕沙門・第三〔果〕沙門・第四〔果〕沙門。若餘言論・是於沙門・徒為空談。是故須跋比丘等當正住此。則此世界・於阿羅漢非為空也。

我年二十九　出家求善道　自從出家來　已五十一年　正理正法地　是我所遊行

須跋於此外　無有沙門〔果〕

此外亦無第二沙門〔果・〕無第三沙門〔果・〕無第四沙門〔果。〕若餘言論・是於沙門徒為空談。是故須跋・比丘等當正住此。則此世間・於阿羅漢不為空也。』

二八

遊行僧須跋．聞是說已．白世尊言．『殊勝哉世尊。殊勝哉世尊。猶如使倒者得起．隱者得顯．示迷以道．冥室來燈．有目得視．世尊如是．以無數方便．說法示教。世尊．我今歸依世尊．歸依正法及比丘僧。唯願許我於世尊所．可得出家受具足戒。』『須跋．嘗有外道．於〔我〕法律中．求請出家．受具戒者．先當別住．為期四月。俟經四月．稱僧眾意．則使出家．受具足戒．淨修梵行。但在是時．我當觀察其人個性差別．而後許之。』

二九

『世尊．既曾有餘外道．於此法律．求請出家受具戒者．先當別住為期四月．俟經四月．稱僧眾意．則使出家受具足戒．淨修梵行者．我則自願別住四年。經四年後．稱僧眾意．使我出家．受具足戒．淨修梵行。』世尊即告尊者阿難曰．『阿難．可使須跋出家。』尊者阿難．諾世尊曰．『唯然世尊．』

三〇

時遊行僧須跋．白尊者阿難言．『吾友阿難．卿得大利益。吾友阿難．卿得最大利益。於教主前．而得近住．以灌頂而行灌水．』遊行僧須跋．即於世尊所．出家受戒。受戒未久．是尊者須跋．獨自離住．成不放逸．慇懃精進而住．為時未久．成就善男子離家出家所求無上梵行．彼於現世．逮達自知自證而住。知『生已盡．梵行已立．所作已辦．不復來此。』

是尊者須跋　今成阿羅漢　彼是為世尊　最後之弟子

第六誦品

一

爾時世尊．告尊者阿難曰．『阿難．汝等或作是念．「教主之言畢．我等失教主。」阿難．勿如是觀。阿難．依我所說所教法律．我滅度後．是汝等師。

二

復次阿難．今比丘等．互以「友」稱．我滅度後．勿如是稱。阿難．年老比丘．於年幼者．當稱姓名．或稱為「友。」年幼比丘．

於年老者・當稱「尊者・」或「具壽者。」

三

阿難・我滅度後・隨僧伽樂欲・可廢小小學處〔戒。〕

四

阿難・我滅度後・於闡怒比丘・當行梵檀罰。』『世尊・何者是梵檀罰。』『阿難・若闡怒比丘・恣意肆言。但比丘等・不得與語・亦勿訓誡・亦勿教誡。』

五

世尊告諸比丘曰・『復次諸比丘・或有比丘・於佛法僧・道及方法・有疑惑者。諸比丘・當即諮問。勿於後時・而生悔言・「我等面師・未得諮問。」』諸比丘等・聞言默然。世尊再度・乃至三度・告比丘等曰・『復次諸比丘・或有比丘・於佛法僧・道及方法・有疑惑者。諸比丘・當即諮問。勿於後時・而生悔言・「我等面師・未得諮問。」』諸比丘等・三度默然。世尊告比丘等曰・『諸比丘・汝等誠以尊崇如來・故爾不問。諸比丘・當如友於其友・而為諮問・』諸比丘等・聞如是言・又復默然。

六

時尊者阿難・白世尊言・『世尊・不可思議。世尊・為希有也。世尊・我於比丘眾・有如是信。無一比丘・疑佛法僧・道及方法。』『阿難・汝緣信故而作是言。阿難・然如來具如是智・知「比丘眾中・無一比丘・疑佛法僧・道及方法・是實無疑。阿難・五百比丘眾・即其最末比丘・亦達預流・住不退轉法・必定成正覺。」』

七

是時世尊・告諸比丘曰・『諸比丘乎・我告汝等・「諸行是壞法・當以不放逸・而行精進。」此是如來・最後說法。』

八

於是世尊・即入初禪。從初禪起・入第二禪。從第二禪起・入第三禪。從第三禪起・入第四禪。從第四禪起・入空處定。從空處定起・入識處定。從識處定起・入無所有定・從無所有定起・入非想非非想定。從非想非非想定・入滅想定。時尊者阿難・語尊者阿那律言・『尊者阿那律・世尊般涅槃。』『吾友阿難・世尊入滅想定・非般涅槃。』

九

於是世尊・從滅想定起・入非想非非想定。從非想非非想定起・入無所有定。從無所有定起・入識處定。從識處定起・入空處定。從空處定起・入第四禪。從第四禪起・入第三禪。從第三禪起・入第二禪。從第二禪起・入於初禪。從初禪起・入第二禪。從第二禪起・入第三禪。從第三禪起・入第四禪。從第四禪起・世尊即入般涅槃。

一〇

當世尊入般涅槃時・地大震動・〔人皆〕驚怖・身毛豎立・天鼓亦裂。當世尊般涅槃時・娑婆世界主梵天・說此偈言。

於世一切有生者　會當捨壞所聚身　處世無比斯教主　大力如來般涅槃

當世尊般涅槃時・釋提桓因說此偈言。

噫諸行無常　生滅法所成　是等生則滅　寂靜為安樂

當世尊般涅槃時・尊者阿那律・說此偈言。

心寂救世者　不用出入息　無欲達寂靜　牟尼於是滅　復以不動心　能忍於諸苦

心已獲解脫　猶如燈火滅

當世尊般涅槃時・尊者阿難・說此偈言。

維時有恐怖　身毛為豎立　具慈悲正覺　時入般涅槃

世尊般涅槃時・未離欲諸比丘中・或有比丘・伸臂而泣・宛轉躃踴・如岩奔裂・咸作是念・『世尊般涅槃・毋乃過早。善逝般涅槃・毋乃過早。世間眼滅・毋乃過早。』彼離欲諸比丘等・正念正智・深自堪耐・念言『諸行無常・安得〔不滅。〕』

一一

時尊者阿那律・告諸比丘曰・『止止・吾友・勿悲勿哭。吾友・世尊豈曾不為是言・凡恩愛者・〔生〕離〔死〕別・〔身死已後・境界〕各殊。吾友・云何得彼所生所存・所造壞法・謂不壞者・無有是處。吾友・諸天如是為喃喃言。』『尊者・今尊者阿那律所思・為何種天耶。』『吾友阿難・諸天在虛空中・念地上事・散髮而泣・伸臂而泣・宛轉躃踴・如岩奔裂・念言「世尊般涅槃・毋乃過早。善逝般涅槃・毋乃過早。世間眼滅・毋乃過早。」吾友阿難・諸天在地上・念地上事・散髮而泣・伸臂而泣・宛轉躃踴・如岩奔裂・念言「世尊般涅槃・毋乃過早。善逝般涅槃・毋乃過早。世間眼滅・毋乃過早。」復有離欲諸天・正念正智・深自堪耐・咸自念言「諸行無常・安得〔不滅。〕」』

一二

尊者阿那律與尊者阿難・問答法言・竟夜達曉。於是尊者阿那律・告尊者阿難曰・『吾友阿難・當往拘夷那竭・告末羅族曰・「諸筏斯多・世尊已般涅槃・知時宜者〔可往詣也。〕」』尊者阿難諾阿那律曰・『唯然尊者。』即於清旦・整著下衣・攝持衣鉢・將一從者・入拘夷那竭。時末羅人眾・以事集於講堂。尊者阿難・往彼講堂。至已・告拘夷那竭末羅族曰・『諸筏斯多・世尊已般涅槃。知時宜者〔可往詣也。〕』諸末羅人・末羅人子・末羅人女・末羅人妻・聞尊者阿難言・莫不悲嘆・苦惱痛心・或有散髮而泣・伸臂而泣・宛轉躃踴・如岩奔裂・咸念『世尊般涅槃・毋乃過早。善逝般涅槃・毋乃過早。世間眼滅・毋乃過早。』

一三

拘夷那竭諸末羅人・即命眾曰・『宜盡集辦拘夷那竭諸香及鬘・一切樂器。』於是拘夷那竭諸末羅人・持取香鬘・一切樂器・及五百牒布・詣恕跋單沙羅林世尊身所。至已・咸以歌、舞、音樂、鬘、香・奉世尊身・崇敬供養・擎張天幕・獻曼陀羅華鬘・如是竟其一日。拘夷那竭諸末羅人・作是思念・『世尊之身・今日荼毘・尚非是時。我等明朝・為世尊身・舉行荼毘。』拘夷那竭諸末羅人・乃以歌、舞、音樂、鬘、香・奉世尊身・崇敬供養・擎張天幕・獻曼陀羅華鬘・復竟第二日・復竟第三日・復竟第四日・復竟第五日・復竟第六日。

一四

於第七日．拘夷那竭諸末羅人．如是思念．『我等以歌、舞、音樂、鬘、香．奉世尊身．崇敬供養．從南奉迎於城市南．從外〔奉迎〕於城市外．於城市南．為世尊身．當行荼毘。』是時末羅族八首長．洗頭著新衣．將欲奉迎世尊．而不能前進。
拘夷那竭諸末羅人．白尊者阿那律言．『是何因緣．末羅族八首長．洗頭著新衣．將欲奉迎世尊．而不能前進。』『諸筏斯多．汝等所有意願．而於諸天意願不同。』

一五

『尊者．諸天意願云何。』『諸筏斯多．汝等意願．謂「我以歌、舞、音樂、鬘、香．奉世尊身．崇敬供養．從南奉迎於城市南．從外奉迎於城市外．於城市南．舉行荼毘。」諸筏斯多．諸天意願．謂「我以天上歌、舞、音樂、鬘、香．奉世尊身．崇敬供養．從北奉迎於城市北．從由北門．入於城市．從由中央．迎於城中．從由東門．迎至城東．有末羅塔廟．曰天冠寺．即於其處．為世尊身．舉行荼毘。」』『尊者．當如諸天意願。』

一六

爾時拘夷那竭．遍撒鬘陀羅華．高與膝齊．乃至塵箱所積塵芥之上．亦皆遍撒。於是諸天．及末羅人．以天人歌、舞、音樂、鬘、香．奉世尊身．崇敬供養．從北奉迎入城市北．從由北門入於城市．從由中央．迎於城中．從由東門．迎之城東．至天冠寺．將世尊身．奉安其處。

一七

時拘夷那竭諸末羅人．問尊者阿難曰．『尊者阿難．我等於如來身．當如何安置。』『諸筏斯多．一如安置轉輪王體．於如來身．當如是安置。』『尊者阿難．轉輪王身．如何安置。』『諸筏斯多．人於轉輪王體．纏以新布．纏新布已．裹新麻布．裹新麻布已．包以新衣。如是包纏轉輪王體．至五百重．納入鐵棺．灌注以油．舉此鐵棺．置鐵槨中．以眾名香．作成香[廾/ 積] ．用付荼毘．於四衢道．起轉輪王塔。諸筏斯多．轉輪王體．如是安置。諸筏斯多．一如荼毘轉輪王體．於如來身．當如是荼毘．於四衢道．起如來塔。於其塔處．供置華鬘．香及顏料．使禮拜者．使淨心者．永獲利益．及與安樂。

一八

拘夷那竭諸末羅人・即命眾曰・『可告末羅人・集辦新麻布。』於是拘夷那竭諸末羅人・於世尊身・纏以新布。纏新布已・裹新麻布。裹新麻布已・包以新衣。如是包纏世尊身體・至五百重・納入鐵棺・灌注以油・舉此鐵棺・置鐵槨中・以眾名香・作成香[廾/積] ・奉世尊身・安置[廾/ 積] 上。

一九

爾時尊者大迦葉・與大比丘眾五百人俱・從彼波婆・向拘夷那竭大道中行。尊者大迦葉・時於道中・退坐一樹下。尊者大迦葉・見邪命外道・手執曼陀羅華・從拘夷那竭・行向波婆大道。乃作是問言・『吾友・知我等教主耶。』『唯然吾友・我知其事。七日以前・沙門瞿曇・已般涅槃。故我執此曼陀羅華。』是時未離欲諸比丘中・或有比丘・伸臂而泣・宛轉躃踴・如岩奔裂・咸念『世尊般涅槃・毋乃過早。善逝般涅槃・毋乃過早。世間眼滅・毋乃過早。』彼離欲諸比丘等・正念正智・乃能堪耐・念言『諸行無常・安得〔不滅。〕』

二〇

時有年老出家名須跋〔比丘〕者・坐大眾中・告諸比丘曰・『止止吾友・勿悲勿哭。我等完全脫離彼大沙門矣。彼常以「是許汝等・是不許汝等・」而為彼所苦惱・為彼所壓迫・今者我等・可為所欲為・不為所不欲為。』尊者大迦葉・於是告諸比丘曰・『止止吾友・勿悲勿哭。吾友・世尊豈不曾為是言耶。凡恩愛者・〔生〕離〔死〕別・〔身死已後・境界〕各殊。吾友・云何得彼所生所存・所造壞法・謂不壞者・無有是處。』

二一

是時末羅四首長・洗頭著新衣・欲燃世尊[廾/ 積] ・火不能燃。拘夷那竭諸末羅人・白尊者阿那律言・『尊者阿那律・此是何因緣・末羅四首長・洗頭著新衣・欲燃世尊[廾/ 積] ・而火不能燃。』『諸筏斯多・是與諸天意願・有相違故。』『尊者・諸天意願云何。』『諸筏斯多・諸天意願・謂「彼尊者大迦葉・與大比丘眾五百人俱・今從波婆・向拘夷那竭大道中行。若尊者大迦葉・猶未頂

禮世尊足時・於世尊[卄/ 積] ・火不能燃。」』『尊者・當如諸天意願。』

二二

時尊者大迦葉・往詣拘夷那竭末羅族塔廟之天冠寺。至已・整一肩衣・叉手合掌・恭向香[卄/ 積] ・右遶三匝・揭去足覆・禮世尊足。彼五百比丘・亦整一肩衣・叉手合掌・恭向香[卄/ 積] ・右遶三匝・禮世尊足。尊者大迦葉・與五百比丘・如是頂禮已・世尊香[卄/ 積] ・不燒自燃。

二三

世尊之身・一經荼毘・皮肉筋髓・乃至炭灰・皆悉不見・唯存舍利・猶如酥油・經燃燒後・不見灰燼・世尊之身・亦復如是・經荼毘後・皮肉筋髓・乃至炭火・皆悉不見・唯存舍利。而五百重衣・唯燃二重・即最內部及最外部。世尊身燃時・虛空注水・滅香[卄/ 積] 火・及水倉水迸・滅香[卄/ 積] 火。拘夷那竭諸末羅人以眾香水・消滅世尊香[卄/ 積] 之火。拘夷那竭諸末羅人・便以七日・在講堂中・立槍作垣・圍弓作柵・以舞、歌、音樂、鬘、香・奉世尊身・崇敬供養。

二四

韋提希子摩揭陀王阿闍世・聞『世尊於拘夷那竭・已般涅槃。』即遣使者・告拘夷那竭末羅族〔言・〕『世尊剎帝利種・我亦剎帝利種。於世尊舍利・應得請一分。我當為世尊・起立舍利塔・供養舍利。』毘舍離離車族・聞『世尊於拘夷那竭・已般涅槃。』即遣使者・告拘夷那末羅族〔言・〕『世尊剎帝利種・我等亦剎帝利種。於世尊舍利・應得請一分。我等為世尊・當起舍利塔・供養舍利。』迦毘羅城釋迦族・聞『世尊於拘夷那竭・已般涅槃。』即遣使者・告拘夷那竭末羅族〔言・〕『我種姓之中・世尊為最勝。於世尊舍利・應得請一分。我等為世尊・當起舍利塔・供養舍利。』遮羅頗跋離族・聞『世尊於拘夷那竭・已般涅槃。』即遣使者・告拘夷那竭末羅族〔言・〕『世尊剎帝利種・我等亦剎帝利種。於世尊舍利・應得請一分。我等為世尊・當起舍利塔・供養舍利。』羅摩伽拘利族・聞『世尊於拘夷那竭・已般涅槃。』即遣使者・告拘夷那竭末羅族〔言・〕『世尊剎帝利種・我等亦剎帝利種。於世尊

舍利・應得請一分。我等為世尊・當起舍利塔・供養舍利。』毘留提婆羅門・聞『世尊於拘夷那竭・已般涅槃。』即遣使者・告拘夷那竭末羅族〔言・〕『世尊剎帝利種・我為婆羅門也。於世尊舍利・應得請一分。我當為世尊・起立舍利塔・供養舍利。』波婆末羅族・聞『世尊於拘夷那竭・已般涅槃。』即遣使者・告拘夷那竭末羅族〔言・〕『世尊剎帝利種・我等亦剎帝利種。於世尊舍利・應得請一分。我等為世尊・當起舍利塔・供養舍利。』

二五

拘夷那竭末羅族・聞是言已・於諸來集會眾中・作如是言・『世尊般涅槃・是在我村地。是故我等於世尊舍利・不與一分。』如是言時・香姓婆羅門・曉彼來眾曰。

『一言告卿等　我佛說忍辱　求請分舍利　相爭非所宜　大眾具慧信　我等應安和
可均作八分　廣起四方塔』

『然則婆羅門・汝應將世尊舍利・請作八分・善為我等・平等分配。』香姓婆羅門・諾彼眾曰・『唯然卿等。』即分舍利・均作八分・平等分配已・告彼眾曰・『卿等・願以此瓶・見與於我。當起瓶塔・為塔供養。』彼等共許以瓶・與香姓婆羅門。

二六

時畢鉢之孔雀族・聞『世尊於拘夷那竭・已般涅槃。』即遣使者・告拘夷那竭末羅族〔言・〕『世尊剎帝利種・我等亦剎帝利種。於世尊舍利・應得請一分。我等為世尊・當起舍利塔・供養舍利。』『世尊舍利・一分無存。世尊舍利・均分已訖。請持灰去。』是故彼等・持灰而去。

二七

於是韋提希子摩揭陀王阿闍世・於王舍城・敬為世尊・起舍利塔・供養舍利。毘舍離離車族・於毘捨離・敬為世尊・起舍利塔・供養舍利。迦毘羅城釋迦族・於迦毘羅・敬為世尊・起舍利塔・供養舍利。遮羅頗跋羅族・於遮羅頗・敬為世尊・起舍利塔・供養舍利。羅摩伽拘利族・於羅摩伽・敬為世尊・起舍利塔・供養舍利。毘留提婆羅門・於毘留提・敬為世尊・起舍利塔・供養舍利。波婆末羅族・自於波婆・敬為世尊・起舍利塔・供養舍利。拘夷那竭末羅

族・於拘夷那竭・敬為世尊・起舍利塔・供養舍利。香姓婆羅門・起立瓶塔・為瓶供養。毘鉢孔雀族・則於毘鉢・起立灰塔・為灰供養。是以舍利・起有八塔・第九瓶塔・第十灰塔。如是如是・有如是事。

二八

具眼者舍利　為量有八斛　七斛供養地　是在閻浮洲　一斛供養者　羅摩村龍王
奉一牙供養　在彼忉利天　又一牙供養　於犍陀羅城　又迦陵迦王　及與彼龍王
各得奉供養　我佛之一牙　舍利光所照　國土為莊嚴　於具眼舍利　恭敬最恭敬
天龍與人主　及人間長者　佛百劫難遇　供養合掌禮

大善見王經第十七

第一誦品

一

如是我聞。一時世尊・在拘尸那揭羅城恕跋單末羅族之娑羅林。於娑羅雙樹間・般涅槃時。

二

爾時尊者阿難・至世尊所・禮敬世尊・於一面坐。尊者阿難・坐一面已・白世尊言・「世尊・唯願世尊・勿入滅於此隘小之城・荒廢之城・邊鄙之城。世尊・更有餘諸大城・如瞻波城、王舍城、舍衛城、沙計多城、憍賞彌城、波羅奈城。唯願世尊・於此等大城入滅。其處多有王族大家、婆羅門大家、居士大家・彼等當為尊重恭敬・如來舍利。」

三

「阿難・勿得說此為隘小城・為荒廢城・為邊鄙城。阿難・昔者有王・名大善見。身為王族・為灌頂王・為四邊主為常勝者・為保國者。阿難・此拘尸那揭羅・為大善見王所居・名曰拘舍婆提城。阿

難．此拘舍婆提城．東西長十二由旬．南北廣七由旬。阿難．此王城拘舍婆提．繁華殷盛．居民眾多．人口稠密．物資豐饒。阿難．猶如諸神王城．名阿羅迦曼陀者．繁華殷盛．居者眾多．夜叉稠密．物資豐饒。阿難．拘舍婆提王城．亦復如是．繁華殷盛．居民眾多．人口稠密．物資豐饒。阿難．拘舍婆提王城．有十種聲．晝夜洋溢．為象聲、馬聲、車聲、鼓聲、杖鼓聲、琵琶聲、歌聲、鐃聲、銅鑼聲．及第十種「且食．且飲．且歡嬉」聲。

四

阿難．拘舍婆提王城．周匝圍有七種城壁。一為金造．一為銀造．一琉璃造．一水精造．一珊瑚造．一車渠造．一眾寶造。

五

阿難．拘舍婆提王城．有四種門。一為金造．一為銀造．一琉璃造．一水精造。一一之門．立有七柱．一一柱高．人身三倍或為四倍．一為金造．一為銀造．一琉璃造．一水精造．一珊瑚造．一車渠造．一眾寶造。

六

阿難．拘舍婆提王城．遶有七種多羅行樹．一為金造．一為銀造．一琉璃造．一水精造．一珊瑚造．一車渠造．一眾寶造。金多羅樹．其幹為金．葉果為銀。銀多羅樹．其幹為銀．葉果為金。琉璃多羅樹．其幹為琉璃．葉果為水精。水精多羅樹．其幹為水精．葉果為琉璃。珊瑚多羅樹．其幹為珊瑚．葉果為車渠。車渠多羅樹．其幹為車渠．葉果為珊瑚。眾寶多羅樹．其幹為眾寶．葉果為眾寶。阿難．此等多羅行樹．受風吹盪其音美妙．使人興奮．心悅神往。阿難．猶如五支樂器．善受調練．由於名手．善奏之時．其音美妙．使人興奮．心悅神往。阿難．多羅行樹．亦復如是．受風吹盪．其音美妙．使人興奮．心悅神往．阿難．是時拘舍婆提王城．無賴之徒．樂欲自娛者．咸隨此等多羅行樹．風所吹盪美妙之音．狂歡踴躍。

七

阿難・大善見王・自然具足七寶及四如意德。阿難・何謂七寶。大善見王・於月十五・布薩之日・沐浴齋戒・昇高殿上・現天輪寶。千輻轂輪・具一切善。大善見王・見之言曰・「我實曾聞・設若王族之灌頂王・於月十五・布薩之日・沐浴齋戒・昇高殿上・現天輪寶・千輻轂輪・具一切善・則彼王當為轉輪王。果若爾者・我將即為轉輪王乎。」

八

阿難・爾時大善見王・即從座起・偏袒一肩・便以左手・執持水瓶・右手注〔水〕於輪寶言・一願卿轉動・輪寶。願卿征服・輪寶。」阿難・時此輪寶・轉向東方。大善見王・率同四軍・隨此輪寶・俱共前進。阿難・輪寶止處・大善見王・率同四軍・止住其處。

九

阿難・時在東方諸敵王等・詣大善見王所白曰・「來乎大王。善來大王。〔一切〕莫非主有・大王。願垂教命・大王。」大善見王曰・「不得殺生物。勿取非所與。勿為邪婬行・勿為虛妄語。勿飲醉人物。食應從習制。」阿難・於是東方諸敵王等・咸皆服從大善見王。

一〇

阿難・此天輪寶・沈東大海・後再出現・轉向南方・如是如是・乃至沈南大海・後再出現・轉向西方・如是如是・乃至沈西大海・後再出現・轉向北方。大善見王・率同四軍・隨此輪寶・俱共前進。阿難・輪寶止處・大善見王・率同四軍・止住其處。阿難・北方敵王等・詣大善見王所白曰・「來乎大王。善來大王。一切莫非主有・大王。願垂教命・大王。」大善見王曰・「不得殺生物。勿取非所與。勿為邪婬行。勿為虛妄語。勿飲醉人物。食應從習制。」阿難・北方敵王等・服從大善見王。

一一

阿難・彼天輪寶・如是征服大海周境・即便還來拘舍婆提城・其軸止於王內城門法廷之前・照曜內城・如是停住。阿難・大善見王・

出現如是輪寶。

一二

復次阿難・大善見王・出現象寶。有名布薩陀象王・全身純白・七處具拄・復具神力・而能飛空。大善見王・見已心喜・為如是言・「若可調者・此象實為供乘良象。」阿難・猶如生來純正良象・久受善調・此象寶者・亦復如是・得善調御。阿難・大善見王・曾試象寶・平旦乘之・巡遊大海周邊四境・即還王城・而進朝食。阿難・大善見王・出現如是象寶。

一三

復次阿難・大善見王・出現馬寶。是為馬王・名曰雲馬・全身純白・頭黑如烏・頸上鬣毛・如們叉草・具有神力而能飛空。大善見王・見已心喜・為如是言・「若可調者・此馬實為供乘良馬。」阿難・猶如生來純正良馬・久受善調・此馬寶者・亦復如是・得善調御。阿難・大善見王・曾試馬寶・平旦乘之・巡遊大海周邊四境・即還王城・而進朝食。阿難・大善見王・出現如是馬寶。

一四

復次阿難・大善見王・出現珠寶。是琉璃珠・光輝燦爛・性質純正・八面具足・磨治極好・瑩明清徹・具眾妙德。阿難・珠寶之光・普照所及・廣一由旬。阿難・大善見王・曾試珠寶・配列四軍・高幢之上安置珠寶・於夜闇中・得以進軍。復次阿難・四周村眾・普受光照・得作業務・謂為晝日。阿難・大善見王・出現如是珠寶。

一五

復次阿難・大善見王・出現女寶。形相殊妙・清麗可悅・容顏最勝・色美如花。長短合度・肥瘦適中・黑白稱宜・超人間色・備天人姿。阿難・女寶皮膚・柔軟之感・猶如綿絮・亦如絲綿。阿難・女寶體肢・冬溫夏涼。阿難・女寶身體・發栴檀香・從口發出青蓮華香。阿難・此女寶者・先王而起・後王而寢・從順貞淑・言行可喜。阿難・女寶無有以心違王・況以身體。阿難・大善見王・出現如是女寶。

一六

復次阿難・大善見王出現居士寶。彼由業報・得生天眼・凡於寶藏・有主無主・皆悉見之。彼詣大善見王所白曰・「大王・願主莫憂・我主之財・臣善辦之。」阿難・大善見王曾試居士寶・乘船放於恒河中流・告居士寶曰・「我欲得金。」「然則大王・願船至岸。」「居士・我於此處・正欲得金。」阿難・時居士寶・兩手觸水・舉瓶而出・中滿黃金・白大善見王曰・「大王・此亦可乎。」大善見王乃曰・「居士・斯為可矣・斯為足矣。」阿難・大善見王・出現如是居士寶。

一七

復次阿難・大善見王・出現將軍寶。賢明雄略・智謀具足・其力能為大善見王・當進勸進・當退勸退・當止勸止。彼詣大善見王所白曰・「大王・願主莫憂・臣善指揮。」阿難・大善見王・出現如是將軍寶。阿難・大善見王・自然具足此等七寶。

一八

復次阿難・大善見王・自然具足四如意德。云何為四。阿難・大善見王・形相殊妙・清麗可悅・容顏最勝・色美如花・遠過常人。阿難・大善見王・有此第一如意德。

一九

復次阿難・大善見王・為長壽者。壽命之長・遠過常人。阿難・大善見王・有此第二如意德。

二〇

復次阿難・大善見王・無病息災・有均齊力・消化飲食。〔身體熱度〕溫冷適中・〔身體健康〕遠過常人。阿難・大善見王・有此第三如意德。

二一

復次阿難．大善見王．受婆羅門及居士等．所愛所悅。阿難．猶如父受其子．所愛所悅．大善見王．亦復如是．受婆羅門及居士等．所愛所悅。阿難．彼婆羅門居士．亦蒙大善見王所愛所悅。阿難．猶如子蒙其父．所愛所悅．婆羅門居士．亦復如是．蒙大善見王．所愛所悅。阿難．大善見王．嘗偕四軍．出遊園地。阿難．時婆羅門．及居士等．至王前白曰．「大王．願主徐行．我等可得久拜吾主。」阿難．大善見王．亦告御者曰．「御者．徐徐御車．俾我久視婆羅門居士。」阿難．大善見王．有此第四如意德。阿難．大善見王．自然具足此等四如意德。

二二

阿難．大善見王．作是念言．「我今於此等多羅樹間．每隔百肘．造一蓮池。」阿難．大善見王．即於此等多羅樹間．每隔百肘．造一蓮池。阿難．此等蓮池．以四種塼．砌積而成。一為金造．一為銀造一琉璃造．一水精造。阿難．此等蓮池．各有四階．階分四種。一為金造．一為銀造．一琉璃造．一水精造。金階金柱．桄榔為銀。銀階銀柱．桄榔為金。琉璃階琉璃柱．衡桄及榔．乃為水精。水精階水精柱．衡桄及榔．乃為琉璃。此等蓮池．周匝繞以二種勾欄。一為金造．一為銀造。若金勾欄．其柱為金．桄榔為銀。若銀勾欄．其柱為銀．桄榔為金。

二三

阿難．大善見王．復又念言．「我今當於此等蓮池．植種種華．使之成為天然華鬘．即青蓮、紅蓮、黃蓮、白蓮等．四季常開．世所珍奇。」阿難．大善見王．乃於此等蓮池之中．植種種華．使之成為天然華鬘．即青蓮、紅蓮、黃蓮、白蓮等．四季常開．世所珍奇。復次阿難．大善見王念言．「我今當於諸蓮池畔．置助浴者．為過路人．便於入浴。」阿難．大善見王．乃於此諸蓮池岸邊．置助浴者．為過路人．便於入浴。復次阿難．大善見王念言．「我今當於諸蓮池畔．供設布施．需食與食．需飲與飲．需衣與衣．需乘具者與以乘具．需休息者與以臥床．需婦女者與以婦女．需金銀者與以金銀。」阿難．大善見王．乃於此諸蓮池之畔．供設布施．需食與食．需飲與飲．需衣與衣．需乘具者與以乘具．需休息者與以臥床．需婦女者與以婦女．需金銀者與以金銀。

二四

復次阿難・諸婆羅門及居士等・多持財寶・詣大善見王所白曰・「大王・此多財寶・齎獻大王・幸垂納受。」「有稅如法・作我之財・既云足矣。汝可持之・且可加多持去。」彼等見拒於王・却退一面・共相議言・「我等不宜將此財寶・復持還家・寧可為王造獻宮殿。」彼等詣大善見王所白言・「大王・當為家主造獻宮殿。」阿難・大善見王・默然許之。

二五

阿難・時諸天之主帝釋天・以心知大善見王心・命毘首羯摩天子曰・「毘首羯摩・來・為大善見王起造宮殿・名曰法堂。」阿難・毘首羯摩天子・答諸天之主帝釋天曰・「唯然。」猶如力士・屈伸臂頃・自三十三天倏然隱沒・出現於大善見王之前。阿難・毘首羯摩天子・即向大善見王白曰・「大王・我將為主・起造宮殿・名曰法堂。」阿難・大善見王・默然許可。毘首羯摩天子・便為大善見王・起造宮殿・法之高堂。

二六

阿難・是法高堂・東西長一由旬・南北廣半由旬。阿難・是法高堂・為四種塼・砌積成基・比諸人身・高達三倍。一為金造・一為銀造・一琉璃造・一水精造。阿難・法高堂柱・八萬四千・柱有四種・一為金造・一為銀造・一琉璃造・一水精造。阿難・是法高堂・敷四種板・一為金造・一為銀造・一琉璃造・一水精造。阿難・法高堂階・二十四級・階有四種・一為金造・一為銀造・一琉璃造・一水精造。金階金柱・桄榔為銀。銀階銀柱・桄榔為金。琉璃階琉璃柱・衡桄及榔・乃為水精。水精階水精柱・衡桄及榔・乃為琉璃。阿難・是法堂樓・八萬四千・樓有四種・一為金造・一為銀造・一琉璃造・一水精造。金樓閣中・備銀牀座。銀樓閣中・備金牀座。琉璃樓閣・象牙牀座。水精樓閣・堅木牀座。金樓閣門・立銀多羅樹・銀幹金葉果。銀樓閣門・立金多羅樹・金幹銀葉果。琉璃樓閣門・立水精多羅樹・幹為水精・葉果琉璃。水精樓閣門・立琉璃多羅樹・幹為琉璃・葉果水精。

二七

阿難・時大善見王念言・「我今當於大莊嚴樓門・為令遍造金多羅樹林・我可於日中・安棲其處。」阿難・大善見王・乃於大莊嚴樓

門・令遍造金多羅樹林・日中安棲其處。

二八

阿難・是法高堂・有二種欄楯・周匝遼遶・一為金造・一為銀造。金造欄楯・黃金為柱・銀為桄榔。銀造欄楯・白銀為柱・金為桄榔。

二九

阿難・是法高堂・有二種鈴網・周匝遼遶・一為金造・一為銀造。金造之網・懸有銀鈴。銀造之網・懸有金鈴。此等鈴網・受風吹盪・其音美妙・使人興奮・心悅神往。阿難・猶如五支樂器・善受調練・由於名手・善奏之時・其音美妙・使人興奮・心悅神往・阿難・此等鈴網・實亦如是・受風吹盪・其音美妙・使人興奮・心悅神往。阿難・是時拘舍婆提王城・無賴之徒・樂欲自娛者・隨此鈴網・風所吹盪美妙之音・狂歡踴躍。

三〇

阿難・是法高堂・當成就時・光明晃耀眩目難視。阿難・猶如雨期末月・秋季晴天・清澄無雲・赫日昇空・光明晃耀・眩目難視・彼法高堂・亦復如是・光明晃耀・眩目難視。

三一

阿難・大善見王・復又念言・「我今當於法高堂前・起造蓮池・曰法蓮池。」大善見王・乃於法高堂前・起造蓮池・曰法蓮池。阿難・是法蓮池・東西長一由旬・南北廣半由旬。阿難・此法蓮池・以四種塼・砌集而成・一為金造・一為銀造・一琉璃造・一水精造。阿難・法蓮池階・二十四級・階有四種・一為金造・一為銀造・一琉璃造・一水精造。金階金柱・桄榔為銀。銀階銀柱・桄榔為金。琉璃階琉璃柱・衡桄及榔・乃為水精。水精階水精柱・衡桄及榔・乃為琉璃。阿難・此法蓮池・周匝遶有二種勾欄・一為金造・一為銀造。金造勾欄・黃金為柱・銀為桄榔。銀造勾欄・白銀為柱・金為桄榔。

三二

阿難・此法蓮池・遶有七種多羅行樹・一為金造・一為銀造・一琉璃造・一水精造・一珊瑚造・一車渠造・一眾寶造。金樹金幹・葉果為銀。銀樹銀幹・葉果為金。琉璃樹琉璃幹・葉果為水精。水精樹水精幹・葉果為琉璃。瑚珊樹瑚珊幹・葉果為車渠。車渠樹車渠幹・葉果為珊瑚。眾寶樹眾寶幹・葉果為眾寶。阿難・此等多羅行樹・受風吹盪・其音美妙・使人興奮・心悅神往。阿難・猶如五支樂器・善受調練・由於名手・善奏之時・其音美妙・使人興奮・心悅神往・阿難・多羅行樹・亦復如是・受風吹盪・其音美妙・使人興奮・心悅神往。阿難・是時拘舍婆提王城・無賴之徒・樂欲自娛者・咸隨此等多羅行樹・風所吹盪美妙之音・狂歡踴躍。

三三

阿難・是法高堂・及法蓮池・成就之時・大善見王・即以眾樂具・使沙門中之沙門・受尊敬者・婆羅門中之婆羅門・受尊敬者・悉令滿足・昇法高堂。

第二誦品

一

阿難・時大善見王・作是念言・「我今獲有如是大威力如是大勢力・緣何業果・緣何業報。」阿難・大善見王於是念言・「緣我三業果・緣我三業報。即是布施、調御、及以自制。緣是我今獲有如是大威力・如是大勢力。」

二

阿難・大善見王・即便往詣大莊嚴樓・立樓門前・發感興言。
「愛欲心乎當止息　瞋恚心乎當止息　傷害心乎當止息　愛欲心乎更莫起
瞋恚心乎更莫起　傷害心乎更莫起」

三

阿難・時大善見王・入大莊嚴樓・坐金御床・捨離諸欲・離不善法・有尋有伺・離生喜樂・入住初禪。滅除尋伺・內心靜安・心成專一・無尋無伺・定生喜樂・入第二禪。離喜住捨・正念正智・身

正受樂・如諸聖說「捨喜離喜・正念樂住・」入第三禪。捨樂離苦・先滅樂喜・不苦不樂・捨念清淨・入第四禪。

四

阿難・時大善見王・出大莊嚴樓・次入金樓・坐銀御床・心與慈俱・遍滿一方・而自安住。如是遍滿第二第三・及第四方・而為安住。如是心與慈俱・以廣大無量無比無害心・遍滿上方下方・四維諸方・一切世界・而為安住。如是乃至心與悲俱・乃至心與喜俱・悉皆如是如是。乃至心與捨俱・遍滿一方・而為安住。如是遍滿第二第三・及第四方・而自安住。如是心與捨俱・以廣大無量無比無害心・遍滿上方下方・四維諸方・一切世界・而為安住。

五

阿難・大善見王有八萬四千城・拘舍婆提王城第一。有八萬四千高堂・法高堂第一。有八萬四千樓閣・大莊嚴樓第一。有八萬四千床座・金床、銀床、牙床、堅木床・覆以長毛包被・錦綺氍毹・及迦陀利鹿皮・上張天蓋・兩端安置丹枕。有八萬四千象・皆以黃金為飾・立黃金幡・覆黃金網・布薩陀象王為其首。有八萬四千馬・以黃金為飾・立黃金幡・覆黃金網・雲馬王為其首。有八萬四千車・圍獅子皮、虎皮、彪皮・淡紅毛毯・以黃金為飾・立黃金幡・覆黃金網・樂聲車為其首。有八萬四千珠玉・珠寶為第一。有八萬四千婦女・善賢妃為第一。有八萬四千居士・居士寶為第一。有八萬四千剎帝利臣・將軍寶為第一。有八萬四千乳牛・著有頸飾・陀俱羅草所織・具有乳鉢・為銀所製。有八萬四千俱胝布・麻布、綿布、絹布、毛布・精巧微妙。有八萬四千鉢乳粥・朝夕供養。

六

阿難・時王之象・八萬四千・來禮敬王・朝夕為常。阿難・大善見王・作是念言・「我此等象・八萬四千・前來禮敬・朝夕為常。今後當使四萬二千象・百年一度・前來禮敬。」阿難・大善見王・乃命將軍寶曰・「敬愛將軍・我此等象・八萬四千・前來禮敬・朝夕為常・吾卿・今可使象四萬二千・百年一度・前來禮敬。」彼將軍寶・答大善見王・曰・「唯然大王。」阿難・自是以後・四萬二千象・百年一度・前來禮敬大善見王。

七

阿難・時善賢妃・乃經多百千年後・一時作是念言・「我久不見大善見王・今者將往奉覲大王。」阿難・善賢妃告諸婇女曰・「汝等咸來・宜各洗頭・身著金衣。我等久違大善見王・今者將往奉覲大王。」諸婇女答善賢妃曰・「唯然・」各自洗頭・身著金衣・咸詣妃所。阿難・善賢妃即告將軍寶曰・「敬愛將軍・可整四軍・我等久違大善見王・今者當往奉覲大王。」阿難・將軍寶答善賢妃曰・「唯然・」即整四軍・報善賢妃曰・「女王・謹為女王・已整四軍・唯命是承。」

八

阿難・善賢妃即與四軍俱・率諸婇女・詣法高堂・循堂復詣大莊嚴樓・於樓門前・側倚而立。阿難・時大善見王・有所訝異・「何來羣眾・起大聲響。」出大莊嚴樓・見善賢妃・倚門而立。王見妃曰・「吾妃・且止勿入。」

九

阿難・大善見王・告左右曰・「汝往大莊嚴樓・取出金床・敷於金多羅樹林。」左右答大善見王曰・「唯然大王・」即從大莊嚴樓・取出金床・敷於金多羅樹林。阿難・大善見王・即偃右脅・作獅子臥・足足相累・正念正智。

一〇

阿難・時善見王妃・作是念言・「王之感官・實為清淨・膚色極為清淨精緻。大善見王・將捨壽耶。」乃白王言・「大王・此八萬四千城・拘舍婆提城第一・皆主所有・是以大王・願懷欲念・冀望保有。大王・此八萬四千堂・法高堂第一・皆主所有・是以大王・願懷欲念・冀望保有。大王・此八萬四千樓・大莊嚴樓第一・皆主所有・是以大王・願懷欲念・冀望保有。大王・此八萬四千御床・金床、銀床、牙床、堅木床・覆以長毛・錦綺氈毹・及覆迦陀利鹿皮・上張天蓋・兩端安置丹枕・皆主所有・是以大王・願懷欲念・冀望保有。大王・此八萬四千象・黃金為飾・立有金幡・覆有金網・布薩陀象王為其首・皆主所有・是以大王・願懷欲念・冀望保有。大王・此八萬四千馬・黃金為飾・立有金幡・覆有金網・雲馬

王為其首．皆主所有．是以大王．願懷欲念．冀望保有。大王．此八萬四千車．圍獅子皮、虎皮、彪皮．淡紅毛毯．黃金為飾．立有金幡．覆有金網．樂聲車為第一．皆主所有．是以大王．願懷欲念．冀望保有。大王．此八萬四千珠．珠寶為第一．皆主所有．是以大王．願懷欲念．冀望保有。大王．此八萬四千女．女寶為第一．皆主所有．是以大王．願懷欲念．冀望保有。大王．此八萬四千居士．居士寶第一．皆主所有．是以大王．願懷欲念．冀望保有。大王．此八萬四千剎帝利臣．將軍寶第一．皆主所有．是以大王．願懷欲念．冀望保有。大王．此八萬四千乳牛．著有頸飾．陀俱羅草所織．具有乳鉢．為銀所製．皆主所有．是以大王．願懷欲念．冀望保有。大王．此八萬四千俱胝布．麻布、綿布、絹布、毛布．精巧微妙．皆主所有．是以大王．願懷欲念．冀望保有。大王．此八萬四千鉢乳粥．朝夕供養．皆主所有．是以大王．願懷欲念．冀望保有。」

一一

阿難．大善見王．聞如是言．告善賢妃曰．「吾妃．汝於我前．所說稱適樂喜愛語．久以為常。但汝今者．於我之前．所說非樂非喜非愛之語。」「大王．我今應為如何言耶．」「吾妃．應如是言．「凡可愛者．凡可樂者．當為種種變易．當為捨離．當成為他。願主捨壽．不懷欲念。人死懷欲．是為不幸．當受誹毀。大王．主之此等八萬四千城．拘舍婆提城第一．唯願大王．捨離欲念．不執著於此等保有。大王．主之此等八萬四千堂．法高堂第一．唯願大王．捨離欲念．不執著於此等保有。大王．主之此等八萬四千樓．大莊嚴樓第一．唯願大王．捨離欲念．不執著於此等保有。大王．主之此等八萬四千御床．金床、銀床、牙床、堅木床．覆以長毛包被．錦綺氍毹．及覆迦陀利鹿皮．上張天蓋．兩端安置丹枕．唯願大王．捨離欲念．不執著於此等保有。大王．此等八萬四千象．黃金為飾．立有金幡．覆有金網．布薩陀象王為其首．唯願大王．捨離欲念．不執著於此等保有。大王．此等八萬四千馬．黃金為飾．立有金幡．覆有金網．雲馬王為其首．唯願大王．捨離欲念．不執著於此等保有。大王．此等八萬四千車．圍獅子皮、虎皮、彪皮．淡紅毛毯．黃金為飾．立有金幡．覆有金網．樂聲車為第一．唯願大王．捨離欲念．不執著於此等保有。大王．此等八萬四千珠．珠寶為第一．唯願大王．捨離欲念．不執著於此等保有。大王．此等八萬四千女．善賢妃為第一．唯願大王．捨離欲念．不執著於此等保有。大王．此等八萬四千居士．居士寶為第一．唯願大王．捨離

欲念・不執著於此等保有。大王・此等八萬四千剎帝利臣・將軍寶為第一・唯願大王・捨離欲念・不執著於此等保有。大王・此等八萬四千乳牛・著有頸飾・陀俱羅草所織・具有乳鉢・為銀所製・唯願大王・捨離欲念・不執著於此等保有。大王・此等八萬四千俱胝布・麻布、綿布、絹布、毛布・精巧微妙・唯願大王・捨離欲念・不執著於此等保有。大王・此等八萬四千鉢乳粥・朝夕供養・唯願大王・捨離欲念・不執著於此等保有。」」

一二

阿難・善賢妃聞是言已・號哭涕淚。阿難・善賢妃涕淚白王曰・「大王・凡可愛者・凡可樂者・當為種種變易・當為捨離・當成為他。願主捨壽・不懷欲念。懷欲捨壽・是為不幸・當受誹毀。大王・主之此等八萬四千城・拘舍婆提城第一・唯願大王・捨離欲念・不執著於此等保有。大王・主之此等八萬四千堂・法高堂第一・唯願大王・捨離欲念・不執著於此等保有。大王・主之此等八萬四千樓・大莊嚴樓第一・唯願大王・捨離欲念・不執著於此等保有。大王・主之此等八萬四千御床・金床、銀床、牙床、堅木床・覆以長毛包被・錦綺氍毹・及覆迦陀利鹿皮・上張天蓋・兩端安置丹枕・唯願大王・捨離欲念・不執著於此等保有。大王・此等八萬四千象・黃金為飾・立有金幡・覆有金網・布薩陀象王為其首・唯願大王・捨離欲念・不執著於此等保有。大王・此等八萬四千馬・黃金為飾・立有金幡・覆有金網・雲馬王為其首・唯願大王・捨離欲念・不執著於此等保有。大王此等八萬四千車・圍獅子皮、虎皮、彪皮・淡紅毛毯・黃金為飾・立有金幡・覆有金網・樂聲車為第一・唯願大王・捨離欲念・不執著於此等保有。大王・此等八萬四千珠・珠寶為第一・唯願大王・捨離欲念・不執著於此等保有。大王・此等八萬四千女・善賢妃為第一・唯願大王・捨離欲念・不執著於此等保有。大王・此等八萬四千居士・居士寶為第一・唯願大王・捨離欲念・不執著於此等保有。大王・此等八萬四千剎帝利臣・將軍寶為第一・唯願大王・捨離欲念・不執著於此等保有。大王・此等八萬四千乳牛・著有頸飾・陀俱羅草所織・具有乳鉢・為銀所製・唯願大王・捨離欲念・不執著於此等保有。大王・此等八萬四千俱胝布・麻布、綿布、絹布、毛布・精巧微妙・唯願大王・捨離欲念・不執著於此等保有。大王・此等八萬四千鉢乳粥・朝夕供養・唯願大王・捨離欲念・不執著於此等保有。」

一三

阿難・是大善見王・旋即命終。阿難・猶如居士・或居士子・食美妙食・食訖欲睡・大善見王・實亦如是・善知命終。阿難・大善見王死後・上昇善道梵界。阿難・大善見王・八萬四千年間・作兒童嬉・八萬四千年間・攝理政治・八萬四千年間為王・八萬四千年間居家・於法高堂修習梵行。彼修四梵住・身壞命終・昇於梵界。

一四

阿難・汝或作是念・「是時大善見王・當為他人。」勿作斯念。當知是時大善見王・即我身是。彼八萬四千城・拘舍婆提第一・昔為我所有。彼八萬四千堂・法高堂第一・昔為我所有。彼八萬四千樓・大莊嚴樓第一・昔為我所有。彼八萬四千御床・金床、銀床、牙床、堅木床・覆以長毛包被・錦綺氍毹・及覆迦陀利鹿皮・上張天蓋・兩端安置丹枕・昔為我所有。彼八萬四千象・黃金為飾・立有金幡・覆有金網・布薩陀象王為其首・昔為我所有。彼八萬四千馬・黃金為飾・立有金幡・覆有金網・雲馬王為其首・昔為我所有。彼八萬四千車・圍獅子皮、虎皮、彪皮・淡紅毛毯・黃金為飾・立有金幡・覆有金網・樂聲車為第一・昔為我所有。彼八萬四千珠・珠寶為第一・昔為我所有。彼八萬四千女・善賢妃為第一・昔為我所有。彼八萬四千居士・居士寶為第一・昔為我所有。彼八萬四千剎帝利臣・將軍寶為第一・昔為我所有。彼八萬四千乳牛・著有頸飾・陀俱羅草所織・具有乳鉢・為銀所製・昔為我所有。彼八萬四千俱胝布・麻布、綿布、絹布、毛布・精巧微妙・昔為我有。彼八萬四千鉢乳粥・朝夕供養・昔為我所有。

一五

阿難・彼八萬四千城・其中之一・即為昔我所住之城・拘舍婆提王城是也。阿難・彼八萬四千堂・其中之一・即為昔我所住之堂・法高堂是也。阿難・彼八萬四千樓・其中之一・即為昔我所住之樓・大莊嚴樓是也。阿難・彼八萬四千御床・其中之一・即為昔我所用之床・是為金造・或為銀造・或為牙造・或堅木造。阿難・彼八萬四千象・其中之一・即為昔我所乘之象・布薩陀象王是也。阿難・彼八萬四千馬・其中之一・即為昔我所乘之馬・雲馬王是也。阿難・彼八萬四千車・其中之一・即為昔我所乘之車・樂聲車是也。阿難・彼八萬四千女・其中一女・即為昔者侍我之妃・是剎帝利女・或吠羅摩女。阿難・彼八萬四千俱胝布・其中之一・即為昔我所著之布・是為麻布・或為綿布・或為絹布・或為毛布。阿難・彼

八萬四千鉢・其中之一・即為昔我所用之鉢・我以此鉢・食一合米・飲等量汁。

一六

阿難應觀・此等一切行・已逝去矣・已滅去矣・已變化矣。阿難・諸行如是・非常住也。阿難・諸行如是・非永久也。阿難・諸行如是・非安定也。是故阿難・於一切行・離脫為宜・心不為動・正是所宜・由是解脫・正是所宜。

一七

阿難・我自憶念・實曾六度・安置我舍利・於此方土。身為彼王・為轉輪王從於法者為法王・為四境主・為常勝者・為保國者・具七寶者・復於斯土・安置我舍利・為第七度。阿難・今我如來・為第八度安置舍利土・今後於諸神界、魔界、梵界・於諸沙門婆羅門間・於諸人天中生・如是等處・不復更見。』世尊如是言。善逝如是言已・師復重說偈言。

諸行是無常　是生滅之法　是等生又滅　心寂滅為樂

闍尼沙經第十八

一

如是我聞。一時世尊・在那提迦部落塼屋。時世尊於迦尸、拘薩羅、跋耆、末羅、支提、拔沙、拘樓、般遮羅、婆蹉、戍囉西那等國・為諸信者・說命終再生事・作如是言・『彼人生彼處・彼人生彼處。那提迦人諸信者五十餘人命終・斷五下分結・成不還者・生於天上而取滅度・從彼世界更不還來。那提迦人諸信者九十餘人命終・斷除三結・滅貪瞋癡・成一來者・唯餘一度・還來此世・苦得終盡。那提迦人諸信者五百餘人命終・斷除三結・成預流者・不墮惡趣・必趣正覺。』

二

那提迦人諸信者・聞『世尊於迦尸、拘薩羅、跋耆、末羅、支提、跋沙、拘樓般、遮羅、婆蹉、戍囉西那等國、為諸信者・說命終再生事・作如是言・「彼人生彼處・彼人生彼處。那提迦人諸信者五

十餘人命終・斷五下分結・成不還者・生於天上而取滅度・從彼世界・更不還來。那提迦人諸信者九十餘人命終・斷除三結・滅貪瞋癡・成一來者・唯餘一度・還來此世・苦得終盡。那提迦人諸信者五百餘人命終・斷除三結・成預流者・不墮惡趣・必趣正覺。」』那提迦人諸信者・悉皆滿足・聞世尊解說・欣然喜悅。

三

尊者阿難・聞『世尊實於迦尸、拘薩羅、跋耆、末羅、支提、跋沙、拘樓、般遮羅、婆蹉、戍囉西那等國為諸信者・說命終再生事・作如是言・「彼人生彼處・彼人生彼處。那提迦人諸信者五十餘人命終・斷五下分結・成不還者・生於天上而取滅度・從彼世界・更不還來。那提迦人諸信者九十餘人命終・斷除三結・滅貪瞋癡・成一來者・唯餘一度・還來此世・苦得終盡。那提迦人諸信者五百餘人命終・斷除三結・成預流果・不墮惡趣・必趣正覺。」那提迦人諸信者・悉皆滿足・聞世尊解說・欣然喜悅。』

四

尊者阿難・便自念言・『彼摩揭陀人諸信者・實亦多有久時修行而命終者。有人或於鴦伽、摩揭陀國・將思鴦伽、摩揭陀人・無有善信而命終者。然而彼等亦皆信佛信法信僧・善行於教。彼等命終・而不蒙世尊・說其運命・設於彼等・亦為說者・斯誠慶幸。眾當信之・緣是當得・趣於善趣。又彼摩揭陀國王斯尼喻頻婆娑羅・為如法者・從法之王・彼於婆羅門及居士・於都市居民・於一般人民・皆悉深具哀愍之情。眾實讚王言・「彼如法者從法我王・如是以福・賜與我等・然後命終・我等如是・於彼如法從法王之國土・幸福生存。」彼實亦為信佛信法信僧・善行於教。眾人實又作如是念・「摩揭陀王斯尼喻頻婆娑羅・終生稱讚世尊・讚已命終。」彼命已終・猶不蒙世尊・說其運命。設若於彼・亦為說者・則為幸甚・眾當信之・緣是當得・趣於善趣。又復世尊・實於摩揭陀國・得成正覺。云何世尊・於此成正覺地之摩揭陀人諸信者・不說彼等・命終之後所再生處。若世尊於摩揭陀人諸信者・不說彼等命終之後所再生處・是於摩揭陀人諸信者・殊為不幸。云何世尊・於摩揭陀人諸信者・以不說故致不幸者・而不為說耶。』

五

尊者阿難．竊自思惟．摩揭陀人諸信者事．於清旦起．詣世尊所．禮敬世尊．於一面坐。尊者阿難．坐一面已．白世尊言．『世尊．我聞世尊於迦尸、拘薩羅、跋耆、末羅、支提、拔沙、拘樓、般遮羅、婆蹉、戍囉西那等國．為諸信者．說命終後．所再生處．作如是言．「彼人生彼處．彼人生彼處。那提迦人諸信者五十餘人命終．斷五下分結．成不還者．生於天上而取滅度．從彼世界．不再還來。那提迦人諸信者九十餘人命終．斷除三結．滅貪瞋癡．成一來者．唯餘一度．還來此世．苦得終盡。那提迦人諸信者五百餘人命終．斷除三結．成預流者．不墮惡趣．必趣正覺。」那提迦人諸信者．悉皆滿足．聞世尊解說．欣然喜悅。

六

復次世尊．此摩揭陀人諸信者．多有久時修行而命終者。有人或於鴦伽、摩揭陀人．將思鴦伽、摩揭陀人．無有善信而命終者。然而世尊．彼等亦皆信佛信法信僧．善行於教。彼等命終．而不蒙世尊．說其運命．設於彼等．亦為說者．斯誠慶幸．眾當信之．緣是當得趣於善趣。又彼摩揭陀國王斯尼喻頻婆娑羅．為如法者．從法之王．彼於婆羅門及居士．於都市居民．於一般人民．皆悉深具哀愍之情。眾實讚王言．「彼如法者．從法我王．如是以福．賜與我等．然後命終．我等如是於彼如法從法王之國土．幸福生存。」世尊．彼實亦為信佛信法信僧．善行於教。眾人實又作如是念．「摩揭陀王斯尼喻頻婆娑羅．終生稱讚世尊．讚已命終。」彼命已終．猶不蒙世尊．說其運命．設若於彼．亦為說者．則為幸甚．眾當信之．緣是當得趣於善趣。復次世尊．世尊實於摩揭陀國．得成正覺。云何世尊．於此成正覺地之摩揭陀人諸信者．不說彼等命終之後．所再生處。世尊．若世尊於摩揭陀人諸信者．不說彼等．命終之後．所再生處．是於摩揭陀人．殊為不幸。云何世尊．於摩揭陀人諸信者．以不說故致不幸者．而不為說耶。』尊者阿難．為摩揭陀人諸信者事．於世尊前．作是說已．即從座起．禮敬世尊．右遶而去．

七

阿難去未久．世尊清旦整下衣．著上衣持鉢．往那提迦村乞食。乞食歸來．食後洗足．步入塼屋．於摩揭陀人諸信者事．行深思惟．心念專一．就常座坐．而如是念．『我將欲知彼等所趣．及其運命．〔將知〕彼尊者等．趣云何趣．及其運命。』於是世尊．見知

摩揭陀人諸信者．趣云何趣．彼尊者等．為何運命。世尊便於夕刻．從獨坐起。步出塼屋．於僧院蔭．就常座坐。

八

時尊者阿難．詣世尊所．禮敬世尊．於一面坐。尊者阿難．坐一面已．白世尊言．『世尊．今觀世尊．寂然而靜．世尊顏色．蓋因諸根清淨．故現光明．世尊今者．寂然而靜以度斯日耶。』

九

『阿難．汝為摩揭陀人諸信者事．在我面前．作是說已．起座而去．時我即往那提迦村乞食．從乞食歸．食後洗足．步入塼屋．於摩揭陀人諸信者事．行深思惟．心專一念．就常座坐．而如是念．「我將欲知彼等所趣．及其運命．〔將知〕彼尊者等．趣云何趣．及其運命。」阿難．我見知彼摩揭陀人諸信者趣云何趣．彼尊者等．為何運命。阿難．時一夜叉．隱形舉聲言曰．「世尊．我是闍尼沙。善逝．我是闍尼沙。」阿難．汝嘗聞知．有如是名．名闍尼沙者耶．』『世尊．我未嘗聞知．有如是名．名闍尼沙者。我聞闍尼沙名故．身毛豎立。我如是念．「彼有如是名．名闍尼沙者．當非尋常夜叉。」』

一〇

『阿難．時彼夜叉．聲言未久．面色光明．現於我前。復舉聲言．「世尊．我是頻婆娑羅。善逝．我是頻婆娑羅。世尊．我生為毘沙門天王眷屬．此是七度。前者之我．為人間王．由彼處滅．生於天上．又為非人王。

從此經彼各七度　共輪迴歷十四度　凡我前世所經者　知有如許之住處

世尊．我已久時．為不墮惡趣者．自知不墮惡趣．我住是願．將成一來者。」是尊者闍尼沙夜叉所言．「我已久時．為不墮惡趣者．自知不墮惡趣．」又言．「我住是願．將成一來者．」誠不可思議．為希有事也。「然尊者闍尼沙夜叉．以何因緣．能如是偉大．得殊勝智耶。」

一一

「世尊・唯世尊教・不依餘教。唯善逝教・不依餘教。我自最初一向歸信世尊・自是以後・我已久時・為不墮惡趣者・自知不墮惡趣・而住是願・將成一來者。我今奉毗沙門天王命・以事往詣增長天王所・於路途中・見世尊步入塼屋・於摩揭陀人諸信者事・行深思惟・心專一念・思惟將知・彼等所趣・及其運命・彼尊者等・趣云何趣・為何運命。然曾一時・毗沙門天王・偶於眾會中・說彼〔摩揭陀〕尊者等・趣云何趣・為何運命・我於彼前・親聞親受。於是我念・欲覲世尊・奉告此事。世尊・我以此二緣・來覲世尊。

一二

世尊・曾於遠昔・初雨安居・月之十五・滿月之夜・布薩之時・三十三天眾・集坐善法堂。眾大天神・普坐諸方。又四天王・在四方坐・持國天王・在東方坐・其面西向・諸神在前・增長天王・在南方坐・其面北向・諸神在前・廣目天王・在西方坐・其面東向・諸神在前・毗沙門天王・在北方坐・其面南向・諸神在前。世尊・三十三天眾・集坐善法堂・眾大天神・普坐諸方・又四天王亦在四方坐者・此是彼等〔四天王〕之坐法也。彼等座後・有我等座。世尊・若有諸神・於世尊所・淨修梵行・新生於三十三天者・彼等色光・勝餘諸神。三十三天諸神・由是充滿喜悅・念言・「實天界增盛・阿修羅界減滅・」故生歡喜。

一三

世尊・時帝釋天・知三十三天諸神歡喜・以偈隨喜曰・

「三十三天眾　與主共歡喜　歸命於如來　法之善法性　見新生諸神　於佛所梵行
今來生此間　故色光最勝　見彼色光壽　超餘諸天神　大智者弟子　生此乃殊勝
三十三天眾　與主共歡喜　歸命於如來　法之善法性」

三十三天諸神・由是彌更喜悅・念言「實天界增盛・阿修羅界減滅・」故生歡喜。

一四

世尊・三十三天諸神・集會善法堂・共相思惟・集會所以。彼四天王・於此義趣・受教言已・在其座前・各自起立。

彼四天王　受教言已　心淨寂靜　各立座前

一五

世尊・時於北方・現大光明・其光顯耀・遠勝在會・諸神神威。時帝釋天・告三十三天曰・「諸卿・若所現相・光明現起・光耀發時・梵天當現。如是光明現起・光耀顯發者・乃實梵天出現前相。
徵斯現相　梵天當現　大光晃耀　梵天之兆」

一六

世尊・三十三天諸神・各於座上說言・「欲知此光・齎有何果。欲詣其處而實見之。」四天王亦各於座上言・「欲知此光・齎有何果。欲詣其處而實見之。」三十三天諸神聞已・共相和言・「欲知此光・齎有何果。欲詣其處而實見之・」

一七

世尊・常童形梵天・於三十三天諸神之前出現時・是以粗相・化現而出。蓋若出現梵天自然相者・彼三十三天諸神・眼難見故。常童形梵天・出現三十三天之前・彼之色光・勝餘諸神。世尊・如黃金體・光勝人體・常童形梵天・亦復如是・出現三十三天之前・彼之色光・勝餘諸神。常童形梵天出現三十三天前時・集會諸神・不與交言・亦不起立・亦不請坐。眾咸默默・而於座上合掌・結跏趺坐・作如是念・「常童形梵天・今於某神有事・將就彼座而坐。」常童形梵天・於是坐其所坐・彼座之神・得大法悅・得大歡喜。如為剎帝利王灌頂・新即王位時・得大法悅・得大歡喜・常童形梵天・坐其所坐彼座之神・實亦如是・得大法悅・得大歡喜。

一八

世尊・常童形梵天・即化作粗相・為童子形・頭五角髻・現於三十三天之前。彼行虛空・於虛空間・結跏趺坐。猶如力士・於平正地上・寬廣床座・結跏趺坐・常童形梵天・實亦如是・行虛空中・於虛空間・結跏趺坐。知三十三天諸神歡喜・乃以偈隨喜曰。
「三十三天眾　與主共歡喜　歸命於如來　法之善法性　見新生諸神　於佛所梵行
今來生此間　故色光最勝　見彼色光壽　超餘諸天神　大智者弟子　生此乃殊勝
三十三天眾　與主共歡喜　歸命於如來　法之善法性」

一九

世尊・常童形梵天說如此事。說此事時・具備八種聲音・即玲瓏、清徹、美妙、和雅、充滿、不亂、甚深、廣博。世尊・常童形梵天・若唯以聲告此集會時・其聲即不出於會外。具備此八種聲者・稱曰梵聲。

二〇

世尊・常童形梵天・即以己身・化作三十三身・結跏趺坐於三十三天一一座上・告三十三天曰・「三十三天・諸卿於意云何・彼世尊為福利眾生・安樂眾生・哀愍世間・饒益人天・福樂人天故・有所行動・是以若人歸依佛陀・歸依法・歸依僧伽・善行於教・則身壞命終・或有生於他化自在天界者・或有生於化樂天界者・或有生於覩史多天界者・或有生於夜摩天界者・或有生於三十三天界者・或有生於四天王界者。即趣低界・亦得趣於乾闥婆界。」

二一

世尊・常童形梵天說如此事。說此事時・諸神咸各自作是念・「在我座上者・唯有一神說。」

一神說時　眾化神說　一神默坐　眾化神默　三十三天　與主同念　在我座上

唯一神說

二二

世尊・常童形梵天・即攝己身・還於一身。攝一身已・結跏趺坐於帝釋天座上・告三十三天曰・「三十三天・諸卿於意云何。豈不從彼世尊、知者、見者、應供者、等正覺者・為令充滿神通・熟達神通・變化神通故・善說此等四神足耶。云何為四・謂令比丘成就欲等持・及以勤勇・二事・修習神足。成就精進等持、心等持・亦復如是・修習神足。乃至思惟等持及以勤勇二事・修習神足。此四神足・是從世尊、知者、見者、應供者、等正覺者・為充滿神通・熟達神通・變化神通故・而為教說。諸卿・過去沙門婆羅門・而於種種・現諸神通者・皆是已曾為四神足之修習者。復次諸卿・未來沙門婆羅門・亦於種種・現諸神通者・皆是當為四神足之修習者。復次諸卿・現在沙門婆羅門・而於種種・現諸神通者・皆悉是為四神

足之修習者。三十三天・諸卿亦見我之如是神通威德不。」「然也梵天。」「諸卿・我實亦是四神足之修習者。故有如是偉大如是威德。」

二三

世尊・常童形梵天說如此事。常童形梵天・說此事已・復告三十三天曰・「三十三天・諸卿於意云何。豈不依彼世尊。知者、見者、應供者、等正覺者・為令到達安樂故・善為開示三徑路耶。云何為三。諸卿・或有眾生・親近愛欲・親近不善法。彼於後時・得聞聖法・熱心修習・了達一切法。彼為成就聖法聲聞故・熱心修習・了達一切法・不親近愛欲・不親近不善法。彼不親近愛欲・不親近不善法故・即便生樂・又於樂上・更生喜樂。諸卿・猶如從愉快中而生喜悅・彼不近親愛欲・不親近不善法故・即便生樂・又於樂上・更生喜樂・亦復如是。諸卿・依彼世尊、知者、見者、應供者、等正覺者・為令達安樂故・實開示此第一徑路。

二四

復次諸卿・或有眾生・粗身行不寂滅・粗口行不寂滅・粗意行不寂滅・彼於後時・得聞聖法・熱心修習・了達一切法。彼為成就聖法聲聞故・熱心修習・了一切法・粗身行寂滅・乃至粗意行寂滅。若彼寂滅粗身行・寂滅粗口行寂滅粗意行者・即便生樂・又於樂上・更生喜樂。諸卿猶如從愉快中而生喜悅・彼寂滅粗身行・寂滅粗口行・寂滅粗意行故・即便生樂・又於樂上・更生喜樂・亦復如是。諸卿・依彼世尊、知者、見者、應供者、等正覺者・為令達安樂故・實開示此第二徑路。

二五

復次諸卿・或有眾生・不如實知「此是善・」不如實知「此是不善・」不如實知「此當誹難・此不當誹難・此當用・此不當用・此是卑劣・此是高尚・此是黑白等分。」彼於後時・得聞聖法・熱心修習・了達一切法。彼為成就聖法聲聞故・熱心修習・了達一切法・如實知「此是善・」如實知「此是不善・」如實知「此當誹難・此不當誹難・此當用・此不當用・此是卑劣・此是高尚・此是黑白等分。」若如是知如是見者・則無明滅而明生。彼無明滅而明生故・即便生樂・又於樂上・更生喜樂。諸卿・猶如從愉快中而生

喜悅・彼既生樂・又於樂上・更生喜樂・亦復如是。諸卿・依彼世尊、知者、見者、應供者、等正覺者・為令達安樂故・實開示此第三徑路。諸卿・此三徑路・實依世尊、知者、見者、應供者、等正覺者・為令到達安樂故之所開示。」

二六

世尊・常童形梵天・說如此事。說此事已・常童形梵天・復告三十三天曰・「三十三天・諸卿於意云何。豈不依彼世尊、知者、見者、應供者・等正覺者・於四念處・為令到達於善故・善說此等四念處耶。何云為四。諸卿・謂比丘當於自身・而觀於身・精勤專念・除世貪憂。當於自身・而觀於身・於是得正靜慮・正心平和。彼以得正靜慮・正心平和故・外於他身・生知生見。當於自身・而觀於受・亦復如是・觀心亦然。乃至當於自身・而觀於法・精勤專念・除世貪憂。當於自身・而觀於法・於是得正靜慮・正心平和。彼以得正靜慮・正心平和故・外於他法・生知生見。諸卿・此四念處・是依世尊、知者、見者、應供者、等正覺者・為令到達於善故・之所開示。」

二七

世尊・常童形梵天・說如此事。常童形梵天說此事已・復告三十三天曰・「三十三天・諸卿於意云何。豈不依彼世尊、知者、見者、應供者、等正覺者・為令修行正定・成就正定故・善說七定具耶。云何為七。謂正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念。諸卿・以此七支・心成一向專念者・是得名曰具足方法具足資具之聖正定。諸卿・緣正見生正思惟・緣正思惟生正語・緣正語生正業・緣正業生正命・緣正命生正精進・緣正精進生正念・緣正念生正定・緣正定生正智・緣正智生正解脫。諸卿・設有正語者・應如是言・斯法從世尊故・善能為說・勝果即現・且非一時・於諸眾生・樂為誘導・以智者故・自得了知。又應為是言・不死門已開・此實正語也。諸卿・蓋如斯之法・勝果現前・且非一時・於諸眾生・樂為誘導・以智者故・自得了知者・實已從世尊・善能為說。向不死道・其門已開。諸卿・蓋於佛陀・具確信心・於法於僧・具確信心・體得聖樂誡者・不論何人・及生天者・趣入於法・如八百四十萬餘摩揭陀人信者命終・皆斷除三結・成預流者・不再墮惡趣・必定趣正覺。又於彼等中・亦有一來者。

其次之生類　當為具德者　然我難計量　恐犯妄語罪」

二八

世尊・常童形梵天說如此事。說此事時・毘沙門天王・心作是念・「說有如是大師・如是大說法・如是大勝智・實不可思議・實為希有也。」世尊・常童形梵天・知毘沙門天王心中所念・即告毘沙門天王曰・「毘沙門天王・於卿意云何。是應說在過去世・亦曾有如是大師・如是大說法・如是大勝智。在未來世・亦當有如是大師・如是大說法・如是大勝智。」」』

二九

常童形梵天・為三十三天說如此事。常童形梵天說此事時・毘沙門天王・親聞親受・為會眾說・毘沙門天王為會眾說此事時・闍尼沙夜叉・親聞親受・為世尊說。世尊從闍尼沙夜叉・親聞親受此事・而自了知・為尊者阿難說。尊者阿難從世尊親聞親受此事・為比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷說。是故梵行興盛・輾轉布演・多所附麗・益致廣敷・頗為世人之所樂說。

大典尊經第十九

第一誦品

一

如是我聞。一時世尊在王舍城靈鷲山中。爾時有容貌端正乾闥婆之子五髻・於黎明頃・放光普照靈鷲山・來詣世尊所・到已・禮敬世尊・於一面坐。坐一面已乾闥婆子五髻・白世尊言・『世尊・我從三十三天諸神・親聞親受者・欲以白世尊。』世尊曰・『五髻・汝可告我。』

二

『世尊・昔者於十五日布薩會自恣之日・滿月之夜・三十三天諸神・集會善法堂・天人大會眾・普坐一切方・四天王亦在四方坐。持國諸神・在東方坐・其面西向・諸神在前・增長天王・在南方坐・其面向北・諸神在前・廣目天王・在西方坐・其面向東・諸神在前・多聞天王・在北方坐・其面向南・諸神在前。世尊三十三天諸神・集會善法堂・天人大會眾・普坐一切方・復有四天王・亦在

四方坐者・此是彼等〔四天王〕之坐法也。彼等座後・有我等座。世尊・有先於世尊所・淨修梵行・新生於三十三天者眾・容色盛光・遠勝餘神。世尊・是故三十三天諸神・歡喜悅樂・喜悅滿足・咸謂「諸天眾團・實為繁榮・阿修羅眾團・實為衰減。」

三

世尊・時天主帝釋・知三十三天諸神歡喜・以偈讚曰。

「三十三天神　共帝釋歡喜　禮敬於如來　法之善法性　見新來諸神　從佛修梵行
生於此間者　色麗而光熾　見彼色光壽　遠勝餘諸神　大智者聲聞　特向此間生
三十三天神　共帝釋歡喜　禮敬於如來　法之善法性」

世尊・三十三天諸神・由是倍生歡喜悅樂・喜悅滿足・咸謂「諸天眾團・實為繁榮・阿修羅眾團・實為衰減。」

四

世尊・時天主帝釋・知三十三天諸神歡喜・告三十三天諸神曰。「諸賢・汝等頗欲聞世尊八無等法不。」「賢者・我等願樂欲聞・世尊八無等法。」世尊・時天主帝釋・為三十三天諸神・說示世尊八無等法。

五

「三十三天諸神・汝等於意云何。世尊為福利眾生・安樂眾生・哀愍世間・饒益人天・福樂人天・而有所行。若夫教主・具足如是為福利眾生・安樂眾生・哀愍世間・饒益人天・福樂人天・有所行者・我等於過去及現在・皆所不曾見。唯有世尊・具足如是。

六

從彼世尊・所說示法・功德即現・非定一時・於諸眾生・皆樂誘導・以智者故・內心自得了知。若夫教主・具足如是說示誘導法者・我等於過去及現在・皆所不曾見。唯有世尊・具足如是。

七

實從世尊・善說此是善・善說此是惡・善說此是邪・此是正・此當從・此不當從・此是劣・此是優。此是黑白調和。若夫教主・具足如是教示善惡邪正・當從不當從・是劣是優・及黑白調和之法者・我等於過去及現在・皆所不曾見。唯有世尊・具足如是。

八

實從世尊・為弟子等・善說趣於涅槃之道・涅槃與道・結合為一。如殑伽河及閻牟那河・二水合流・世尊實亦如是・為弟子等・善說趣於涅槃之道・涅槃與道・結合為一。若夫教主・具足如是・教示涅槃道者・我等於過去及現在・皆所不曾見。唯有世尊・具足如是。

九

世尊實與有學并與到達聖道及漏盡〔阿羅漢・〕為伴為友・世尊離去彼等・以心傾住於一樂遊。若夫教主・具足如是・以心傾住於一樂遊者・我等於過去及現在・皆所不曾見。唯有世尊・具足如是。

一〇

諸餘王族・喜溢眉宇・實於世尊・供與利養・及以名聞・是時世尊・實離愛樂・而唯攝取資養。若夫教主・具足如是・捨離愛樂・攝取資養者・我等於過去及現在・皆所不曾見。唯有世尊・具足如是。

一一

世尊實所行如言・所言如行。若夫教主・具足如是・所行如言・所言如行・獲得法隨法者・我等於過去及現在・皆所不曾見。唯有世尊・具足如是。

一二

世尊實超疑惑・脫離疑論・已成就欲望及第一梵行思惟。若夫教主・具足如是・超越疑惑・脫離疑論・成就欲望及第一梵行思惟者・我等於過去及現在・皆所不曾見。唯有世尊・具足・如是。」世尊・天主帝釋・為彼三十三天諸神・說示世尊八無等法。世尊・

三十三天諸神・得聞世尊八無等法・由是倍更歡喜悅樂・喜悅滿足。

一三

世尊・時有諸神・作是說言・「諸賢・若使四人等正覺者・出現於世・如世尊說法者・其為福利眾生・安樂眾生・哀愍世間・饒益人天・福樂人天・將如何耶。」或有諸神・作是說言・「諸賢・且置四人等正覺者・諸賢・若使三人等正覺者・出現於世・如世尊說法者・其為福利眾生・安樂眾生・哀愍世間・饒益人天・福樂人天・將如何耶。」或有諸神・作是說言・「諸賢・且置三人等正覺者・諸賢・若使二人等正覺者・出現於世・如世尊說法者・其為福利眾生・安樂眾生・哀愍世間・饒益人天・福樂人天・將如何耶。」

一四

世尊・如是問已・天主帝釋・告三十三天諸神曰・「諸賢・於一世界・同時出現二人應供等正覺者・無有是理。諸賢・設若世尊・無病健全・當永生存。是為福利眾生・安樂眾生・哀愍世間・饒益人天・福樂人天。」世尊・爾時三十三天諸神・集會善法堂・於所論議・深思惟已・彼四天王・於此義趣・承受教說・在其座前・各自起立。

彼四天王　受教言已　心淨寂靜　各立座前

一五

世尊・時於北方・現大光明・輝耀顯赫・凌駕諸天之威神力。世尊・時天主帝釋・告三十三天諸神曰・「諸天・若所現相・光明現起・輝耀顯赫者・梵天將現・即光明現起・光耀顯發者・乃是梵天出現前相。

徵斯現相　梵天將現　大光晃耀　梵天之兆

世尊・時三十三天諸神・各當位坐・如是思惟・「欲知此光・生云何果・欲詣其處・而實見之。」四天王亦各當位坐・如是思惟・「欲知此光・生云何果・欲詣其處・而實見之。」三十三天諸神感知是語已・咸同意念・「欲知此光・生云何果・欲詣其處・而實見之。」

一六

世尊・常童梵天・於三十三天諸神之前出現時・是以粗相・化現而出。世尊・以梵天本來容貌・不能入於三十三天諸神眼界故。世尊・常童梵天・現於三十三天諸神之前・色相光明・勝餘諸神。世尊・常童梵天・現於三十三天諸神之前・會中諸神・不之禮敬・亦不起立・亦不請坐・眾咸默然・合掌趺坐・作如是念・「今常童梵天・若有意於某神・將就彼座坐。」世尊・常童梵天・於是坐其所坐・而彼座之神・獲得滿足・生大歡喜。世尊・猶如剎帝利王・繼承登位時・獲得滿足・生大歡喜。世尊・常童梵天・所就之座・其座之神・亦復如是・獲得滿足・生大歡喜。

一七

世尊・時常童梵天・知三十三天諸神歡喜・隱身說偈・如是讚曰。

「三十三天神　共帝釋歡喜　禮敬於如來　法之善法性　見新來諸神　依佛修梵行
生於此間者　色麗而光熾　見彼色光壽　遠勝餘諸神　大智者聲聞　特向此間生
三十三天神　共帝釋歡喜　禮敬於如來　法之善法性」

一八

世尊・常童梵天・說如此事。世尊・說此事之常童梵天・聲具八支・即朗音、智音、美音、爽音、約音、短音、深音、大音。世尊・常童梵天・以此聲告會眾時・其聲不聞於會眾外・世尊・聲具此八支者・名曰梵音。

一九

世尊・時三十三天諸神・向常童梵天作是言・「善哉梵天・我等聞此・不勝欣喜・我等又聞・天主帝釋・稱說世尊八無等法・不勝欣喜。」世尊・時常童梵天・語天主帝釋曰・「善哉善哉・天主帝釋・彼世尊之八無等法・我亦樂聞。」天主帝釋答曰・「唯然大梵天。」即為常童梵天・說世尊之八無等法。

二〇

「大梵天・於汝意云何。世尊為福利眾生・安樂眾生・哀愍世間・饒益人天・福樂人天・而有所行。若夫教主・具足如是為福利眾

生・安樂眾生・哀愍世間・饒益人天・福樂人天・有所行者・我等於過去及現在・皆所不曾見。唯有世尊・具足如是。

二一

從彼世尊・所說示法・功德即現・非定一時・於諸眾生・皆樂誘導・以智者故・內心自得了知。若夫教主・具足如是・說示誘導法者・我等於過去及現在・皆所不曾見。唯有世尊・具足如是。

二二

實從世尊・善說此是善・善說此是惡・善說此是邪・此是正・此當從・此不當從・此是劣・此是優・此是黑白調和。若夫教主・具足如是・教示善惡邪正・當從不當從・是劣是優・及黑白調和之法者・我等於過去及現在・皆所不曾見。唯有世尊・具足如是。

二三

實從世尊・為弟子等・善說趣於涅槃之道・涅槃與道・結合為一。如殑伽河及閻牟那河・二水合流・世尊實亦如是・為弟子等善說・趣於涅槃之道・涅槃與道・結合為一。若夫教主・具足如是教示涅槃道者・我等於過去及現在・皆所不曾見・唯有世尊・具足如是。

二四

世尊實與有學并與到達聖道及漏盡〔阿羅漢・〕為伴為友・世尊離去彼等・以心傾住於一樂遊。若夫教主具足如是以心傾住於一樂遊者・我等於過去及現在・皆所不曾見・唯有世尊・具足如是。

二五

諸餘王族・喜溢眉宇・實於世尊供與利養・及以名聞・是時世尊實離愛樂・而唯攝取資養。若夫教主・具足如是・捨離愛樂・攝取資養者・我等於過去及現在・皆所不曾見・唯有世尊・具足如是。

二六

世尊實所行如言・所言如行。若夫教主・具足如是・所行如言・所言如行・獲得法隨法者・我等於過去及現在・皆所不曾見・唯有世尊・具足如是。

二七

世尊實超疑惑・脫離疑論・已成就欲望及第一梵行思惟。若夫教主・具足如是・超越疑惑・脫離疑論・已成就欲望及第一梵行思惟者・我等於過去及現在・皆所不曾見・唯有世尊・具足如是。」世尊・天主帝釋・為常童梵天・說世尊之八無等法。世尊・常童梵天・得聞世尊八無等法・由是歡喜悅樂・喜悅滿足。

二八

世尊・時常童梵天・即化作粗相・為童子形・頭五角髻・現於三十三天諸神之前・昇虛空中・空中趺坐。世尊・猶如力士・坐廣大牀・或平地上・世尊・常童梵天・亦復如是・昇虛空中・空中趺坐。作如是語・告三十三天諸神・

二九

「三十三天諸神・汝等於意云何。世尊於何時・為大智者耶。古昔有王・名曰域主・此域主王・有婆羅門帝師・名曰典尊。王又有子・名曰黎努。典尊婆羅門有子・名曰護明。黎努王子・護明童子・與六剎帝利・此八人者相與為友。其後典尊・不久命終。彼命終時・域主悲泣・為如是言・「嗚呼・我等盡以國政・委付典尊・自繫五欲以耽娛樂・其時典尊・乃命終矣。」黎努王子・聞斯語時・白域主言・「父王・勿以典尊喪・如是大悲泣。父王・典尊有子・名曰護明・賢過其父・聰明有為・亦過其父。可使護明・繼其父事・輔佐國政。」「然耶王子。」「實然父王。」

三〇

時域主王・告餘臣曰・「汝今可往詣・護明童子所・到已可傳言於護明童子。護明童子・願汝幸福。王欲語汝・王欲見汝。」彼臣報曰・「唯然大王。」即遵王言・詣護明所・到已・語護明曰・「護明童子・願汝幸福。王欲語汝・王欲見汝。」護明童子答曰・「唯然吾友。」即從彼臣言・詣域主王所・到已・禮敬於王・互道契

好・作禮如儀・於一面坐。護明童子・坐一面已・王告之曰・「護明童子・汝當輔佐我等・護明童子・此輔助事・汝勿辭謝。我將以汝・補卿父職・就典尊位。」護明童子承諾王意・答曰・「唯然大王。」

三一

時域主王・即令護明童子・就典尊位・補乃父職。護明童子・就典尊位・補父職已・父所輔佐・己亦輔佐・所未輔佐・亦不輔佐・父所為事・己亦為之・所未為事・己亦不為。於是眾人・咸稱彼曰・「彼婆羅門・實是典尊・彼婆羅門・是大典尊。」故護明童子・獲有名稱・曰大典尊。

三二

爾時・大典尊婆羅門・往彼六人剎帝利所・到已・語彼等曰・「今域主王・年已垂老。人之壽命・誰能知者。王若駕崩・立王之人・殆將奉立黎努王子・紹王之位。爾等可來・詣黎努王所・到已・將此意・白黎努王子。我等是汝相親之友・情誼深厚・汝幸福時・我等幸福・汝不幸時・我等不幸。今域主王・年已垂老。人之壽命・誰能知者。王若駕崩・立王之人・殆將立汝・紹王之位。汝若掌國・願於我等・亦得封土。」

三三

彼六剎帝利・諾大典尊曰・「唯然吾友。」即詣黎努王子所・到已・白王子言・「黎努王子・我等是汝相親之友・情誼深厚。汝幸福時・我等幸福・汝不幸時・我等不幸。今域主王・年已垂老。人之壽命・誰能知者。王若駕崩・立王之人・殆將立汝・紹王之位。汝若掌國・願於我等・亦得封土。」「除汝等外・於我王國・得增幸福・將更有誰。我若掌國・當與汝等・列土封邑。」

三四

其後不久・域主王崩。王崩御時・立王之人・立黎努王子・紹王之位。此黎努王・紹王位已・五欲所繫・娛樂自恣。時大典尊・往彼六人剎帝利所・到已・語彼等曰・「諸君・域主王崩・可畏敬之黎努王登位・五欲所繫・娛樂自恣。諸君・愛欲迷人・寧不知之。汝

等可來・詣黎努王所・到已・可將此意・白黎努王。域主王崩・汝登王位。汝今尚憶・所約言耶。」彼六剎帝利・諾大典尊曰・「唯然吾友・」即詣黎努王子所・到已・白努黎王言・「域主王崩・汝登王位・汝今尚憶・所約言耶。」「諸子・我憶約言。但此大地・北方寬廣・南方之形・如車前部・誰能分此・正為七分。」「大王・除大典尊・無能分者。」

三五

時黎努王・告一臣曰・「汝今可往大典尊所・到已・告大典尊言・黎努王召汝。」彼臣遵王言曰・「唯然大王。」詣大典尊所・到已・語大典尊曰・「卿・黎努王召汝。」大典尊從彼臣言・答曰「唯然。」詣黎努王所・到已・禮敬於王・互道契好・作禮如儀・於一面坐。大典尊坐一面・黎努王告曰・「典尊・今此大地・北方寬廣・南方之形・如車前部・汝當分此・正為七分。」答曰・「唯然大王。」即遵王言・分此大地・北方寬廣・南方之形如車前部者・正為七分・皆悉形如車之前部。

三六

黎努王有國　居大地中央　一迦陵誡國　捺多布囉城　摩濕摩迦國　曰褒怛那城
三晚帝那國　摩呬沙摩城　四蘇尾囉國　曰勞嚕迦城　五尾提呬國　曰彌體羅城
六為瞻波城　是曰鴦伽國　七為迦尸國　曰波羅奈城　劃分列土者　出自大典尊

時彼六人剎帝利・各得封土・所願成就・喜而言曰・「我等所欲已得・計劃已成・願望已果。」

是黎努王與六友　稱曰七婆羅多王　即破冤王梵授王　勝尊王及明愛王
次即黎努王者是　六七為二持國王

第二誦品

三七

爾時・六人剎帝利・詣大典尊所・到已・語大典尊言・「典尊・汝為黎努王・相親之友・情誼深厚・汝於我等・亦復如是・為相親

友・情誼深厚。典尊・汝當輔佐我等・此輔佐事・汝勿辭謝。」大典尊諾六剎帝利曰・「唯然諸子。」時大典尊・為登位之七剎帝利王・輔佐王政・又為七富有之婆羅門及七百梵行期已終了者・教授呪文。

三八

後大典尊・有如是名稱・流聞揚溢・謂「大典尊波羅門・親見梵天・大典尊婆羅門・親與梵天相共論議。」時大典尊・如是念言・「我有如是名稱・流聞揚溢・大典尊婆羅門・親見梵天・大典尊婆羅門・親與梵天相共論議。但我不見梵天・不與梵天相共論議。我曾聞諸耆宿婆羅門師之師言・於雨期四月・閑居靜處・修悲禪定者・得見梵天・與共論議。今我當於雨期四月・閑居靜處・修悲禪定。」

三九

爾時大典尊・詣黎努王所・到已・白王言・「我有如是名稱・流聞揚溢・謂大典尊婆羅門・親見梵天・大典尊婆羅門・親與梵天相共論議。但我不見梵天・不與梵天・相共論議。我曾聞諸耆宿婆羅門師之師言・於雨期四月・閑居靜處・修悲禪定者・得見梵天・與共論議・故我欲於雨期四月・閑居靜處・修悲禪定。唯除送食者・勿使人近我。」「典尊・汝知時宜者・是當可行。」

四〇

爾時大典尊・詣彼六人剎帝利所・到已・語彼等曰・「我有如是名稱・流聞揚溢・謂大典尊婆羅門・親見梵天・大典尊婆羅門・親與梵天相共論議。但我不見梵天・不與梵天相共論議。我曾聞諸耆宿婆羅門師之師言・於雨期四月・閑居靜處・修悲禪定者・得見梵天・與共論議。故我欲於雨期四月・閑居靜處・修悲禪定。唯除送食者・勿使人近我。」「典尊・汝知時宜者・是當可行。」

四一

爾時大典尊・往七富婆羅門及七百梵行期已終了者所・到已・語彼等曰・「我有如是名稱・流聞揚溢・謂大典尊婆羅門・親見梵天・大典尊婆羅門・親與梵天相共論議。但我不見梵天・不與梵天相共

論議。我曾聞諸耆宿婆羅門師之師言・於雨期四月・閑居靜處・修悲禪定者・得見梵天・與共論議。是故諸子・當詳習呪文・轉相教授・如所聞如所憶。我意欲於雨期四月・閑居靜處・修悲禪定。唯除送食者・勿使人近我。」「典尊・汝知時宜者・是當可行。」

四二

爾時大典尊・往身分同等四十夫人所・到已・語彼等曰・「我有如是名稱・流聞揚溢・謂大典尊婆羅門・親見梵天・大典尊婆羅門・親與梵天相共論議。但我不見梵天・不與梵天相共論議。我曾聞諸耆宿婆羅門師之師言・於雨期四月・閑居靜處・修悲禪定者・得見梵天・與共論議。故我欲於雨期四月・閑居靜處・修悲禪定。唯除送食者・勿使人近我。」「典尊・汝知時宜者・是當可行。」

四三

時大典尊・於城東方・造新講堂・雨期四月・閑居靜處・修悲禪定・除送食者外・皆未曾近彼。過四月後・彼大典尊・起失望念・生恐怖心。所以然者・因彼曾聞諸耆宿婆羅門師之師言・於雨期四月・閑居靜處・修悲禪定者・得見梵天・與共論議・而彼今者・不見梵天・不與梵天共論議故。

四四

時常童梵天・心知大典尊・心中所念・速如力士・屈伸臂頃・從梵界隱身・現於大典尊前。爾時大典尊・於其像貌・見所未見・為之驚怖・痲痺戰慄。時大典尊激動顫慄・身毛豎立・以偈問常童梵天曰。

「妙相盛光吉祥具　主乎汝竟是何人　我以不知故問汝　云何令我得知汝」
「所有梵界諸神眾　咸悉知我是常童　一切諸神既知我　典尊汝亦應知我」
「牀座洗足水熟蜜　是等敬為梵天設　奉此供養今問汝　唯願於我有所賜」
「典尊汝言供養物　今為汝故我納受　為現法益或來世　恣所欲問許汝問」

四五

爾時大典尊・蒙常童梵天・許其諮問・即自思念・當問常童梵天・現法善利耶・來世善利耶。時大典尊・已熟知現法善利・而且他人・轉從彼聞・現法善利。故自思念・當於常童梵天・問來世善利。時大典尊・以偈問曰。

「梵童是無疑　能為我决疑　今所諮問者　亦眾所欲知　應於何處住　應於何修習
人方得到達　不死梵界耶」

「婆羅門應知　於世捨我執　成心一境相　專修悲禪定
為解脫臭穢　遠離不淨法　應於此處住　應於此修習　人乃得到達　不死之梵界」

四六

「梵天・捨我執法・是我所知。有人於此・捨其家財・不論大小・捨其親屬・不問多寡・剃除髮鬚・著袈裟衣・離於在家・入出家生活。梵天・我知此是捨我執法。梵天・心一境相・亦我所知。人於此時・遠離住處・即就森林・以及樹根、山岳、洞窟、墓地、林藪、野外藁場處住。梵天・我知此是得心一境相法。專修悲禪定法・亦我所知。其人於此時・以悲與俱心・使遍滿一方而住。如是第二方、第三方、第四方亦然。即遍於上下・水平一切處・以悲與俱之廣大無邊無冤無害心・於全世界・遍滿而住。梵天・我知此是專修悲禪定法。梵天・汝言臭穢・為我所不知。

人間之臭穢　是為何者耶　因我不知此　求說於賢者　生類由何蔽　以致放惡臭
梵界為所閉　而墮於惡趣」

「忿怨與妄語　偽瞞與不信　貪婪與高慢　妬嫉與欲求
疑惑與害他　貪欲與瞋恚　憍慢與愚癡　有是等諸蔽　若於此繫縛　臭穢不得離
梵界為所蔽　而墮於惡趣」

「汝說臭穢・我已解知。夫在家者・於此等事・無由得制・是故梵天・我今意欲・離於在家入出家生活。」「典尊・汝知時宜者・是當可行。」

四七

爾時大典尊・詣黎努王所・到已・白王言・「大王・唯願我王・別求帝師・輔佐王位。我今意欲・離在家境・營出家生活。我從梵

天・聞說臭穢・夫在家者・於此等事・無由得制。大王・故我意欲・離在家境・營出家生活。

奉告黎努王　願主聽我語　王位王所知　師位非我喜」

「諸欲若不足　我當滿汝欲

設有害汝者　我為國土主　我領率士卒　當為汝剪除　汝如我之父　我猶汝之子

唯願大典尊　勿捨我而去」

「諸欲非不足　害我者亦無　我聞超人語　故不樂家居」

「云何為超人　以何事語汝　汝何一聞此　悉捨我等去」

「我曾修供養　欲舉行此時

敷陳吉祥草　壇火炎炎熾　是時從梵界　常童梵天現　我聞彼答語　故不樂家居」

「奉告典尊聽　我信汝所言　是聞超人語　此外無他途　我等當從汝　奉汝為教主

猶如貴琉璃　淨潔放光輝　我等心清淨　當守汝教訓

典尊・汝若離在家境・營出家生活・則我亦將離在家境・營出家生活。蓋汝所往處・亦即是我所往處・」

四八

爾時大典尊・往彼六人剎帝利所・到已・語彼等曰・「汝等今當・別選帝師・輔佐王位。諸子・我欲離在家境・營出家生活。我從梵天・聞說臭穢。夫在家者・於此等事・無由得制・諸子・故我意欲離在家境・營出家生活。」爾時六剎帝利・集於一處・共相念言・凡婆羅門・為貪欲者・是故我等・今可以財誘大典尊。彼等詣大典尊所・為如是言・「此七王國・多有財寶・故隨汝欲・可恣意取。」「諸子無用・我蒙汝等・已多財寶。我欲捨斯名譽・離在家境・營出家生活。我從梵天・聞說臭穢。夫在家者・於此等事・無由得制・諸子・故我意欲離在家境・營出家生活。」

四九

爾時六剎帝利・集於一處・以婆羅門・當好婦人・是故我等・今可以婦人誘大典尊。彼等詣大典尊所・為如是言・「此七王國・婦人眾多・故隨汝欲・可與俱去。」諸子無用・我有身分同等四十夫人・我欲悉捨彼女・離在家境・營出家生活。我從梵天・聞說臭穢。夫在家者・於此等事・無由得制・諸子・故我意欲離在家境・營出家生活。」

五〇

「典尊・汝若離在家境・營出家生活・我等亦將離在家境・營出家生活。蓋汝所往處・亦即是我等所往處・」

「汝若欲捨却　凡夫諸執著　是則當具足　堅固忍辱力　如此者是道　正道無上道
生梵由正法　善人所守護」

五一

「然則典尊・汝可留待七年。過七年後・我等亦將離在家境・營出家生活・蓋汝所往處・亦即我等所往處。」「諸子・七年歲月・毋乃過長。待汝七年・我所不能。人之壽命・誰能知者。未來必至・智必須證・善根必作・梵行必修・生必有死。我從梵天・聞說臭穢。夫在家者・於此等事・無由得制・諸子・故我意欲・離在家境・營出家生活。」

五二

「典尊・汝可留待六年・如是如是。留待五年、四年、三年、二年、乃至留待一年。過一年後・我等亦將離在家境・營出家生活・蓋汝所往處・亦即是我等所往處。」

五三

「諸子・一年歲月・毋乃過長・待汝一年・我所不能。人之壽命・誰能知者。未來必至・智必須證・善根必作・梵行必修・生必有死。我從梵天・聞說臭穢。夫在家者・於此等事・無由得制・諸子・故我意欲・離在家境・營出家生活。」「典尊・汝可留待七月。過七月後・我等亦將離在家境・營出家生活。蓋汝所往處・亦即我等所往處。」

五四

「諸子・七月為時・毋乃過長。待汝七月・我所不能。人之壽命・誰能知者。未來必至・智必須證・善根必作・梵行必修・生必有死。我從梵天・聞說臭穢。夫在家者・於此等事・無由得制・諸子・故我意欲離在家境・營出家生活。」「典尊・汝可留待六月・

如是如是。留待五月、四月、三月、二月、一月、乃至留待半月。過半月後・我等亦將離在家境・營出家生活。蓋汝所往處・亦即我等所往處。」

五五

「諸子・半月為時・毋乃過長。待汝半月・我所不能。人之壽命・誰能知者。未來必至・智必須證・善根必作・梵行必修・生必有死。我從梵天・聞說臭穢。夫在家者・於此等事・無由得制・諸子・故我意欲・離在家境・營出家生活。」「然則典尊・可待七日・以便我等・付王國於子或兄弟。過七日後・我等亦將離在家境・營出家生活。蓋汝所往處・亦即我等所往處。」「諸子・七日非長・我當待汝。」

五六

爾時大典尊・詣七富婆羅門及七百梵行期已終了者所・到已・語彼等曰・「汝等今可別求軌範師・教授咒文。諸子・我欲離在家境・營出家生活。我從梵天・聞說臭穢。夫在家者・於此等事・無由得制・諸子・故我意欲・離在家境・營出家生活。」「典尊・汝勿離在家境・營出家生活。出家力微・所得者少・為婆羅門・則具偉力・所得者多。」「勿言出家力微・所得者少・勿言為婆羅門・則具偉力・所得者多。諸子・除我以外・復有何人・更為偉大・更多所得耶。我今實為王中之王・於婆羅門・我為梵天・而於長者・我則為神・即此一切・我亦捨離・意欲離在家境・營出家生活。我從梵天・聞說臭穢。夫在家者・於此等事・無由得制・諸子・故我意欲・離在家境・營出家生活。」「典尊・汝若離在家境・營出家生活・我等亦將離在家境・營出家生活。蓋汝所往處・亦即我等所往處。」

五七

爾時大典尊・往身分同等四十夫人所・到已・語彼等曰・「若意所欲・可歸汝家・或親屬家・擇夫而侍・我欲離在家境・營出家生活。我從梵天・聞說臭穢。夫在家者・於此等事・無由得制・故我意欲・離在家境・營出家生活。」「我等欲親屬者・唯汝為親・欲侍夫者・唯汝是侍。典尊・汝若離在家境・營出家生活・我等亦將離在家境・營出家生活。蓋汝所往處・亦即我等所往處。」

五八

時大典尊婆羅門・過七日已・剃除鬚髮・著袈裟衣・離在家境・入出家生活。七剎帝利王・七富婆羅門・七百梵行期已終了者・身分同等四十夫人・數千剎帝利・數千婆羅門・數千長者・及婦女眾中眾多婦人等・皆悉剃除髮鬚・著袈裟衣・從大典尊・而為出家。是大典尊・為此會眾之所圍遶・遊行村城・都會之間。大典尊・每到村城・為王中王・於婆羅門・彼為梵天・而於長者・彼則為神。當時人民・於嚏於躓・輒言「歸命大典尊・歸命於人師。」

五九

大典尊婆羅門・以慈與俱心・遍滿一方而住・如是於第二方、第三方、第四方亦然。即遍於上下水平一切處・以慈與俱之廣大無邊・無冤無害心・於全世界・遍滿而住。以悲與俱心・亦復如是如是而住。以喜與俱心・亦復如是如是而住。乃至以捨與俱心・使遍滿一方而住・如是於第二方、第三方、第四方亦然。即遍於上下・水平一切處・以捨與俱之廣大無邊・無冤無害心・於全世界・遍滿而住。以梵天為友之道・示諸弟子。

六〇

爾時大典尊婆羅門弟子・若已具足了達諸所教者・身壞命終・生於有福梵天。其未充分了達諸所教者・身壞命終・或者得與他化自在天為伴侶・或者得與化樂天為伴侶・或者得與兜率天為伴侶・或者得與夜摩天為伴侶・或者得與三十三天為伴侶・或者得與四天王天為伴侶。其最低身者・亦得乾闥婆身。此等一切出家善男子・悉有實益而非唐捐・齎得果報及功德」云。』

六一

〔五髻說言・〕『世尊猶記憶耶。』〔世尊曰〕『五髻・我尚記憶。我於爾時・為大典尊。我示諸弟子・以與梵天為友之道。五髻・但此梵行・非導趣於厭污、離欲、滅、寂靜、神智力、正覺、涅槃之法・唯是生於梵界之法。五髻・然我梵行・是導趣於厭污、離欲、滅、寂靜、神智力、正覺、涅槃之究竟法。此是八聖道・即正見、正思、正語、正業、正命、正精進、正念、正定。五髻・唯

此梵行・方是導趣於厭污、離欲、滅、寂靜、神智力、正覺、涅槃之究竟法。

六二

五髻・我之弟子・若已具足了達諸所教者・則為滅漏・以無漏心解脫、慧解脫・於現法中・而自現證・得神通而住。其有未能充分了達諸所教者・或斷五下分結・而得涅槃・在更不還法所有者住處・於此世間・無父母故・而不再生。復有未能充分了達諸所教者・或斷三結・漸減貪瞋癡・成斯陀含・一度還此世・令苦終滅。復有未能充分了達諸所教者・或斷三結・成須陀洹・離墮惡趣法・必得成正覺。五髻・此等一切出家善男子・悉有實益而非唐捐・齎得果報及功德也。』世尊如是說。乾闥婆子五髻・心生歡喜・聞世尊說・滿足感謝・禮敬世尊・右遶而退。

大會經第二十

一

如是我聞。一時世尊・住釋迦族地迦毘羅城之大園林・與大比丘眾五百人俱・皆是阿羅漢。眾多諸天・欲覲世尊・及比丘眾・從十方世界・咸來集會。

二

時四淨居天念言・『今彼世尊・住釋迦族地迦毘羅城之大園林・與大比丘眾五百人俱・皆是阿羅漢。眾多諸天・欲覲世尊・及比丘眾・從十方世界・咸來集會。我等何不亦詣世尊所・於世尊前・各自唱偈。』

三

於是彼等諸天・猶如力士・屈伸臂頃・從淨居天・〔疾速〕隱身・現世尊前。時彼諸天・禮拜世尊・於一面立。立一面已・中有一天・於世尊前・以偈唱曰。

『大會此園林　諸天眾來集　我等亦與會　覲無能勝僧』

是時餘天・於世尊前・以偈唱曰。

『是處諸比丘　心安靜而正　如御者執轡　眾賢護諸根』

是時餘天・於世尊前・以偈唱曰。
『斷除諸羈絆　門閂亦切斷　打破城門礎　離欲而遊行　具眼之彼等　清淨離垢穢
譬如少壯象　曾受善調御』
復次餘天・於世尊前・以偈唱曰。
『諸歸依佛者　終不墮惡趣　其捨此人身　得天身圓滿』

四

爾時世尊・告諸比丘眾曰・『諸比丘・眾多諸天・為覲世尊及比丘眾故・從十方世界・咸來集會。諸比丘・於昔久遠・時有應供、等正覺者・曾有此等最高諸天・為諸世尊・咸來集會・猶如今日諸天・咸皆為我集會。諸比丘・遠於未來・將有應供、等正覺者・亦當有此等最高諸天・為諸世尊・咸來集會・猶如今日・諸天咸皆為我集會。諸比丘・我當為汝等・稱諸天族名。諸比丘・我當為汝等・宣諸天族名。諸比丘・我當為汝等・示諸天族名。當善諦聽・善憶念之・我告汝等。』彼諸比丘答曰・『世尊・願如所說。』世尊如是言。

五

我今亦以偈　當為汝等說　謂有地處所　〔諸天〕所寄託　住於山窟者　心決定堅固
如眾獅子毛　豎立而卷縮　持有潔白心　清淨復澄明　知迦毘羅城　在城園林中
為數五百餘　眾多〔弟子〕等　教主告彼等　喜受教弟子　天族已到來　比丘宜知識
聞佛陀教已　彼等皆奮勵

六

彼諸〔比丘等〕　明識非人相　或者見一百　亦見有七萬　或又見非人　其數為百千
或見無邊數　多遍一切處　具眼師宣說　悉知彼諸天　即便告彼等　喜受教弟子
天族已到來　比丘宜知識　我今以頌言　稱道彼諸天　次第無錯謬　一一為汝宣

七

迦毘羅城地　夜叉有七千　具神通光明　威容與聲名　彼等皆歡喜　來比丘園林
雪山之夜叉　其數有六千　此諸夜叉眾　各各異容色　具神通光明　威容與聲名
彼等皆歡喜　來比丘園林　娑多山夜叉　其數有三千　此諸夜叉眾　各各異容色
具神通光明　威容與聲名　彼等皆歡喜　來比丘園林　共一萬六千　各各異容色
具神通光明　威容與聲名　彼等皆歡喜　來比丘園林

八

毘波密夜叉　其數有五百　此諸夜叉眾　各各異容色　具神通光明　威容與聲名
彼等皆歡喜　來比丘園林　住毘富羅山　而在王舍城　有金毘羅神　奉彼夜叉眾
數逾百千眾　王舍城所住　彼金毘羅神　亦來到園林

九

統東方天王　名提頭賴吒　乾闥婆之長　具名聞大王　眾子有大力　皆字因陀羅
具神通光明　威容與聲名　彼等皆歡喜　來比丘園林　次南方天王　名曰毘樓勒
鳩槃荼之長　具名聞大王　眾子有大力　皆字因陀羅　具神通光明　威容與聲名
彼等皆歡喜　來比丘園林　次西方天王　名毘樓博叉　實諸龍之長　具名聞大王
眾子有大力　皆字因陀羅　具神通光明　威容與聲名　彼等皆歡喜　來比丘園林
次北方天王　名曰俱毘羅　實諸夜叉長　具名聞大王　眾子有大力　皆字因陀羅
具神通光明　威容與聲名　彼等皆歡喜　來比丘園林　在東方天王　是提頭賴吒
在南方天王　此是毘樓勒　在西方天王　是毘樓博叉　在北方天王　此是俱毘羅

如斯四天王　光普照四方　立迦毘羅城　眾比丘園林

一〇

彼等部下眾　有幻偽虛妄　復懷有惡心　咸共來到此　摩野拘天陀　復共吠天陀
以及韋馱質　與韋馱遮俱　復有旃陀那　與加摩世致　及迦尼延豆　並尼延豆俱
復有波那搋　及嗚呼杈奴　并與摩頭羅　是天之御者　復有乾闥婆　支多羅斯那
復有那羅王　俱共闍尼沙　復有珍浮樓　修利婆折斯　與般闍尸呵　亦皆來到此
凡此一切眾　與餘他諸王　及諸乾闥婆　咸與諸王俱　悉懷歡喜心　來比丘園林

一一

時那陀瑟龍　與毘舍離俱　復與怛叉迦　咸共來到此　又加毘羅攝　與波耶伽俱
復與其親族　咸共來到此　又有耶無那　及提頭賴吒　具名聲諸龍　咸共來到此
又有彼大龍　名伊羅婆陀　亦前來與會　而詣於園林　彼於速疾間　能搏龍王去
具淨眼雙翅　天再生者〔鳥〕　從天空飛來　棲止園林中　美麗金翅鳥　是彼等名稱
其時諸龍王　曾無所畏怖　因佛已為設　避難安穩處　彼等兩者間　互以愛語呼
諸龍與眾鳥　皆已歸依佛

一二

敗於金剛手　住海阿修羅　婆三婆弟兄　有神通名聲　又有大怖畏　諸迦羅鏗騫
陀那吠伽沙　與毘摩質多　及蘇啷怛囉　并與波羅陀　共那無夷俱　悉詣於園林
又跋離百子　皆稱毘盧遮　糾合大力軍　羅耶跋兜樓　曰「諸賢來會　於比丘園林」

一三

又水地火風　諸天亦來此　水天與其族　蘇摩共耶舍　慈悲天一族　是有名諸天
此等十天族　各各異容色　具神通光明　威容與聲名　彼等皆歡喜　來比丘園林

一四

有曰毘紐天　舍伽利諸天　及共阿沙摩　並雙孿耶摩　月天諸侍者　供奉月天來
日天諸侍者　禮敬日天來　遲遲之雲神　隨侍諸星來　婆藪天之主　婆娑婆帝釋
即普楞陀陀　今亦來到此　此等十天族　各各異容色　具神通光明　威容與聲名
彼等皆歡喜　來比丘園林

一五

沙訶沸諸天　爾時亦到來　勢如焰頂燃　又有阿栗吒　俱共櫨耶天　風趣如麻華
有嚩嚕拏天　遮婆陀暮天　及以阿周陀　與阿尼輸天　光輝須勒耶　彼眾皆來到
毘沙門伊灑　亦復來到此　此等十天族　各各異容色　具神通光明　威容與聲名
彼等皆歡喜　來比丘園林

一六

有賒摩天者　與摩呵賒摩　麼奚沙與俱　摩奚疏多摩　乞陀波頭灑　眾皆來到此
摩奚波頭灑　亦復來到此　時呵羅諸天　及與著紅衣　露希多諸天　亦皆來到此
有波羅諸神　及摩訶波羅　是具有名聲　亦皆來到此　此等十天族　各各異容色
具神通光明　威容與聲名　彼等皆歡喜　來比丘園林

一七

叔伽阿羅那　共伽羅摩俱　及鞞摩尼娑　眾皆來到此　鳴婆提奇呵　鞞波羅微那
此等之諸天　亦皆來到此　有薩陀摩多　與訶羅伽遮　名聞之彌沙　亦皆來到此
又有波純提　降雨四方者　於震雷聲中　亦復來到此　此等十天族　各各異容色
具神通光明　威容與聲名　彼等皆歡喜　來比丘園林

一八

差摩與兜率　共彼夜摩俱　及名聞伽沙　共彼藍鞞者　與主藍婆天　火天之樹提
與伊灑天俱　及化樂諸天　他化自在天　相將來到此　此等十天族　各各異容色
具神通光明　威容與聲名　彼等皆歡喜　來比丘園林

一九

此六十天族　各各異容色　依名依種族　與同等天俱　既共來集已　〔咸作如是言〕
「願使我等見　捨生拔三毒　及已渡暴流　成就無漏者　〔彼等〕渡暴流　其勢殆如龍
又如黑闇中　明月乍湧出」

二〇

神通具足者　其子善梵天　婆羅摩多共　與常童底沙　是等梵天子　亦來園林會
大梵天為王　君臨千梵界　彼具足光輝　有名形可怖　時十自在者　各名得自在
彼等所圍遶　中為訶利多　如是諸天眾　亦復來到此

二一

復有因陀羅　共梵天俱來　爾時有魔軍　於諸天前曰
「前進且觀看　是緩慢迦訶
可縛可捕捉　彼實受欲縛　從四方合圍　勿得任彼脫」
於是在此時　有摩訶塞那

遣發迦訶軍　以手拍地面　其聲可怖驚　猶如雨期雲　電閃復雷鳴　彼由是忿怒
不能制其軍　乃退而散去

二二

了知此一切　具眼師宣說　即便告彼等　喜受教弟子　魔軍已到來　比丘宜知識
彼等承佛教　精神皆奮舉　魔軍今已退　不近離欲者　一毛未傾動　戰乃得全勝
彼一切眾生　聞此皆歡喜　諸天聞〔此語〕　歡喜亦復然

帝釋所問經第二十一

第一誦品

一

如是我聞。一時世尊．住摩揭陀．在王舍城東．菴婆散陀婆羅門聚落北．毗陀山因陀娑羅窟。爾時天主帝釋．發渴仰心．欲見世尊。彼乃思惟．『世尊、應供、等正覺者．今住何所。』天主帝釋．見世尊住摩揭陀王舍城東．菴婆散陀婆羅門聚落北．毘陀山因陀娑羅窟。彼遙瞻已．語忉利諸天曰．『諸天．彼世尊住摩揭陀王舍城東．菴婆散陀婆羅門聚落北．毘陀山因陀娑羅窟。今者我等欲往詣見彼世尊、應供、等正覺者．則為如何。』忉利諸天．答天主帝釋曰．『唯然．願卿多福。』

二

天主帝釋．復語乾闥婆子般遮翼（五髻）曰．『般遮翼．彼世尊住摩揭陀王舍城東．菴婆散陀婆羅門聚落北．毘陀山因陀娑羅窟。般遮翼．今者我等欲見彼世尊、應供、等正覺者．往詣如何。』乾闥婆子般遮翼．答帝釋曰．『唯然．願卿多福。』即持毘留筏木黃色之琴．隨天主帝釋俱行。於是天主帝釋．忉利諸天之所圍遶．率同乾闥婆子般遮翼．猶如力士．屈伸臂頃．於忉利天．隱身而沒．現於摩揭陀王舍城東．菴婆散陀婆羅門聚落北．毘陀山。

三

時毘陀山・盛光晃耀・婆羅門聚落菴婆散陀亦復如是。此是諸天神威所致。而彼周圍聚落諸人・咸作是言・『毘陀山今正燃燒・火燄昇騰。今毘陀山・盛光晃耀・婆羅門聚落菴婆散陀・亦復如是・為何故耶。』彼等畏悚・毛髮豎立。

四

時天主帝釋・告乾闥婆子般遮翼曰・『般遮翼・凡入禪定・悅樂禪定・純靜居時如來・則若我者・甚難得近。今汝先可怡悅世尊・而後我等詣見彼世尊、應供、等正覺者・則為如何。』乾闥婆子般遮翼・答帝釋曰・『唯然・願卿多福。』即持毘留筏木黃色琴・詣因陀婆羅窟・至已・立於一面・自念『世尊離我・不遠亦不近・可聞我聲。』乾闥婆子般遮翼・鼓毘留筏木黃色琴・於佛法・聖者・及愛樂者・曼聲為之歌曰。

五

『跋陀聽我歌　如日晶瑩女　卿父耽浮樓　為我所敬禮　是生〔汝〕麗姝　為我歡喜因
如於熱汗人　可喜清涼風　猶渴夫於水　如聖者於法　我於卿天女　鍾愛亦如此
猶藥於病人　食於飢餓者　如是跋陀兮　〔我思〕若火燃　願卿施涼水　解我相思熱
蓮池水清涼　盈溢浸華梢　象受驕陽炙　熱逼〔入〕於池　如是我何堪　欲投卿胸次
如象不伏鉤　突破狼牙棒　覿卿胸豐美　最使我狂醉　如是莫自持　更不知所措
我專念於汝　心神殊平昔　猶如吞鉤魚　欲吐不可得　腿美兮跋陀　歡娛恣擁抱
青眼任流盼　玉手握莫釋　如是誠相宜　我專意此欲　噫此鬈髮女　我戀不少弛
猶獻供於聖　彌增而彌進　遍身美嬌姝　我於彼聖者　所為諸善語　福果與卿共
遍身美嬌姝　我之於此世　所為諸功德　福報與卿共　我於所愛卿　晶瑩如日女
猶彼牟尼佛　依禪定一心　聰慧復正念　意在求常住　如是我所求　為在〔欲〕得汝

如牟尼怡然　樂無上正覺　若得汝盟約　我心深悅樂　如願主帝釋　為我垂恩澤
跋陀我求卿　戀戀堅若此　慧卿如沙羅　初開〔麗光輝〕　卿父我膜拜　斯亦緣彼女』

六

歌聲既畢。世尊告乾闥婆子般遮翼曰・『般遮翼・今汝歌聲與絃音和・絃音亦復與歌聲和・而此歌聲・不亞絃音・絃音亦不亞於歌聲。汝於何時・如是薈萃佛法聖者・及愛樂者・為此曼聲之歌。』『世尊・昔時世尊・初成正覺・住鬱鞞羅・在尼連禪河岸・阿闍恕羅榕樹下。世尊・時乾闥婆王耽浮樓・有女跋陀・晶瑩如日・我所思慕。但此王女・念他男子・繫其情思於御者摩兜利之子尸漢陀。我竭諸方便・以求彼女・而不能得・乃持毘留筏木黃色琴・至乾闥婆王耽浮樓宮所。到已鼓琴・於佛法聖者・及愛樂者・曼聲為之歌曰。

七

「跋陀聽我歌　如日晶瑩女　汝父耽浮樓　為我所敬禮　是生〔汝〕麗姝　為我歡喜因
如是復如是　戀戀堅若此　慧卿如沙羅　初開〔麗光輝〕　卿父我膜拜　斯亦緣彼女」
如是歌畢・彼晶瑩如日跋陀・乃語我曰・「我雖未曾・面見世尊・然於忉利天善法堂上・奏舞之時・聞世尊事。卿於世尊果讚歎者・我等今當相共會也。」世尊・唯於後時・彼女會我。』

八

爾時天主帝釋・如是念言・『乾闥婆子・般遮翼・實與世尊・彼此之間・互訂誼好。』於是天主帝釋・告般遮翼曰・『般遮翼・汝可為我・白世尊言「天主帝釋・宰相扈從・禮世尊足。」』乾闥婆子・般遮翼・答帝釋曰・『唯然・願卿多福・』即白世尊言・『天主帝釋・宰相扈從・禮世尊足。』『般遮翼・願天主帝釋・與宰相扈從・俱共安樂。蓋此安樂・實為神人・及阿修羅・龍及乾闥婆・一切眾生等・所欲得者。』如來凡於如上諸眾・致問訊言・皆如是也。天主帝釋・於彼世尊・致問訊已・入因陀娑羅窟・禮拜世尊・

立於一面・忉利諸天與乾闥婆子般遮翼・亦入因陀娑羅窟・禮拜世尊・立於一面。

九

爾時因陀娑羅窟・崎嶇之地・自然平坦・狹隘之處・自然廣博・暗窟之內・自然光明。此是諸天神威所致。世尊乃語天主帝釋曰・『帝釋尊・如是任重事繁・乘隙臨此・殊為難能。』『世尊・我於長時・已懷斯願・為欲詣見世尊。但我於忉利天・任務紛繁・無有閑暇・欲見世尊・來詣未果。世尊・曾於一時・世尊住舍衛國・在松林精舍。我於是時・欲見世尊・詣舍衛國。

一〇

爾時世尊・入住三昧而坐・毘沙門天后槃遮提・奉侍世尊・合掌恭敬。我曾語槃遮提曰・「夫人・願汝為我・啟白世尊。天主帝釋・宰相扈從・禮世尊足。」槃遮提聞言已・語我曰・「汝見世尊・今非其時・世尊適在靜居中。」「夫人・若世尊從三昧起者・為我啟白・天主帝釋宰相扈從・禮世尊足。」世尊・彼夫人殆已為我啟白世尊・世尊當能憶念其辭。』『天主・彼夫人白我・我憶其辭。且我復因聞汝車輪聲・從三昧起。』

一一

『世尊・有彼諸天・先於我等・生忉利天・我於彼等・而得聞知「凡有如來、應供、等正覺・出現於世・天眾增盛・阿修羅減衰。」我於其時・實曾自見・如來、應供、等正覺・出現於世・於是天眾增盛・阿修羅減衰。世尊・迦毘羅城・曾有釋女・名曰瞿毘・信佛法僧・具足戒行。彼捨女心・起丈夫心・身壞命終・得生善趣天界・與忉利天為我之子。而於彼處・以天子瞿波之名・見知於眾。復有三比丘・於世尊所・雖修梵行・但生卑賤乾闥婆中。彼等樂享五欲・來我等所・奉侍供使。天子瞿波・訶責之曰・「卿等豈未曾聞世尊之法・面向何處耶。我雖女身・信佛法僧・具足戒行・捨棄女心・起丈夫心・身壞命終・得生善趣天界・與忉利天儔・為天主帝釋之子。我於是處・以天子瞿波之名・見知於眾。然而卿等・於世尊所・雖曾修梵行・但生卑賤乾闥婆中。俱修同法・而乃生於卑賤乾闥婆中者・以我觀之・可謂愚矣。」世尊・彼等中

二人・以受訶責於天子瞿波故・於其生中・已復得念・生梵輔天。但其一人・猶住於欲。

一二

「我〔本〕名瞿毘　具眼優婆夷　敬信佛與法　樂奉侍僧伽　我恒以虔誠　從佛所教故
得生忉利天　今為帝釋子　具有大威力　復有大光輝　且於諸天中　以瞿波見知
我見乾闥婆　眾中所住者　前世為比丘　而今乃如是　彼等先世相　實與瞿曇等
我為人時見　飲食親供養　我家雖劇忙　來必敬奉侍　佛法不受持　卿面向何處
具眼覺說法　自身應憶知　我本侍卿等　聞諸聖妙說　得生忉利天　〔今〕為帝釋子
具有大威力　復有大光輝　卿等侍勝尊　修無上梵行　而生於卑賤　誤卿等之世
俱共受佛法　而生於卑賤　身為乾闥婆　來奉侍諸天　使我等觀見　嗚呼何愚癡
卿等何不觀　我本在家者　今位乃高尊　原為女人身　今成大丈夫　得天神快樂」
佛弟子瞿波　如是加詰責　彼等受其責　悶悶心不樂
「我等從今始　當即捨離〔欲〕
奮勵而精勤　身免為人役」
中二人精進　憶念瞿曇道　心乃得清淨　於欲見過患
彼等已切斷　強魔繫欲纆　猶象破羈紲　超忉利天上　善法堂諸天　帝釋與梵王
然彼離愛染　離塵欲丈夫　是以彼所往　超越此會眾　時天主帝釋　在天眾中央
見是懷惱悶　作不安念言
「彼等生卑賤　竟超忉利天」
瞿波聞是言　乃白帝釋曰
「釋迦牟尼佛　人世克欲〔聖〕　彼原佛〔弟子〕　然以失念故　〔異〕世而轉變　受乾闥婆身
佛子受我訶　復還得此念　三者中之一　猶住乾闥婆　惟有彼二人　能隨於正覺
堅定其自性　復降伏五欲　故神見彼等　心亦為惱悶　開闡如是法　弟子復何疑

故我等歸依　度暴流斷惑　彼佛陀勝者　及以人中王」
於是彼二人　覺已而上昇
得登梵輔天　進位於高尊　我等於是法　亦將即當得　若蒙垂許者　欲有所請問』

一三

爾時世尊．便作是念．『是帝釋實為長時無垢。凡問我者．皆屬切要．非徒然也。又於我所答義．彼當即能了解。』於是世尊以偈答言。
『帝釋恣問我　隨意之所樂　凡有所問者　皆悉為卿決』

第二誦品

一

時天主帝釋．得許可故．乃問世尊曰．『世尊．天、人、阿修羅、龍、乾闥婆．及餘諸眾生．緣以何結．彼等雖念「我等當無恚、無訶、無爭、無害、無怨諸過．」然猶有恚、有訶、有爭、有害有怨諸過耶。』天主帝釋．於世尊前．如是問已。世尊答曰．『天主．天、人、阿修羅、龍、乾闥婆．及餘諸眾生．各有嫉慳二結。彼等雖念「我等當無恚、無訶、無爭、無害、無怨諸過．」然猶有恚、有訶、有爭、有害、有怨諸過。』世尊如是答帝釋已．天主帝釋．衷心踴躍．於世尊說．歡喜信受。如是白曰．『唯然世尊．唯然善逝。我聞世尊答故．疑消迷開。』

二

天主帝釋．聞世尊說．如是歡喜信受已．復為問曰．『世尊．嫉慳以何為緣．從何而起．由何而生．以何為源。有何始有嫉慳．無何乃無嫉慳。』『天主．嫉慳以愛憎為緣．從愛憎起．由愛憎生．愛憎為源。有愛憎時有嫉慳．無愛憎時無嫉慳。』『世尊．愛憎以何為緣．從何而起．由何而生．以何為源。有何始有愛憎．無何乃無愛憎。』『天主．愛憎以欲為緣．從欲而起．由欲而生．以欲為源。有欲時有愛憎．無欲時無愛憎。』『世尊．欲以何為緣．從何而起．由何而生．以何為源。有何始有欲．無何乃無欲。』『天主．欲以尋為緣．從尋而起．由尋而生．以尋為源。有尋時有欲．無尋時無欲。』『世尊．尋以何為緣．從何而起．由何而生．以何

為源。有何始有尋・無何乃無尋。』『天主・尋以妄想諸支為緣・從妄想諸支起・由妄想諸支生・以妄想諸支為源。有妄想諸支時有尋・無妄想諸支時無尋。』

三

『世尊・彼能滅妄想諸支得道比丘・依何而行耶。』『天主・我說喜有二種・謂可親及不可親・我說憂有二種・謂可親及不可親・我說捨有二種・謂可親及不可親。茲言「天主・我說喜有二種・謂可親及不可親。」云何為是言。謂若有人・自念「我親此喜・則惡法增・而善法減・」斯喜則不可親。又若有人・自念「我親此喜・則惡法減・而善法增・」斯喜可親。於斯是有・有尋伺者・及無尋伺者・無尋伺者勝。是故得言・「天主・我說喜有二種・謂可親及不可親。」茲言「天主・我說憂有二種・可親及不可親。」云何為是言。謂若有人・自念「我親此憂・則惡法增・而善法減・」斯憂則不可親。又若有人・自念「我親此憂・則惡法減・而善法增・」斯憂可親。於斯是有・有尋伺者・及無尋伺者・無尋伺者勝。是故得言・「天主・我說憂有二種・謂可親及不可親。」茲言「天主・我說捨有二種・謂可親及不可親。」云何為是言。謂若有人・自念「我親此捨・則惡法增・而善法減・」斯捨則不可親。又若有人・自念「我親此捨・則惡法減・而善法增・」斯捨可親。於斯是有・有尋伺者・及無尋伺者・無尋伺者勝。是故得言・「天主・我說捨有二種・謂可親及不可親。」天主。彼能滅妄想諸支得道比丘・是依此而行也。』世尊如是答帝釋問。天主帝釋・衷心踴躍・聞世尊說・歡喜信受。如是白曰・『唯然世尊・唯然善逝。我聞世尊答故・疑消迷開。』

四

天主帝釋・聞世尊說・如是歡喜信受已・復為問曰・『世尊・彼得波羅提木叉律儀比丘・依何而行耶。』『天主・我說身業有二種・謂可親及不可親・我說口業有二種・謂可親及不可親・我說遍尋有二種・謂可親及不可親。茲言「天主・我說身業有二種・謂可親及不可親。」云何為是言。謂若有人・自念「我親此身業・則惡法增・而善法減・」如斯身業則不可親。又若有人・自念・「我親此身業・則惡法減・而善法增・」如斯身業可親。是故得言・「天主・我說身業有二種・謂可親及不可親。」茲言「天主・我說口業有二種・謂可親及不可親。」云何為是言。謂若有人・自念「我親

此口業・則惡法增・而善法減・」如斯口業則不可親。又若有人・自念「我親此口業・則惡法減・而善法增・」如斯口業可親。是故得言「天主・我說口業有二種・謂可親及不可親。」茲言「天主・我說遍尋有二種・謂可親及不可親。」云何為是言。謂若有人・自念「我親此遍尋・則惡法增・而善法減・」如斯遍尋則不可親。又若有人・自念「我親此遍尋・則惡法減・而善法增・」如斯遍尋可親。是故得言「天主・我說遍尋有二種・謂可親及不可親。」天主・彼得波羅提木叉律儀比丘・是依此而行也。』世尊如是答帝釋問・天主帝釋・衷心踴躍・聞世尊說・歡喜信受。如是白曰・『唯然世尊・唯然善逝。我聞世尊答故・疑消迷開。』

五

天主帝釋・聞世尊說・如是歡喜信受已・復為問曰・『世尊・彼得諸根律儀比丘・依何而行耶。』『天主・我說以眼知色有二種・謂可親不可親。天主・我說以耳知聲・以鼻知香・以舌知味・以身知觸・如是如是。乃至我說以意知法・有二種・謂可親不可親。』天主帝釋・如是聞已・白世尊曰・『世尊今者・簡約言之・我已一一知其如是。世尊・於眼知色・親之惡法增・善法減損者・則是眼所知・斯色不可親。復次世尊・於眼知色・親之惡法減・善法增長者・則是眼所知・斯色可親。復次世尊・於耳知聲・於鼻知香・於舌知味・於身知觸・如是如是。乃至於意知法・親之惡法增・善法減損者・則是意所知・斯法不可親。復次世尊・於意知法・親之惡法減・善法增長者・則是意所知・斯法可親。世尊今者・簡約言之・我一一知・於是疑消迷開。』

六

天主帝釋・聞世尊說・如是歡喜信受已・復為問曰・『世尊・凡沙門婆羅門・信念、戒行、欲求、意趣・皆同一耶。』『不也天主・凡沙門婆羅門・信念、戒行、欲求、意趣・非同一也。』『世尊・云何凡沙門婆羅門・信念、戒行、欲求、意趣・非同一耶。』『天主・緣以世體・種種非一。有情處世・由〔所成〕此種種非一之體・依所有體・堅固執著・定言「唯此是真・餘者是癡。」是故凡沙門婆羅門・信念、戒行、欲求、意趣・非為同一。』『世尊・凡沙門婆羅門・依憑、安穩、梵行、滅度・為究竟耶。』『不也天主・凡沙門婆羅門・依憑、安穩、梵行、滅度・非為究竟。』『世尊・云何凡沙門婆羅門・依憑、安穩、梵行、滅度・非為究竟。』

『天主．唯斷愛欲而得解脫沙門婆羅門．依憑、安穩、梵行、滅度．是為究竟。是故凡沙門婆羅門．依憑、安穩、梵行、滅度．非為究竟。』世尊如是答天帝問。天主帝釋．衷心踴躍．聞世尊說．歡喜信受。如是白曰．『唯然世尊．唯然善逝。我聞世尊答．於是疑消迷開。』

七

天主帝釋．聞世尊說．如是歡喜信受已．〔更復〕白曰．『世尊．愛欲是病、是腫、是箭。愛欲牽人．生此生彼．是故役人隨其上下。世尊．我於長時．懷此等問．餘他外道沙門婆羅門．竟不得聞．今蒙世尊．明示我義．今者世尊．拔出我心疑惑之箭。』『天主．卿曾以此等．問餘沙門婆羅門耶。』『世尊．我曾以此等．問餘沙門婆羅門。』『天主．彼等於卿．云何為答．卿無礙者．願以語我。』『於世尊前．或於如世尊者〔如來〕之前．我何礙者。』『然則天主．願以語我。』『世尊．我昔念言．若有遠離住於森林．而坐臥者．當為沙門婆羅門．時我至彼等所．問此等義。然而彼等不能了達．轉問我言．「尊者是誰。」答彼等曰．「我是天主帝釋。」彼等復問．「天主何故．來此處耶。」我悉教以曾所聞所學法．於是彼等．乃大喜言．「我等瞻仰天主帝釋．於我等問．悉蒙彼答。」彼等即為我之弟子．而我不為彼等弟子。但我今者．為世尊弟子．得入預流不墮惡趣．必定成為向正覺者。』『天主．卿頗曾得如是歡喜耶。』『世尊．我頗曾得如是歡喜。』『天主．卿曾云何．得如是歡喜耶。』『世尊．昔諸天神與阿修羅．興兵鬪戰。時於是役．諸天得勝．破阿修羅。我軍既勝．乃作是念．「今者諸天．不但享樂天界精華．並將享樂阿修羅者。」然而世尊．但我所得此等歡喜．是憑刀杖．非依、厭世、離欲、滅盡、寂靜、神通、正覺、涅槃。我以聞世尊法故．所得此歡喜．非憑刀杖．乃依一向厭世、離欲、滅盡、寂靜、神通、正覺、涅槃。』

八

『天主．卿之所言．為念何果報．得斯歡喜耶。』『世尊．我之所言．思惟六果報故．得如斯歡喜。

　此尊神之我　躬自得復生　惟願如是事　見知於世尊

世尊．我之所言．思惟此是第一果報故．得如斯歡喜。

　捨離非人生　我轉此神身　入胎無過患　我心所欣求

世尊．我之所言．思惟此是第二果報故．得如斯歡喜。

凡有所請問　示教使不迷　我常為歡喜　當正住慧念
世尊・我之所言・思惟此是第三果報故・得如斯歡喜。
我於正行住　若得成正覺　我具智慧住　斯即是歸寂
世尊・我之所言・思惟此是第四果報故・得如斯歡喜。
捨離人世生　我從人身轉　昇於天上界　再成無比神
世尊・我之所言・思惟此是第五果報故・得如斯歡喜。
譽稱色究竟　是彼殊勝神　唯於如是處　最後住此身
世尊・我之所言・思惟此是第六果報故・得如斯歡喜。世尊・我之所言・思惟此六果報故・得斯歡喜也。

九

所望未得遂　我〔唯有〕疑迷　為求問如來　徘徊長久時　見彼沙門等　在遠離而住
謂是正覺者　我往詣其處
「行何則有得　行何而有失」
問已彼不知　聖道及方便
知來此之我　是天主帝釋　彼等乃問言
「卿為何來此」
我教示以法　悉如曾所聞
彼皆喜傾聽　言「已見帝釋」
及我得見佛　疑惑悉消除　今奉敬正覺　此身無畏怖
我頂禮佛陀　大雄無等尊　親覲〔麗天〕日　拔除愛欲箭　我與彼諸天　俱共禮世尊
今以梵天禮　向世尊致敬　如來正覺者　無上士尊師　天及此世中　無二無儔匹』

一〇

爾時天主帝釋・語乾闥婆子般遮翼曰・『般遮翼・由汝先時・娛樂世尊故・於我有大饒益。以汝先娛樂世尊故・然後我等・乃得詣見世尊、應供、等正覺。我今為父・當以汝為乾闥婆王・而彼跋陀・是汝所思慕晶瑩如日者・當以與汝。』時天主帝釋・以手投地・三呼白言。
『歸命於世尊　應供等正覺　歸命於世尊　應供等正覺　歸命於世尊　應供等正覺』
天主帝釋・宣說此時・得清淨無垢法眼・〔知〕「所有集法皆是滅法。」餘八萬諸天・亦復如是。天主帝釋・如是請問・世尊如是

答。故此說名・『帝釋所問經。』

大念處經第二十二

一

如是我聞。一時世尊・在拘樓國劍磨瑟曇都邑。世尊於其處・告諸比丘曰・『諸比丘。』彼比丘等・答世尊曰・『世尊。』世尊為如是言。『諸比丘・為淨眾生・為度憂悲・為滅苦惱・為得正理・為證涅槃・有此唯一趣向之道・即四念處。云何為四。諸比丘・今有比丘・就身觀身而住・精勤、正智、正念・捨世欲惱。就受觀受而住・精勤、正智、正念・捨世欲惱。就心觀心而住・精勤、正智、正念・捨世欲惱。就法觀法而住・精勤、正智、正念・捨世欲惱。

二

諸比丘・比丘云何就身觀身而住耶。諸比丘・今有比丘・赴森林中・或赴樹下・或赴空所・結跏直身・立念當前・如是趺坐。彼正念入息・正念出息・或入息長・知「我入息長・」又出息長・知「我出息長。」或入息短・知「我入息短・」又出息短・知「我出息短。」修「我當知全身入息・」修「我當知全身出息・」修「我當鎮攝身行入息・」修「我當鎮攝身行出息。」諸比丘・猶如熟巧轆轤工匠・或其弟子・轉〔轆轤〕長・知「我轉之長」轉〔轆轤〕短・知「我轉之短・」諸比丘・比丘如是・其入息長・知「我入息長・」又出息長・知「我出息長・」或入息短・知「我入息短・」又出息短・知「我出息短。」修「我當知全身入息・」修「我當知全身出息・」修「我當鎮攝身行入息・」修「我當鎮攝身行出息。」如是於內就身觀身而住・於外就身觀身而住・於內外就身觀身而住。或就身觀生法而住・就身觀滅法而住・就身觀生滅法而住。又復與智識所成・憶念所成者・同其等量・「有身」念思現前。彼無依而住・且於世物・皆不執著。諸比丘・比丘如是・就身觀身而住。

三

諸比丘・復次比丘・行則知「我行・」住則知「我住・」坐則知「我坐・」臥則知「我臥。」此身在何狀・亦知如其身。如是於內就身觀身而住・於外就身觀身而住・於內外就身觀身而住。或就身

觀生法而住・就身觀滅法而住・就身觀生滅法而住。又復與智識所成・憶念所成者・同其等量・「有身」思念現前。彼無依而住・且於世物・皆不執著。諸比丘・比丘如是・就身觀身而住。

四

諸比丘・復次比丘・於行於歸・正智所作。見前見後・正智所作。於屈於伸・正智所作。著僧伽梨・執持衣鉢・正智所作。食、飲、嚼、嘗・正智所作。大小便利・正智所作。行、住、坐、眠・醒寤、語、默・皆正智所作。如是於內就身觀身而住・於外就身觀身而住・於內外就身觀身而住。或就身觀生法而住・就身觀滅法而住・就身觀生滅法而住。又復與智識所成・憶念所成者・同其等量・「有身」思念現前。彼無依而住・且於世物・皆不執著諸比丘・比丘如是・就身觀身而住。

五

諸比丘・復次比丘・上自髮端・下迄足蹠・觀察此身・為皮所覆・不淨充滿・〔知〕「此身中有髮、髦、爪、齒、皮、肉、筋、骨、髓、腎、心、肝臟、肋膜、脾臟、肺、腸、腸膜、胃、排泄物、胆汁、痰、膿、血、汗、脂、淚、淋巴液、唾液、粘液、關節液、尿。」諸比丘・猶如雙口之囊・充滿稻、粳、綠豆、豆顆、胡麻、糙米種種穀物・有目之士・解囊察知・「此稻此粳・此是綠豆・此是豆顆・此是胡麻・此是糙米。」諸比丘・比丘如是・上自髮端・下迄足蹠・觀察此身・為皮所覆・不淨充滿・〔知〕「此身中・有髮、髦、爪、齒、皮、肉、筋、骨、髓、腎、心、肝臟、肋膜、脾臟、肺、腸、腸膜、胃、排泄物、胆汁、痰、膿、血、汗、脂、淚、淋巴液、唾液、粘液、關節液、尿。」如是於內就身觀身而住・於外就身觀身而住・於內外就身觀身而住・或就身觀生法而住・就身觀滅法而住・就身觀生滅法而住・又復與智識所成・憶念所成者・同其等量・「有身」思念現前。彼無依而住・且於世物・皆不執著・諸比丘・比丘如是・就身觀身而住。

六

諸比丘・復次比丘・觀察此身・從界而觀・如其所有及所賦與・〔知〕「此身中・有地界、水界、火界、風界。」諸比丘・猶如熟巧屠兒・或其弟子・坐四衢道・殺牛割肉・分作片片・諸比丘・比

丘如是・觀察此身・從界而觀・如其所有及所賦與・〔知〕「此身中・有地界、水界、火界、風界。」如是於內就身觀身而住・於外就身觀身而住・於內外就身觀身而住。或就身觀生法而住・就身觀滅法而住・就身觀生滅法而住。又復與智識所成・憶念所成者・同其等量・「有身」思念現前。彼無依而住・且於世物・皆不執著。諸比丘・比丘如是・就身觀身而住。

七

諸比丘・復次比丘・如觀死屍・棄於塚間・死後一日二日・乃至三日・膨脹青黑・已腐爛壞・而彼注視此身・〔知〕「此身即為斯法・實亦如斯・不能免此。」如是於內就身觀身而住・於外就身觀身而住・於內外就身觀身而住。或就身觀生法而住・就身觀滅法而住・就身觀生滅法而住・又復與智識所成・憶念所成者・同其等量・「有身」思念現前。彼無依而住・且於世物・皆不執著。諸比丘・比丘如是・就身觀身而住。

八

諸比丘・復次比丘・如觀死屍・棄於塚間・鳥鷹鷲啄・犬豺所食・乃至各種生類所食・而彼注視此身・〔知〕「此身即為斯法・實亦如斯・不能免此。」如是於內就身觀身而住・於外就身觀身而住・於內外就身觀身而住。或就身觀生法而住・就身觀滅法而住・就身觀生滅法而住。又復與智識所成・憶念所成者・同其等量・「有身」思念現前。彼無依而住・且於世物・皆不執著。諸比丘・比丘如是・就身觀身而住。

九

諸比丘・復次比丘・如觀死屍・棄於塚間・筋繫骸骨・有血與肉。又觀筋繫骸骨・無肉附血。又觀唯筋繫骸骨・無血無肉。乃至觀〔關節〕解散・手骨在此・足骨在彼・髁骨在此・腿骨在彼・骨盤骨在此・背骨在彼・頭蓋骨在彼・此等骸骨・散於四處・而彼注視此身・〔知〕「此身即為斯法・實亦如斯・不能免此。」如是於內就身觀身而住・於外就身觀身而住・於內外就身觀身而住。或就身觀生法而住・就身觀滅法而住・就身觀生滅法而住。又復與智識所成・憶念所成者・同其等量・「有身」思念現前。彼無依而住・且於世物・皆不執著。諸比丘・比丘如是就身觀身而住。

一〇

諸比丘・復次比丘・如觀死屍・棄於塚間・骨白如螺色。又觀骨積曾經一年・乃至觀骨碎敗壞。而彼注視此身・〔知〕「此身即為斯法・實亦如斯・不能免此。」如是於內就身觀身而住・於外就身觀身而住・於內外就身觀身而住。或就身觀生法而住・就身觀滅法而住・就身觀生滅法而住。又復與智識所成・憶念所成者・同其等量・「有身」思念現前。彼無依而住・且於世物・皆不執著。諸比丘・比丘如是・就身觀身而住。

一一

諸比丘・比丘云何就受觀受而住耶。諸比丘・今有比丘・覺樂受時・知「我覺樂受・」覺苦受時・知「我覺苦受・」覺不苦不樂受時・知「我覺不苦不樂受。」或於身覺樂受時・知「我身覺樂受・」於心覺樂受時・知「我心覺樂受。」或於身覺苦受時・知「我身覺苦受・」於心覺苦受時・知「我心覺苦受。」或於身覺不苦不樂受時・知「我身覺不苦不樂受・」於心覺不苦不樂受時・知「我心覺不苦不樂受。」如是於內就受觀受而住・於外就受觀受而住・於內外就受觀受而住。或就受觀生法而住・就受觀滅法而住・就受觀生滅法而住。又復與智識所成・憶念所成者・同其等量・「有受」思念現前。彼無依而住・且於世物・皆不執著。諸比丘・比丘如是・就受觀受而住。

一二

諸比丘・比丘云何就心觀心耶。諸比丘・今有比丘・心貪知「心貪・」心離貪知「心離貪・」心瞋知「心瞋・」心離瞋知「心離瞋・」心癡知「心癡・」心離癡知「心離癡。」心轉倒知「心轉倒・」心不轉倒知「心不轉倒・」心廣大知「心廣大・」心狹小知「心狹小・」心有上知「心有上・」心無上知「心無上。」心有定知「心有定・」心無定知「心無定・」心解脫知「心解脫・」心不解脫知「心不解脫。」如是於內就心觀心而住・於外就心觀心而住・於內外就心觀心而住。或就心觀生法而住・就心觀滅法而住・就心觀生滅法而住。又復與智識所成・憶念所成者・同其等量・「有心」思念現前。彼無依而住・且於世物・皆不執著。諸比丘・比丘如是・就心觀心而住。

一三

諸比丘・比丘云何就法觀法耶。諸比丘・今有比丘・就法觀法・即就五蓋觀法而住。復次・諸比丘・比丘云何就法觀法・即就五蓋觀法而住耶。諸比丘・今有比丘・或內有貪欲・知「我內有貪欲・」或內無貪欲・知「我內無貪欲。」彼於未生貪欲生起・如實知之・於已生貪欲滅盡・如實知之・又於已滅貪欲・未來不生・如實知之。或內有瞋恚・知「我內有瞋恚・」或內無瞋恚・知「我內無瞋恚・」於未生瞋恚生起・如實知之・於已生瞋恚滅盡・如實知之・於已滅瞋恚・未來不生・如實知之。或內有睡眠・知「我內有睡眠・」或內無睡眠・知「我內無睡眠・」於未生睡眠生起・如實知之・於已生睡眠滅盡・如實知之・於已滅睡眠・未來不生・如實知之。或內有掉悔・知「我內有掉悔・」或內無掉悔・知「我內無掉悔・」於未生掉悔生起・如實知之・於已生掉悔滅盡・如實知之・於已滅掉悔・未來不生・如實知之。或內有疑惑・知「我內有疑惑・」或內無疑惑・知「我內無疑惑・」於未生疑惑生起・如實知之・於已生疑惑滅盡・如實知之・於已滅疑惑・未來不生・如實知之。如是於內就法觀法而住・於外就法觀法而住・於內外就法觀法而住。或就法觀生法而住・就法觀滅法而住・就法觀生滅法而住。又復與智識所成・憶念所成者・同其等量・「有法」思念現前。彼無依而住・且於世物・皆不執著。諸比丘・比丘如是・就法觀法・即就五蓋觀法而住。

一四

復次諸比丘・比丘就法觀法・即就五取蘊觀法而住。諸比丘・比丘云何就法觀法・即就五取蘊觀法而住耶。諸比丘・今有比丘・〔知〕「色如是・色生如是・色滅如是。復次受如是・受生如是・受滅如是。想如是・想生如是・想滅如是。行如是・行生如是・行滅如是。識如是・識生如是・識滅如是。」如是於內就法觀法而住・於外就法觀法而住・於內外就法觀法而住・或就法觀生法而住・就法觀滅法而住・就法觀生滅法而住。又復與智識所成・憶念所成者・同其等量・「有法」思念現前。彼無依而住・且於世物・皆不執著。諸比丘・比丘如是・就法觀法・即就五蓋觀法而住。

一五

復次諸比丘・比丘就法觀法・即就六內外處觀法而住・諸比丘・比丘云何就法觀法・即就六內外處觀法而住耶。諸比丘・今有比丘・知眼・知色・知緣此兩者所生結。於未來結生起・如實知之・於已生結滅盡・如實知之・於已滅結・未來不生・如實知之。又知耳知聲・如是如是。知鼻知香・如是如是・知舌知味・如是如是。知身知觸・如是如是。乃至知意知法・知緣此兩者所生結。於未來結生起・如實知之・於已生結滅盡・如實知之・於已滅結・未來不生・如實知之。如是於內就法觀法而住・於外就法觀法而住・於內外就法觀法而住。或就法觀生法而住・就法觀滅法而住・就法觀生滅法而住。又復與智識所成・憶念所成者・同其等量・「有法」思念現前。彼無依而住・且於世物・皆不執著。諸比丘・比丘如是・就法觀法而住。

一六

復次諸比丘・比丘就法觀法・即就七覺支觀法而住。諸比丘・比丘云何就法觀法・即就七覺支觀法而住耶。諸比丘・今有比丘・或內有念覺支・知「我內有念覺支・」或內無念覺支・知「我內無念覺支・」於未生念覺支生起・如實知之・已生念覺支發達成就・如實知之。或內有擇法覺支・亦復如是・乃至發達成就・如實知之。或內有精進覺支・亦復如是・乃至發達成就・如實知之。或內有喜覺支・亦復如是・乃至發達成就・如實知之。或內有息（輕安）覺支・亦復如是・乃至發達成就・如實知之。或內有定覺支・亦復如是・乃至發達成就・如實知之。或內有捨覺支・知「我內有捨覺支・」或內無捨覺支・知「我內無捨覺支・」於未生捨覺支生起・如實知之・已生捨覺支發達成就・如實知之。如是於內就法觀法而住・於外就法觀法而住・於內外就法觀法而住。或就法觀生法而住・就法觀滅法而住・就法觀生滅法而住。又復與智識所成・憶念所成者・同其等量・「有法」思念現前。彼無依而住・且於世物・皆不執著。諸比丘・比丘如是・就法觀法・即就七覺支觀法而住。

一七

復次諸比丘・比丘就法觀法・即就四聖諦觀法而住。諸比丘・比丘云何就法觀法・即就四聖諦觀法而住耶。諸比丘・今有比丘・如實知「此是苦・」如實知「此是苦集・」如實知「此是苦滅・」如實知「此是趣苦滅之道。」

一八

諸比丘．何者是苦聖諦。生是苦．老是苦．〔病是苦．〕死是苦．憂、悲、苦、惱、悶是苦．所求不得是苦．約言五取蘊是苦。復次諸比丘．何者是生．以處處生類中．有諸眾生．出產、出生、出成、更生．顯現諸蘊．攝受〔內外〕諸處．諸比丘．此名曰生。復次諸比丘．何者是老。以處處生類中．有諸眾生．年老、老耄、齒落、髮白、皮皺、壽命垂盡．諸根毀熟．諸比丘．此名曰老。復次諸比丘．何者是死。以處處生類中．有諸眾生．消失、散滅、破壞、滅亡、消滅、死亡．期滿（命終．）破壞諸蘊．捨棄死屍．諸比丘．此名曰死。復次諸比丘．何者是憂。諸比丘．隨諸不幸．惱諸苦法．憂、愁、傷慼．內憂、內愴．諸比丘．此名曰憂。復次諸比丘．何者是悲．諸比丘．隨諸不幸．惱諸苦法．嘆、悲、悲哀、悲歎、悲痛．諸比丘．此名曰悲。復次諸比丘．何者是苦。諸比丘．身之苦痛．身之不快．由身觸所生．苦痛不快之感受．諸比丘．此名曰苦。復次諸比丘．何者是惱。諸比丘．心之苦痛．心之不快．由意觸所生．苦痛不快之感受．諸比丘．此名曰惱。復次諸比丘．何者是悶。諸比丘．隨諸不幸．苦法所惱．失望、惶怖、沮喪、愁悶．諸比丘．此名曰悶。諸比丘．何者是求不得苦。諸比丘．生法眾生．生斯欲求．謂「我等實願．不處生法．即願我等．不致有生。」但此欲求莫能得達．此是求不得苦。諸比丘．老法眾生．亦復如是。諸比丘．病法眾生．亦復如是。諸比丘．死法眾生．亦復如是。諸比丘．憂、悲、苦、惱、悶法眾生．生斯欲求．謂「我等實願．不處憂、悲、苦、惱、悶法．即願我等．不致有憂、悲、苦、惱、悶法。」但此欲求莫能得達．此是求不得苦。諸比丘．何者是約言五取蘊苦。色取蘊、受取蘊、想取蘊、行取蘊、識取蘊．諸比丘．此等約言名五取蘊苦。諸比丘．此即名曰．苦聖諦也。

一九

諸比丘．何者是苦集聖諦。此愛導引再生．與喜貪俱．隨處求滿足者．即欲愛、有愛、無有愛是。復次諸比丘．愛生於何處．止住何處耶。謂世有可愛喜者．則愛生於此處．止住此處。何者於世為可愛喜者。謂眼於世．是可愛喜者。此愛生於此處．止住此處。謂耳於世．亦復如是。謂鼻於世．亦復如是。謂舌於世．亦復如是。謂身於世．亦復如是。乃至謂意於世．是可愛喜者。此愛生於此處．止於此處。如是色之於世．聲之於世．香之於世．味之於世．觸之

於世・亦復如是如是。乃至法之於世・是可愛喜者。此愛生於此處・止住此處。眼識於世・耳識於世・鼻識於世・舌識於世・身識於世・亦復如是如是。乃至意識於世・是可愛喜者。此愛生於此處・止住此處。眼觸於世・耳觸於世・鼻觸於世・舌觸於世・身觸於世・亦復如是如是。乃至意觸於世・是可愛喜者。此愛生於此處・止住此處。眼觸所生受・耳觸所生受・鼻觸所生受・舌觸所生受・身觸所生受・亦復如是如是。乃至意觸所生受・此受於世・是可愛喜者。此愛生於此處・止住此處。色想於世・聲想於世・香想於世・味想於世・觸想於世・亦復如是如是。乃至法想於世・是可愛喜者。此愛生於此處・止住此處。色思於世・聲思於世・香思於世・味思於世・觸思於世・亦復如是如是。乃至法思於世・是可愛喜者。此愛生於此處・止住此處。色愛於世・聲愛於世・香愛於世・味愛於世・觸愛於世・亦復如是如是。乃至法愛於世・是可愛喜者。此愛生於此處・止住此處。色尋於世・聲尋於世・香尋於世・味尋於世・觸尋於世・亦復如是如是。乃至法尋於世・是可愛喜者。此愛生於此處・止住此處。色伺於世・聲伺於世・香伺於世・味伺於世・觸伺於世・亦復如是如是。乃至法伺於世・是可愛喜者。此愛生於此處・止住此處。諸比丘・此即名曰・苦集聖諦。

二〇

復次諸比丘・何者是苦滅聖諦。彼愛無餘・離欲、滅盡、捨離、棄捨、解脫、無染是也。復次諸比丘・愛捨於何處・止滅何處耶。謂世有可愛喜者・此愛捨於此處・止滅此處。云何世有可愛喜者。眼之於世・是可愛喜者。此愛捨於此處・止滅此處。耳之於世・鼻之於世・舌之於世・身之於世・亦復如是如是。乃至意之於世・是可愛喜者。此愛捨於此處・止滅此處。如是色之於世・聲之於世・香之於世・味之於世・觸之於世・亦復如是如是。乃至法之於世・是可愛喜者。此愛捨於此處・止滅此處。眼識於世・耳識於世・鼻識於世・舌識於世・身識於世・亦復如是如是。乃至意識於世・是可愛喜者。此愛捨於此處・止滅此處。眼觸於世・耳觸於世・鼻觸於世・舌觸於世・身觸於世・亦復如是如是。乃至意觸於世・是可愛喜者。此愛捨於此處・止滅此處。眼觸所生受・耳觸所生受・鼻觸所生受・舌觸所生受・身觸所生受・亦復如是如是。乃至意觸所生受・此受於世・是可愛喜者。此愛捨於此處・止滅此處。色想於世・聲想於世・香想於世・味想於世・觸想於世・亦復如是如是。乃至法想於世・是可愛喜者。此愛捨於此處・止滅此處。色思於世・聲思於世・香思於世・味思於世・觸思於世・亦復如是如是。

乃至法思於世・是可愛喜者。此愛捨於此處・止滅此處。色愛於世・聲愛於世・香愛於世・味愛於世・觸愛於世・亦復如是如是。乃至法愛於世・是可愛喜者。此愛捨於此處・止滅此處。色尋於世・聲尋於世・香尋於世・味尋於世・觸尋於世・亦復如是如是。乃至法尋於世・是可愛喜者。此愛捨於此處・止滅此處。色伺於世・聲伺於世・香伺於世・味伺於世・觸伺於世・亦復如是如是。乃至法伺於世・是可愛喜者。此愛捨於此處・止滅此處。諸比丘・此即名曰・苦滅聖諦。

二一

復次諸比丘・何者是苦滅道聖諦。謂八支聖道是也・即正見、正思、正語、正業、正命、正精進、正念、正定。諸比丘・何者是正見。諸比丘・知苦・知苦集・知苦滅・知趣苦滅之道。諸比丘・此名正見。復次諸比丘・何者是正思。無欲思・無恚思・無害思。諸比丘・此名正思。復次諸比丘・何者是正語。禁制兩舌・禁制惡口・禁制妄語・禁制綺語。諸比丘・此名正語。復次諸比丘・何者是正業。禁制殺生・禁制不與取・禁制邪婬。諸比丘・此名正業。復次諸比丘・何者是正命。諸比丘・有聖弟子・捨離邪命・依於正命以自營活。諸比丘・此名正命。復次諸比丘・何者是正精進。諸比丘・若有比丘・於未生惡不善法・決使不生・奮勉精進・力振心神。於已生惡不善法・決意遠離・奮勉精進・力振心神。於未生善法・決使生起・奮勉精進・力振心神。於已生善法・決意而住・使不惑亂・增長充滿・成立成就・奮勉精進・力振心神。諸比丘・此名正精進。復次諸比丘・何者是正念。諸比丘・若有比丘・就身觀身而住・精勤正智正念・捨世欲惱。就受就心・亦復如是。乃至就法觀法而住・精勤正智正念・捨世欲惱。諸比丘・此名正念。復次諸比丘・何者是正定。諸比丘・若有比丘・斷除諸欲・離不善法・有尋有伺・離生喜樂・入住初禪。滅除尋伺・內心靜安・心成專一・無尋無伺・定生喜樂・入第二禪。復次離喜住捨・正念正智・以身受樂・唯諸聖說・「捨離於喜・正念樂住・」入第三禪。次又捨樂離苦・先滅憂喜・不苦不樂・捨念清淨・入第四禪。諸比丘・此名曰正定。諸比丘・此名苦滅道聖諦。如是於內就法觀法而住・於外就法觀法而住・於內外就法觀法而住。或就法觀生法而住・就法觀滅法而住・就法觀生滅法而住。又復與智識所成・憶念所成者・同其等量「有法」思念現前。彼無依而住・且於世物・皆不執著。諸比丘・比丘如是・就法觀法而住。

二二

諸比丘・無論何人・於此四念處・實如是修七年者・二果之中・可得一果・〔即〕於現法・得究竟智・尚有餘者・可得不還。故諸比丘・當立〔念〕七年。諸比丘・無論何人・於此四念處・實如是修六年者・當得如是。乃至五年、四年、三年、二年、乃至實如是修一年者・二果之中・可得一果・〔即〕於現法・得究竟智・尚有餘者・可得不還。故諸比丘・當立〔念〕一年。諸比丘・無論何人・於此四念處・如是修七月者・二果之中・可得一果・〔即〕於現法・得究竟智・尚有餘者・可得不還。故諸比丘・當立〔念〕七月。諸比丘・無論何人・於此四念處・實如是修六月乃至五月、四月、三月、二月、一月、乃至實如是修半月者・二果之中・可得一果・〔即〕於現法・得究竟智・尚有餘者・可得不還。故諸比丘・當立〔念〕半月。諸比丘・無論何人・於此四念處・實如是修七日者・二果之中・可得一果・〔即〕於現法・得究竟智・尚有餘者・可得不還。是故此〔經・〕為如是說・「諸比丘・為淨眾生・為度憂悲・為滅苦惱・為得正理・為證涅槃・有此唯一趣向之道・即四念處。」』世尊如是說。彼隨喜之諸比丘等・聞世尊說・咸皆歡喜。

弊宿經第二十三

一

如是我聞。一時尊者鳩摩羅迦葉・遊行拘薩羅國・與大比丘眾五百人俱・至拘薩羅斯波醯城。時尊者鳩摩羅迦葉・住斯波醯北尸舍婆林。爾時王族弊宿・居住斯波醯。此城人畜繁盛・牧草、薪、水、穀類豐饒・為王領地・由拘薩羅國王波斯匿・封為淨施。

二

爾時王族弊宿・懷惡邪見・謂『斯無他世・無化生有情・無善惡業報。』時波斯醯城・婆羅門長者等・聞『沙門瞿曇弟子・沙門鳩摩羅迦葉・遊行拘薩羅國・與大比丘眾五百人俱・來斯波醯・住於北方尸舍婆林。而彼尊者鳩摩羅迦葉・具如是大名稱・即廣博聰明・叡智多聞・辯才應機・長於談論・耆舊尊宿阿羅漢也。得見如斯阿羅漢者・不亦善哉。』時斯波醯城・婆羅門、長者等・出斯波醯・大眾成羣・隊隊相隨・往向北方・詣尸舍婆林。

三

爾時王族弊宿．在高樓上．日中休息。弊宿適見．斯波醯城婆羅門、長者等．出斯波醯．大眾成羣．隊隊相隨．往向北方．詣尸舍婆林。問從者言．『從者．斯波醯城婆羅門、長者等．何故出斯波醯．大眾成羣．隊隊相隨．往向北方尸舍婆林。』『吾主．沙門瞿曇弟子．沙門鳩摩羅迦葉．遊行拘薩羅國．與大比丘眾俱．來斯波醯．住於北方尸舍婆林。而彼尊者．鳩摩羅迦葉．具如是大名稱．即廣博聰明．叡智多聞．辯才應機．長於談論．耆舊尊宿阿羅漢也。彼等為欲往見彼尊者鳩摩羅迦葉．是故相隨而行。』『從者．往斯波醯城婆羅門、長者所．語彼等言．「我主王族弊宿有言．「卿等少待．王族弊宿．亦欲往見沙門鳩摩羅迦葉．故當共行。」」〔所以者何．〕沙門鳩摩羅迦葉．於彼蒙昧愚鈍斯波醯城婆羅門、長者等．恐將豫示教言．「斯有他世．有化生有情．有善惡業報。」蓋〔實〕無他世．無化生有情．無善惡業報。』時彼從者．諾王族弊宿．即往斯波醯諸婆羅門所．語彼等言．『我主王族弊宿有言．「卿等少待．王族弊宿亦欲往見沙門鳩摩羅迦葉．故當共行。」』

四

時王族弊宿．為斯波醯婆羅門、長者等．前後圍遶．往詣尸舍婆林．尊者鳩摩羅迦葉所．到已．與尊者鳩摩羅迦葉．相親問訊．慇勤致敬．坐於一面。斯波醯婆羅門、長者等．有禮敬尊者迦葉而坐一面者．有與尊者迦葉．相親問訊．慇懃致敬而坐一面者．有向尊者迦葉．合掌低首而坐一面者．有稱姓名坐一面者．有默然而坐於一面者。

五

王族弊宿．坐一面已．向尊者鳩摩羅迦葉．作如是言．『尊者迦葉．我謂「無他世．無化生有情．無善惡業報．」我為如是論者．如是見者。』『王族．若如是論．如是見者．我未曾見．亦未曾聞。何故謂「斯無他世．無化生有情．無善惡業報．」如是論耶。王族．我今問卿．卿隨意答。王族．於卿意云何．此日月者．為此世有耶．為他世有耶．為天耶人耶。』『尊者迦葉．此日月者．是他世有．故非此世．是天故非人。』『然則王族．依此論據．卿當可信．「斯有他世．有化生有情．有善惡業報。」』

六

『尊者迦葉・縱如是言・我猶思惟・「斯無他世・無化生有情・無善惡業報。」』『王族・卿謂「斯無他世・無化生有情・無善惡業報・」有論據耶。』『尊者迦葉・我謂「斯無他世・無化生有情・無善惡業報・」有論據也。』『若然王族・云何論據。』『尊者迦葉・設我今有朋友、知己、親屬、血族・為殺生、偷盜、邪婬、妄語、兩舌、惡口、綺語、貪欲、瞋恚、邪見者。彼等異日・罹疾病故・苦惱劇痛。我知「彼等・今者不能・痊愈恢復」時・至彼等所・語如是言・「卿等・某沙門婆羅門・為如是論・起如是見・謂「殺生、偷盜、邪婬、妄語、兩舌、惡口、綺語、貪欲、瞋恚、邪見者・身壞命終・生於惡趣、苦處、地獄。」卿等實為殺生、偷盜、邪婬、妄語、兩舌、惡口、綺語、貪欲、瞋恚、邪見者。若彼尊者沙門婆羅門・所言真實・是則卿等・身壞命終・當生惡趣、苦處、地獄。卿等身壞命終・若生惡趣、苦處、地獄・當來告我。謂「斯有他世・有化生有情・有善惡業報。」卿等實為我所信賴之人・卿等所見・猶我自見。」彼等雖諾我言・然不來告・亦不遣其使者前來。尊者迦葉・我依此論據故・如是思惟・「斯無他世・無化生有情・無善惡業報。」』

七

『王族・我今問卿・卿隨意答。王族・於卿意云何。設卿今有臣民・捕獲盜賊惡徒・前來白言・「主君・此是盜賊惡徒・唯主所欲・處彼刑罰。」卿命彼等言・「若然・汝等當以堅索・反縛此人・剃其頭髮・鳴擊小鼓・牽之遍歷・由街至街・由巷至巷・再出南門・於城南方刑場斬首。」彼等承命・即以堅索・反縛彼人・剃其頭髮・鳴擊小鼓・牽之遍歷・由街至街・由巷至巷・再出南門・令至城南・坐刑場上。時彼盜言・「我刑吏等・某村某邑・有我朋友、知己、親屬、血族之人・惟願俟我・往見彼等・還來〔處刑・〕」如是懇求・能得刑吏之許可耶。抑或刑吏立斬其首耶。』『尊者迦葉・彼盜賊言・「我刑吏等・某村某邑・有我朋友、知己、親屬、血族之人・惟願俟我・往見彼等・還來〔處刑・〕」雖如是懇求・當不能得刑吏許可。刑吏自當立斬其首。』『王族・彼雖盜賊・亦人類也。彼〔同人類・而〕於人類刑吏・懇求緩刑・猶不見許。況卿朋友、知己、親屬、血族之人・為殺生、偷盜、邪婬、妄語、兩舌、惡口、綺語、貪欲、瞋恚、邪見者・身壞命終・生於惡趣、苦處、地獄・懇求「我獄卒等・惟願俟我等・至王族弊

宿所・告以有他世・有化生有情・有善惡業報・然後還來・」而能得一獄卒許可耶。王族・依此論據・卿當可信・「斯有他世・有化生有情・有善惡業報。」』

八

『尊者迦葉・縱如是言・我猶思惟・「斯無他世・無化生有情・無善惡業報。」』『王族・卿所思惟・「斯無他世・無化生有情・無善惡業報・」有論據耶。』『尊者迦葉・我所思惟・「斯無他世・無化生有情・無善惡業報・」有論據也。』『若然王族・云何論據。』『尊者迦葉・設我今有朋友、知己、親屬、血族・捨離殺生・捨離偷盜・捨離邪婬・捨離妄語・捨離兩舌・捨離惡口・捨離綺語・不為貪欲・不為瞋恚・為正見者。彼等異日・罹疾病故・苦惱劇痛。我知「彼等・此病不能・痊愈恢復」時・至彼等所・語如是言・「卿等・某沙門婆羅門・為如是論・起如是見・謂「捨離殺生・捨離偷盜・捨離邪婬・捨離妄語・捨離兩舌・捨離惡口・捨離綺語・不為貪欲・不為瞋恚・為正見者・身壞命終・當得生於善趣、天界。」卿等實離殺生・離偷盜・離邪婬・離妄語・離兩舌・離惡口・離綺語・不貪欲・不瞋恚・為正見者。若彼尊者沙門婆羅門・所言真實・是則卿等身壞命終・當生善趣、天界。卿等身壞命終・若生善趣、天界・當來告我・「斯有他世・有化生有情・有善惡業報。」卿等實為我所信賴之人・卿等所見・猶我自見。」彼等雖諾我言・然不來告・亦不遣其使者前來。尊者迦葉・我依此論據故・如是思惟・「斯無他世・無化生有情・無善惡業報。」』

九

『然則王族・我當為卿說譬喻言・諸有智者・依譬喻故・解所說義。王族・譬如有人・墜落糞坑・身首沒溺。時卿命臣下言・「汝等挽救此人・出於糞坑。」彼等承命・即從糞坑・救出此人。卿復命曰・「汝等可以竹篦・三刮其身・拭除糞穢。」彼等承命・即以竹篦・三刮其身・拭除糞穢。卿復命曰・「汝等・可以黃土・三塗其身。」彼等承命・即以黃土・三塗其身。卿復命曰・「汝等・可以香油・塗抹其身・更以細末・三潔淨之。」彼等即以香油・塗抹其身・又以細末・三潔淨之。復次卿言「汝等・可為其人・調整鬚髮。」彼等即為調整鬚髮。復次卿言・「汝等・可為其人・持取最上花環、香水及衣裳來。」彼等即為持取最上花環香水衣裳來。復次卿又命曰・「汝等・可使其人・上昇高樓・恣五欲樂。」彼等即

使彼人・上昇高樓・恣五欲樂。王族・於卿意云何。其人既已淨浴、塗香調髮、嚴飾美衣・上昇高樓・得五欲樂・而恣享樂・而更欲墜於糞坑耶。』『不也・尊者迦葉。』『是為何故。』『尊者迦葉・以糞坑不淨・視為不淨・糞坑臭穢・視為臭穢・是可嫌忌・當所嫌忌・是可厭避・當行厭避故。』『王族・實則人世・亦復如是。是於諸天以人界不淨・視為不淨・人界臭穢・視為臭穢・是可嫌忌・當所嫌忌・是可厭避・當行厭避。王族・人界臭氣・上達天界・實百由旬。卿之朋友、知己、親屬、血族之人・捨離殺生・捨離偷盜・捨離邪婬・捨離妄語・捨離兩舌・捨離惡口・捨離綺語・不為貪欲・不為瞋恚・為正見者・身壞命終・生天上界・寧當復肯還來告曰・「斯有他世・有化生有情・有善惡業報」耶。王族・依此論據・卿當可信・「斯有他世・有化生有情・有善惡業報。」』

一〇

『尊者迦葉・縱如是言・我猶思惟・「斯無他世・無化生有情・無善惡業報。」』『王族・卿所思惟・如是如是・有論據耶。』『尊者迦葉・我所思惟・如是如是・有論據也。』『若然王族・云何論據。』『尊者迦葉・設我今有朋友、知己、親屬、血族・捨離殺生・捨離偷盜・捨離邪婬・捨離妄語・捨離飲酒。彼等異日・罹疾病故・苦惱劇痛。我知「彼等・此病不能・痊愈恢復」時・至彼等所・語如是言・「卿等・某沙門婆羅門・謂「捨離殺生・捨離偷盜・捨離邪婬・捨離妄語・捨離飲酒者・身壞命終・當生善趣、天界・為忉利天眷屬・」彼為如是論・如是見者。卿等實為離殺生・離偷盜・離邪婬・離妄語・離飲酒者。若彼尊者沙門婆羅門・所言真實・是則卿等・身壞命終・當生善趣、天界・為忉利天眷屬。卿等身壞命終・若生善趣、天界・為忉利天眷屬・當來告我・「斯有他世・有化生有情・有善惡業報。」卿等實為我所信賴之人・故卿等所見・猶我自見。」彼等雖諾我言・然不來告・亦不遣其使者前來。尊者迦葉・我依此論據故・如是思惟・「斯無他世・無化生有情・無善惡業報。」』

一一

『然則王族・我今有問・卿隨意答。王族・人界百年・實當忉利天上・一日一夜。彼以三十夜為一月・十二月為一年・以一千年・為忉利天壽量。卿之朋友、知己、親屬、血族之人・為離殺生・離偷盜・離邪婬・離妄語・離飲酒者・身壞命終・當生善趣、天界・為

忉利天眷屬。設若彼等〔作是念言・〕「我等當於二三晝夜間・得天五欲樂・以享樂自恣・然後往詣王族弊宿所・告以斯有他世・有化生有情・有善惡業報。」如是彼等還來・寧得語卿以「斯有他世・有化生有情・有善惡業報耶。」』『不也・尊者迦葉・我等是時・命終久矣。縱有人以「有忉利天・」或「忉利天・如斯長壽・」告尊者迦葉者・但今尊者迦葉所言・「有忉利天・」或「忉利天・如斯長壽・」我不信也。』『王族・譬如有人・生而盲目。彼人不見黑白之色・不見青黃赤白等色・不見同異・不見星宿日月。而若彼言・「無黑白色・無見黑白色者。無青黃赤白、同異、星宿、日月・無見青黃赤白、同異、星宿、日月者・」王族・其言正耶。』『不也・尊者迦葉・有黑白色・有見黑白色者・有青黃赤白、同異、星宿、日月・有見青黃赤白、同異、星宿、日月者。尊者迦葉・故彼所言「我不知不見此等・故皆無有・」非正當也。』『王族・卿亦如是。如生盲者想・以卿亦答言・「尊者迦葉・縱有人言・以有忉利天・或忉利天是長壽・但我等不信尊者迦葉言・有忉利天・或忉利天長壽。」王族・如斯他世・當非如卿思惟・肉眼可見者。王族・沙門婆羅門・坐臥於稀聲疎響森林遠處・住不放逸・一心不亂・修淨天眼。彼等以超人清淨天眼・見此世他世・見化生有情。王族・於是他世・可得而見・當非如卿思惟・以肉眼見者。王族・依此論據・卿當可信・「斯有他世・有化生有情・有善惡業報。」』

一二

『尊者迦葉・縱如是言・我猶思惟・「斯無他世・無化生有情・無善惡業報。」』『王族・卿所思惟・如是如是・有論據耶。』『尊者迦葉・我所思惟・如是如是・有論據也。』『若然王族・云何論據。』『尊者迦葉・今者我見沙門婆羅門・具戒有德者・願生而不欲死・求樂而避忌苦。尊者迦葉・我乃思惟・若此具戒有德沙門婆羅門等・果知「我等從此處死・可更得勝境・」則此具戒有德尊者沙門婆羅門等・當仰毒自殺・或以刀劍自刎・或投墮懸崖。然此具戒有德沙門婆羅門等・實因不知「我等從此處死・可更得勝境」故・是以彼等・樂生厭死。尊者迦葉・我依此論據故・如是思惟・「斯無他世・無化生有情・無善惡業報。」』

一三

『然則王族．我當為卿說譬喻言．諸有智者．依譬喻故．解所說義。王族．昔者一婆羅門．有二夫人。大夫人有子．十一二歲．小夫人有娠．行將分娩。彼婆羅門．時乃命終。時彼孺子．語小夫人言．「小母．所有財穀及金銀等．皆屬於我．汝無一分。以父遺產．交付於我。」彼小夫人語孺子言．「小子．待我分娩．若為童男．彼亦應有財產一分．若為童女．彼女亦當為汝之妻。」孺子再語小夫人言．「小母．所有財穀及金銀等．皆屬於我．汝無一分。以父遺產．交付於我。」小夫人再語孺子言．「小子．待我分娩．若為童男．彼亦應有財產一分．若為童女．彼女亦當為汝之妻。」孺童三語小夫人言．「小母．所有財穀及金銀等．皆屬於我．汝無一分。以父遺產．交付於我。」時小夫人．即執利刀．進入內室．自剖其腹．言「欲明知．為男為女。」彼女喪失自己生命．亦復喪失胎兒財產。彼女如是蒙昧無智．貪求遺產．蹈陷災禍．實為不當。王族．卿亦如是．蒙昧無智．貪求他世．蹈陷災禍．實為不當．亦猶如彼婆羅門妻．蒙昧無智．貪求遺產．蹈陷災禍之不當也。王族．若具戒有德沙門婆羅門等．皆為賢智．待機成熟．未成熟者．不強之熟。所以者何．王族．具戒有德沙門婆羅門等．以其生存．〔饒益於世。〕王族．具戒有德沙門婆羅門等．隨住世久長者．彼等所生福德則愈多．為利益眾人．安樂眾人．憐愍世間．利益人天．安樂人天而住於世。王族．依此論據．卿當可信．「斯有他世．有化生有情．有善惡業報。」』

一四

『尊者迦葉．縱如斯言．我猶思惟．「斯無他世．無化生有情．無善惡業報。」』『王族．卿所思惟．如是如是．有論據耶。』『尊者迦葉．我所思惟．如是如是．有論據也。』『若然王族．云何論據。』『尊者迦葉．今有臣民等．捕獲盜賊惡徒．請示我言「主君．此是盜賊惡徒．唯願隨意處彼刑罰。」我命之曰．「然則汝等．可將此人．生投釜中．加以覆蓋．密封濕皮．厚塗濕泥．置於竈上．以火煮之。」彼等承命．即將此人．生投釜中．加以覆蓋．密封濕皮．厚塗濕泥．置於竈上．以火煮之。我等知「彼已死」時．將釜取下．解封啟蓋．言「我等想可見彼生命之出去狀．」我等徐窺．亦不見彼生命出去。尊者迦葉．我依此論據故．如是思惟．「斯無他世．無化生有情．無善惡業報。」』

一五

『然則王族・我今問卿・卿隨意答。王族・卿於日中休息獲夢・頗曾嘗歷苑囿、林野、國邑、泉池之怡悅不。』『尊者迦葉・我於日中休息獲夢・頗曾嘗歷苑囿、林野、國邑、泉池之怡悅也。』『爾時有侏儒、傴僂、少女、處女侍役・護衛卿耶。』『唯・然尊者迦葉・爾時有侏儒、傴僂、少女、處女侍役・為我護衛。』『然彼女等・亦見卿生命〔從卿身體〕出入耶。』『不也・尊者迦葉。』『王族・於生存者・且於生者如卿・生命〔從卿身體〕出入・彼諸女等・尚不得見・況於死者・生命出入・卿得見耶。王族・依此論據・卿當可信・「斯有他世・有化生有情・有善惡業報。」』

一六

『尊者迦葉・縱如是言・我猶思惟・「斯無他世・無化生有情・無善惡業報。」』『王族・卿所思惟・如是如是・有論據耶。』『尊者迦葉・我所思惟・如是如是・有論據也。』『若然王族・云何論據。』『尊者迦葉・今有臣民等・捕獲盜賊惡徒・請示我言・「主君・此是盜賊惡徒・唯願隨意・處彼刑罰。」我命之曰・「汝等・可將此人・於生存中・以秤稱之・再用弓絃・而絞殺之・後復以秤稱之。」彼等承命・即將此人・於生存中・以秤稱之・再用弓絃・而絞殺之・後復以秤稱之。彼生存中・輕柔易動・彼命終後・重硬不動。尊者迦葉・我依此論據故・如是思惟・「斯無他世・無化生有情・無善惡業報。」』

一七

『王族・我當為卿說譬喻言・諸有智者・依譬喻故・解所說義。王族・譬如有人・以秤稱彼終日炎熾赤熱鐵丸・他日鐵丸已冷却時・復以秤稱。此鐵丸者・何時輕柔易動・為炎熾赤熱時耶・為冷却失熱時耶。』『尊者迦葉・有熱及空氣・炎熾赤熱時鐵丸・輕柔易動。無熱及空氣・冷却失熱時鐵丸・重硬不動。』『王族・人之身體・亦復如是。壽、煖、識俱有時・輕柔易動・壽、煖、識俱無時・重硬不動。王族・依此論據・卿當可信・「斯有他世・有化生有情・有善惡業報。」』

一八

『尊者迦葉・縱如是言・我猶思惟・「斯無他世・無化生有情・無善惡業報。」』『王族・卿所思惟・如是如是・有論據耶。』『尊

者迦葉・我所思惟・如是如是・有論據也。』『若然王族・云何論據。』『尊者迦葉・今有臣民等・捕獲盜賊惡徒・請示我言・「主君・此是盜賊惡徒・唯願隨意處以刑罰。」我命之曰・「汝等可奪此人生命・勿傷皮、膚、肉、腱、骨、髓。」彼等承命・即奪其生命・不傷皮、膚、肉、腱、骨、髓。盜賊惡徒・於半死時・我乃命曰・「汝等可使此人仰臥。我等或可見彼生命之去。」彼等即使此人仰臥・然而我等・亦不見彼生命出去。我再命曰・「汝等可使此人俯臥・乃至使左側臥・使右側臥・使起立・使倒置・撲以手・撲以棒・撲以杖・撲以刀劍・如是乃至上下左右而振盪之。我等當可見彼生命之去。」彼等即上下左右・振盪此人・然而我等・皆悉不見彼生命之去。彼具有眼・色亦存在・而彼〔眼〕處・竟不識〔色・〕彼具有耳・聲亦存在・而彼〔耳〕處・竟不識〔聲・〕彼具有鼻・香亦存在・而彼〔鼻〕處・竟不識〔香・〕彼具有舌・味亦存在・而彼〔舌〕處・竟不識〔味・〕彼具有身・觸亦存在・而彼〔身〕處・竟不識〔觸・〕尊者迦葉・我依此論據故・如是思惟・「斯無他世・無化生有情・無善惡業報・」』

一九

『王族・我當為卿說譬喻言・諸有智者・依譬喻故・解所說義。王族・昔有一吹貝者・身攜螺貝・往到邊國。彼至一村落・立村中央・三吹螺貝・將貝置地・坐於一面。王族・時彼邊地諸人・如是思惟・「此誰之聲・使人魅惑・愉悅陶醉・莊重潤朗・乃如是耶・」彼等來集・向吹貝者言・「吾友・此誰之聲・使人魅惑・愉悅陶醉・莊重潤朗・乃如是耶・」「諸人・使人魅惑・愉悅陶醉・莊重潤朗・有如是者・是此物聲・物名螺貝。」彼等即將螺貝仰臥・曰・「螺貝螺貝・汝可出聲。」但此螺貝・終不出聲。彼等乃將螺貝俯臥・左側臥・右側臥・起立・倒置・以手撲・以杖撲・以刀劍撲・如是乃至上下左右而振盪之・曰・「螺貝螺貝・汝可出聲。」然此螺貝・終不出聲。王族・時吹貝者・如是思惟・「邊地諸人・何其愚昧・何以故・彼等如是求螺貝聲・非適當也。」乃從彼等觀貝諸人・取還螺貝・三度吹鳴・攜貝而去。王族・時彼邊地諸人・如是思惟・「此螺貝者・實因有人・有力有風・方始出聲・若此螺貝・無人、力、風與俱者・當不出聲・」王族・人之身體・亦復如是。有壽、煖、識與俱時・則可行住坐臥・眼可見色・耳可聞聲・鼻可嗅香・舌可嘗味・身可感觸・意可識法。無壽、煖、識與俱時・則不行住坐臥・眼不見色・耳不聞聲・鼻不嗅香・舌不嘗

味・身不感觸・意不識法。王族・依此論據・汝當可信・「斯有他世・有化生有情・有善惡業報。」』

二〇

『尊者迦葉・縱如是言・我猶思惟・「斯無他世・無化生有情・無善惡業報。」』『王族・卿所思惟・如是如是・有論據耶。』『尊者迦葉・我所思惟・如是如是・有論據也。』『若然王族・云何論據。』『尊者迦葉・今有臣民等・捕獲盜賊惡徒・請示我言・「主君・此是盜賊惡徒・唯願隨意・處以刑罰。」我命之曰・「汝等・可剝此人之皮・我等或可見彼生命。」彼等雖剝此人之皮・我等猶不見彼生命。我再命曰・「可剝其膚・乃至可切其肉・可斷其腱・可截其骨・如是乃至可割其髓。我等或可見彼生命。」彼等雖割此人之髓・我等猶不見彼生命。尊者迦葉・我依此論據故・如是思惟・「斯無他世・無化生有情・無善惡業報。」』

二一

『然則王族・我當為卿說譬喻言・諸有智者・依譬喻故・解所說義。昔有結髮事火外道・住森林茅屋中。王族・是時彼處・到一商隊・時彼隊商・於彼結髮事火外道・草庵附近・一宿而去。王族・爾時結髮事火外道・如是思惟・「我今往彼商隊宿所・或可獲得若干糧食。」彼結髮事火外道・適時晨興・往彼商隊宿所。至宿所已・見有仰臥柔嫩孩兒・被人遺棄。彼見此已・如是思惟・「我親見之而置其死於不顧者・豈非非道。我今寧可・將此孩兒・抱歸草菴・養之成長。」時彼結髮事火外道・抱孩歸菴・而養長之。彼童子者・年屆十一二歲之時・結髮事火外道・適因某事・須往村落。語童子曰・「小子・我欲往村。汝善守火。勿使火滅。若火滅者・此處有斧・有薪有鑽・〔可再燃火・〕善守護之。」如是教已・即往村落。童子貪戲・火乃熄滅。時彼童子・如是思惟・「我父有言・「小子・汝善守火・勿使火滅・若火滅者・此處有斧・有薪有鑽・可再燃火・善守護之。」我當燃火・善為守護。」時彼童子・以斧斫鑽・意「當得火。」但彼於火・已不能得。將鑽析為二分、三分、四分、五分、十分、百分・漸至細分・分之細細・置於臼中・搗為粉碎・粉碎之已・播揚於大風之中・意「當得火。」但彼於火・已不能得。時彼結髮事火外道・村事已了・歸已草菴。至已・語彼童子曰・「小子・何故汝滅火耶。」「我父・我因貪戲・故火熄滅。時我思惟・我父有言・「小子・汝善守火・勿使火滅・

若火滅者・此處有斧・有薪有鑽・可再燃火・善守護之。」我當燃火・善為守護。我父・時我以斧斫鑽・意「當得火・」但火已不能得。我將鑽分為二分、三分、四分、五分、十分、百分・漸至細分。分之細細・置於臼中・搗為粉碎・粉碎之已・播揚於大風之中・意「當得火。」但我於火・已不能得。」時彼結髮事火外道・如是思惟「此童何其愚鈍無智。求火之道・不當乃爾・」于童子前・取鑽作火・而語之曰・「小子・求火法應如是・汝愚鈍無智・求之不當・火不能得。」王族・卿亦如是・愚鈍無智・卿求他世・殊不得當。王族・應捨此惡邪見。勿為長夜無益苦惱。』

二二

『尊者迦葉・縱如是言・我仍不能捨此邪見。拘薩羅國王波斯匿・及餘諸國王・盡皆知我「王族弊宿・為如是諭・如是見者・謂無有他世・無化生有情・無善惡業報・」尊者迦葉・若我捨此見者・眾將笑我・「王族弊宿・信難信事・其人何等蒙昧愚鈍・」緣〔於嘲笑・〕將生忿覆・及以惱怒・是故我寧・固持我說。』

二三

『然則王族・我當為卿・說譬喻言・諸有智者・依譬喻故・解所說義。昔有千乘大車商隊・從東國土・往西國土。商隊所至・草、薪、水、蔬・立時消盡。彼商隊中・有二導者・各各領導五百乘車。時彼導者・如是思惟・「此是千乘大車商隊。我等所至・草、薪、水、蔬・立時消盡・寧將此隊・分為二分・各五百車。」彼等即分為二隊・各五百車。其一導者・多載草薪・及多量水・率隊進發。行二三日・見有一人・從前路來・色黑晴赤・髮束散亂・執蓮華環・衣髮皆濕・驢牽之車・為泥所塗。見已問言・「卿從何來。」「從如是如是處。」「汝往何處。」「往如是如是處。」「前方荒地・降大雨不。」「然也卿等・前方荒地・大雨如注・路為水滿・多草薪水。卿等可棄所攜草薪及水。輕車疾行・毋疲軛牛。」時彼導者・語商隊言・「此人有言・「前方荒地・大雨如注・路為水滿・多草薪水・卿等可棄所攜草薪及水・輕車疾行・毋疲軛牛。」汝等可棄草薪及水・輕車進發。」彼商隊等・從導者言・捐棄所攜草薪及水・輕車進發。彼等於第一宿處・不見草薪及水。於第二宿處・第三宿處・第四宿處・第五宿處・第六宿處・悉皆不見草薪及水・如是乃至於第七宿處・亦不見有草薪及水。全隊陷於災禍之中。彼隊人畜・皆為夜叉非人所食・僅剩骸骨。其第二

商隊導者・知「前商隊・出發以來・為日已久。」乃多載草薪・及多量水・率隊進發。行二三日・見有一人・從前路來・色黑晴赤・髮束散亂・執蓮華環・衣髮皆濕・驢牽之車・為泥所塗。見已問言・「卿從何來。」「從如是如是處。」「汝往何處。」「往如是如是處。」「前方荒地・降大雨不。」「然也卿等・前方荒地・大雨如注・路為水滿・多草薪水。卿等可棄所攜草薪及水・輕車疾行・毋疲軛牛。」時彼導者・語商隊言・「此人有言・「前方荒地・大雨如注・路為水滿・多草薪水。卿等可棄所攜草薪及水・輕車疾行・毋疲軛牛。」汝等當知・此人非是我等朋友、親屬、血族・我等何得信之而行。所攜草薪及水・不可捐棄・積載如故・將隊進發・我等不棄・向所積載。」彼商隊等・從導者言・積載如故・將隊進發。彼等於第一宿處・不見草薪及水。於第二宿處・第三宿處・第四宿處・第五宿處・第六宿處・如是乃至於第七宿處・亦不見有草薪及水。而見陷於災禍之前商隊・彼隊人畜・皆為夜叉非人所食・僅剩骸骨。時彼導者・語商隊言・「汝等當知・彼隊因從愚鈍導者・以致陷於如是災禍。是故汝等・應棄隊中低值之物・拾取彼隊中高值物品。」彼商隊等・從導者言・棄其隊中低值之物・拾取彼隊中高值物品。因從如斯賢明導者・乃得無恙通過荒地。王族・卿亦如是・貪求他世・而陷災禍・卿之不當・亦猶如彼商隊導者・愚鈍無智・人以所聞事・不加批判・為即可信・如彼商隊・當陷災禍。王族・應捨此惡邪見・勿為長夜無益苦惱。』

二四

『尊者迦葉・縱如是言・我仍不能捨此邪見。拘薩羅國王波斯匿及餘諸國王・盡皆知我・「王族弊宿・為如是論・如是見者・謂「無有他世・無化生有情・無善惡業報。」」尊者迦葉・若我捨此見者・眾將笑我・「王族弊宿・信難信事・其人何等蒙昧愚鈍。」緣〔於嘲笑〕將生忿覆・及以惱怒・是故我寧・固持我說。』

二五

『然則王族・我當為卿說譬喻言・諸有智者・依譬喻故・解所說義。王族・昔有養豚者・從己村落・往他村落。見多乾糞・棄於其處。彼見此已・如是思惟・「此所棄者多量乾糞・是豚飼料・當持之歸。」彼展上衣・集多乾糞・以衣包之・頭戴而行。乃於途中・逢大驟雨。糞汁所塗・及於足趾・滴瀝淋漓・仍戴糞行。人見其狀・而語之言・「汝非癲耶。汝非神志有錯亂耶。何乃戴糞・滴瀝

淋漓・糞汁所塗・及於足趾。」「汝等自癲・汝等神志・自是錯亂。所以者何・以我如是・得豚飼料故。」王族・卿亦如是。意卿所答・當亦如彼戴糞者言。王族・應捨此惡邪見。王族・應捨此惡邪見。勿為長夜・無益苦惱。』

二六

『尊者迦葉・縱如是言・我仍不能捨此邪見。拘薩羅國王波斯匿・及餘諸國王・盡皆知我・「王族弊宿・為如是論・如是見者・謂無有他世・無化生有情・無善惡業報。」若我捨此見者・眾將笑我・「王族弊宿・信難信事・其人何等蒙昧愚鈍。」緣〔於嘲笑〕將生忿覆・及以惱怒・是故我寧・固持我說。』

二七

『然則王族・我當為卿說譬喻言・諸有智者・依譬喻故・解所說義。王族・昔有二博徒・為骰子戲。其一博徒・每逢敗骰・即取吞之。他一博徒・每見彼敗・即吞其骰。乃語之曰・「吾友・汝必勝也。吾友・以骰與我・將以供神。」博徒答曰・「然也吾友・」以骰與之。時他博徒・以毒塗骰・語彼博徒曰・「吾友・來共博戲。」彼即欣然諾之・乃共相博。彼博徒者・每逢敗骰・復取吞之。他一博徒每見彼敗・即吞其骰・乃語之曰。

「骰塗最惡毒　吞之而不覺　偽漢汝且吞　後當有痛苦」

王族・卿亦如是・意卿所答・當如博徒。王族・應捨此惡邪見。王族・應捨此惡邪見。勿為長夜無益苦惱。』

二八

『尊者迦葉・縱如是言・我仍不能・捨此邪見。拘薩羅國王波斯匿・及餘諸國王・盡皆知我・「王族弊宿・為如是論・如是見者・謂無有他世・無化生有情・無善惡業報。」尊者迦葉・若我捨此見者・眾將笑我・「王族弊宿・信難信事・其人何等蒙昧愚鈍。」緣〔於嘲笑〕將生忿覆・及以惱怒・是故我寧・固持我說。』

二九

『然則王族・我當為卿・說譬喻言・諸有智者・依譬喻故・解所說義。王族・昔有一興盛地。時有一人・語其友言・「吾友・我等往

詣彼地・或於其處・得些微財物。」友然其言・同往彼地一村道上・彼等見有多量之麻・棄於其處。彼一人者・語其友言・「吾友・此處棄有多麻・是故吾友・汝我各可捆麻成束・共攜而行。」其友答曰・「唯然吾友。」即捆麻束。彼等荷麻・更往一村道・見多麻縷・棄於其處。彼一人者・語其友言・「吾友・我等求麻・是正為得麻縷。今多麻縷・棄於此處。是故吾友・汝我各可棄麻・攜縷而行。」「吾友・我荷此麻・齎來道遠・且復縛固・有此已足・汝可棄之。」時彼一人・乃棄麻束・取荷麻縷。彼等更往一村道上・見多麻布・棄於其處。彼一人者・語其友言・「吾友・我等求麻及麻縷者・是正為欲得此麻布。今多麻布・棄於此處。是故吾友・汝當棄麻・我棄麻縷。我等俱荷麻布而行。」「吾友・我荷此麻・齎來道遠・且復縛固・有此已足・汝可棄之。」時彼一人・棄去麻縷・取荷麻布。彼等更往一村道上・見多亞麻・棄於其處・亦復如是如是。乃至見多亞麻縷・棄於其處。見多亞麻布・棄於其處。見有多綿・棄於其處。見多綿縷・棄於其處。見多綿麻・棄於其處。見有多鐵棄於其處。見有多銅・棄於其處。見有多錫・棄於其處。見有多鉛・棄於其處。見有多銀・棄於其處。悉皆如是如是。乃至見有多金・棄於其處。彼一人者・語其友言・「吾友・我等求麻・及縷與布・我等求亞麻・及縷與布・我等求綿・及縷與布・我等求鐵、求銅、求錫、求鉛、及求銀者・是正為欲得金耳。是故吾友・汝當棄麻・我亦捨銀・俱荷金行。」「吾友・我荷此麻・齎來道遠・且復縛固。有此已足・汝可棄之。」時彼一人・乃棄銀取金・荷之而行。彼等還至己村。荷麻還者・父母不悅・妻子不悅・朋友知己・亦皆不悅。以是因緣・彼亦不得喜樂。荷金還者・父母喜悅・妻子喜悅・朋友知己・亦皆喜悅。以是因緣・彼亦得喜樂。王族・卿亦如是。意卿所答・如荷麻者。王族・應捨此惡邪見。王族・應捨此惡邪見。勿為長夜・無益苦惱。』

三〇

『尊者迦葉・初設譬喻・我已由是・喜悅滿足。〔但〕我猶欲為得聞此種種問答・故我思惟應如是反問於尊者迦葉也。尊者迦葉・至可感歎。尊者迦葉・至可感歎。尊者迦葉・猶如使倒者得起・隱者得顯・示迷以道・暗夜來燈・具眼得見・尊者迦葉・亦復如是・以無數方便・說法示教。尊者迦葉・我今歸依世尊瞿曇・歸依法僧。唯願尊者迦葉聽我・自今以後・盡形壽為歸依優婆塞。尊者迦葉・我欲為大供養。唯願尊者迦葉・為我長夜利益・為我悅樂・教我誨我。』

三一

『王族・人若殺牛・殺山羊・宰鶏豚・死諸生類・又復執持邪見、邪思惟、邪語、邪業、邪命、邪精進、邪念、邪定者・王族・若為此種供養・當無大果・無大功德・無大光輝・無大遍滿。王族・譬如農夫・攜種子犁鋤・入於林中。彼以破壞、腐敗、風熱所害・陳惡種子・播於惡地・木株未除・耕耘未藏・天又不降及時好雨。彼種子可發芽成長繁茂耶・而彼農夫・可得大果耶。』『不也・尊者迦葉。』『王族・人若殺牛・殺山羊・宰鶏豚・死諸生類・又復執持邪見、邪思惟、邪語、邪業、邪命、邪精進、邪念、邪定者・亦復如是。王族・若為此種供養・當無大果・無大功德・無大光輝・無大遍滿。王族・夫不殺牛・不殺山羊・不宰鶏豚・不死諸種生類・而持正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定者・若為此種供養・當有大果・有大功德・有大光輝・有大遍滿。王族・譬如農夫・攜種子犁鋤・入於林中。彼以不破壞・不腐敗・不受風熱所害・新良種子・播於良地・木株盡除・耕耘克臧・天復降以適時好雨。彼種子可發芽成長繁茂耶。而彼農夫・可得大果耶。』『然也・尊者迦葉。』『王族・夫不殺牛・不殺山羊・不宰鶏豚・不死諸種生類・復持正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定者・亦復如是。若為此種供養・當得大果・得大功德・得大光輝・得大遍滿。』

三二

爾時王族弊宿・為沙門婆羅門、窮人、流民、乞丐設施。其所施與・則為粗粥酸粥之食・粗布舊服之類。於布施時・有一儒童・名鬱多羅・熱心從事於分配事。彼施與時・而作是言・『我因此施・遇王族弊宿・但於他世。當不相遇。』王族弊宿・聞『鬱多羅儒童施與時・而作是言・「我因此施・遇王族弊宿・但於他世・當不相遇・」』王族弊宿・召鬱多羅・而語之曰・『我鬱多羅・汝施與時・實有此言・謂「我因此施・遇王族弊宿・但於他世・當不相遇」者耶。』『實然。』『我鬱多羅・汝於施時・何故說言・「我因此施・遇王族弊宿・但於他世・當不相遇」耶。我鬱多羅・我等欲善福者・非冀施果耶。』『卿所施與・則為粗粥酸粥之食。卿尚不欲以之觸足・况食之耶。施與粗布・舊服之類・卿尚不欲以之觸足・况著之耶。卿於我等・愛而喜悅。既於我等愛而喜悅・云何又加以不喜悅者耶。』『然我鬱多羅・今汝得以如我所食・為之施與・如我所著・為之施與。』鬱多羅儒童・諾王族弊宿已・即施食

物・如弊宿所食・所施衣服・如弊宿所著。時王族弊宿・為不恭敬施・不親手施・不至心施・為吝惜施故・身壞命終・為四天王眷屬・生樺樹林空宮殿中。彼鬱多羅儒童・於施與時・熱心分配・為恭敬施・為親手施・為至心施・為不吝惜施故・身壞命終・生善趣天界・為忉利天眷屬。

三三

爾時尊者牛主・常為日中休息故・往樺樹林之空宮殿。時弊宿天子・至尊者牛主前・問訊已・於一面立。弊宿天子・立一面已・尊者牛主・為是問曰・『吾友・汝為誰耶。』『尊者・我為王族弊宿。』『汝非曾謂「斯無他世・無化生有情・無善惡業報・」如是見者耶。』『尊者・我為如是見者。我復從尊者鳩摩羅迦葉・捨此惡邪見。』『吾友・鬱多羅儒童・於汝施與・為熱心分配者・生何處耶。』『尊者・鬱多羅儒童・於我施與・熱心分配・為恭敬施・為親手施・為至心施・為不吝惜施故・身壞命終・生善趣天界・為忉利天眷屬。我為不恭敬施・不親手施・不至心施・為吝惜施故・身壞命終・為四天王眷屬・生樺樹林空宮殿中。是故惟願・尊者牛主・至人間世界・宣如斯言・「應恭敬施・應親手施・應至心施・應不吝惜施。王族弊宿・以不恭敬施・不親手施・不至心施・為吝惜施故・身壞命終・為四天王眷屬・生樺樹林空宮殿中。但鬱多羅儒童・於弊宿施・從事分配・為恭敬施・為親手施・為至心施・為不吝惜施故・身壞命終・生善趣天界・為忉利天眷屬。」』

三四

時尊者牛主・來人間世界・宣如是言・『應恭敬施・應親手施・應至心施・應不吝惜施。王族弊宿・以不恭敬施・不親手施・不至心施・為吝惜施故・身壞命終・為四天王眷屬・生樺樹林空宮殿中。但鬱多羅儒童・於弊宿施・從事分配・為恭敬施・為親手施・為至心施・為不吝惜施故・身壞命終・生善趣天界・為忉利天眷屬。』

聯絡我們

財團法人
佛教電子佛典基金會（CBETA 基金會）
CBETA Comprehensive Buddhist Electronic Text Archive Foundation

service@cbeta.org
(02)2383-2182 轉分機 12
官網 https://cbeta.org/
CBETA Online https://cbetaonline.dila.edu.tw/
立即贊助 https://cbeta.org/quick-donate/

贊助資訊

CBETA 長年來陸續將歷代重要佛典數位化為「CBETA 電子佛典集成」，不僅收錄了大量的珍貴文獻，更致力於校勘考證用字及增添新式標點，提升佛典的文獻品質及易讀性。「CBETA 電子佛典集成」是大眾廣為運用的公共資源，此成果也獲得國際學界的重視及肯定。

對於一個從事佛法志業的非營利團隊來說，能夠長期埋首理想、踏實耕耘，實屬不易。為了提供更優質的服務，CBETA 基金會擬增聘專業人力，擴大組織規模，懇請大家慷慨解囊、熱情贊助，讓未來有更多更好的電子佛典。

贊助捐款

「水滴雖微，漸盈大器，凡福充滿，從纖纖積。」
—— CBETA 2024.R2, T04, no. 210, p. 565a5-6